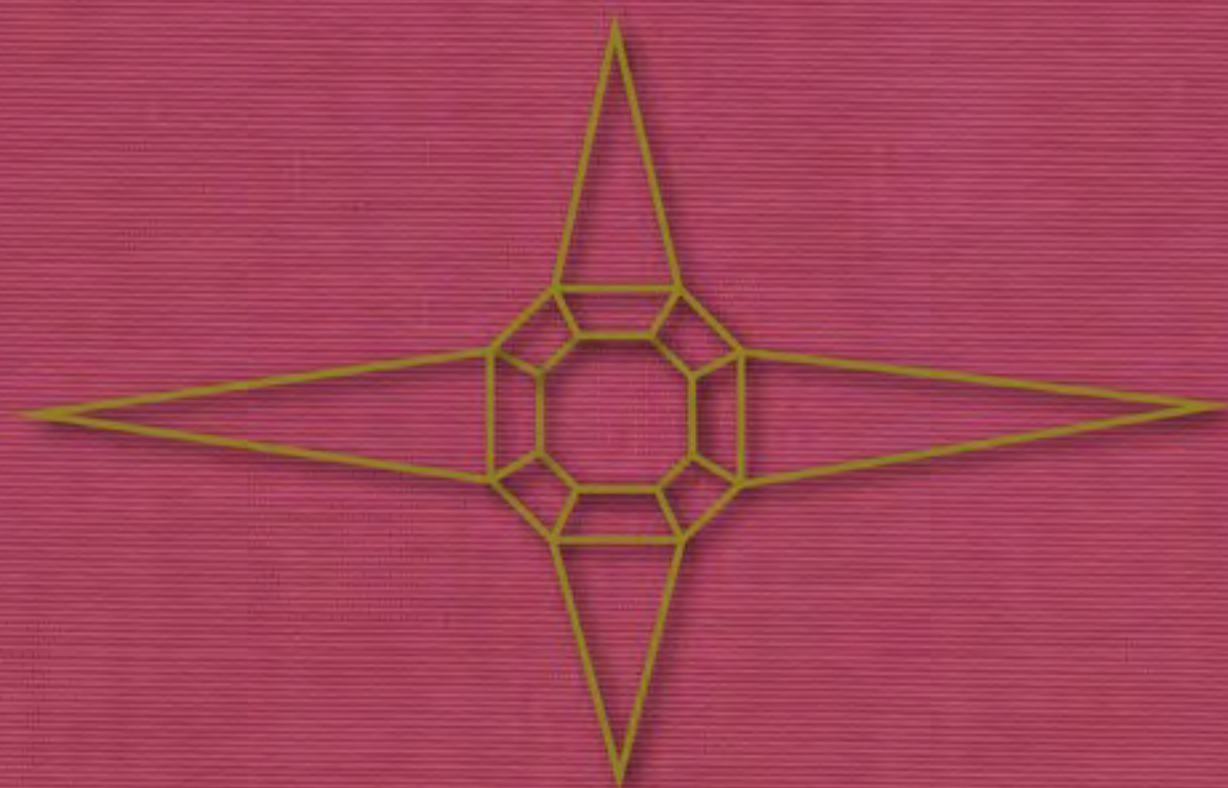


# 社会人野球日本選手権大会

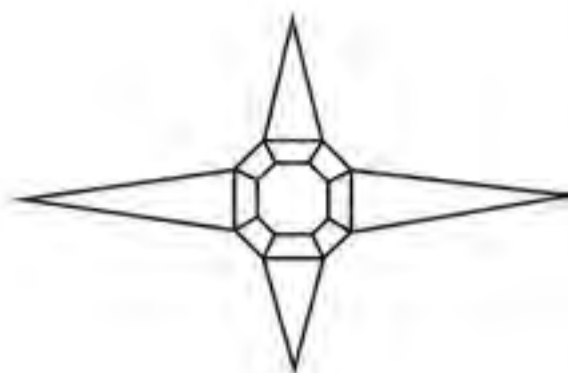
40th ANNIVERSARY



# 40年史

公益財団法人 日本野球連盟 毎日新聞社





# 社会人野球日本選手権大会

40th ANNIVERSARY

40年史





優勝チームに贈られるダイヤモンド旗と左から大阪市長杯・佐伯達夫杯・準優勝トロフィー

# 写真で見る 40年の歴史

## 第40回記念大会



ダイヤモンド旗を返還する新日鉄住金かずさマジックの米田主将



大会運営に協力いただいた団体への感謝状贈呈式



第1回大会の開幕試合で勝った三菱重工神戸の投手だった増岡義教さんと捕手だった竹中円さんによる開幕戦始球式

### 1回戦



1回戦 ニチダイー日本製紙石巻 七回表ニチダイ2死一、二塁から三原が右翼線三塁打を放ち2点先制



ニチダイ応援席

### 2回戦



2回戦 西濃運輸ー茨城ゴールデンゴールズ 初戦に臨む茨城ゴールデンゴールズの選手たち



公募による親子始球式



少年野球交流試合

## 準々決勝



パナソニックが先制し、喜ぶスタンドの応援団



N.T.T西日本-パナソニック 二回裏パナソニック1死一、三塁から森が2点三塁打を放つ

## 準々決勝



西濃運輸-日本生命 一回裏日本生命2死一、二塁、阿加多が中越え2点二塁打を放つ



日本生命応援席

# 第40回記念大会

準決勝



セガサミー-日本生命 完封したセガサミーの横田

準決勝



ハナソニック-トヨタ自動車 九回裏トヨタ自動車、決勝進出を決めるサヨナラ打を放ち、一塁へ向かう澄野



優勝が決まり、紙テープを投げ入れて選手たちを祝福する応援席の人たち



優勝し、応援席の声援に応えるトヨタ自動車の選手ら



# 決勝



トヨタ自動車—セガサミー 六回表トヨタ自動車無死三塁から木下が左前へ先制適時打



五回裏セガサミー 富田がライトヒット



決勝で始球式をしたタレントの福本愛菜さん



閉会式でダイヤモンド旗を受け取るトヨタ自動車の選手



毎日新聞大阪本社に優勝報告に訪れたトヨタ自動車の選手ら

# 写真で見る 40年の歴史

第21回大会から第39回大会

第21回大会



[第21回大会 2回戦] N T T四国-日産自動車 力投する日産自動車の北川

第22回大会



[第22回大会準々決勝]新日本製鉄広畑-三菱自動車川崎 力投する三菱自動車川崎の玉木

第23回大会



[第23回大会準決勝]東芝-住友金属 六回表東芝1死、坪井が右越えに本塁打を放つ

バックの写真はグリーンスタジアム神戸

## 第24回大会



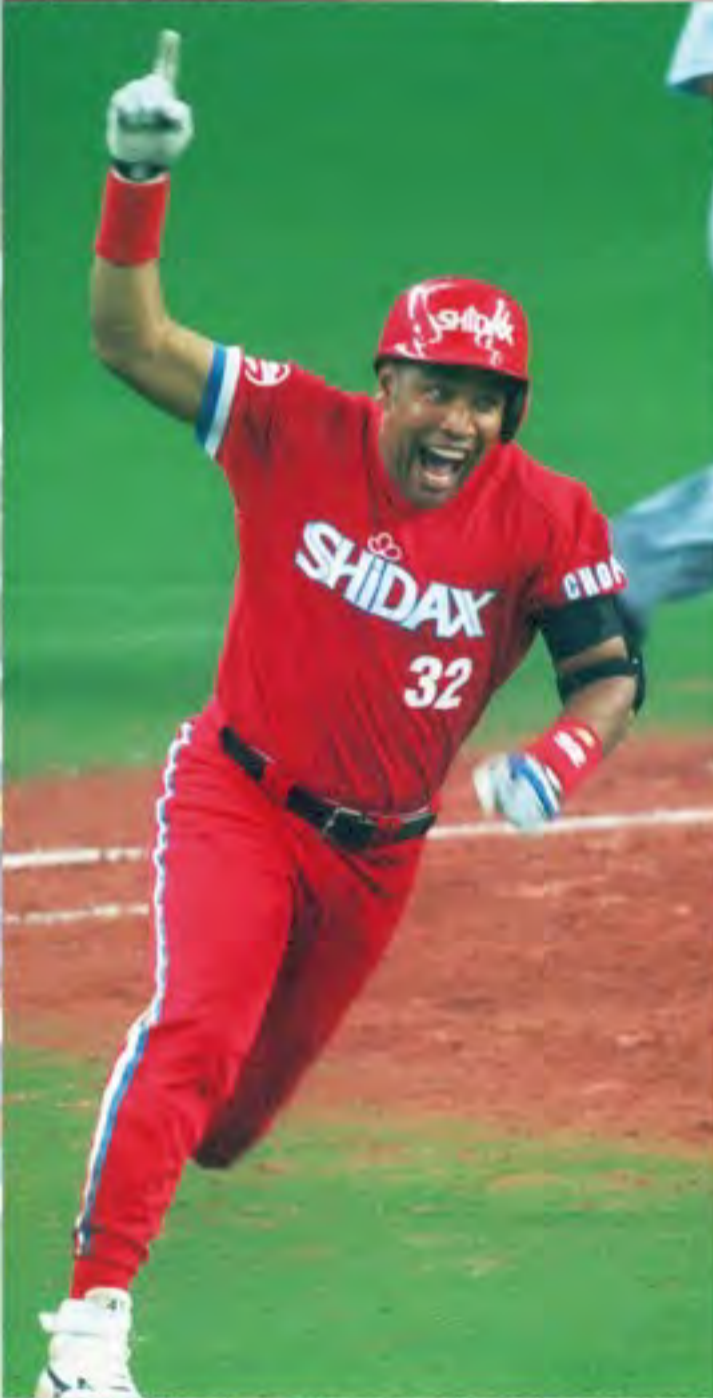
[第24回大会]大阪ドーム元年の開会式で整列する選手たち

## 第25回大会



[第25回大会決勝]日本生命—NTT関東 五回裏NTT関東、阿久根が本塁打を放ちガッツポーズ

## 第26回大会



[第26回大会準決勝]シダックス—神戸製鋼 五回表シダックス無死、中越えソロを放ち、笑顔でベースを回るメサ

## 第27回大会



[第27回大会優勝戦]松下電器—東芝 初優勝を決め、集まる松下電器ナイン

# 第21回大会から第39回大会

## 第28回大会



[第28回大会決勝]三菱重工長崎-東芝 七回に中前打を放つ三菱重工長崎の村上和

## 第29回大会



[第29回大会決勝]日本生命-ホンダ 木製バット元年、打率5割を残し、日本生命の優勝に貢献した竹間

## 第30回大会



[第30回記念大会決勝]大阪ガス-日産自動車 悲願の初優勝を果たし、ダイヤモンド旗を受け取る日産自動車サイン

## 第31回大会



[第31回大会準決勝]大阪ガス-シダックス 力投する大阪ガス・能見

## 第32回大会



[第32回大会 1回戦]日本生命—シダックス 試合開始前、ベンチからグラウンドを見つめるシダックスの野村監督

## 第33回大会



[第33回大会 1回戦]東芝—伯和ビクトリーズ 九回裏伯和ビクトリーズ 2死二塁、山田のサヨナラ打で生還し、両手を上げ喜ぶ津田と、肩を落とす東芝の迎里

## 第34回大会



[第34回大会 1回戦]茨城ゴールデンゴールズ—三菱重工名古屋 同寛平さん(左)とスタンドから声援を送る茨城ゴールデンゴールズの萩本監督

## 第35回大会



[第35回大会決勝]トヨタ自動車—J R東海 八回表トヨタ自動車 2死一、三塁、左越えに逆転3ランを放ち、こぶしを突き上げる田中

# 第21回大会から第39回大会

## 第36回大会



[第36回大会 1回戦]三菱重工神戸-鷺宮製作所 無安打無得点を達成し喜ぶ三菱重工神戸・木林(中央)

## 第37回大会



[第37回大会 1回戦]三菱重工名古屋-JR九州 タイブレーク十一回裏JR九州2死一、二塁、中野の右前打で二塁走者田村が生還しサヨナラ=岡崎市民球場で

## 第38回大会



[第38回大会決勝]JR東日本-JX-ENEOS 六回裏JX-ENEOS1死、右越え本塁打を放ち、指を突き上げる井領

## 第39回大会

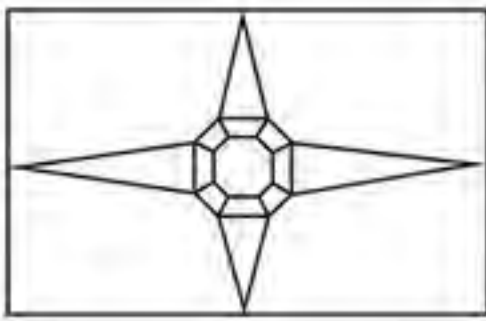


[第39回大会決勝]富士重工業-新日鉄住金かずさマジック 優勝を決め喜ぶ新日鉄住金かずさマジックの投手・岡本(奥)と捕手・山縣

バックの写真は大阪ドーム(現京セラドーム大阪)

## 目 次

ダイヤモンド旗	グラビア
写真で見る40年の歴史	グラビア
ごあいさつ	2
日本野球連盟会長 市野紀生	
毎日新聞社社長 朝比奈豊	
大会小史	3
第21回大会	6
第22回大会	16
第23回大会	26
第24回大会	36
第25回大会	46
第26回大会	56
第27回大会	66
第28回大会	76
第29回大会	86
第30回記念大会	96
第31回大会	106
第32回大会	116
第33回大会	126
第34回大会	136
第35回大会	146
第36回大会	156
第37回大会	166
第38回大会	176
第39回大会	186
第40回記念大会	196
ダイヤの軌跡	206
出場チームと成績一覧	208
大会記録	210
4賞受賞者	213
本塁打記録	215
あとがき	222



# ごあいさつ



## 夢と感動を与え

公益財団法人 日本野球連盟  
会長 市野紀生

単独チームで日本一を争う社会人野球日本選手権大会は昭和49年(1974年)10月28日、全国各地大会を勝ち抜いた22チームが阪神甲子園球場に集まり誕生しました。それから40年の時が流れ、年号は昭和から平成に変わり、そして、開催球場も甲子園球場から大阪球場、グリーンスタジアム神戸、そして京セラドーム大阪へと場所を移しました。こうして平成26年(2014年)に、第40回記念大会を迎える事ができましたことは、大変大きな喜びであります。これも偏(ひとえ)に歴代役員はじめ、多くの諸先輩方のご努力と、ファンの皆様の温かいご声援の賜物であり、改めて深く感謝する次第です。

「社会人野球日本選手権大会40年史」は、幾多の困難を乗り越えて、歴史を刻んできた先人たちの戦いの跡が記された記録であり、多くの人たちに夢と感動を与えてくれた名場面を、再び思い起こさせてくれるのではないのでしょうか。今回、第21回大会から第40回記念大会までの足跡を新たに作成しましたので、多くの方々に「社会人野球日本選手権大会40年史」をご高覧いただければ幸いです。

最後に、制作にご尽力をいただきました、関係各位ならびに毎日新聞社に対し、厚く御礼申し上げますとともに、本大会の更なる発展を心から祈念しご挨拶いたします。



## 社会人野球の魅力を発信

毎日新聞社  
社長 朝比奈 豊  
(公益財団法人日本野球連盟 相談役)

社会人野球の年間王座を決める日本選手権大会が40回の節目を迎えたことは、主催者として大きな喜びです。

日本選手権は1974年、単独チームで日本一を争う大会として阪神甲子園球場でスタートしました。以後、大阪球場、グリーンスタジアム神戸を経て1997年に現在の京セラドーム大阪(当時は大阪ドーム)に会場を移し、一貫して関西を舞台に東の都市対抗と並ぶ社会人野球の2大会として開催しています。

第40回記念大会は総入場者が前回比4万8000人増の15万2000人に達し、過去最多だった第24回大会(1997年)の14万7000人を16大会ぶりに更新しました。特にバックネット裏の特別自由席の入場者が前回比で1.7倍となり、企業の応援団だけでなく一般の野球ファンの来場が急増したことをうかがわせます。ひたむきでハイレベルな社会人野球の魅力が野球ファンに浸透した結果だと言えます。毎日新聞はこれからも日本野球連盟、主管の同連盟近畿地区連盟と力を合わせて、社会人野球の魅力や醍醐味を広く発信していきます。

結びに、これまでの大会の運営にご尽力いただいた多くの皆様に心より感謝を申し上げ、40年史発刊のご挨拶いたします。





## 単独チーム日本一を決める「年間王座決定戦」に

### 東日本大震災で初の大会中止

#### 「がんばろう日本!」合言葉に都市対抗大阪開催

2011年3月11日午後2時46分、列島が揺れた。東北地方を中心に甚大な被害を出した東日本大震災だ。発生は、明治神宮球場であった東京スポニチ大会の決勝（NTT西日本一）X-ENEOS）直前。試合は一度始まったものの、余震ですくさまノーゲームとなった。決勝は結局、取りやめとなる。社会人野球界にとっても、かつて経験のないシーズンの幕開けとなった。

東日本大震災を受け、日本野球連盟（JABA）は3月25日、8月26日から12日間、東京ドームで行う予定だった第82回都市対抗大会を秋に延期することを決定した。これに伴い、京セラドーム大阪を主会場に10月29日から開催予定だった第38回日本選手権は中止になった。大会の取りやめは1974年の第1回大会から初めての事態。4月以降の日本選手権出場対象のJABA大会もすべて中止された。

開催時期を約2カ月延期し、会場を初めて東京から移した都市対抗大会は10月22日、京セラドーム大阪で始まった。開会式で、仙台市・JR東日本東北の長谷部純主将は次のように選手宣誓した。

未曾有の大震災から7カ月。

正直、今日、この京セラドーム大阪にすることが信じられません。自然の猛威は容赦なく多くの尊い命、大切なものを奪い去りました。私たちが生きている今日は、亡くなった方々が生きたかった今日です。

今、生きていること、働けていること、野球ができることに

感謝の気持ちでいっぱいです。日本は今まで幾多の困難に直面しましたが、その都度支え合い、励まし合い、つながり、そして一緒に立ち向かい、乗り越えてきました。一人一人の支え合い、励まし合いがやがて大きな力となり、被災地そして日本全体を救うと信じています。

今こそ社会人野球全体が一体となり、感謝の気持ちを胸に、最後まであきらめず、全力でプレーすることを誓います。

がんばろう日本!

「がんばろう日本!」のスローガンの下、激動の1年を乗り越えた社会人野球。翌2012年、日本選手権は再び歩みを始めた。



### 前身は日本産業別野球大会

#### 「単独チーム日本一」望む声で誕生

日本選手権の前身は、1951年に始まった日本産業対抗野球大会だ。第1回大会は同年10月21日から30日まで東京の後楽園と武蔵野グリーンパークの両球場で行われ、鐘淵化学が優勝した。産業対抗は1973年の第23回まで続くが、日本野球連盟50年史にはこう記す。「参加産業は、国鉄、炭鉱、鉄鋼、化学肥料、石油、電力・ガス、鉄道運輸、紙・パルプ、綿紡績、化学繊維、造船、建設、金融、醸造・食品、金属鉱工業、電気機械、官業公社、化学工業、産業機械、百貨店商業、電信電話、自動車の22部門だった。しかし、22部門から代表が参加した第6回大会までで、第9回大会炭鉱は不況





で代表を出せなかった。73年の第23回大会はエアロマスターが優勝してハワイに遠征したが、これが日本産業対抗野球の最後となった」

高度成長の時代が終わり、産業構造の変化で部門の区分けがあいまいになった。また、都市対抗と同様に補強制度を取っており、各地から選手を集めることも難しくなっていた。そんな状況で1970年ごろから、補強制度のない「単独チーム日本一」を決める大会創設を求める声が上がっていた。

当時、日本高校野球連盟会長で日本社会人野球最高顧問を兼ねていた佐伯達夫氏(故人)らの尽力で1974年10月28日、阪神甲子園球場で第1回大会が開幕した。初代王者は三協精機。優勝チームに贈られる、野球場と最上の輝きを表現したダイヤモンド旗を手中にした。



## 第1回は甲子園で その後会場は変遷

阪神甲子園球場で大会が開催されたのは1979年の第6回大会まで。翌年の第7回からは大阪球場(取り壊され、現在は大型商業施設)が舞台となった。大阪球場の閉鎖に伴い1990年の第17回大会からはグリーンスタジアム神戸(現・ほっともっとフィールド神戸)が戦いの場に。さらに1997年の第24回大会からは京セラドーム大阪(当時は大阪ドーム)に移った。都市対抗は東京ドーム、日本選手権は京セラドーム大阪と、社会人野球の2大大会はそろってドーム開催となった。

現在も日本選手権は京セラドーム大阪で開かれているが、2010年の第37回大会は、全国的なファン層の拡大や観客動員増を狙って1回戦16試合が地方4球場(日立市民、岡崎市民、わかさ京都、倉敷マスカット)で分散開催され、2回戦以降を京セラドーム大阪で戦った。翌年も当初は5球場(日立市民、岡崎市民、わかさ京都、香川レクザム、北九州市民)で1回戦を行う予定だったが、東日本大震災の影響で大会そのものが中止となってしまった。分散開催については、1回戦がすべて屋外球場での試合となるため、天候不順による大会日程への影響が大きいとされ、2012年の第38回大会以降は、再び京セラドーム大阪で全日程が行われることになった。



## 都市対抗優勝チームが出場

### JABA大会優勝チームも

大会の変遷は会場だけにとどまらない。出場チーム数は第1回大会が22。1981年の第8回大会から24になり、1990年の第17回大会からは26、さらに2006年の第33回で28と2棒ずつ増やされ、第34回大会からは都市対抗と同じ32となった。不惑を迎えた2014年の第40回は記念大会として過去最多の34チームが出場し、覇を競った。

出場チームの決定方式も近年改定されてきた。各地区予選を勝ち上がったチームにのみ与えられてきた出場権を第33回大会から変更。「年間王座決定戦」としての位置づけを確固たるものにするため、都市対抗と全日本クラブ選手権の優勝チームの推薦出場を認めた。さらに第34回大会から





はJABA9大会(東京スポニチ、静岡、四国、岡山、長野、京都、九州、東北、北海道)を対象にそれぞれの優勝チームにも出場権を与え、第37回大会からは日立市長杯、ペーブルス杯も対象大会に加えた。



### 企業チーム数は減少も

#### プロ野球選手を多数輩出

日本選手権が始まって4年後の1978年、会社登録の企業チームは179あったが、2014年11月20日現在で76(専門学校など会社登録扱いは除く)に減った。第1回大会優勝の三協精機、第4、6、10、11、16、20、23回大会を制し日本選手権最多優勝7回を誇った住友金属はともに廃部となった。優勝経験チームでは、たくぎん、日産自動車なども姿を消した。一方、近年日本選手権で無類の強さを見せ

るのがトヨタ自動車だ。第40回をはじめ、第34回大会からの7大会で住友金属に次ぐ4度の優勝を飾ったのは特筆できる。また、2012年の都市対抗で優勝したJX-E.N.E.O.Sは同年の日本選手権も制覇。1988年の東芝以来史上2度目の同一年2大会連覇の偉業を果たした。

プロのスター選手も数多く送り出してきた。第24回大会で敢闘賞を受けた住友金属の金城龍彦投手(巨人、プロ入り後に野手転向)、2003年の第30回大会敢闘賞の大阪ガス・能見篤史投手(阪神)、2008年の第35回大会首位打者賞の日本生命・大島洋平外野手(中日)、第36回大会打撃賞のホンダ・長野久義外野手(巨人)らは現役で活躍を続けている。

毎日新聞大阪本社編集委員

山口敬人



40回記念大会 優勝旗返還 整列する4名



## 優勝=日本通運 ————— 初優勝

本田技研熊本(九州)	3	本田技研熊本 8	本田技研熊本 3	日産自動車 8	日本通運
神戸製鋼(近畿)	11				
NTT東北(東北)	7	プリンスホテル 7	日産自動車 8		
北陸銀行(北信越)	6				
河合楽器(東海)	7	川崎製鉄千葉 10	日産自動車 8		
プリンスホテル(関東)	3				
三菱自動車水島(四国)	2	川崎製鉄千葉 6	日産自動車 11		
日本IBM野洲(近畿)	15				
たくぎん(北海道)	0	日産自動車 6	日本通運 4		
日産自動車(関東)	8				
日本生命(近畿)	4	ヴィガしらおい 5	日本通運 8		
NTT四国(四国)	3			NTT関西 5	
ヨークベニマル(東北)	0	松下電器 1	川崎製鉄神戸 2		
ヤマハ(東海)	0			ヴィガしらおい 1	
ヴィガしらおい(北海道)	4	日本通運 9	川崎製鉄神戸 11		
NTT関西(近畿)	6			NTT関西 0	
JR四国(四国)	0	松下電器 6	川崎製鉄神戸 11		
日本通運(関東)	9			NKK 1	
NKK(中国)	5	川崎製鉄神戸 11	川崎製鉄神戸 11		
東芝(関東)	4			松下電器 12	
松下電器(近畿)	12	川崎製鉄神戸 11	川崎製鉄神戸 11		
西濃運輸(東海)	8			松下電器 6	
日産自動車九州(九州)	5	川崎製鉄神戸 11	川崎製鉄神戸 11		
NTT北陸(北信越)	1			日産自動車九州 4	
川崎製鉄神戸(近畿)	5				

## 強打の日本通運が初優勝

総得点が第15回大会の257点を上回る269点と大会通算最多記録が生まれ、492安打も大会通算最多タイ記録。守り重視のチームが上位を占めた前回とは正反対に“打高投低”傾向が色濃く出た。激しい打ち合いの中にも1点差が8試合。延長戦や九回の土壇場で逆転劇を演じるスリリングな試合が多かった。アジア大会金メダルの原動力になった選手の活躍もあり、ファンを十分魅了した。

関東対決を制して初優勝した日本通運はチーム打率3割3分3厘と打ちまくった。松田、田中泰の主軸を中心にNTT関西の前田、ヴィガしらおいの渡部、川崎製鉄神戸の豊田、日産自動車の川尻、北川と全日本クラスの好投手を次々攻略。コンパクトに振り切る打法が徹底され縦、横の変化にも対応していた。2年連続準優勝の日産自動車は層の厚い投手陣が今ひとつ安定感を欠いたのが日通との1点差に表れた。だが、8アーチのパワフルな打線は素晴らしい。

この大会を最後に廃部となる川崎製鉄神戸の鬼気迫る真摯なプレーには感動した。来季は系列の水島、千葉でプレーする選手もあり、この大会の「2勝」を糧に、それぞれの進路での活躍に期待したい。2試合連続完封勝利を飾ったヴィガしらおいは、クラブチームとしての初勝利も達成。特に

右腕加藤がヨークベニマルを1安打、無残塁の27人で仕留めたのは見事。川鉄神戸とともに大会の“主役”となった。

ただ、気になったのは日本野球連盟が推進しているスピーディな試合が少なかったこと。打撃が活発だったこともあるが、投手のインタバルの長さ、打者のサイン確認のタイムなどによる不要な中断が目立った。来季以降の課題としてチーム内での意識革命が必要だろう。



杉本監督を胴上げして初優勝を喜ぶ日本通運ナイン。

大会  
審判

▷委員長=大村一彦▷副委員長=山川脩司、三宅孝次、竹中清二▷幹事=南喜右衛門、岡本好二、津田浩嗣、片岡成夫、吉田龍男▷委員=小林勉、大橋慶三、木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、伊東登、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、赤井淳二、野尻正博、山崎浩、南口正人、柳川弘一、堅田外司昭、小谷啓介、広沢渉、岡本良一、鹿多誠道、浜田正二、牛越芳明、榎田健一、東優孝、南垣勇、新阜定、北野雅行、岸井健、橋公政、長谷川文彦、中川雅夫、片山寄世史、宮木明、井田保樹、梅本吉徳、伏見文隆、石原義市郎、細見英昭、北村泉、今井豊、三橋隆之



▽10月16日

第1試合=1回戦(午後0時3分開始)

神戸製鋼	0	3	0	2	0	2	0	4	0	11
NTT東北	3	0	0	1	0	1	0	2	0	7

▶審判(球審)小林(塁審)栗山、山崎、新島

【神戸製鋼】			【NTT東北】		
打	安	点	打	安	点
① 藤松	4	2	① 藤松	3	5
② 内山	3	2	② 藤野	5	2
③ 河野	5	2	③ 三浦	4	0
④ 上野	6	3	④ 大野	5	2
⑤ 下立	5	1	⑤ 大野	4	3
⑥ 藤川	4	0	⑥ 藤川	4	1
⑦ 藤川	5	2	⑦ 藤川	1	1
⑧ 藤川	5	4	⑧ 藤川	2	1
⑨ 藤川	5	2	⑨ 藤川	1	0
⑩ 藤川	4	1	⑩ 藤川	3	2

振球併殺 4 3 1 13 計 41 17 11

回	打安費	回	打安費
野村	6 30 11 5	河添	3 2 1 4 2
栗	3 14 4 2	村田	2 1 1 4 2
		倉田	1 1 9 3 2
		山口	1 1 10 3 2
		谷	1 1 1 0 0

▶本塁打=大塚1号(野村)▶二塁打=藤川、藤川2、藤川(神)、猪狩、下原、橋山、鈴木(神)、藤川▶暴投=河村、山田▶試合時間3時間18分

特訓生きて大会1号

③「もう左投手は怖くない」。NTT東北・大塚の大会1号本塁打は左腕攻略の特訓の成果だった。対戦相手が神戸製鋼に決まったら左腕・野村を想定して打ち込みを重ねた。野村からは2ランを含む2打数2安打。「左に弱いという評判が定着していたので、先発出場できるか不安だった。イメージを覆すことができ、今後に自信が持てます」。

第2試合=1回戦(午後3時55分開始)

北陸銀行	0	1	1	0	0	0	1	0	1	6
河合楽器	1	0	1	0	0	0	2	0	0	7

▶審判(球審)三橋(塁審)赤井、伊東、梅本(外審)岸井、長谷川

【北陸銀行】			【河合楽器】		
打	安	点	打	安	点
① 藤松	7	4	① 藤松	5	2
② 藤松	3	1	② 藤松	6	1
③ 藤松	2	1	③ 藤松	6	1
④ 藤松	7	2	④ 藤松	7	3
⑤ 藤松	5	1	⑤ 藤松	7	4
⑥ 藤松	6	3	⑥ 藤松	3	0
⑦ 藤松	5	1	⑦ 藤松	0	0
⑧ 藤松	3	0	⑧ 藤松	2	0
⑨ 藤松	5	1	⑨ 藤松	5	1
⑩ 藤松	5	2	⑩ 藤松	6	2
⑪ 藤松	2	0	⑪ 藤松	5	2
⑫ 藤松	1	0	⑫ 藤松	0	0
⑬ 藤松	2	1	⑬ 藤松	2	1

振球併殺 7 4 3 10 計 51 16 5

▶本塁打=田原1号(竹島)、佐藤1号(竹島)▶二塁打=清水、村田、加藤、後藤隆、長谷川▶試合時間4時間

カウントも球種も覚えていない 絶対入ると思った

佐藤正 三塁手(23)河合楽器

右翼席に飛び込まれるように突き進む打球を見て左打席を一步も動かさずバットを後ろにほうり投げた。「真しんに当たった。打ったカウントも球種も覚えていない。絶対、入ると思った」。延長十四回2死三塁で劇的なサヨナラ本塁打。

地元・浜松の聖隷学園高から入部して5年目の若手。上手投げには詰まり気味になる打撃の欠点はあるがこの日の相手は右下手の竹島。前6打席で3安打とタイミングが合っていた。

試合開始から4時間になるという竹島の199球目はシンカーだった。しかし、疲労のせい打球が落ちず、スーッと高めに入ったところをどんびしゃりてたいた。

「自分で試合が終わるかもと、頭をよぎったが開き直って思い切り振った。野球生活で初のサヨナラ本塁打は最高の気分。もう一度打ちたい」。昨年の8強以上を目標に乗り込んだチームに、これ以上ない弾みをつけた。

あと一人、一転悲劇

③熱投199球、延長十四回にサヨナラ本塁打を浴びた北陸銀行の竹島は「主壇場で本塁打とは」。十四回2死三塁、「あと1人」と勝利を直感した瞬間に悲劇のヒーローに、「勝ちたかった」と声を詰まらせた。

第3試合=1回戦(午後8時10分開始)

三菱自動車水島	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
プリンスホテル	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3

▶審判(球審)木崎(塁審)宮木、南塚、井田(外審)長谷川、岸井

【三菱自動車水島】			【プリンスホテル】		
打	安	点	打	安	点
① 田島	0	0	① 石宮	4	3
② 田島	4	1	② 石宮	3	0
③ 田島	4	1	③ 石宮	3	1
④ 田島	4	0	④ 石宮	3	2
⑤ 田島	4	1	⑤ 石宮	1	0
⑥ 田島	4	0	⑥ 石宮	2	1
⑦ 田島	3	0	⑦ 石宮	1	0
⑧ 田島	2	1	⑧ 石宮	1	0
⑨ 田島	2	0	⑨ 石宮	0	0
⑩ 田島	2	1	⑩ 石宮	3	0
⑪ 田島	2	1	⑪ 石宮	3	0

振球併殺 12 2 1 3 計 29 5 2

回	打安費	回	打安費
黒木	5 22 6 3	斎藤	9 32 5 2
藤田	2 7 1 0		
岡	1 3 0 0		

▶本塁打=石田1号(黒木)、木田1号(斎藤)▶二塁打=石田▶試合時間2時間5分

▽10月17日

第1試合=1回戦(午前8時58分開始)

たくぎん	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川崎製鉄千葉	0	0	3	0	3	9	×	15	

▶審判(球審)大橋(塁審)広沢、飯橋、橋

【たくぎん】			【川崎製鉄千葉】		
打	安	点	打	安	点
① 小島	4	0	① 塩田	2	1
② 小島	2	0	② 塩田	3	2
③ 小島	3	0	③ 塩田	3	2
④ 小島	2	0	④ 塩田	3	1
⑤ 小島	2	1	⑤ 塩田	0	0
⑥ 小島	1	0	⑥ 塩田	0	0
⑦ 小島	2	0	⑦ 塩田	3	3
⑧ 小島	1	0	⑧ 塩田	4	2
⑨ 小島	1	0	⑨ 塩田	0	0
⑩ 小島	1	0	⑩ 塩田	3	1
⑪ 小島	1	0	⑪ 塩田	2	0
⑫ 小島	1	0	⑫ 塩田	1	0

振球併殺 4 5 1 7 計 22 2 0

回	打安費	回	打安費
藤原	5 25 7 7	須合	7 28 2 0
野村	1 4 1 3		
藤原	1 3 2 0		
藤原	1 3 1 3		
藤原	1 3 1 0		

▶本塁打=木田1号(藤原)、高岡1号(藤原)、丹野1号(藤原)、ハリソン1号(藤原)▶三塁打=木田▶二塁打=橋山▶暴投=藤原▶試合時間2時間21分

教訓生かし3安打

③川崎製鉄千葉の主将、高岡が2ランを含む3安打5打点の活躍。

「都市対抗で、藤原君の高めのボール球を振り攻略にてこずった。球を見極め、カウントを取りにきたところを打てた」と都市対抗の反省を生かした。

15点の猛攻で初陣を飾ったが、高岡は「ベンチにはもっと点を取ろうとどん詰りがみまわっていた」と、大勢にも気の緩みはない。

第2試合=1回戦(午前11時54分開始)

日本生命	2	0	0	0	1	1	0	4
日産自動車	0	0	0	2	0	1	0	5

▶審判(球審)東(塁審)渡多、辻、岸井

【日本生命】			【日産自動車】		
打	安	点	打	安	点
① 谷	4	1	① 渡	5	1
② 谷	3	2	② 渡	4	1
③ 谷	3	1	③ 渡	4	1
④ 谷	3	1	④ 渡	4	0
⑤ 谷	3	1	⑤ 渡	4	2
⑥ 谷	2	0	⑥ 渡	3	1
⑦ 谷	0	0	⑦ 渡	4	1
⑧ 谷	2	0	⑧ 渡	3	0
⑨ 谷	2	0	⑨ 渡	1	0
⑩ 谷	1	0	⑩ 渡	3	3
⑪ 谷	4	0	⑪ 渡	0	0
⑫ 谷	3	1	⑫ 渡	0	0

振球併殺 3 4 0 5 計 30 8 4

回	打安費	回	打安費
岩本	6 26 6 3	木久	7 29 6 4
杉浦	2 13 4 5	保川	1 4 2 0
		北	1 3 0 0

▶本塁打=仁志1号(木寺)、早川1号(岩本)、渡辺敦1号(杉浦)▶二塁打=渡辺敦、小林、青柳▶暴投=北川▶ボーク=北川▶試合時間3時間7分

生まれて初めての興奮

③「ど真ん中。生まれて初めてですよ」。九回2死満塁から大会史上2本目のサヨナラ満塁本塁打を放った日産自動車の渡辺敦は興奮していた。打った相手がアジア大会金メダルの全日本のエース・杉浦。2球目の速球をたたいたが、「初球のストライクからボールになるスライダーを余裕を持って見送ったのでいけると思った」と渡辺。テレビでアジア大会決勝を見て「杉浦さんは制球がよくなかった。あれで気持ちに余裕ができた」と何を聞いてもニコニコ顔だった。

全日本のエース不用意な一球 杉浦ぼう然、満塁被弾

右中間席に飛び込まれた打球を見送った杉浦は、頭を抱えてマウンドにしゃがみ込んだ。ナインが引き揚げてきても動こうとはしない。アジア大会金メダル、劇上げ投手の誇りは打ち砕かれた。

七回途中から登板した杉浦に本来の姿はなかった。「アジア大会の疲れは関係ない」と杉浦は言った。九月の近畿2次予選後、投げたのはアジア大会決勝で打者3人に対してだけ。むしろ重戦から遠ざかっていることが、制球に微妙な狂いを呼んだとも思えた。速球、スライダーとも浮き気味だった。九回2死から同点に追いつかれ、勢いづいた日産自動車打線を食い止める迫力は、もう残っていなかった。渡辺敦への2球目は伸びのない速球が飛び込まれるように真ん中へ甘く入った。

杉浦は近畿2次予選代表決定戦の日本IBM野洲戦でも逆転サヨナラ満塁本塁打を浴びている。わずか2カ月の間に同じ過ちを繰り返した。井尻監督は「1球の怖さを考えてほしい」と苦言を呈したが、全日本のエースというにはまったく不用意な1球だった。

「今季はひじの調子が悪く、思ったように投げられなかった」と杉浦はうなだれた。最悪の幕切れになった今シーズンだが、万全の体で来季こそアマ野球のエースとしての実力をを見せてほしい。

第3試合=1回戦(午後3時32分開始)

ヤマハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヴィガしらおい	4	0	0	0	0	0	0	0	X 4

▶審判(球審)櫻庭(塁審)三橋、柳川、今井(外審)南坂、新章

【ヤマハ】	打安点	【ヴィガしらおい】	打安点
① 右野	4	④ 高十	4
② 佐野	3	⑤ 五酒	3
③ 野山	4	⑥ 酒佐	2
④ 波本	4	⑦ 酒佐	2
⑤ 本波	3	⑧ 小日	4
⑥ 小波	3	⑨ 山若	4
⑦ 小波	1	⑩ 山若	1
⑧ 小波	1		
⑨ 小波	1		
⑩ 小波	1		
振球併残	7 2 0 7	振球併残	6 3 1 8
計	32 6 0	計	32 9 4

田中	6	28	7	4
安部	2	8	2	0
橋本	6	23	3	0
渡部	2	11	3	0

▶本塁打=小林1号(山田)▶二塁打=山路▶暴投=田中▶試合時間2時間23分

環境の変化克服  
楽しむ心忘れず

「だれもが待ち望んでいた勝利。支援してくれた人々にお土産が一つ出来た。これからは全力で行きたい」。大会史上初のクラブチーム勝利を挙げたヴィガの我喜屋監督は淡々と話したが潤む目元に万感の思いを感じさせた。

昨春秋、企業内チームから自治体、市民、企業の3本柱から支援を受ける新しい形のクラブ組織に脱皮。野球を続ける環境、精神面も微妙に変化したつらさを乗り越えての選手権出場だが、ナインに気負いは一つも見られなかった。

我喜屋監督は試合前、選手を集め「全員が勝つために最善の努力をしてきた。試合は川の流れと一緒に。自由に、存分に試合を楽しんで」。今季公式戦で1本も本塁打がない小林が「前の好機に「打たなかったら白老町に帰れない」と気迫のひと振り」で先制3ラン。

「将来を背負う若手を」と、都市対抗予選敗退の苦い思いをした関本を先発に立て二回無死一、二塁のピンチを迎えると「降板する気はないだろう」、「はい」。これで十分だった。

制球難の関本は別人のような投球で七回1死まで強気のヤマハを1安打、無失点に抑え連続短長打を浴びた2度目のピンチは9歳年上の31歳、渡部が救済して後援を連続三振。川の流れは自然のままに勝利に向かって流れ続けた。

自らも2度の休部経験を持ち、熱血でも知られるヤマハの山本秀樹監督は、つぶやいた。「零封されて悔しくない監督はいない。でも、ヴィガの選手が無心で一心不乱にグラウンドを駆け回った姿を見て、負けてさわやかな気分もある」。社会人で野球を続ける楽しさをオレンジ色のユニホームに見た。

悔やまれる立ち上がり

①「相手はクラブチームではなく、大昭和製紙北海道だと思って投げた」。ヤマハ先発の田中は、リズムをつかむ前の一回に4点を奪われた。小林に打たれた先制3ランは「外を狙ったのが、ど真ん中に入ってしまって」。二回以降はきっちり抑えただけに悔やまれる立ち上がり。「味方が取る前に点を取られては……」と肩を落とした。

第4試合=1回戦(午後6時26分開始)

JR四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0
NTT関西	1	0	0	0	0	0	5	X	6

▶審判(球審)吉田(塁審)片山、櫻田、小谷(外審)新章、南坂

【JR四国】	打安点	【NTT関西】	打安点
① 森内	4	① 生内	4
② 藤本	4	② 内田	3
③ 流本	4	③ 新山	2
④ 浦本	3	④ 新山	2
⑤ 岡本	4	⑤ 竹成	1
⑥ 杉本	4	⑥ 成山	4
⑦ 杉中	3	⑦ 成山	2
⑧ 井上	3	⑧ 大山	4
⑨ 井上	3	⑨ 安大	3
⑩ 井上	3	⑩ 安大	4
振球併残	6 1 1 6	振球併残	7 4 0 6
計	32 5 0	計	32 7 5

杉山	8	36	7	2
辻本	9	33	5	0

▶本塁打=羽生1号(杉山)▶三塁打=堀内▶二塁打=柳川、山田、山崎▶暴投=杉山3▶試合時間2時間12分

狙い打たれた変化球

①「ストレートが入らなくなって、甘く入った変化球を狙い打たれた」と八回の大量失点を悔やんだJR四国・杉山。門前高出身の2年目。フォークを武器に、この夏、補強(NTT関西)されて東京ドームも経験。自信をつけ神戸に乗り込んだ。「甲府まではフォークが決まった。終盤は疲れが出て変化球に頼りすぎた。体をつくり直し出直します」と再起を誓った。

▽10月18日

第1試合=1回戦(午前8時59分開始)

東芝	0	0	0	4	0	0	4
N K	0	0	0	3	0	2	X 5

▶審判(球審)赤井(塁審)浜田、石原、北村

【東芝】	打安点	【N K】	打安点
① 松原	4	① 村上	4
② 菅原	4	② 村松	4
③ 藤原	2	③ 村松	4
④ 高木	4	④ 村松	3
⑤ 高木	4	⑤ 村松	2
⑥ 志村	3	⑥ 村松	4
⑦ 志村	3	⑦ 村松	4
⑧ 志村	1	⑧ 村松	4
⑨ 志村	4	⑨ 村松	0
⑩ 志村	3	⑩ 村松	4
振球併残	10 3 2 4	振球併残	6 6 1 6
計	32 4 3	計	27 7 5

須田	4	21	4	3
三原	2	10	3	2
木村重	1	4	0	0
古賀	9	35	4	3

▶本塁打=谷川1号(須田)▶三塁打=志賀▶二塁打=古毛、轟山、多田▶試合時間2時間25分

ホームランで崩れた

①「ホームランが効いた。打たれるコースじゃなかったのに……」と、東芝先発の須田。四回までわずかに被安打1。しかし、五回に谷川の本塁打を浴びたあと大きく崩れ、計3点を失って降板した。

第2試合=1回戦(午後0時1分開始)

松下電器	1	1	0	2	1	1	2	0	12
西濃運輸	0	0	0	4	1	0	3	0	8

▶審判(球審)岡本(塁審)桃田、南口、船見

【松下電器】	打安点	【西濃運輸】	打安点
① 松井	4	① 高橋	4
② 北原	4	② 高橋	2
③ 中本	5	③ 高橋	2
④ 中本	4	④ 高橋	5
⑤ 中本	5	⑤ 高橋	2
⑥ 中本	5	⑥ 高橋	3
⑦ 中本	3	⑦ 高橋	4
⑧ 中本	2	⑧ 高橋	2
⑨ 中本	5	⑨ 高橋	3
⑩ 中本	2	⑩ 高橋	1
振球併残	10 9 1 10	振球併残	9 4 1 4
計	38 14 11	計	35 9 8

田中	4	22	7	5
橋本	2	10	2	3
賀	2	7	0	0
中ノ瀬	3	18	5	4
渡辺	1	8	3	4
加藤	2	11	2	1
出口	1	7	3	2
藤田	1	5	1	0

▶本塁打=木下1号(中ノ瀬)、森井1号(田中)、小森1号(橋本)▶三塁打=丸鬼、原井▶二塁打=小森、藤川、木村、木下▶暴投=中ノ瀬2、藤田▶ボーク=出口▶試合時間2時間54分

第3試合=1回戦(午後3時35分開始)

日産自動車九州	0	1	1	0	2	1	0	0	5
NTT北陸	1	0	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)三橋(塁審)伏見、北野、生越(外審)橋、聖田

【日産自動車九州】	打安点	【NTT北陸】	打安点
① 柄本	5	① 川崎	4
② 丸山	4	② 川崎	3
③ 小丸	5	③ 川崎	4
④ 高野	4	④ 川崎	4
⑤ 高野	3	⑤ 川崎	2
⑥ 高野	3	⑥ 川崎	2
⑦ 高野	4	⑦ 川崎	3
⑧ 高野	4	⑧ 川崎	3
⑨ 高野	4	⑨ 川崎	3
⑩ 高野	3	⑩ 川崎	2
振球併残	5 2 2 7	振球併残	8 2 0 4
計	35 9 5	計	30 5 1

藤井	9	32	5	1
伊藤	5	24	6	4
赤羽根	3	15	3	1

▶本塁打=川崎1号(藤井)、高峰1号(伊藤)▶二塁打=柄本、丸山、野上▶暴投=伊藤▶試合時間2時間15分

ドジョウは一匹だけ

①「2匹目のドジョウはいなかった。一回、内角ストレートを左越え本塁打したNTT北陸の川崎。三回の打席でも一回とはほぼ同じ球を打ったが、詰まって二股に倒れた。チームはこれで4年連続初戦敗退。「来年こそ連敗脱出できるよう、チームをリードしたい」

▽10月19日

第1試合=2回戦(午前8時55分開始)

本田技研熊本	0	0	1	1	1	0	0	0	3
神戸製鋼	0	0	0	0	0	0	1	0	1

▶審判(球審)中川(塁審)広沢、野尻、石原

【本田技研熊本】	打安点	【神戸製鋼】	打安点
① 江崎	4	① 鈴木	4
② 上崎	5	② 鈴木	3
③ 安藤	4	③ 鈴木	1
④ 藤原	4	④ 鈴木	0
⑤ 藤原	4	⑤ 鈴木	4
⑥ 藤原	5	⑥ 鈴木	4
⑦ 藤原	3	⑦ 鈴木	4
⑧ 藤原	3	⑧ 鈴木	4
⑨ 藤原	1	⑨ 鈴木	2
⑩ 藤原	2	⑩ 鈴木	1
振球併残	7 5 0 11	振球併残	3 0 3 5
計	34 10 2	計	33 6 1

玉城	9	33	6	1
坂本	6	33	8	2

▶二塁打=安藤、岡内山、橋本▶暴投=米3▶試合時間2時間14分

第2試合=2回戦(午前11時47分開始)

プリンスホテル	0	0	5	0	2	3	0	0	10
河合楽器	0	0	0	0	1	0	0	1	2

▶審判(球審)生越(塁審)櫻庭、大石、北村

【プリンスホテル】	打安点	【河合楽器】	打安点
① 石宮	4	① 田中	3
② 石宮	3	② 田中	3
③ 石宮	5	③ 田中	1
④ 石宮	4	④ 田中	4
⑤ 石宮	4	⑤ 田中	4
⑥ 石宮	2	⑥ 田中	2
⑦ 石宮	1	⑦ 田中	2
⑧ 石宮	4	⑧ 田中	2
⑨ 石宮	1	⑨ 田中	2
⑩ 石宮	3	⑩ 田中	2
振球併残	4 5 3 7	振球併残	4 1 0 7
計	36 13 9	計	34 10 2

斎藤	9	36	10	2
野村	5	26	7	7
野村	3	3	3	3
石井	4	15	3	0

▶本塁打=長谷部1号(斎藤)▶二塁打=小田原▶試合時間2時間31分

プリンス打線に脱帽

①「延長十四回、212球の完投勝利から中2日。河合楽器の先発・野村は7失点を喫して五回で降板した。二回は無安打に抑えたが、三回、死球後に決め球の沈むシュートを石田に左前打されて動揺。2死後、3安打され5点を失った。「初戦の疲れはなかったが、自信を持って投げた球をすべて打たれた。さすがプリンス打線」とあ然としていた。



### 第3試合=2回戦(午後2時57分開始)

川崎製鉄千葉 2 0 0 2 2 0 0 0 | 6  
日本IBM野洲 0 0 0 0 2 0 0 0 2 | 4

▶審判(球審)伊東(塁審)辻、柳川、今井

【川崎製鉄千葉】	打安点	【日本IBM野洲】	打安点
① 堀 田	6 3 1	① 三村	5 2 0
② 田 藤	4 1 0	② 三村	2 0 0
③ 木 吉	4 2 0	③ H 4	1 0 0
④ 飯 塚	4 1 1	④ 井 高	4 0 0
⑤ リ ソ	4 2 1	⑤ 高 教	4 2 0
⑥ 高 海	5 2 1	⑥ 鈴 西	4 2 0
⑦ 藤 澤	4 2 0	⑦ D R	4 0 0
⑧ 若 者	5 1 1	⑧ 中 深	4 1 0
⑨ 浅 井	5 1 0	⑨ 田 田	4 1 0
振球併残	4 6 0 14	振球併残	4 0 0 6
計	41 15 5	計	35 12 4

回	打安費	回	打安費
松 田	7 29 2	若 林	4 26 10 3
木 村	2 8 3 2	林 田	1 9 3 2
		片 桐	1 6 1 0
		藤 原	2 6 1 0

▶本塁打=堀田1号(若林)▶二塁打=高岡、飯塚▶試合時間2時間50分



六回表川鉄千葉1死二塁、飯塚の中前適時打で二塁の木田が捕手中西と本塁で激突するも生還

### 第4試合=2回戦(午後6時20分開始)

NTT 四 国 0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3  
日産自動車 0 0 2 0 1 2 0 1 X | 6

▶審判(球審)大場(塁審)榎田、新井、南場(外審)岸井、長谷川

【NTT 四国】	打安点	【日産自動車】	打安点
① 能 中	3 0 0	① 渡 辺	3 1 1
② 大 柴	3 0 0	② D	4 0 0
③ 三 好	3 1 0	③ 上 原	3 0 0
④ 芝	3 0 0	④ 黒 天	4 1 1
⑤ 本 久	3 0 0	⑤ 大 大	3 1 0
⑥ 丹 野	3 0 0	⑥ 平	3 2 1
振球併残	5 3 0 4	振球併残	6 3 2 5
計	28 6 3	計	29 7 4

回	打安費	回	打安費
古 谷	6 28 6 4	北 川	8 31 6 3
久 利	2 7 1 0	川 尻	1 3 0 0

▶本塁打=三好1号(北川)▶三塁打=大平▶二塁打=渡辺等▶暴投=北川2、久利、古谷▶試合時間2時間22分

### ▽10月20日

#### 第1試合=2回戦(午前8時55分開始)

ヴィガしらおい 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1  
ヨークベニマル 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

▶審判(球審)木嶋(塁審)赤井、浜田、長谷川

【ヴィガしらおい】	打安点	【ヨークベニマル】	打安点
① 五 十	4 1 0	① 藤 原	3 0 0
② 道 酒	4 1 0	② 山 根	3 0 0
③ 佐 藤	4 2 1	③ 鈴 木	3 0 0
④ D	4 1 0	④ 近 長	3 0 0
⑤ 小 山	3 1 0	⑤ 渡 邊	3 0 0
⑥ 若 林	3 1 0	⑥ 高 津	2 0 0
⑦ 望 月	2 2 0	⑦ H	1 0 0
⑧ 富 永	2 0 0	⑧ 大 河	2 1 0
振球併残	2 1 0 4	振球併残	9 0 2 0
計	30 10 1	計	27 1 0

回	打安費	回	打安費
加 藤	9 27 1 0	中 川	9 32 10 1

▶本塁打=佐藤1号(中川)▶試合時間1時間47分

### 第2試合=2回戦(午前11時16分開始)

NTT 関 西 0 0 1 1 0 0 3 0 0 | 5  
日本通運 4 2 2 0 0 1 0 0 X | 9

▶審判(球審)廣多(塁審)岡本、野尻、吉田

【NTT 関西】	打安点	【日本通運】	打安点
① 生 内	5 0 1	① 波	5 2 1
② 堀 内	5 3 0	② 藤 野	4 2 1
③ 堀 内	5 1 0	③ 中 田	3 1 0
④ 新 山	4 2 0	④ 松 田	3 1 0
⑤ 竹 大	4 2 2	⑤ 山 中	4 0 0
⑥ 竹 大	4 3 1	⑥ 山 中	4 2 3
⑦ 大 山	4 0 0	⑦ 田 中	4 1 1
⑧ 安 大	4 2 1	⑧ 工 宮	4 2 1
⑨ 西 原	3 1 0	⑨ 藤 下	3 2 1
振球併残	5 2 0 8	振球併残	6 2 1 5
計	37 14 5	計	34 13 9

回	打安費	回	打安費
前 田	2 14 7 6	果 川	6 33 13 5
田 本	1 5 3 2	松 下	2 7 1 0
岡 中	3 12 2 1		
	2 7 1 0		

▶三塁打=後藤、工藤▶二塁打=藤、田中泰、安西、後藤、宮下2、山田、工藤▶試合時間2時間30分

### 「KOするのは当然」

⑩元全日本のNTT関西・前田を攻略して快勝した日本通運。決め球のフォーークをファウルして甘い球を持つ作戦が奏功した。核本監督は「昨年の都市対抗、日本選手権と前田には打ち勝っている(昨年の都市対抗に前田は中山製鋼の補強選手として出場)。うちに苦手意識があるのでは」と言い、KOするのは当然といった表情。

### 第3試合=2回戦(午後2時22分開始)

N K K 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1  
松下電器 0 1 2 0 2 1 0 0 X | 6

▶審判(球審)小林(塁審)植田、山崎、小谷(外審)梅本、北野

【N K K】	打安点	【松下電器】	打安点
① 村 宮	5 1 0	① 井 口	5 2 0
② 村 宮	4 2 0	② 北 原	4 0 0
③ 古 田	2 0 0	③ 中 木	4 2 1
④ 古 田	3 1 0	④ D	4 2 2
⑤ H	1 0 0	⑤ 木 川	4 2 0
⑥ 9	0 0 0	⑥ 丸 桑	4 2 0
⑦ D	4 0 0	⑦ 丸 桑	4 1 1
⑧ 丸 桑	4 1 1		
⑨ 丸 桑	0 0 0		
⑩ 丸 桑	3 0 0		
⑪ 丸 桑	2 0 0		
振球併残	6 4 2 9	振球併残	3 1 0 7
計	33 6 1	計	35 13 4

回	打安費	回	打安費
古 田	4 19 6 2	野 中	4 22 5 1
賀 木	2 5 4 2	田 中	4 15 1 0
星 氏	2 9 2 1		
	1 4 1 0		

▶本塁打=藤井1号(松木)、桑原1号(屋野)▶二塁打=松井、中本、村上▶試合時間2時間37分

## どん欲走塁 古豪復活の“のろし”

日本選手権は20回中、16回。都市対抗も65回中、33回出場と全国屈指の古豪ながら、松下電器はどちらの大会でも優勝経験がない。就任3年目の広岡監督は「全国で勝てるチーム」への脱皮を目標とした。その結果、欠かせない要素として浮上してきたのが「足」だった。ことあるごとに「機動力野球」という言葉を口にした。盗塁のサインはなし、とにかくどん欲に次の塁を奪う積極走塁を押し進めた。

今夏の都市対抗予選では「らしき」が発揮できず、一回戦負けした東京ドームでも「足」で好機を広げる場面はなかった。しかし、日本選手権を迎えた秋、予選2試合で6盗塁。

本番でも毎回安打を記録した一回戦から、こ

の日の五回まで14イニング連続安打という打線の勢いに合わせて「足技」を存分に披露。

三回、2死一、三塁から一塁走者の木村が単独スチールを仕掛け、二塁間で挟まれる。そのスキに三塁走者の中本が本塁を成功させた。中本は五回にも浅い中前打で二塁を陥れ、木村の右前打で一気に本塁へ。暴走かに見えたが、捕手の足元をすり抜けて生還した。野手ではチーム最年長、28歳のベテランが先頭に立って「機動力」を駆使したのだ。

それでも広岡監督は「足についてはまだまだ。ほかにも走れる場面があったのに」と満足できない口ぶり。2試合で18得点した打線。肩痛で1年半を棒に振った左腕・田中が、奇跡的な復活を遂げた投手陣。それに足が加わった松下電器の勢いは古豪復活を思わせる。

### 第4試合=2回戦(午後5時37分開始)

川崎製鉄神戸 0 0 0 2 2 1 0 0 0 | 5  
日産自動車九州 0 3 0 0 0 0 0 1 0 | 4

▶審判(球審)東(塁審)片山、生延、橋(外審)北野、梅本

【川崎製鉄神戸】	打安点	【日産自動車九州】	打安点
① 山 本	3 0 1	① 丸 山	4 0 0
② 上 藤	4 2 1	② 丸 山	3 0 1
③ 藤 原	2 1 0	③ 小 嶋	4 1 0
④ 金 田	4 1 2	④ 嶋 崎	3 2 0
⑤ 米 田	4 1 1	⑤ 嶋 崎	4 0 0
⑥ 本 野	3 0 0	⑥ 嶋 崎	3 0 0
⑦ 大 野	4 0 0	⑦ 嶋 崎	4 1 1
⑧ 大 野	4 1 0	⑧ 嶋 崎	4 1 2
⑨ 大 野	4 1 0	⑨ 嶋 崎	3 1 0
振球併残	8 3 0 4	振球併残	8 2 1 4
計	32 7 5	計	32 6 4

回	打安費	回	打安費
豊 田	9 35 6 4	藤 井	8 33 7 3
		秋 吉	1 3 0 0

▶本塁打=金1号(藤井)、米田1号(藤井)▶二塁打=岩崎、江野、上四元、藤原安、石川、小川▶暴投=藤井▶試合時間2時間33分

### ▽10月21日

#### 第1試合=準々決勝(午前8時53分開始)

プリンスホテル 0 0 3 0 0 0 0 2 2 | 7  
本田技研熊本 0 0 0 5 1 0 0 0 2 | 8

▶審判(球審)岡本(塁審)中川、野尻、南場

【プリンスホテル】	打安点	【本田技研熊本】	打安点
① 石 田	5 2 1	① 上 野	5 1 1
② 宮 本	4 1 0	② 上 野	5 3 1
③ 宮 本	5 2 3	③ 林 野	4 1 3
④ 村 友	5 2 0	④ 本 野	2 0 0
⑤ 友 友	0 0 0	⑤ 本 野	4 0 0
⑥ 酒 井	3 1 1	⑥ 本 野	3 1 1
⑦ 酒 井	0 0 0	⑦ H	1 1 0
⑧ H	1 0 0	⑧ 長 橋	2 0 0
⑨ 宮 野	2 0 0	⑨ 長 橋	1 0 0
⑩ 高 木	3 1 2		
⑪ 小 田	2 0 0		
⑫ 田 邊	2 0 0		
⑬ 藤 田	4 2 0		
⑭ 藤 田	1 1 0		
⑮ 足 立	2 1 0		
振球併残	5 1 1 8	振球併残	4 2 0 6
計	39 13 7	計	36 13 8

回	打安費	回	打安費
市 島	3 13 4 3	玉 城	8 39 12 7
島 田	1 7 3 2	中 武	3 3 1 0
佐 藤	4 16 4 2		
齊 藤	3 2 0		

▶本塁打=若林1号(市島)、高木1号(玉城)、奥村伸1号(玉城)▶二塁打=浦野、奥村伸、石田、長野▶暴投=中武▶試合時間3時間10分(中断9分)

### 悔い残るあの一球

⑩「内角シュートをうまく合わせられた。せっかく、いいムードできたのに逆転され悔しい」。九回1死三塁の場面、四番下で救援し内野失の後、連続安打を浴びて逆転負けを喫したプリンスの主戦・斎藤貢は同点打を浴びた岩崎への6球目を悔いた。「自分の好きな球種が評価してくれたらプロに行きたい。そのほかだったら(チームに)残ります」

# 第21回大会 大会記録

▽10月22日

第1試合=準々決勝(午前8時56分開始)

日産自動車	0	2	1	2	1	0	0	1	0	0	4	11
川崎製鉄千葉	0	0	0	1	1	1	0	3	1	0	3	10

(延長11回)

▶審判(球審)木嶋(塁審)吉田、南口、梅本

【日産自動車】	打安点	【川崎製鉄千葉】	打安点
① 日 邊	4 0 0 0	① 堀 田	6 3 3 1
② 日 邊	5 2 2 0	② 堀 田	2 2 2 0
③ 日 邊	2 1 1 0	③ 堀 田	5 5 1 1
④ 日 邊	2 1 1 1	④ 堀 田	5 5 0 0
⑤ 日 邊	6 3 2 3	⑤ 堀 田	5 5 0 0
⑥ 日 邊	4 2 3 3	⑥ 堀 田	4 3 4 3
⑦ 日 邊	5 1 1 0	⑦ 堀 田	4 2 2 1
⑧ 日 邊	2 0 0 0	⑧ 堀 田	2 5 1 1
⑨ 日 邊	2 1 0 0	⑨ 堀 田	3 3 0 0
⑩ 日 邊	2 0 0 0	⑩ 堀 田	3 3 0 0
⑪ 日 邊	2 1 0 0	⑪ 堀 田	3 3 0 0
⑫ 日 邊	5 2 1 0	⑫ 堀 田	3 3 0 0
⑬ 日 邊	4 1 0 0	⑬ 堀 田	3 3 0 0
振球併残	9 5 3 8	振球併残	9 4 0 11
計	43 15 9	計	47 19 9

川久	5/23	10	3	清木	3/19	5	5
上保	2/7	1	0	谷村	4/16	2	1
川北	1/4	3	3	若松	1/2	0	0
北木	1/7	1	0	松田	3/15	5	4
井上	1/11	4	3				
	1/14	1	0				
	1/14	1	0				
	1/14	1	0				

▶本塁打=上野1号(須合)、早川2号(須合)、渡辺等1号(須合)、海老沢1号(川尻)▶二塁打=天満、海老沢、高岡、渡辺等、上野、児玉▶暴投=須合▶試合時間4時間23分

## 効いた”技”の二塁打

渡辺等三塁手(30)日産自動車

「一回表、無死一、二塁で6回目の打席に立った。サインはバント。川崎製鉄千葉の一、三塁手が猛然とダッシュ。そのシフトでサインは「打て」に変わった。「練習でいつもやっていること。外野も前進していたので助かりました」。バントの構えから切り替えた鮮やかなバスター・バント・ラン。左翼越えの勝ち越し二塁打となった技ありの一打が、打席をよみがえらせ、あっという間に4点を奪った。

しかし、その裏の守り。「どうしてこんな試合ばかりなんですか。神様、いかげんに勝たしてくださいよ」と、天を仰いだ。川鉄千葉の猛反撃を受けて1点差。しかも、一死二、三塁と一打逆転サヨナラのピンチ。救済でマウンドに立った若い井上に「もう技術じゃない。思い切って投げ込め」と鞭を飛ばした。締めくくりのゴロを難くさばいて、主将らしい攻守で激戦を制する立役者になった。

第2試合=準々決勝(午後1時54分開始)

ヴィガしらおい	0	1	0	1	0	0	3	0	5
日本通運	1	0	0	2	0	0	5	X	8

▶審判(球審)大橋(塁審)片山、伏見、橋

【ヴィガしらおい】	打安点	【日本通運】	打安点
① 高 木	4 0 0 0	① 波 敷	5 1 1 1
② 高 木	0 0 0 0	② 波 敷	4 2 1 1
③ 高 木	0 0 0 0	③ 波 敷	4 3 1 1
④ 高 木	2 0 0 0	④ 波 敷	3 1 1 1
⑤ 高 木	2 1 1 1	⑤ 波 敷	3 0 0 1
⑥ 高 木	4 2 2 2	⑥ 波 敷	4 1 1 1
⑦ 高 木	2 1 0 0	⑦ 波 敷	4 4 0 0
⑧ 高 木	1 0 0 0	⑧ 波 敷	3 3 1 0
⑨ 高 木	0 0 0 0	⑨ 波 敷	4 2 1 1
⑩ 高 木	0 0 0 0	⑩ 波 敷	4 2 1 1
⑪ 高 木	3 1 2 2	⑪ 波 敷	4 2 1 1
⑫ 高 木	4 0 0 0	⑫ 波 敷	4 2 1 1
⑬ 高 木	3 0 0 0	⑬ 波 敷	4 2 1 1
⑭ 高 木	3 0 0 0	⑭ 波 敷	4 2 1 1
⑮ 高 木	2 0 0 0	⑮ 波 敷	4 2 1 1
⑯ 高 木	1 0 0 0	⑯ 波 敷	4 2 1 1
振球併残	10 7 0 6	振球併残	7 3 1 6
計	29 5 5	計	34 12 8

渡部	7/33	10	3	関口	7/29	4	3
加藤	1/5	2	1	松田	1/3	1	1
				黒沢	1/6	0	0

▶本塁打=酒井1号(関口)▶二塁打=松田、波、酒井、田中泰、後藤▶暴投=渡部▶試合時間2時間41分

第3試合=準々決勝(午後5時6分開始)

川崎製鉄神戸	5	0	0	1	0	1	4	11
松下電器	0	0	0	0	1	0	0	1

(8回コールド)

▶審判(球審)櫻根(塁審)櫻田、大石、新島(外審)南場、岸井

【川崎製鉄神戸】	打安点	【松下電器】	打安点
① 山 上	5 2 1 1	① 井 口	4 0 0 0
② 山 上	5 2 1 1	② 井 口	4 2 0 0
③ 山 上	5 3 1 1	③ 井 口	4 1 0 0
④ 山 上	4 1 1 1	④ 井 口	4 3 0 0
⑤ 山 上	4 2 1 1	⑤ 井 口	1 0 1 0
⑥ 山 上	3 2 0 0	⑥ 井 口	3 0 0 0
⑦ 山 上	4 3 3 3	⑦ 井 口	3 0 0 0
⑧ 山 上	3 1 2 2	⑧ 井 口	3 2 0 0
⑨ 山 上	3 0 0 0	⑨ 井 口	3 0 0 0
⑩ 山 上	3 0 0 0	⑩ 井 口	3 0 0 0
⑪ 山 上	3 0 0 0	⑪ 井 口	3 0 0 0
⑫ 山 上	3 0 0 0	⑫ 井 口	3 0 0 0
⑬ 山 上	3 0 0 0	⑬ 井 口	3 0 0 0
⑭ 山 上	3 0 0 0	⑭ 井 口	3 0 0 0
⑮ 山 上	3 0 0 0	⑮ 井 口	3 0 0 0
振球併残	6 2 2 5	振球併残	4 1 1 6
計	36 16 10	計	29 8 1

▶二塁打=大塚2、中本、上四元2、山中、山本▶暴投=田中▶試合時間2時間33分

## 「明日なき戦い」で結束

一死二死から四球を挟んで5連打。「胸の内からにじみ出るプラスアルファ」。川崎製鉄神戸・生田監督は打線の勢いの秘密をそう評した。

3番の藤原安は「左対左」が苦手だが、相手投手は左腕の賢者。「情に食い込むように感じる内角球は打てない。外角球を狙うしかない」。頭に描いた通り、右足を踏み込んで外角速球を中前打した。続く金は次につなぐことだけを心掛け、カーブを右前に運んだ。米田は「賢者君の得意球を狙っていた」。カーブを十分手元に引きつけ、中前へ、重い球を絞り込んだ猛攻に、生田監督は「善打の松下に打ち勝つとは信じられない」。

打席に火をつけた藤原安は、座席後、川崎製鉄千葉に移籍する。「チームの仲間とともに野球をするのはもう最後。悔いを残したくない」。先制打の米田は迷った末に地元で戦うことを決め、今大会を最後にユニホームを脱ぐ。「ひと振りひと振りが最後と思って打席にはいる」という。

ナインの関心は優勝よりも、「明日も試合ができるのかな」。左対左の克服、相手の勝負球の攻略が実ったの先制パンチは「明日なき戦い」でリプレーを宝物のように大切に扱うナインの思いが凝縮していた。

▽10月23日

第1試合=準決勝(午前9時57分開始)

日産自動車	0	0	3	0	0	3	2	0	8
本田技研熊本	0	1	0	0	0	0	1	1	3

▶審判(球審)東(塁審)櫻田、辻、中川

【日産自動車】	打安点	【本田技研熊本】	打安点
① 日 邊	4 1 0 0	① 上 崎	4 2 0 0
② 日 邊	1 0 0 0	② 上 崎	4 0 1 0
③ 日 邊	0 0 0 0	③ 上 崎	5 2 0 0
④ 日 邊	5 3 2 2	④ 上 崎	3 1 0 0
⑤ 日 邊	4 0 0 0	⑤ 上 崎	3 0 0 1
⑥ 日 邊	4 3 1 1	⑥ 上 崎	3 0 0 0
⑦ 日 邊	5 2 3 3	⑦ 上 崎	1 0 0 0
⑧ 日 邊	4 2 0 0	⑧ 上 崎	0 0 0 0
⑨ 日 邊	2 0 0 0	⑨ 上 崎	4 1 0 0
⑩ 日 邊	1 0 0 0	⑩ 上 崎	3 0 0 0
⑪ 日 邊	1 0 1 1	⑪ 上 崎	1 1 0 0
⑫ 日 邊	3 1 1 1	⑫ 上 崎	2 0 0 0
⑬ 日 邊	2 0 0 0	⑬ 上 崎	1 1 0 0
⑭ 日 邊	1 0 0 0	⑭ 上 崎	0 0 0 0
⑮ 日 邊	1 0 0 0	⑮ 上 崎	0 0 0 0
⑯ 日 邊	1 0 0 0	⑯ 上 崎	0 0 0 0
振球併残	6 5 0 8	振球併残	3 4 1 9
計	37 12 8	計	34 8 2

北川	9/39	8	2	玉城	4/18	3	0
				中原	1/9	3	3
				中武	3/15	6	2
				森	1/6	0	0

▶本塁打=早川3号(玉城)、上野2号(中武)▶二塁打=黒須、渡辺等、松崎、若林▶ボーク=北川▶試合時間2時間56分

第2試合=準決勝(午後1時32分開始)

川崎製鉄神戸	0	1	0	0	0	0	1	2
日本通運	0	0	0	0	1	1	2	X

▶審判(球審)赤井(塁審)大橋、橋田、北野

【川崎製鉄神戸】	打安点	【日本通運】	打安点
① 山 上	2 1 0 0	① 波 敷	4 0 0 0
② 山 上	4 1 0 0	② 波 敷	4 0 0 0
③ 山 上	4 0 0 0	③ 波 敷	3 1 0 1
④ 山 上	3 0 0 0	④ 波 敷	3 0 0 0
⑤ 山 上	4 3 0 0	⑤ 波 敷	2 0 0 0
⑥ 山 上	3 1 1 1	⑥ 波 敷	0 0 0 0
⑦ 山 上	4 1 1 1	⑦ 波 敷	0 0 0 0
⑧ 山 上	3 0 0 0	⑧ 波 敷	2 0 0 0
⑨ 山 上	1 0 0 0	⑨ 波 敷	4 1 2 2
⑩ 山 上	3 2 0 0	⑩ 波 敷	3 1 0 1
⑪ 山 上	3 2 0 0	⑪ 波 敷	2 1 1 1
振球併残	7 3 0 6	振球併残	11 3 2 7
計	31 9 2	計	30 6 4

▶本塁打=宮下1号(豊田)▶二塁打=米田2、田中泰▶試合時間2時間35分

## 痛恨の一球より「もう最後」に涙

①…豊田の意地が日本通運の強打をかわしていた。3種類のシンカーを操り、七回一死まで10奪三振。9番打者へのシンカーは内角低めに落ちるはずだったが、勝ち越しのソロアチを許した。

「悔いのない9年間の中で、忘れられない1球となった」と豊田。「このメンバーともう試合ができないと思うと自然に涙がこみあげてきます」。

都市対抗に4年ぶりにチームを導き、広島アジア大会の全日本代表として決勝の先発を任せられ、金メダルの原動力になった。豊田にとって最も充実した1年でもあった。「寂しいのは8年間も受け続けてくれた大城と、もうバッテリーを組めないことです」。

## 激闘豊田、疲れ沈む

「なんという精神力。人間のパワーのすごさを見せられた」。日通の杉本泰彦監督は、川鉄神戸の主戦・豊田のひょうひょうと投げ続ける姿に感激を覚えたという。

豊田は前2試合を完投して3試合目、打撃優位の社会人では完投すら大変なのに終盤まで疲れを表に出さなかった。勝負球はカーブとシンカー。日通ベンチは得意球攻略に動いた。「シンカーを狙え」だ。

だが敗れた日がチーム最後の日と心に秘める豊田はこの攻勢に耐えた。シンカーと分かっているもバットに触れさせない。

しかし、豊田の守りが崩壊を分けた。疲れ切っている豊田の足。試合前に「今日は悪役になるぞ」と選手にハッパをかけた杉本監督は待球作戦に加え、豊田の足元を揺さぶる指示。六回、先頭の藪が役前バント。簡単に見えた打球だが豊田は追いつけなかった。

豊田は気迫で何点とまりとしたが、七回にはシンカーが落ちず九番の宮下に左翼に運ばれた。八回、安打と四球の無死一、二塁から送りバントとゆきぶられた後、田中敏が2点適時打。

悪代官の気持ちという杉本監督は「右腕と総力の守りあいだった。準々決勝の町民球団・ヴィガしらおい戦、休部が決まっている川鉄さん。戦いにくかったが一球入魂がいかに大事ななど勉強になることが多かった。敵ったチームのためにも決勝はいい試合をしたい」と関東決戦での総力戦を誓った。





▽10月24日

決勝(午後1時29分開始)

日本通運	101	300	130	9
日産自動車	010	100	150	8

▶審判(球審)木嶋(塁審)大橋、浜田、吉田

【日本通運】	打安点	【日産自動車】	打安点
① 波	6 2 1	⑧ 日 體	2 0 0
② 敷	2 1 1	⑨ H 7 堀	0 0 0
③ 松田	4 2 3	⑩ 渡 等	4 2 1
④ 山 中	5 3 1	⑪ 青 島	5 2 5
⑤ 山 後	4 2 2	⑫ 上 早	5 0 0
⑥ 田 中	4 1 0	⑬ 早 黒	5 0 0
⑦ 後 工	5 0 0	⑭ 黒 渡	5 2 0
⑧ 田 工	5 3 0	⑮ D ② 辺	4 1 0
⑨ 宮	2 0 0	⑯ D ④ 天	4 1 0
		⑰ 大	3 2 2

振球併残	計	振球併残	計
3 5 0 10	37 14 8	7 6 0 8	37 10 8

回	打安責	回	打安責
関 口	3/4 18 5 2	木 寺	3/4 21 6 3
黒 川	2/4 12 3 0	久 保	2/4 10 2 1
川 下	1/4 9 2 5	川 上	1/4 6 3 2
松 下	1/4 4 0 0	北 川	1/4 4 2 1
		北 川	1/4 5 1 0

▶本塁打=松田1号(2)(木寺)2号(川尻)、青柳1号(黒川)▶二塁打=工藤、黒須▶暴投=木寺2、川上▶投手失策=黒沢▶試合時間3時間43分

## 熊谷組出身 万感胸に主砲の面目

はその期待通り、日産の継投を後手に回らせた。

七回は好投していた2人日、川尻から速球を左翼席上段にたたき込み、川尻をマウンドから降ろすきっかけをつくった。急ぎ登板した久保は八回に崩れ、日通は八回に3点追加。2本目のアーチは日産の猛追を1点差でかわす伏線ともなった。

松田はPL学園高出身で清原(西武)、桑田(巨人)の1年後輩。同大を経て熊谷組に入社、4番打者で活躍したが、休部に伴って今年1月日通に移籍。だが、今夏の都市対抗は予選敗退。「結果を出そうと焦りすぎた」という。その反省を胸に秘めた神戸では、ヴィガしらおい、川崎製鉄神戸を連破。「巡り合わせかな」と言葉少なだったが、自分と同じ休・廃部に直面した選手との戦いで、心を奮い立たせた。

日通のカラーは守り重視だが、決勝は激しい打撃戦。期待の「熊谷組の4番」を迎え、本来の堅実な攻撃にパワーが備わり、初の栄冠が日通の頭上に輝いた。

## 監督談話

日本通運・杉本泰彦監督 6点差としたとき、勝ったと思ったが、そんなに甘くはなかった。投手4人の早めの離脱を心掛けた。今年の都市対抗に出られなかった悔しさを、選手全員が一丸となって晴らしてくれた。最高の勝利です。

日産自動車・村上忠則監督 最後までうちの展開にならなかった。これほど投手が打たれ、守備も乱れた試合は記憶にない。投手陣が不調で苦しかった。

ひと

## 日本通運 杉本 泰彦監督

興奮は眼鏡の奥にしまい込んだよう。「大学、社会人でいつも決勝で敗れるツキのない人間」が初めて味わった瞬間。なのに、マウンドに集まって小躍りする選手の輪にも加わらず、試合終了のあいさつのためホームベース上で一人、選手らを待った。

「性格なんです」と、繰り返される問上げ中にも表情を崩さない。24日に優勝を争った日産自動車の村上監督とは浅からぬ因縁。社会人一年目で全日本メンバーに選ばれた際、合宿で同部屋になり捕手の教えを受け、冷静、沈着な姿勢とどんな場面でも動じない勝負度胸を備えた。

昨年、準優勝した都市対抗出場を今夏は逃がした。チームの精神力向上にと座禅で1年のスタートを切った。悔しさをバネに飛躍した選手を語る時、初めて笑みを浮かべた。

来年が勝負と思っていたチームでの頂点。昨年掲げた「攻撃的野球」から一歩前進した「展開する野球」が一足早く開花したが、スキのない野球を追い求めて11月13日には大学チャンピオン、駒大とのアマ日本一をかける王座決定戦に挑む。

暇があれば歴史小説などに没頭する読書家は当分、本を読めそうにない。高校時代の同級生の妻真弓さん(34)と娘2人の4人暮らし。

徳島県出身。東洋大から日本通運に入社。選手、コーチを経て1991年秋に監督。昨年の都市対抗で準優勝。35歳。



日本通運監督 杉本泰彦



四回表日本通運2死一塁、松田が左中間に2ランホームを放つ

## ダイヤの輝き 日産 満塁弾も1点届かず

青柳信外野手(26)日産自動車

「どうだ」と言わんばかりに右こぶしを高々と突き上げてダイヤモンドを一閃した。八回表を終えて6点差。敗色ムード漂うベンチを1点差に迫る満塁本塁打で一気に活気づかせた。

日本生命戦はサヨナラ満塁本塁打で勝ち、川崎製鉄千葉戦は延長11回の戦いを制した日産。この試合でも「粘りの日産」をしっかりとアピールした。「内角球に詰まらされていたのでヤマを張った。3番の差で負けたと言われたくなかった」。日本通運の松田が2打席連続アーチをかけていただけに意地をかけたひと振りでもあった。「ベンチのムードがガラリと変わった。最後まで逆転を信じていたのですが……」

昨年も準優勝。メンバーにほとんど変動はなく「神戸に忘れ物を取りに帰る」がナインの合言葉だった。「時間がたてばもっと悔しくなると思う。その時、みんなでもう一度チャレンジする」。不屈の闘志を胸に神戸を去った。



八回裏日産自動車2死満塁、青柳が左中間に満塁ホームを放ち1点差に迫る

第21回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 松田訓内野手(日本通運) 4試合で14打数7安打4打点。決勝での2打席連続本塁打は史上初。PL学園高一同大。熊谷組の3年間を経て今季移籍。26歳。

◇敢闘賞 北川哲也投手(日産自動車) 5試合すべてに登板して3勝、1完投。21回を投げて防護率2.14。千葉・暁星国際高から3年目の21歳。

◇打撃賞 田中泰内野手(日本通運) 4試合で14打数7安打4打点。3二塁打。兵庫・東洋大姫路高一東洋大。8年目の30歳。

◇首位打者賞 中本浩内野手(松下電器) 11打数7安打、6

割3分6厘。2打点、3盗塁。大産大高一亜大。6年目の28歳。

◇大会優秀選手

【投手】北川哲也(日産自動車)豊田次郎(川崎製鉄神戸) 【捕手】工藤寿(日本通運)大城健(川崎製鉄神戸) 【一塁手】田中泰(日本通運)中本浩(松下電器) 【二塁手】大平幸治(日産自動車)宮下森(日本通運) 【三塁手】渡辺等(日産自動車) 【遊撃手】藪宏明(日本通運)木田健一郎(川崎製鉄千葉) 【外野手】早川健一郎(日産自動車)米田幸司(川崎製鉄神戸)石田勝彦(プリンスホテル)安藤芳人(本田技研熊本)ケニス・ハリソン(川崎製鉄千葉) 【指名打者】松田訓(日本通運)



[2回戦]NKKK-松下電器 五回裏松下1死二塁、木村の右前適時打で二塁から中本生還



[準々決勝]ヴィガしらおい-日本通運 六回表ヴィガしらおい2死一塁、五十嵐が二盗、投手の送球がそれ五十嵐は三塁へ



[2回戦]川崎製鉄神戸-日産自動車九州 六回表川鉄神戸無死、米田が左越えソロホームランを放つ



[1回戦]松下電器-西濃運輸 二回表松下無死から、木下が左越えソロホームランを放ち歓喜のナインに迎えられる



[決勝]日本通運-日産自動車 八回表日本通運2死一、三塁、田中泰が右前適時打を放つ



[1回戦]日本生命-日産自動車 渡辺にサヨナラ満塁ホームランを打たれ、がつくりうづくまる日生・杉浦



[準決勝]川崎製鉄神戸-日本通運 七回裏日本通運1死、宮下が左越えにソロホームランを放ち勝ち越し



[準決勝]日産自動車-本田技研熊本 二回裏本田技研1死一塁、安打と悪送球で一塁から熊本が生還し先制



[準々決勝]プリンスホテル-本田技研熊本 九回裏本田技研1死一塁、三塁、安藤がサヨナラの右前タイムリーを放つ



(太子チーム本大会出場チーム)

**北海道**

9月9日から 5日間 札幌円山球場

ヴィガしらおい	7	9	ヴィガしらおい
札幌倶楽部	3		
J R 北海道	15		
新王子製紙苫小牧	11		
室蘭シャークス	1	8	ヴィガしらおい
NTT北海道	21		
橋本カンパース	3	4	ヴィガしらおい
航空自衛隊千歳	0		
たくぎん	10	18	たくぎん
森倶楽部	10		
旭川自衛隊	9	2	たくぎん
札幌ブルーインズ	9		
函館大洋倶楽部	3	0	たくぎん
日本製紙旭川	9		
小樽野球協会	2	15	たくぎん

**東北**

9月15日から 4日間 県営宮城球場

岩手銀行	8	8	NTT東北
七十七銀行	17		
山形しあわせ銀行	7	7	NTT東北
T D K	2		
NTT東北	7	18	NTT東北
駒ベースボールクラブ	1		
自衛隊青森	4	1	NTT東北
J T	3		
秋田銀行	5	5	NTT東北
オールカメイ	3		
宮城建設	9	6	NTT東北
JR東日本東北	7		
小野田セメント	1	5	NTT東北
ヨークベニマル	9		
		12	NTT東北

**関東**

9月16日から 5日間 千葉県営天台球場

三菱自動車川崎	6	2	川崎製鉄千葉
日立製作所	7		
NTT東京	1	8	川崎製鉄千葉
川崎製鉄千葉	4		
日産自動車	10	2	日産自動車
大月クラブ	1		
朝日生命	2	1	日産自動車
NTT関東	6		
JR東日本	3	6	日本通運
日本通運	4		
日本石油	11	5	日本通運
住友金属鹿島	4		
いすゞ自動車	7	5	プリンスホテル
富士重工業	6		
プリンスホテル	21	9	プリンスホテル
全足利クラブ	1		
東芝	10	7	東芝
シダックス	0		
東京ガス	4	5	東芝
本田技研	1		

**北信越**

9月16日から 4日間 富山市民球場

北陸銀行	2	7	NTT北陸
TDK千曲川	3		
NTT北陸	13	4	NTT北陸
ニチエー	3		
NTT信越	11	4	NTT北陸
伏木海陸運送	1		
<敗者復活戦>			
TDK千曲川	10	2	北陸銀行
伏木海陸運送	4		
北陸銀行	9	15	北陸銀行
ニチエー	7		
NTT信越		8	北陸銀行

**東海**

9月13日から 6日間 岡崎市民球場

昭和コンクリート	14	1	西濃運輸
東海理化	5		
ヤマハ		11	西濃運輸
トヨタ自動車	1		
西濃運輸	4	6	西濃運輸
東邦ガス	2		
新日鉄名古屋	1	1	西濃運輸
三菱自動車岡崎	5		
本田技研鈴鹿	3	0	河合楽器
河合楽器	10		
ヤオハンジャパン	5	10	河合楽器
J R 東海	7		
関東自動車工業	14	3	河合楽器
三菱重工名古屋	0		
<敗者復活戦>			
ヤマハ	9	3	ヤマハ
J R 東海	3		

**近畿**

9月5日から 7日間 姫路市野球場

阿部企業	6	12	日本IBM野洲
日本IBM野洲	11		
新日鉄広畑	8	10	日本IBM野洲
日本生命	9		
日産車体京都	0	16	松下電器
松下電器	8		
日本新薬	5	8	松下電器
中山製鋼	4		
住友金属	9	9	神戸製鋼
第一紙行	2		
神戸製鋼	4	13	神戸製鋼
三菱自動車京都	0		
川崎製鉄神戸	9	2	NTT関西
大和銀行	2		
田村コピー	4	13	NTT関西
NTT関西	7		
<敗者復活戦>			
日本生命	5	4	日本生命
住友金属	4		
日本新薬	2	11	川崎製鉄神戸
川崎製鉄神戸	1		

**中国**

9月9日から 7日間 岡山県営球場

航空自衛隊防府	5	7	NKK
N K K	17		
川崎製鉄水島	5	9	NKK
協和発酵	8		
三菱重工広島	15	6	NKK
三菱重工三原	4		
NTT中国	11	2	NKK
J R 西日本	8		
三菱自動車水島	12	11	NKK

<敗者復活戦>

航空自衛隊防府	2	12	三菱自動車水島
三菱重工三原	9		
三菱重工広島	11	3	三菱自動車水島
協和発酵	4		
J R 西日本	9	10	三菱自動車水島
川崎製鉄水島	3		
NTT中国	8	7	三菱自動車水島
三菱自動車水島	11		

**四国**

9月10日から 2日間 高知県立春野球場

四国銀行	2	2	NTT四国
J R 四国	3		
NTT四国	15	8	NTT四国
徳島野球倶楽部	5		

**九州**

9月8日から 5日間 山鹿市民球場

本田技研熊本	4	4	日産自動車九州
新日鉄大分	11		
ニコニコドー	7	2	日産自動車九州
J R 九州	3		
三菱重工長崎	5	6	日産自動車九州
新日鉄八幡	2		
沖縄電力	2	4	日産自動車九州
NTT九州	3		
九州三菱自動車	3	14	日産自動車九州
日産自動車九州	8		
<敗者復活戦>			
本田技研熊本	3	3	本田技研熊本
NTT九州	2		
三菱重工長崎	1	1	本田技研熊本

第21回大会出場選手等一覧(○は主将)

たくぎん

Table listing participants for Takigin, including names and affiliations.

日本通運

Table listing participants for Nippon Tsunomiya, including names and affiliations.

日産自動車

Table listing participants for Nissan, including names and affiliations.

河合楽器

Table listing participants for Kawai Instruments, including names and affiliations.

ヴィガしらおい

Table listing participants for Viga Shiraoi, including names and affiliations.

川崎製鉄千葉

Table listing participants for Kawasaki Steel Chiba, including names and affiliations.

北陸銀行

Table listing participants for Hokuriku Bank, including names and affiliations.

西濃運輸

Table listing participants for Seino Transport, including names and affiliations.

NTT東北

Table listing participants for NTT Tohoku, including names and affiliations.

プリンスホテル

Table listing participants for Prince Hotel, including names and affiliations.

NTT北陸

Table listing participants for NTT Hokuriku, including names and affiliations.

日本IBM野洲

Table listing participants for IBM Nohzo, including names and affiliations.

ヨークベニマル

Table listing participants for York Benimaru, including names and affiliations.

東芝

Table listing participants for Toshiba, including names and affiliations.

ヤマハ

Table listing participants for Yamaha, including names and affiliations.

松下電器

Table listing participants for Panasonic, including names and affiliations.



# 第22回大会

1995年(平成7年)10月7日▶10月15日 グリーンスタジアム神戸

優勝=三菱自動車川崎 初優勝



## 「打高投低」顕著に

25試合を通じて完封試合がなかったのは、22回を数える大会史上初めて。

さらに、一大会通算の最多安打や最多得点など攻撃面の記録が、次々と更新されたように今大会は「打高投低」が顕著に現れた。

初優勝した三菱自動車川崎は4割2分7厘の高打率に加え、チーム盗塁14、チーム犠打飛11が示すようにパワーだけに頼らない攻めが際立っていた。

対照的だったのは東芝。落ちる変化球に対し、大振りを続け2試合連続13三振。都市対抗、日本選手権合わせて6回の優勝経験を誇る東芝も低迷脱出の糸口はつかめなかった。

投手受難の中で、三菱自動車川崎の玉木、三菱自動車京都の森、新日鉄広畑の藪田、日本新薬の西野、田村ら都市対抗出場を逃したチームの若手投手たちが夏以降、安定感を増し、上位進出の原動力になった。

三菱自動車勢で優勝を争った川崎、京都に、創部3年目の初出場場で新風を起こした岡崎が4強の3つを占める活躍は、ほかの企業にも刺激を与えただろう。



優勝を決め、マウンドに駆け寄る三菱自動車川崎ナイン

### 大会審判

▷審判委員長=大村一彦▷審判副委員長=山川脩司、三宅享次、竹中清二▷幹事=南喜右衛門、岡本好二、津田浩嗣▷委員=小林勉、大橋慶三、木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、伊東登、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、赤井淳二、野尻正博、山崎浩、南口正人、柳川弘一、小谷啓介、池友久、三宅章介、岡本良一、鹿多証造、浜田正二、生越芳明、榎田健一、東優孝、南瑣勇、新章定、北野雅行、岸井健、橋公政、長谷川文彦、脇宣寿、藤本勝巳、中川雅夫、片山寄世史、宮本明、井田保則、梅本吉徳、伏見文隆、石原義市郎、細見英昭、清水忠雄、川嶋義則、北村泉、寺井豊



▽10月7日

第1試合=1回戦(午後0時開始)

新日鉄広畑	0	0	1	2	0	3
たくぎん	0	0	0	0	1	1

【新日鉄広畑】			【たくぎん】		
打	安	点	打	安	点
① 空場	4	0	① 小山	3	0
② 杉本	4	2	② 泉下間	3	1
③ 今治	4	2	③ 大田	4	1
④ 河野	4	1	④ 中野	3	1
⑤ 戸入	3	0	⑤ 山崎	3	2
⑥ 大長	3	1	⑥ 堀内	4	0
⑦ 上野	1	0	⑦ 小川	4	2
⑧ 藤井	1	0	⑧ 前山	2	1
⑨ 藤井	0	0	⑨ 小川	1	0
⑩ 藤井	0	0	⑩ 小川	3	0
振球併残	6	5	振球併残	7	4
計	33	8	計	31	6

▶本塁打=杉本1号(藤原)、田中1号(鼓田)▶捕打=新2、た1▶盗塁=新1▶失策=た2▶試合時間2時間44分

戻って来たエース

鼓田安彦投手(22)新日鉄広畑

2年前のこの大会の一回戦で、日立製作所相手に先発したが途中降板。今年は期待されながら春先から不調続きで、都市対抗予選では出番はなし。チームは10年連続出場を逃かしただけに、今大会にける意気込みは違っていた。

序盤は気合だけで先走りして三回まで得点圏に走者を背負った。が、しり上がりに調子を上げ、140%を超える速球とスライダーなどの変化球で、失点は本塁打による1点だけ。チームに8年ぶりの勝利をもたらした。

「結果はよかったが、直球がシュート回転していたので満足していない。70点」と自己採点は辛め。ベテラン足達だけが頼りだった投手陣に加わったもう1人のエースに、尾形監督も「ようやく彼らしい投球ができた」と満足げ。戻ってきたエースは、しっかりと存在感をアピールした。

「なぜ勝てない…」

⑩…「ストレートのはずがスライドしちゃって……」。投げ合いに敗れた、たくぎん・萩原は、「一番警戒していた」という杉本に許した一発を悔やんだ。昨年の日本選手権、今夏の都市対抗と、ともに本塁打での失点が響いて初戦敗退。今回は得意のカーブに加え、腰所でフォークも決まって「充実していた」が、結局は同じ失敗。「なぜ勝てないのかなあ。油断はしていないのに」と首をかきげた。

第2試合=1回戦(午後3時20分開始)

J	T	1	1	0	0	5	0	8
N	K	K	1	0	1	2	0	4

【J】			【N】		
打	安	点	打	安	点
① 藤本	4	1	① 村上	3	1
② 藤本	2	0	② 村上	3	2
③ 藤本	1	0	③ 村上	4	1
④ 藤本	0	0	④ 村上	4	0
⑤ 藤本	3	2	⑤ 村上	3	0
⑥ 藤本	2	1	⑥ 村上	2	0
⑦ 藤本	5	2	⑦ 村上	2	0
⑧ 藤本	2	0	⑧ 村上	3	1
⑨ 藤本	1	1	⑨ 村上	3	1
⑩ 藤本	2	2	⑩ 村上	1	0
振球併残	3	5	振球併残	7	3
計	36	14	計	32	6

▶本塁打=藤本1号(藤原)▶三塁打=藤本▶二塁打=中田、村上、江井、菊谷、菊部、鎌田2、長浜原▶捕打=J3、N1▶盗塁=N1▶失策=N1▶試合時間2時間52分

第3試合=1回戦(午後6時47分開始)

北陸銀行	0	0	0	1	0	0	2	0	3
三菱自動車川崎	4	0	0	1	1	0	4	1	11

【北陸銀行】			【三菱自動車川崎】		
打	安	点	打	安	点
① 藤本	3	1	① 木藤	4	2
② 藤本	2	0	② 木藤	5	3
③ 藤本	5	1	③ 木藤	2	1
④ 藤本	5	1	④ 木藤	5	3
⑤ 藤本	5	3	⑤ 木藤	5	2
⑥ 藤本	5	3	⑥ 木藤	4	2
⑦ 藤本	4	3	⑦ 木藤	3	0
⑧ 藤本	2	0	⑧ 木藤	1	0
⑨ 藤本	2	1	⑨ 木藤	0	0
⑩ 藤本	1	0	⑩ 木藤	0	0
振球併残	10	2	振球併残	3	4
計	39	13	計	34	16

▶本塁打=橋山1号(大坪)▶三塁打=西郷▶二塁打=斎藤、渡辺2、鈴木、梶山▶暴投=玉木、桑名、安田▶ボーク=永田▶捕打飛=北1、三A▶盗塁=北1、三2▶失策=三1▶試合時間3時間9分

自分がだせなかった

⑩…初めての全国大会で先発を任せられながら、五回で途中降板した北陸銀行のルーキー・永田。「全然緊張しなかったが、それがかえって悪い結果につながった」というように高めボールを阻まれ集中打を浴びた。大学時代に、同じ左腕の川口(巨人)を真似て一塁側に足を高く上げるフォームに変えてから制球には自信を持っていたが、「全然自分が出せなかった」と言葉少なだった。

▽10月8日

第1試合=1回戦(午前9時18分開始)

日本通運	0	0	0	2	2	2	1	0	7
三菱自動車岡崎	0	1	0	0	3	1	0	0	8

【日本通運】			【三菱自動車岡崎】		
打	安	点	打	安	点
① 藤本	5	1	① 川野	4	2
② 藤本	5	0	② 川野	5	3
③ 藤本	2	0	③ 川野	5	3
④ 藤本	1	1	④ 川野	3	1
⑤ 藤本	0	0	⑤ 川野	5	1
⑥ 藤本	0	0	⑥ 川野	4	2
⑦ 藤本	5	2	⑦ 川野	2	0
⑧ 藤本	3	1	⑧ 川野	2	0
⑨ 藤本	0	0	⑨ 川野	1	0
⑩ 藤本	2	0	⑩ 川野	0	0
振球併残	4	5	振球併残	7	5
計	35	9	計	36	13

▶本塁打=田中泰1号(岩下)、丸山1号(黒川)、松田1号(岩下)、田中敏1号(後藤)、加藤秀1号(黒沢)▶三塁打=丹羽▶二塁打=萩原、山口、工藤▶暴投=黒川▶試合時間2時間42分

粘り生んだ挑戦者魂

九回無死一、二塁。三菱自動車岡崎が初めてつかんだ無死でのチャンス。「最初から思い切って振るつもりだった」と想える主将・加藤秀に、カウントを取りにきた甘い直球が入ってきた。鋭いスイングからの打球は、バックスクリーンに飛び込み大きく弾んだ。都市対抗、日本選手権を通じて初めて大舞台を踏んだ初陣が、劇的なドラマを演じ全国デビューを飾った。

試合は後半に入り日本通運のベースへと傾いて

いた。三菱岡崎は六回、好役の岩下が初の四球を許し、続く松田に同点2ランをあげて降板。その裏、1死一、三塁の絶好機に中軸の野波、丸山が連続三振。そして七回には二番手の後藤が四球の後に逆転2ランを献上。典型的な負けパターンに、岡崎監督は「首戦で終わっちゃうかなあ」と思い始めていた。

でも「相手が前年の覇者とはいえ力は互角」(岡崎監督)という自信と、「自分たちはチャレンジャー」(加藤秀)という謙虚さを失ってはいなかった。この「挑戦心」が、今までの2年間にはなかった、リードされてもあきらめない粘り強さを生んだ。

感激の初勝利だが、1勝だけで満足していない。だれもが「目指すは全国制覇」と言い切った。創部3年間の伸び盛りのチームが、大胆な目標に向けて大きな一歩を踏み出した。



九回裏三菱自動車岡崎無死一、二塁、加藤秀が中越えに逆転サヨナラ3ランホームランを放つ捕手・工藤

第2試合=1回戦(午後0時23分開始)

大阪ガス	0	0	0	4	2	0	6
NTT四国	6	0	1	0	0	2	9

【大阪ガス】			【NTT四国】		
打	安	点	打	安	点
① 中野	5	1	① 大橋	4	1
② 中野	5	2	② 大橋	4	3
③ 中野	5	3	③ 大橋	5	2
④ 中野	3	1	④ 大橋	4	1
⑤ 中野	4	1	⑤ 大橋	4	1
⑥ 中野	4	2	⑥ 大橋	4	2
⑦ 中野	4	1	⑦ 大橋	3	1
⑧ 中野	2	0	⑧ 大橋	2	1
⑨ 中野	2	0	⑨ 大橋	3	0
⑩ 中野	3	1	⑩ 大橋	3	0
振球併残	7	1	振球併残	4	4
計	37	12	計	33	12

▶本塁打=丹下1号(坂本)、沢多1号(三好靖)、笠原1号(川俣)▶三塁打=田嶋▶二塁打=柴田、竹村、橋本久2、中川、大宅▶暴投=三好靖▶捕打=芝▶捕打飛=大1、N2▶盗塁=大2▶試合時間2時間41分

再起への気迫空回り

⑩…阪神大震災でグラウンドを失うなど、この大会を再起への起点にしたかった大阪ガスだが、後半の追い上げも実らず初戦敗退。主将を務める中内は「気持ちはひとつになっていたが、気迫が空回りした」と、無念さをにじませた。六回に自らが左前打して3点差に詰め寄る口火を切った。「都市対抗予選敗退の雪辱をこの試合で果たしたかった。力のあるチームだが、まどめされなかったのは、主将の責任です」

# 第22回大会 大会記録

## 第3試合=1回戦(午後3時40分開始)

新日鉄八幡	102	001	200	0	6
東芝	001	030	101	1	7

(延長10回)

【新日鉄八幡】			【東芝】		
打	安	点	打	安	点
① 松本	1	0	① 小倉	2	0
② 田中	1	0	② 内志	2	0
③ 田中	1	1	③ 佐松	2	0
④ 松本	3	2	④ 松本	2	0
⑤ 石浜	3	2	⑤ 元田	1	0
⑥ 黒川	3	2	⑥ 山崎	1	0
⑦ 井原	5	2	⑦ 山崎	1	0
⑧ 井原	5	1	⑧ 山崎	1	0
⑨ 井原	1	0	⑨ 山崎	1	0
⑩ 井原	1	0	⑩ 山崎	1	0
振球併残	10	2	振球併残	13	8
計	40	14	計	35	12

▶本塁打=石井1号(須田)、内田1号(土井)、黒田1号(三原)▶二塁打=黒田、浜口、多田、小林▶暴投=橋本▶捕打飛=新4、東3▶失策=新1、東1▶試合時間3時間29分

### 最後はスタミナ不足

⑩…完投勝利日前の九回に同点打を浴び、142球で降板した新日鉄八幡の左腕・土井。「最後はスタミナが足りなくて、球威もスピードも落ちた」と声も弱かった。昨年で休部になった新日鉄光から移籍。チェンジアップ、カーブなど球種を増やし、制球力もついた。都市対抗、日本選手権の両大会にも出場、新天地で充実した1年を過ごしたが、最後に苦い敗退を喫して「まだまだ課題は多い」と謙虚だった。

## ▽10月9日

### 第1試合=1回戦(午前9時26分開始)

三菱自動車京都	130	000	101	6
ヨークベニマル	010	010	001	3

【三菱自動車京都】			【ヨークベニマル】		
打	安	点	打	安	点
① 西内	4	3	① 藤原	4	1
② 内森	3	2	② 山崎	4	0
③ 青塚	4	1	③ 山崎	4	0
④ 森上	0	0	④ 山崎	4	1
⑤ 森上	3	1	⑤ 山崎	4	2
⑥ 森上	4	2	⑥ 山崎	3	1
⑦ 森上	4	2	⑦ 山崎	4	2
⑧ 森上	4	1	⑧ 山崎	3	1
⑨ 森上	4	1	⑨ 山崎	0	0
⑩ 森上	4	1	⑩ 山崎	0	0
振球併残	6	6	振球併残	6	1
計	32	11	計	33	8

▶本塁打=上野山1号(中川)、鈴木1号(森)▶三塁打=西木▶二塁打=渡辺▶捕打飛=三3▶盗塁=三2▶失策=三2▶試合時間2時間29分

## “5年磨いた”スライダー

森 憲久投手(23) 三菱自動車京都  
踏み出す左足を三塁側に約20°インステップ。横手の特徴と腕の回転を最大限にいかす“工夫”の中から生まれた「スライダー」。それを武器に125球でヨークベニマルをほんろうした。  
京都・北嵯峨高から入社して以来、この5年間はスライダーをウイニングショットに仕立てるための戦いだった。「コーナーワークや緊急をつけるためにも内角球が必要でした。抜いたシンカーを覚え、腕の振りのよく見える左打者にも胸元を強気で攻める速球を増やした。万全とはいえないが、5回で2失点のメドは立った」  
4人の左打者もシングルばかりの3安打に抑え、要所

はスライダーで注文通りの3併殺。九回に一発は浴びたものの、余裕を持っての完投勝利だった。「北嵯峨で1年後輩の緒見(同大)が新聞をにぎわしているのが刺激になった。エースと信頼されるためにもスライダーの使い方をもっと研究したい」。夏の都市対抗予選以来の完投は、エースとしての自覚も与えたようだ。



ヨークベニマル打線を抑え完投した三菱自動車京都・森

### 狙い球が絞り切れず

⑩…今夏の都市対抗ではJR東日本東北に補強され、8強入りの原動力になったヨークベニマルの主砲・黒木だったが、4打席で無安打といつ所なく終わった。八回、一死一、二塁と迎えたチャンスでは「正直、一発(で同点)を狙っていた」が狙い球が絞れず凡退。「バッテリーの配球がうまくいった。森君は右サイドだし、本当は左のぼくが打たなければならないんですが……」と気落ちした表情だった。

## 第2試合=1回戦(午後0時28分開始)

鷺宮製作所	100	000	000	1
四国銀行	000	201	40	7

【鷺宮製作所】			【四国銀行】		
打	安	点	打	安	点
① 小川	4	1	① 森田	5	3
② 小川	4	0	② 森田	5	1
③ 小川	4	2	③ 森田	4	3
④ 小川	0	0	④ 森田	4	2
⑤ 小川	3	2	⑤ 森田	4	2
⑥ 小川	3	1	⑥ 森田	1	0
⑦ 小川	3	1	⑦ 森田	1	0
⑧ 小川	1	0	⑧ 森田	3	0
⑨ 小川	4	1	⑨ 森田	4	1
⑩ 小川	0	0	⑩ 森田	3	1
振球併残	4	1	振球併残	4	0
計	33	9	計	37	15

▶本塁打=東谷1号(秋山)▶二塁打=森田建、牟田▶捕打飛=鷺1、四1▶盗塁=四1▶失策=四1▶試合時間2時間12分

## 効いた！新三番の1発

三番・東谷を除き一番から七番まで左打者をずらりと並べた四国銀行の打線が、鷺宮製作所の先発左腕・秋山に苦しみ、三回まで無走者に封じ込まれた。  
四回、先頭の森田建が右翼席に初安打となる二塁打。さあ、という場面で二番が送りバントを失敗し、森田建が三塁犠死。返ってきた打席で東谷は「カーブを掴もう」と決めた。3球目、カーブが真ん中から内角低めに落ちてきた。「空振りかファウル」と思ったという一打は、本人の予想を覆し、左翼席に飛び込む逆転本塁打となった。この一打で流れは一気に四国銀行に傾く。  
その打の立役者も今季はもっぱら下位を打っていた。それが、大会前のオープン戦5試合で4本塁打の当たりで、三塁に抜擢された。「いや、ボクがはいらないと左ばかりになるからじゃないですか」。謙そんする新三番に、仲間からも「あの一発で変わった」と声。

## 第3試合=1回戦(午後3時14分開始)

三菱自動車水島	000	010	001	2
日本新薬	002	021	10	6

【三菱自動車水島】			【日本新薬】		
打	安	点	打	安	点
① 松本	5	2	① 上村	4	2
② 松本	2	0	② 上村	4	2
③ 松本	1	0	③ 上村	4	1
④ 松本	0	0	④ 上村	4	0
⑤ 松本	3	0	⑤ 上村	4	0
⑥ 松本	4	1	⑥ 上村	4	2
⑦ 松本	4	2	⑦ 上村	4	1
⑧ 松本	3	0	⑧ 上村	3	2
⑨ 松本	3	0	⑨ 上村	0	0
⑩ 松本	2	0	⑩ 上村	0	0
振球併残	8	3	振球併残	8	1
計	33	7	計	31	10

▶本塁打=上村1号(井上)、田中1号(井上)▶三塁打=美、森本▶二塁打=木下▶暴投=岡▶捕打飛=三1、日2▶盗塁=三2、日1▶失策=日1▶試合時間2時間39分

## ▽10月10日

### 第1試合=1回戦(午前9時27分開始)

新王子製紙苫小牧	100	010	000	2
新日鉄名古屋	120	200	00	5

【新王子製紙苫小牧】			【新日鉄名古屋】		
打	安	点	打	安	点
① 林	4	2	① 藤原	4	2
② 林	4	1	② 藤原	3	1
③ 林	2	1	③ 藤原	3	1
④ 林	5	2	④ 藤原	3	0
⑤ 林	5	2	⑤ 藤原	3	0
⑥ 林	4	1	⑥ 藤原	2	0
⑦ 林	2	0	⑦ 藤原	1	0
⑧ 林	0	0	⑧ 藤原	4	0
⑨ 林	0	0	⑨ 藤原	4	2
⑩ 林	3	0	⑩ 藤原	4	1
振球併残	5	7	振球併残	7	4
計	34	9	計	31	7

▶二塁打=林田、真崎、山本、前村▶捕飛=日1▶盗塁=主1▶失策=主3▶試合時間2時間37分

### 完投にベテランの味

⑩…左か右も並ぶ相手打線を「立たれるだけで投げにくかった」と警戒した新日鉄名古屋の原田。得点圏に走者を背負っても、冷静に低めを突いて2つの併殺を奪うなど、打ち取る投球に徹して完投した。31歳のベテランだが、横手から繰り出す140°前後の速球は威力抜群で、7四死球と制球の不安定さにも「要所で四球を出さなかったから」と余裕も。

## 第2試合=2回戦(午後0時35分開始)

新日鉄広畑	000	006	010	7
日本石油	011	000	000	2

【新日鉄広畑】			【日本石油】		
打	安	点	打	安	点
① 空堀	4	1	① 藤原	4	0
② 空堀	4	2	② 藤原	4	0
③ 空堀	4	0	③ 藤原	4	2
④ 空堀	5	1	④ 藤原	4	1
⑤ 空堀	2	0	⑤ 藤原	4	1
⑥ 空堀	2	0	⑥ 藤原	4	2
⑦ 空堀	2	1	⑦ 藤原	4	1
⑧ 空堀	4	3	⑧ 藤原	4	1
⑨ 空堀	1	0	⑨ 藤原	4	1
⑩ 空堀	1	1	⑩ 藤原	2	1
振球併残	6	4	振球併残	6	1
計	32	9	計	34	9

▶二塁打=徳永2、高橋宗、野村、菊池、大野▶暴投=飯田、小野▶捕打飛=新4▶失策=日2▶試合時間2時間49分









第22回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 玉木重雄投手(三菱自動車川崎) 3試合で17回3分の2を投げ、完投ゼロながら24奪三振、防御率2.55。3勝。ブラジル・カスベルリベロ高卒、25歳。

◇敢闘賞 森憲久投手(三菱自動車京都) 4試合で24回3分の0を投げ2完投。16奪三振、防御率3.00。2勝1敗。北嵯峨高卒、23歳。

◇打撃賞 斉藤秋博内野手(三菱自動車川崎) 5試合で26打数14安打1打点1本塁打。打率5割3分8厘。徳山大卒、25歳。

◇首位打者賞 永井康彦内野手(日本新薬) 3試合で11打数6安打1打点。打率5割4分5厘。佛教大卒。23歳。

◇同 橋本久内野手(NTT四国) 3試合で11打数6安打0打

点。打率5割4分5厘。宇和島東高卒、24歳。

◇大会優秀選手

[投手]玉木重雄(三菱自動車川崎)森憲久(三菱自動車京都)  
 [捕手]伊藤竜一(三菱自動車川崎)芝和彦(NTT四国) [一塁手]加藤秀敏(三菱自動車岡崎)西郷泰之(三菱自動車川崎)  
 [二塁手]桑元孝雄(三菱自動車川崎)永井康彦(日本新薬) [三塁手]橋本久(NTT四国)塚田邦義(三菱自動車京都) [遊撃手]斉藤秋博(三菱自動車川崎)上村匡史(日本新薬) [外野手]上野山達夫(三菱自動車京都)井上博志(日本IBM野洲)梶山義彦(三菱自動車川崎)笠原宏之(NTT四国) [指名打者]山田康弘(三菱自動車川崎)



[1回戦]新日鉄広畑一たくぎん 七回表広畑2死一、三塁、投手のけん制で一塁の空木が飛び出す間に、三塁から長見が生還し2点目(左は捕手・前川)



[準々決勝]新日鉄広畑一三菱自動車川崎 七回途中まで2点に抑え、好投した三菱自動車川崎の玉木



[2回戦]四国銀行一日本新薬 十回裏日本新薬無死二塁、永井が左前にサヨナラ打を放つ



[準々決勝]日本新薬一日本IBM野洲 七回裏日本IBM1死一、三塁、深水のスライズが空振りとなり捕手が後退する間に三塁から満田生還



[準決勝]三菱自動車岡崎一三菱自動車川崎 五回裏三菱自川崎、柿田が左中間に2ランホーム



[1回戦]鷺宮製作所一四国銀行 七回裏四国銀行1死一、三塁、亀井が投前スライズを決め、三塁から単田を溜え入れる



[1回戦]J-T-NKK 七回表J-T1死二、三塁、原野が中越えに逆転の3ランホームを放つ



[準決勝]日本IBM野洲一三菱自動車京都 二回裏三菱自京都2死二、三塁、前川の左前打で上野山に続き阪己も生還



[2回戦]東芝一ヤマハ 配球に工夫を凝らし、東芝打線から13の三振を奪う力投を見せたヤマハ・藤村



### 北海道

9月7日から 5日間 札幌円山球場

ヴィガしらおい	5	11	新王子製紙苫小牧
新王子製紙苫小牧	21		
札幌倶楽部	3		
聖闘シャークス	20		
旭川自衛隊	1		
札幌ブルーインズ	2	3	たくぎん
NTT北海道	28		
たくぎん	14		
函館大洋倶楽部	2		
航空自衛隊千歳	3		
小樽野球協会	7	9	たくぎん
森倶楽部	6		
JR北海道	19		
札幌フインガーズ	15		
日本製紙旭川	14		

### 東北

9月15日から 3日間 泉宮宮城球場

J A いわて	2	7	ヨークベニマル
JR東日本東北	9		
ヨークベニマル	8		
NTT東北	4		
T D K	1		
高城建設	3	4	ヨークベニマル
七十七銀行	10		
自衛隊青森	0		
岩手銀行	1		
会津若松野球倶楽部	6		
J T	12	6	ヨークベニマル
山形しあわせ銀行	11		
J	12		
T	12		

### 関東

9月5日から 3日間 泉宮大宮球場・大宮市営球場

プリンスホテル	10	4	三菱自動車川崎
山梨球友クラブ	2		
三菱自動車川崎	10		
住友産業鹿島	9		
NTT東京	1		
本田技研	9	8	東芝
東芝	10		
全足利クラブ	7		
精宮製作所	12		
日立製作所	5		
三菱重工横浜	12	5	精宮製作所
新日鉄君津	16		
東京ガス	8		
富士重工業	10		
日産自動車	2		
日本通運	9	8	日本通運
朝日生命	2		
NTT関東	5		
日本石油	9		
東芝府中	7		

### 北信越

9月15日から 4日間 金沢市民球場

ニチエー	2	8	NTT北陸
北陸銀行	12		
NTT信越	7		
伏木海陸運送	11		
TOK千曲川	9		
NTT北陸	12	2	NTT北陸
<敗者復活戦>			
ニチエー	4		
TOK千曲川	6		
NTT信越	8		
NTT信越	8	0	北陸銀行
伏木海陸運送	1		
北陸銀行	10		

### 東海

9月2日から 4日間 岡崎市民球場

西濃運輸	12	3	ヤマハ
NTT東海	5		
新日鉄名古屋	4		
河合楽器	7		
本田技研鈴鹿	4		
ヤマハ	4	7	ヤマハ
ヤオハンジャパン	0		
三菱重工名古屋	4		
トヨタ自動車	8		
JR東海	12		
三菱自動車岡崎	5	6	三菱自動車岡崎
三菱自動車岡崎	8		
昭和コンクリート	3		
新王子製紙春日井	15		
<敗者復活戦>			
新日鉄名古屋	8	8	新日鉄名古屋
JR東海	1		

### 近畿

9月2日から 5日間 西京極球場

神戸製鋼	11	2	大阪ガス
日産車体京都	0		
住友金属	5		
大阪ガス	9		
三菱重工神戸	5		
NTT関西	6	3	日本新薬
阿部企業	4		
日本新薬	11		
三菱自動車京都	11		
テュプロ	4		
小西酒造	1	13	日本IBM野洲
日本IBM野洲	5		
丸勝	5		
松下電器	13		
新日鉄広畑	5		
日本生活	4	17	新日鉄広畑
<敗者復活戦>			
神戸製鋼	7		
三菱自動車京都	8		
NTT関西	7		
松下電器	8	8	松下電器

### 中国

9月4日から 6日間 倉敷マスカットスタジアム

NTT中国	4	3	三菱自動車水島
JR西日本	2		
大竹総合科学専門学校	1		
三菱自動車水島	2		
光シーガールズ	8		
川崎製鉄水島	9	6	三菱自動車水島
N K K	8		
三菱重工広島	11		
<敗者復活戦>			
JR西日本	11		
大竹総合科学専門学校	4	15	N K K
三菱重工広島	6		
光シーガールズ	0		
N K K	10		
NTT中国	1		
川崎製鉄水島	4	4	N K K

### 四国

9月15日から 2日間 泉宮徳島球場

JR四国	4	14	NTT四国
NTT四国	14		
四国銀行	10		
徳島野球倶楽部	0		

### 九州

9月5日から 5日間 新日鉄大谷球場

本田技研熊本	5	8	新日鉄八幡
沖縄電力	8		
NTT九州	7		
新日鉄大分	1		
新日鉄八幡	3		
九州三菱自動車	9	7	新日鉄八幡
三菱重工長崎	12		
JR九州	3		
日産自動車九州	16		
ニコニコドー	6		
<敗者復活戦>		4	日産自動車九州
沖縄電力	4		
日産自動車九州	7		
九州三菱自動車	3		

たくぎん

Table listing athletes for Takigin, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

日本通運

Table listing athletes for Nippon Tsunomiya, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

日本石油

Table listing athletes for Nippon Petroleum, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

新日本製鐵名古屋

Table listing athletes for Shin Nippon Steel Nagoya, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

新王子製紙若小牧

Table listing athletes for Shin Oji Paper Wakayama, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

鷺宮製作所

Table listing athletes for Sagami Seisakusho, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

北陸銀行

Table listing athletes for Hokuriku Bank, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

三菱自動車岡崎

Table listing athletes for Mitsubishi Motors Okazaki, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

J T

Table listing athletes for J T, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

三菱自動車川崎

Table listing athletes for Mitsubishi Motors Kawasaki, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

NTT北陸

Table listing athletes for NTT Hokuriku, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

日本IBM野洲

Table listing athletes for Japanese IBM Nozaki, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

ヨークベニマル

Table listing athletes for York Benimaru, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

東芝

Table listing athletes for Toshiba, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

ヤマハ

Table listing athletes for Yamaha, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.

三菱自動車京都

Table listing athletes for Mitsubishi Motors Kyoto, including names like 大塚 隆志 and 小野 浩二, with their respective university affiliations and jersey numbers.



## 日本新薬

監督	前田	37	政治	大
投手	西野	23	義史	大
捕手	足田	28	史	大
内野	田	21	史	大
外野	野	25	史	大

## 三菱自動車水島

監督	山本	30	和久	大
投手	山本	20	世二	大
捕手	山本	19	一	大
内野	山本	23	世二	大
外野	山本	19	一	大

## NTT四国

監督	中野	46	大	大
投手	中野	24	大	大
捕手	中野	19	大	大
内野	中野	24	大	大
外野	中野	19	大	大

## 新日本製鐵八幡

監督	野村	45	友和	大
投手	野村	21	史	大
捕手	野村	21	史	大
内野	野村	20	史	大
外野	野村	23	史	大

## 松下電器

監督	田中	40	行信	大
投手	田中	24	信	大
捕手	田中	24	信	大
内野	田中	24	信	大
外野	田中	24	信	大

## NKK

監督	田中	39	治	大
投手	田中	27	治	大
捕手	田中	20	治	大
内野	田中	19	治	大
外野	田中	23	治	大

## 四国銀行

監督	田中	34	生	大
投手	田中	23	生	大
捕手	田中	30	生	大
内野	田中	25	生	大
外野	田中	22	生	大

## 日産自動車九州

監督	田中	40	良	大
投手	田中	21	良	大
捕手	田中	19	良	大
内野	田中	24	良	大
外野	田中	29	良	大

## 大阪ガス

監督	山本	36	山	大
投手	山本	23	山	大
捕手	山本	19	山	大
内野	山本	22	山	大
外野	山本	22	山	大

# 復興への第一歩に

## 大阪ガス

都市対抗2次(大阪・和歌山)予選が間近に迫った6月1日、大阪市内で大阪ガス社員たちによる野球部の激励会が開かれた。例年は予選を突破した後に開かれるが、「復旧に尽くした野球部の仲間たちを励まそう」という声が出て、繰り上げられた。2次予選では健闘。順当に勝ち進んだものの、日本生命との第1代表決定戦で1点のリードを守りきれず逆転負け。そこから3連敗し、目前にしていた代表の座を逃した。

9月初めの日本選手権近畿予選は、中西の8打席連続安打の活躍などで本大会一番乗りをきめた。「都市対抗予選の3連敗は精神的なダメージが大きかった。これでやっと歯止めがかかった」

と山村監督。被災地同様、「復旧から復興へ」を合言葉にチーム再建に取り組んで9カ月。この大会で、復興への第一歩を踏み出す。



日本選手権出場の原動力となった主砲の中西

## 新日本製鐵広畑

監督	山本	42	山	大
投手	山本	20	山	大
捕手	山本	24	山	大
内野	山本	22	山	大
外野	山本	25	山	大

# 第23回 大会

1996年(平成8年)10月10日▶10月19日 グリーンスタジアム神戸

優勝=住友金属 3年ぶり7回目

本田技研(関東)	4	大阪ガス0	東芝5	住友金属7	住友金属
大阪ガス(近畿)	3	大阪ガス9			
ニコニコド(九州)	2	東芝8	住友金属6		
四国銀行(四国)	9	東芝5			
東芝(関東)	10	NTT東北7	住友金属2		
川崎製鉄水島(中国)	6	室蘭シャークス7			
NTT東北(東北)	9	ヤマハ2	NTT北陸1		
住友金属(近畿)	8	ヤマハ8			
室蘭シャークス(北海道)	1	川崎製鉄千葉8	川崎製鉄千葉6		
シダックス(関東)	0	北陸銀行1			
ヤマハ(東海)	9	川崎製鉄千葉5	西濃運輸5		
三菱自動車京都(近畿)	4	北陸銀行6			
NTT北陸(北信越)	8	王子製紙苫小牧(北海道)	西濃運輸11		
川崎製鉄千葉(関東)	5	北陸銀行5			
北陸銀行(北信越)	6	日産自動車九州6	西濃運輸7		
王子製紙苫小牧(北海道)	5	日産自動車九州7			
日本IBM野洲(近畿)	2	昭和コンクリート(東海)	日本新薬10		
日産自動車九州(九州)	3	西濃運輸3			
昭和コンクリート(東海)	4	松下電器(近畿)	日本新薬10		
三菱重工広島(中国)	2	日本石油2			
西濃運輸(東海)	4	NTT四国4	日本新薬10		
松下電器(近畿)	1	日本新薬12			
日本石油(関東)	6				
NTT四国(四国)	13				
JT(東北)	2				
日本新薬(近畿)	12				

## 「ラスト神戸」相次ぐ熱戦

1点差試合は史上最多の13試合。全25試合の半分を超えた。東芝が1回戦で7点差をはね返して四国銀行に逆転サヨナラ勝ちし、日産自動車九州・江副が2回戦の昭和コンクリート戦で史上初の逆転サヨナラ満塁本塁打を放つなど、相次ぐ熱戦はラスト神戸大会を盛り上げた。

昨年、1試合もなかった完封試合は2試合。室蘭シャークス・嘉手苅、東芝・須田が低めに変化球を集めて達成した。

通算機打数は昨年より24も多い88。特に準決勝に進んだ4チームはバントを重視し、住金は宮内、西濃は小森の両4番打者にも送りバントをさせた。

金属バットを使った社会人野球は、パワーが売り物とされるが、バントが見直される傾向にある。その理由のひとつが全国各地での新球場建設に伴う球場の大型化。両翼99.1m、中堅122mの広いグリーンスタジアム神戸では外野守備や走塁などを含めたきめ細かい野球が要求された。この、日本屈指の大型球場は、社会人野球の進歩に大きく貢献してくれたと思う。



日本一となりマウンドに駆け寄る住友金属ナイン

### 大会 審判

▷審判委員長=大村一彦▷審判副委員長=山川純司、三宅孝次、竹中清二▷幹事=南嘉右衛門、岡本好二、津田清嗣▷委員=小林勉、大橋慶三、木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、伊東登、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、赤井淳二、土井池憲治、野尻正博、山崎浩、南口正人、柳川弘一、小谷啓介、池友久、三宅章介、植村忠、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、覆田健一、東優孝、南道勇、新卓定、北野雅行、岸井健、橋公政、長谷川文彦、脇宣寿、藤本勝巳、山邊光高、中川雅夫、片山寄世史、宮本明、井田保則、梅本吉徳、伏見文隆、石原義市郎、細見英昭、清水忠雄、赤坂雅彦、坂根雅弘、今井豊、清水幹裕













▽10月19日

決勝(午後1時開始)

住友金属	104	200	000	7
西濃運輸	104	000	000	5

▶審判(球審)木嶋(塁審)東、榎田、豊多

【住友金属】	打安点	【西濃運輸】	打安点
① 中上	4 1 0	① 西村	3 1 0
② 大宮	3 1 0	② 鈴木	3 0 0
③ 山崎	5 2 3	③ 高橋	3 1 0
④ HD	5 4 1	④ 森好	3 1 2
⑤ 山崎	2 1 3	⑤ 小三	4 2 2
⑥ HD	3 0 0	⑥ 山伊	4 1 0
⑦ 後川	4 1 0	⑦ 藤原	2 0 1
⑧ 川吉	5 1 0		4 0 0
⑨ 振球併殺	4 1 0		4 0 0
計	39 13 7	計	30 6 5

回	打安費	回	打安費
金 藤	2/145 5	福 田	2/146 4
石 井	7 22 1 0	近 藤	1 8 5 2
		藤 田	3/131 0
		藤 田	2 8 1 0

▶本塁打=山田1号②(福田)▶二塁打=小森、川崎、三好、青木、大良▶犠打=上出2▶犠飛=伊藤▶盗塁=高橋、山本、玉置▶失策=鈴木康、山本▶暴投=福田▶与死球=近藤(玉置)、石井(西村)▶試合時間2時間24分

## 室蘭シャークスお手本に

西濃の打線を相手に八回まで被安打。九回、先頭の伊藤に四球を与えたが、続く川崎には2-2からフォーク。追い通り三ゴロ併殺に取り、最後の打者、藤原からは内角速球で三振を取った。

なぜ、住金は秋に強いのか。ひとつは夏の都市対抗を節目に年間の練習計画を立てるチームが多い中、住金は節目を日本選手権に置いていること。もうひとつはチーム一丸となったひたむきさだ。一丸野球は夏よりも、単独チームの秋に、より効果を発揮する。しかし、今年1月に就任した筒井監督はチームの練習を見て驚いた。チームに活気がなく、打撃も粗い。チーム一丸となることを忘れかけていたからだ。

「ひたむきさ」。ナインにその言葉を思い出させてくれたのは、初戦で対戦したクラブチームの室蘭シャークスだった。8-7、やっとの思いで逆転勝ちした相手。筒井監督は

### 監督談話

**住友金属・筒井大助監督** 石井が今年最高の投球するなど、選手全員がよくやってくれた。初戦で苦戦した室蘭シャークスの選手のひたむきな姿に、選手の野球に取り組む気持ち、姿勢が変わったのが大きかった。実り多い秋。これを土台に来季も頑張りたい。

**西濃運輸・林教雄監督** 投手陣の層の厚さの違いが勝敗を分けた。相手の2番手にあれだけの投球をされるとは、でも、4点差をはね返して同点にするなど、粘りも発揮できた。けが人が多く、ベストの状態でなかったことを考えると、よくここまで来れたと思う。



### 住友金属 筒井 大助監督

接戦を勝ち抜いてきた選手たちに肩上げされ、「試合ごとに選手がうまくなっていったのが一番うれしい」。住友金属で11年間の現役時代に何度も優勝を経験しているが、監督としては初めて。ひと味違う喜びをかみしめた。

小学生から野球を始めたが、高校時代は空白期。1年生でベンチ入りしながら、意味のないごきごき練習に目標を見いだせず、4カ月で退部。この世界には珍しく、高校での球歴がない。関西学院大を経て入社後、ショックを受けた。1人4時間に及ぶノックなどの猛練習は日常茶飯事。しかし、高校時と違い「日本一」というはっきりとした目標が見えたからずんずりと溶け込めた。「社会人1年目の経験が今の自分を作った」という。

1992年に日本オリンピック委員会(JOC)の派遣で渡米。大学やマイナーリーグでコーチングを学んだ。「指示待ち選手はだめ」「基本動作がしっかりできれば余裕ができてミスは減る」。練習中は口を出さず、注意すべき時は個別にきちんと説明する。自分の体験と米国研修の成果をミックスさせた指導で、平均年齢23.3歳の若い集団を1年間で頂点に導いた。

酒が入れば、自分の青春時代に流行した70年代のニューミュージックが勢いよく飛び出し、選手は「？」。当分は勝利の美酒で選手が当惑するケースが増えるかもしれない。

兵庫県尼崎市出身。関西大学。ソウル五輪で全日本主将。今年1月から住友金属監督。妻と3男。38歳。



自分のふがいなさへの怒りが一球一球にこもっていた。三回無死二、三塁で登板した住友金属・石井。山本への初球、こん身の力を込めて得意のフォークを投げ、投直に仕留めた。伊藤には犠飛を許したが後続を断ち、西濃運輸に傾きかけた試合の流れを止めた。

石井は金城、寺坂に続く「第3の男」。初戦の室蘭シャークス戦で先発し、三回途中6失点で降板した。試合後、筒井監督から「クラブチームのひたむきさを見習え」としかられ、以後は登板なし。この決勝は、ストッパー寺坂までのつなぎとして起用された。ところが、「次の登板で悔しさを晴らしたい」と心に決めていたというつなぎ役が見事な投球を披露し

「休部を乗り越えた室蘭シャークスの男たちのひたむきな姿を見て、選手たちは野球をできるありがたさを実感した」という。打線は以後、流し打ちに徹し、バントも確実に決めた。石井の力投はその教訓の象徴となった。



最後の打者を三振に打ち取り、大喜びの住友金属・石井右と川崎

### 定位置で快打連発

④…四回に勝ち越し二塁打を放つなど3打点の住友金属・大良。今大会唯一無安打に終わった前日の準決勝(東芝戦)がよほど悔しかったようで、「今日は絶対打ってやると打席に入った」と負けん気の強さをのぞかせた。今季は4番をうつことも多かったが、けがで戦列を離れていた本来の4番・宮内が復帰。従来の3番に戻って快打を連発、打撃賞を獲得した。「うしろに宮内がいたので楽な気持ちで打席に立てた」



四回表住友金属1死一、三塁、大良が左中間に決勝の二塁打を放つ

### 西濃「新旧一体」で快進撃

今年、創業50周年を迎えた西濃運輸は初優勝こそ逃したが、若手とベテランが奏でた「新生・西濃」の絶妙のハーモニーは決勝でも健在だった。

突き放された直後の三回の攻撃が印象的だった。新人の先頭打者、西村が直球に詰まりながらも中前に落として11火を切る。次打者が四球で出塁後、30歳の高橋が絶妙の送りバント。処理に走った住金のエース金城が一塁手と接触してオールセーフ。ベテランの小枝が、今大会屈指の右腕を揺さぶった。

「若手の伸びが大きな刺激になっていた」という13年目の小森は三塁線へ痛烈なファウルを3本、押し出しの四球を誘った。続く三好の右翼線二塁打、新人・伊藤の犠飛で4点差を一気にはね返した西濃は手放しかけた流れを新旧一体となった攻めで引き寄せた。

一昨年の都市対抗で準優勝。しかし、中ノ瀬(現阪神)らが抜けて戦力ダウン。しかも、夏以降、主力選手に故障が続出し、先発野手のうち4人が新人。万全のチーム状態ではなかったが、若手の勢いとベテランの技がかみあい、快進撃を演じてきた。「台頭してきた若手と、故障がいた主力がレギュラー争いすれば、新たなチームに脱皮できる」と林監督は手ごたえを口にした。この1敗を糧に若手がどれだけ成長するか。初の全国制覇が実現するかどうかのカギである。

第23回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 宮内洋内野手(住友金属) 準決勝・東芝戦の先制ソロ本塁打、決勝の4安打など、4試合で16打数7安打3打点、打率4割3分8厘。宇部商高卒、23歳。

◇敢闘賞 藤田宗一投手(西濃運輸) 5試合すべてに救援投手として登板。18回を投げて防御率1.00。3勝をマークした。島原中央高卒、24歳。

◇打撃賞 大良道春内野手(住友金属) 4試合で17打数6安打6打点、打率3割5分3厘。近大卒、24歳。

◇首位打者賞 坪井智哉外野手(東芝) 4試合で14打数9安打5打点、打率6割4分3厘。青学大卒、22歳。

◇大会優秀選手

[投手]藤田宗一(西濃運輸)秋吉章史(日産自動車九州)寺坂友秀、石井大土(以上住友金属) [捕手]小森茂(西濃運輸)江副光則(日産自動車九州) [一塁手]宮内洋(住友金属)志賀康雄(東芝) [二塁手]上出真寛(住友金属)伊藤元長(西濃運輸)高峰誠(日産自動車九州) [三塁手]大良道春(住友金属)塩田正広(川崎製鉄千葉) [遊撃手]鈴木康之(西濃運輸) [外野手]坪井智哉(東芝)河原真一(日本新薬)高岡雅人(川崎製鉄千葉)沢多弘也(大阪ガス) [指名打者]三好悟(西濃運輸)



[1回戦]ニコニコドー—大阪ガス 十回裏大阪ガス1死一、二塁、右中間にサヨナラ打を放った中内とベンチ前で大喜びの大阪ガスの選手たち



[1回戦]西濃運輸—三菱重工広島 七回表西濃運輸2死一、二塁、三好の中前打で二塁から高橋が生還。



[1回戦]西濃運輸—三菱重工広島 4回表、西濃運輸2死二塁、伊藤が中前に先制適時打を放つ



[2回戦]日本石油—西濃運輸 三回裏西濃運輸2死二塁、高橋が右中間に同点2ランを放つ



[準決勝]東芝—四国銀行 九回裏、東芝無死1塁、内田が右越えに同点2ランを放ち、大喜びのナインに迎えらる



[準決勝]東芝—住友金属 二回裏住友金属無死、宮内が中越えに先制のソロホームランを放ち、ナインに迎えらる



[準々決勝]大阪ガス—東芝 大阪ガスに2安打完封勝ちした東芝・須田



[準決勝]西濃運輸—川崎製鉄千葉 十二回表西濃運輸無死、西村が中越えに勝ち越しソロホームを打つ



[決勝]住友金属—西濃運輸 力投する西濃運輸の藤田



**北海道**

9月7日から 5日間 札幌円山球場

王子製紙苫小牧	11	7	王子製紙苫小牧
航空自衛隊千歳	7		
森 倶 楽 部	3		
ヴィガしらおい	5		
日本製紙旭川	1		
札幌倶楽部	15	6	室蘭シャークス
ウイン北広島	14		
J R 北海道	0		
NTT北海道	13		
札幌ブルーインズ	1		
室蘭シャークス	13	4	7
函館大洋倶楽部	4		
旭川自衛隊	17		
小樽野球協会	14		
	2		

**東北**

9月14日から 3日間 県営宮城球場

オールカメイ	6	5	1	J
自衛隊青森	3			
J A いわて	13			
秋田銀行	12			
会津若松野球クラブ	1			
J T	11	4	T	6
NTT東北	9			
水沢駒形野球倶楽部	2			
ヨークベニマル	6			
宮城建設	6			
山形しあわせ銀行	4	2	J T	2
JR 東日本東北	17			

**関東**

9月22日から 3日間 県営大宮球場・大宮市宮球場

三菱自動車川崎	22	4	シダックス
山梨球友クラブ	1		
三菱重工横浜	0		
シダックス	7	8	東 芝
住友金属鹿島	8		
プリンスホテル	4		
東 芝	7	3	本 田 技 研
富士重工	2		
本田技研	20		
宇都宮大CBクラブ	3	8	川崎製鉄千葉
いすゞ自動車	3		
鷺宮製作所	4		
川崎製鉄千葉	5	8	日本石油
朝日生命	2		
日産自動車	7		
日立製作所	1	5	日本石油
日本石油	10		
新日鉄君津	6		
日本通運	9	7	日本石油
東京ガス	0		

**北信越**

9月20日から 4日間 県営上田球場

NTT信越	6	4	2	NTT北陸
ニチエー	4			
北陸銀行	10			
TDK千曲川	3			
NTT北陸	11			
伏木海陸運送	1	9	北陸銀行	
<敗者復活戦>				
ニチエー	6			
伏木海陸運送	13			
北陸銀行	2			
TDK千曲川	1	2	NTT信越	
NTT信越	11			

**東海**

9月20日から 4日間 岡崎市民球場

本田技研鈴鹿	3	5	4	ヤマハ
三菱自動車岡崎	2			
ヤオハンジャパン	3			
河合楽器	9	0	5	ヤマハ
大 仙	2			
J R 東海	6			
ヤマハ	7	1	西濃運輸	
NTT東海	1			
昭和コンクリート	13			
関東自動車工業	1			
日通名古屋	9			
光	5	6	西濃運輸	
西濃運輸	7			
新日鉄名古屋	4			
<敗者復活戦>		1	昭和コンクリート	
本田技研鈴鹿	1			
昭和コンクリート	5			

**近畿**

9月14日から 5日間 難波ベースボールスタジアム

松下電器	15	3	三菱自動車京都
半信総合科学専門学校	0		
三菱自動車京都	6		
神戸製鋼	5	4	住友金属
第一紙行	3		
住友金属	10		
大阪ガス	13	7	日本新薬
小西酒造	3		
中山製鋼	10		
新日本鉄広畑	2	1	日本新薬
大和銀行	0		
日本新薬	8		
NTT関西	3	10	日本IBM野洲
日本IBM野洲	8		
日産車体京都	4		
三菱重工神戸	10	5	大阪ガス
<敗者復活戦>			
松下電器	20	3	松下電器
中山製鋼	3		
大阪ガス	9	0	大阪ガス
三菱重工神戸	0		

**中国**

9月20日から 6日間 倉敷マスカットスタジアム

三菱重工広島	0	8	14	川崎製鉄水島
川崎製鉄水島	5			
ヤマコー	2			
三菱自動車水島	9			
N K K	5			
光シーガルス	6	6	4	川崎製鉄水島
NTT中国	4			
三菱重工三原	8			
<敗者復活戦>				
三菱重工広島	3			
ヤマコー	2	7	三菱重工広島	
光シーガルス	0			
N K K	2			
NTT中国	9	3	三菱重工広島	
三菱自動車水島	10			
三菱重工三原	3			

**四国**

9月15日から 2日間 香川県営球場

徳島倶楽部	2	0	NTT四国
NTT四国	16		
四国銀行	12	15	四国銀行
J R 四国	2		

**九州**

9月10日から 5日間 新大分球場・新日鉄明野球場

J R 九州	11	12	6	日産自動車九州
新日鉄大分	8			
三菱重工長崎	11			
新日鉄八幡	3	12	2	日産自動車九州
本田技研熊本	8			
沖縄電力	4			
日産自動車九州	19	12	7	日産自動車九州
NTT九州	7			
九州三菱自動車	17			
ニコニコドー	16	13	2	ニコニコドー
沖データコンピュータ教育学院	4			
リョーユーパン	3			
<敗者復活戦>		8	12	ニコニコドー
本田技研熊本	8			
ニコニコドー	16			
J R 九州	9			

王子製紙苦小牧

Table listing players for王子製紙苦小牧, including names like 石井 大樹, 井上 隆之, and their respective teams and positions.

本田技研

Table listing players for本田技研, including names like 柳川 大輔, 小久保 隆之, and their respective teams and positions.

日本石油

Table listing players for日本石油, including names like 中本 隆之, 藤村 大輔, and their respective teams and positions.

昭和コンクリート

Table listing players for昭和コンクリート, including names like 高橋 大輔, 佐藤 隆之, and their respective teams and positions.

室蘭シャークス

Table listing players for室蘭シャークス, including names like 加藤 大輔, 川崎 隆之, and their respective teams and positions.

川崎製鉄千葉

Table listing players for川崎製鉄千葉, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

北陸銀行

Table listing players for北陸銀行, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

西濃運輸

Table listing players for西濃運輸, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

J T

Table listing players for J T, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

シダックス

Table listing players forシダックス, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

NTT北陸

Table listing players forNTT北陸, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

日本IBM野洲

Table listing players for日本IBM野洲, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

NTT東北

Table listing players forNTT東北, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

東芝

Table listing players for東芝, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

ヤマハ

Table listing players forヤマハ, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.

三菱自動車京都

Table listing players for三菱自動車京都, including names like 藤川 大輔, 石川 隆之, and their respective teams and positions.





# 第24回 大会

1997年(平成9年)10月4日▶10月12日 大阪ドーム

優勝=三菱重工神戸

初優勝

東	芝(関東)	8	}	東	芝 6	}	東	芝 5	三菱重工神戸 10	}	三菱重工神戸
日本生命(近畿)	7	日本生命 0									
王子製紙(北海道)	2	}	ニコニコドー 4	}	三菱重工神戸 6	}	日本通運 4	住友金属 4			
三菱重工名古屋(東海)	0								ニコニコドー 6		
NTT中国(中国)	2	}	日本新薬 8	}	三菱重工神戸 12	}	日本通運 3	住友金属 7			
中山製鋼(近畿)	8								中山製鋼 5		
NTT北陸(北信越)	7	}	日本新薬 8	}	三菱重工神戸 12	}	日本通運 3	住友金属 12			
NTT北陸(北信越)	7								NTT北陸 1		
三菱重工神戸(近畿)	8	}	日本新薬 8	}	三菱重工神戸 12	}	日本通運 3	住友金属 12			
日立製作所(関東)	5								三菱重工神戸 6		
TDK(東北)	5	}	松下電器 2	}	日本通運 3	}	住友金属 4	住友金属 4			
松下電器(近畿)	7								TDK 5		
日産自動車(関東)	4	}	日本通運 9	}	住友金属 7	}	住友金属 4	住友金属 4			
NTT四国(四国)	3								日産自動車 1		
日本通運(関東)	6	}	住友金属 9	}	住友金属 12	}	住友金属 4	住友金属 4			
JR東日本東北(東北)	2								日本通運 9		
川崎製鉄水島(中国)	8	}	新日鉄名古屋 9	}	新日鉄名古屋 0	}	新日鉄名古屋 0	新日鉄名古屋 0			
三菱自動車川崎(関東)	6								川崎製鉄水島 3		
住友金属(近畿)	7	}	新日鉄名古屋 9	}	新日鉄名古屋 0	}	新日鉄名古屋 0	新日鉄名古屋 0			
NTT北海道(北海道)	5								住友金属 9		
北陸銀行(北信越)	2	}	新日鉄名古屋 9	}	新日鉄名古屋 0	}	新日鉄名古屋 0	新日鉄名古屋 0			
新日鉄名古屋(東海)	9								北陸銀行 2		
神戸製鋼(近畿)	4	}	新日鉄名古屋 9	}	新日鉄名古屋 0	}	新日鉄名古屋 0	新日鉄名古屋 0			
神戸製鋼(近畿)	4								神戸製鋼 4		

## 「三菱神戸」大差でドームV

大阪ドーム元年の大会を制した三菱重工神戸は上位、下位のどこからでも点を取った。4人いる投手陣は絶対的なエースがおらず、金城、寺坂の2本柱が交互に完投した住友金属とは対照的に、5試合とも継投でまかなった。木林と紙野が先発と中継ぎ、谷藤が中継ぎ、新井が抑え。適材適所の勝利だった。準優勝の住友金属はスピードあふれる走塁と確実なバントが印象に残った。平凡な内野者でも全力疾走する、ひたむきな姿勢が感動を呼んだ。

今大会は本塁打が前回の46本から35本に減少した半面、二塁打が109本と大会史上初めて3けたに乗った。三塁打も3倍に。前回まで使用したグリーンスタジアム(GS)神戸と両翼、中堅までの距離は変わらないが、フェンスの高さでは大阪ドームの方が均一に高い。GS神戸では本塁打の打球が、大阪ドームではフェンスに阻まれ、二塁打、三塁打になった。

観客数が史上最多の14万7,000人を記録したのは、「ドーム効果」のたまものだ。



優勝を決め、抱き合う三菱重工神戸ナイン

### 大会 審判

▷審判委員長=大村一彦▷審判副委員長=西大立目永、三宅孝次、竹中清二▷幹事=南喜右衛門、岡本好二、津田浩嗣▷委員=小林勉、大橋慶三、木崎一貴、桃田晴彦、辻喜正、伊東登、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、野尻正博、山崎浩、南口正人、柳川弘一、小谷啓介、池友久、三宅章介、植村忠、岡本良一、鹿多誠道、浜田正二、生越芳明、榎田健一、東俊孝、新卓定、北野雅行、橋公政、長谷川文彦、脇宣寿、藤本勝巳、山邊光喜、片山奇世史、宮木明、井田保則、梅本古徳、伏見文隆、石原義市郎、細見英昭、清水忠雄、赤坂雅彦、松村洋、今井豊、浜田敏明、川嶋義則、吉川芳登、中本尚▷補助審判委員=松浦信夫、中尾真也、井口光史、堀口光、岡崎慎太郎、清水雅彦、田代圭二、土井淳宏











▽10月12日

決勝(午後1時開始)

住友金属	0	2	0	2	0	0	0	0	0	4
三菱重工神戸	0	1	0	2	0	0	3	4	X	10

▶審判(球審)小林(塁審)中本、伊東、木嶋(外審)北野、長谷川

【住友金属】打安点		【三菱重工神戸】打安点	
① 小後 寺	5 1 0	① 秋藤 山	4 1 0
② 山 山	4 2 1	② 秋藤 山	4 2 2
③ 上 出	4 3 0	③ 秋藤 山	5 2 1
④ 大 良	3 1 1	④ 秋藤 山	3 2 2
⑤ 山 田	4 1 2	⑤ 秋藤 山	3 1 1
⑥ 山 田	4 0 0	⑥ 秋藤 山	4 1 1
⑦ 玉 田	4 0 0	⑦ 秋藤 山	4 3 2
⑧ 川 野	3 0 0	⑧ 秋藤 山	4 1 0
⑨ 石 井	2 0 0	⑨ 秋藤 山	4 2 0
⑩ 渡 野	1 0 0		

振球併殺	5 2 1 6	計	34 8 4	振球併殺	2 1 1 7	計	35 15 9
------	---------	---	--------	------	---------	---	---------

▽三塁打=藤原、神前>二塁打=藤原、渡辺、大谷>犠打=石井剛、秋山、藤原、大谷2>犠飛=渡辺>盗塁=大川>失策=大良、藤原>試合時間2時間35分

## 一丸野球、主将の意地をかけ実る

置を決めた。バットを離さなかった理由を聞くと「打席に集中したかったから」。肩に力が入っているのは後ろ姿から分かった。

5球目の直球に詰まりながらも、山野の打球は右翼線の内側に落ちる適時打となり、この瞬間、全員安打が実現した。「我慢して使ってくれた監督の気持ちに応えたかった」と山野。

全試合2ケタ安打を記録した打線も春は不振を極めた。本来は下位の山野を1番に起用した都市対抗予選のころから打線は活気づき、初の全国制覇の原動力となった。「今日は、あいつの意地にかけた」。山口監督には、優勝の功労者は主将という思

ボールが捕手から投手に投げ返されても、打席の背番号「1」はバットを握った両手を離そうとしない。それどころか、一度離したら、握った位置が分からなくなってしまうともいうように、1球ごとに力を込めているようだった。

七回の三菱重工神戸の攻撃は2死二塁。渡辺、大谷の連続二塁打で再逆転して6番打者の山野が打席に入った。ここまで18打数1安打の打率5分6厘。好調を続ける打線の中で、主持だけが取り残されていた。

山口監督から「バットを短く持て」とアドバイスされ、山野はグリップに巻いたテープの上端に手の位置

いが強い。

山野は言った。「一丸野球ができた。最高です」。乗り遅れていたチームリーダーがシーズン最後の試合の最後の打席で応え、笑顔を見せた。



山口監督を勇躍上げる三菱重工神戸ナイン

## 5試合連続無失点救援

新井正広投手(三菱重工神戸)

最後の打者を空振り三振に仕留めた球は自慢のフォーク。「狙ってました」と、してやったりの表情。チーム初優勝の原動力になったが、「好投できたのはチームの勢いに乗せられた」と初々しい。

謙虚な姿勢の原点にあるのは、異色の経歴。社会人5年目だが、佛教大時代は4番・左翼手として活躍し、野手として入社。しかし、「好きなポジションで勝負したい」と2年目に監督に訴え、投手に転向した。それだけに、大舞台で登板できる喜びはひとしおだ。

はじめての子供が今月末に誕生の予定。出産のために入院した妻美幸さん(28)へ「僕が活躍したから、妻も頑張ってくれるでしょう」。妻へのプレゼントとなるトロフィーを大事そうに抱えていた。



鮮やかなストッパーぶりを示した三菱重工神戸の新井

## 監督談話

三菱重工神戸・山口敏弘監督 前半は向こうの流れだったので、守りから攻撃のリズムをつかまそうと、新井を早い回から投入した。(金城攻略は)細かい制球力がないので、つけ入るすきはあると思った。後半に球威が落ちたところを見逃さずに打ってくれた。

住友金属・筒井大助監督 新井君が出る前にもう少し点を取りたかった。前半の好機に、もう1本川でいれば……。先発の木林君も制球がよかった。全体的にレベルアップして、また挑戦したい。大会前は「26番目のチーム」とも言ったが、選手たちはよくやった。



### 三菱重工神戸 山口 敏弘監督

ホームベース付近に置かれたキャッチャーマスクを大事そうに手にし、マウンドから戻った小田捕手に渡し、しりをポンとたたいた。

夢にまで見た初優勝の瞬間。大阪ドーム元年を制したのにいつも通り淡々としていた。「最後まであきらめず、粘り強くやろう」を年鑑テーマに掲げ、その通りの試合運びで、優勝したというのにだ。

箕原OBの石井(元西武)一輪田(元阪神)、浪商(現大体大浪商OB)の牛島(元ロッテ)香川(元ダイエー)選手らと同世代で、自身は目立たなかったという。

だが、現役時代は俊足、好打、好守の好選手で、池田(徳島)と準々決勝で球史に残る雨の中の熱戦を繰り広げた第51回選抜高校野球大会(1979年)では2年生ながらレギュラー出場。4試合すべてに安打を放ち、4強入りの原動力になっている。

5年前、58歳で病死した父、恵さんの影響で幼稚園のころからボールを手にし、「王、長嶋」にあこがれた。「流れに逆らわずにベースをつかむ」ことを心掛け、遊撃手だっただけに、守りを固めて攻撃につなぐ野球を身上にする。

中学時代の英語の教師が黒板に書いた「人生感 意気」を人生訓に、指導は厳しからず、優しからず。斗酒なお辞せず。選手と祝杯をあげ、「日付変更線」を超える頃、じわーっと喜びがこみあげてきた。

姫路市出身。東洋大姫路一東洋大。都市対抗野球に11年連続出場、2年間のコーチ兼任を経て1995年8月から監督。妻と2男1女、35歳。



## 7回1死で「壁」金城神話崩壊

金城は1点リードの七回1死二塁で、神前にこの試合最速の141km/hの直球を投げ込んで、空振りの三振に仕留めた。しかし、これが限界だった。続く渡辺に1球分甘くなった内角球を右越えに運ばれたのを口火に3連打。あっという間に逆転された。

立ち上がりから、いつものスピードはなかった。再三、先頭打者を塁に出す苦しい投球。それでも要所では速球で詰ませ、大量失点を防いでいた。スピード表示以上の球の威力が金城と住友金属を助けていた。

ところが、七回以降、球威という神通力は急速に衰えた。1回戦と準々決勝で完投した疲労が、右肩にたまっていたのだろう。

八回、めった打ちされて、この回4失点。

それでも筒井監督はベンチから動かなかった。「壁を打ち破ってもらいたい、という願いを込めて、最後まで投げさせました」。昨年の決勝は先発して三回途中で降板。この1年で成長の跡は見せたが、課題もまた増えた。「もっと間をとれば、緩急をつけておけば……」と指を折る。10失点完投のこの試合で壁を破ったかどうか。その結果が分かるのは希望するプロのマウンドになるのかもしれない。

第24回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 新井正広投手(三菱重工神戸) 5試合すべてに救援で登板。計12回を投げて自責点0。ストッパーとして優勝に貢献した。佛教大。26歳。

◇敢闘賞 金城龍彦投手(住友金属) 3試合に先発してすべて完投。1回戦、準々決勝では勝利の立役者となった。近大付高。21歳。

◇打撃賞 大谷慎一郎内野手(三菱重工神戸) 5試合で21打数10安打、7打点。打率4割7分6厘。近大。28歳。

◇首位打者賞 ビクトル・メサ外野手(ニコニコドー) 3試合で10打数7安打、3本塁打。打率7割。キューバ文化体育大。37歳

◇大会優秀選手

【投手】新井正広(三菱重工神戸)金城龍彦、寺坂友秀(以上住友金属)銭場一浩(東芝) 【捕手】小田幸平(三菱重工神戸)川淵雄二(住友金属) 【一塁手】大谷慎一郎(三菱重工神戸) 【二塁手】神前秀樹(三菱重工神戸)上出真寛(住友金属) 【三塁手】田中敏弘(日本通運)印出順彦(東芝) 【遊撃手】加藤真名不(ニコニコドー)鈴木肇(東芝) 【外野手】庄野圭昭(三菱重工神戸)山田晃之、小寺一真(以上住友金属)ビクトル・メサ(ニコニコドー)坪井智哉(東芝)【指名打者】大川広誉(三菱重工神戸)篠原正道(松下電器)



【準々決勝】新日鉄名古屋に完投勝利した住友金属の金城



【準々決勝】三菱重工神戸-日本新薬 三回表三菱重工神戸2死満塁、右越えに走者一掃の3塁打を放つ大谷



【1回戦】NTT北海道-住友金属 五回裏住友金属1死二、三塁、川淵の一塁ゴロが野選となる間、三塁の後山がホームインし4点目、捕手・遠藤友



【2回戦】東芝-日本生命 日本生命を完封、ガッツポーズの東芝・銭場



【準々決勝】ニコニコドー-東芝 六回表ニコニコドー1死一塁、メサが中越えに同点2ランホームランを放つ。捕手・高見



【準々決勝】新日鉄名古屋-住友金属 三回裏住友金属2死一塁、打者後山の時、一塁の小寺が二盗成功、捕手からの送球がそれる間に三塁へ



【準決勝】住友金属-日本通運 六回表住友金属2死二塁、山田が右越えに2ランを放ち、大喜びのナインに迎えらる



【1回戦】三菱自動車川崎-川崎製鉄水島 十一回裏川崎製鉄水島1死二塁、山本が右越えにサヨナラ2ランを放つ



【1回戦】三菱重工神戸-日立製作所 四回表三菱重工神戸無死、大川が右越えに同点ソロホームランを放ち、大喜びのナインに迎えらる





**北海道**

9月6日から 5日間 札幌円山球場



**東北**

9月13日から 3日間 泉宮宮城球場・JT球場



**関東**

9月10日から 18日間 千原球団天台球場・大田スタジアム



**北信越**

9月5日から 4日間 新潟市営鳥屋野球場



**東海**

9月4日から 7日間 岡崎市民球場



**近畿**

9月9日から 6日間 姫路野球場・高砂市営球場



**中国**

9月2日から 6日間 倉敷マスカットスタジアム・岡山県立球場



<敗者復活戦>



**四国**

9月8日から 2日間 松山市営球場



**九州**

9月10日から 5日間 熊本球場・熊本県立スタジアム球場



NTT北海道

Table listing players for NTT北海道, including names like 野高小石, 野高小石, and their respective numbers and positions.

日立製作所

Table listing players for 日立製作所, including names like 飯田川, 飯田川, and their respective numbers and positions.

日産自動車

Table listing players for 日産自動車, including names like 村上, 村上, and their respective numbers and positions.

三菱重工名古屋

Table listing players for 三菱重工名古屋, including names like 石山, 石山, and their respective numbers and positions.

王子製紙苫小牧

Table listing players for 王子製紙苫小牧, including names like 石井, 石井, and their respective numbers and positions.

日本通運

Table listing players for 日本通運, including names like 杉本, 杉本, and their respective numbers and positions.

北陸銀行

Table listing players for 北陸銀行, including names like 谷内, 谷内, and their respective numbers and positions.

新日本製鐵名古屋

Table listing players for 新日本製鐵名古屋, including names like 小島, 小島, and their respective numbers and positions.

JR東日本東北

Table listing players for JR東日本東北, including names like 赤松, 赤松, and their respective numbers and positions.

三菱自動車川崎

Table listing players for 三菱自動車川崎, including names like 大友, 大友, and their respective numbers and positions.

NTT北陸

Table listing players for NTT北陸, including names like 北川, 北川, and their respective numbers and positions.

日本新薬

Table listing players for 日本新薬, including names like 前田, 前田, and their respective numbers and positions.

TDK

Table listing players for TDK, including names like 佐々, 佐々, and their respective numbers and positions.

東芝

Table listing players for 東芝, including names like 飯田, 飯田, and their respective numbers and positions.

ヤマハ

Table listing players for ヤマハ, including names like 高橋, 高橋, and their respective numbers and positions.

松下電器

Table listing players for 松下電器, including names like 行田, 行田, and their respective numbers and positions.



## 日本生命

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 住友金属

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## NTT中国

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 本田技研熊本

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 中山製鋼

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 川崎製鉄水島

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## NTT四国

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## ニコニコドー

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 三菱重工神戸

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 神戸製鋼

監督	中野 功
投手	中野 功
捕手	中野 功
内野	中野 功
外野	中野 功

## 「無名」を磨く専門学校 第4の道

松下電器のエース・建山義紀が歩んできた道のりは、「野球エリート」とは少し違う。1994年に東海大仰星高(大阪)を卒業後、大学、社会人、プロ野球いずれでもない「第4の道」を選んだ。それは開校まもない丘の上の専門学校だった。

スポーツ選手の育成などを目的とした「甲賀総合科学専門学校」(滋賀県甲賀町)は92年に設立された。3万8000平方メートルの敷地に、グラウンド、プール、トレーニングジムなどの施設がある。野球部は93年の創部で、現在の部員数は150人。スタッフの指導理念はただ一つ、社会人やプロの網から漏れた選手を2年間で磨き直して、トップレベルに再挑戦させることだ。

選手たちは午前中は運動生理学などの座学に取り組み、午後1時から5時間、野球漬け。藤本政男監督(PL学園高-新日鉄堺)ら経験豊富な指導者たちが、個々の課題を修正していく。例えば建山にはスタミナ不足を解消させるために10%走を命じる一方で、400%タイム走、瞬間ダッシュをメニューに入れて瞬発力をつけさせ、球速を10%以上アップさせた。

建山が全日本投手に成長し、「甲賀」に注目す

る企業チームが現れはじめた。現エースの尼崎が来春入社する新日鉄名古屋の小俣哲雄監督は、「高校時代は無名の選手が多く、消耗していないのが魅力。ハンタリー精神もある」と語る。来春は野球部から過去最多の11人が企業チームに就業予定だ。

企業チームはリストラで門戸が狭くなり、高卒選手をじっくり育てる余裕がないのが現実だ。一方で日本野球連盟に加盟する専門学校チームは、93年には「甲賀」だけだったが

今年9月現在では計5チームに増加した。未完の利器を拾って磨く「第4の道」がなければ、建山というダイヤモンドの原石は、こぼれ落ちたままだったかもしれない。



名門・松下電器のエースに成長した甲賀総合科学専門学校出身の建山

# 第25回大会

1998年(平成10年)10月3日▶10月11日 大阪ドーム

優勝=NTT関東 初優勝

NTT北陸(北信越)	5	}	J	T 4	}	本田技研鈴鹿 1	}	NTT関東 8
J T(東北)	6							
三菱自動車京都(近畿)	0	}	}	}	}	}	}	}
東芝府中(関東)	7							
川崎製鉄水島(中国)	11	}	}	}	}	}	}	}
本田技研鈴鹿(東海)	1							
小西酒造(近畿)	0	}	}	}	}	}	}	}
日本新薬(近畿)	3							
王子製紙苫小牧(北海道)	3	}	}	}	}	}	}	}
NTT四国(四国)	4							
日産自動車九州(九州)	8	}	}	}	}	}	}	}
大和銀行(近畿)	10							
NTT関東(関東)	9	}	}	}	}	}	}	}
松下電器(近畿)	9							
NTT東北(東北)	4	}	}	}	}	}	}	}
本田技研(関東)	3							
日産自動車(関東)	9	}	}	}	}	}	}	}
三菱自動車岡崎(東海)	11							
NTT九州(九州)	0	}	}	}	}	}	}	}
NKK(中国)	4							
北陸銀行(北信越)	5	}	}	}	}	}	}	}
北陸銀行(北信越)	5							
新日鉄名古屋(東海)	2	}	}	}	}	}	}	}
日本生命(近畿)	4							
日本通運(関東)	12	}	}	}	}	}	}	}
日本通運(関東)	12							
NTT北海道(北海道)	3	}	}	}	}	}	}	}
大阪ガス(近畿)	4							
大阪ガス(近畿)	4	}	}	}	}	}	}	}
大阪ガス(近畿)	4							

## 目立った好投手

好投手が目立った。25試合中、零封試合が5試合。前回より平均打率は1分3厘下がりを、三振が1割近く増加した。本田技研鈴鹿・稲葉、三菱自動車岡崎・岩下、大阪ガス・坂本が完封を果たした。3投手とも球威に頼らず、低めの制球の良さで勝負したのが印象的。日本新薬・田村、松下電器・建山、北陸銀行・竹島も低めの球を有効に使った。一方で速球中心に抑えて活躍したJT・金沢、日本通運・広田の両左腕は豊かな将来性を感じさせた。

昨年初めて3けたを記録した二塁打はさらに3本増えて、最多記録を更新。本塁打は2本増にとどまり1試合平均1.48本。簡単には一発の期待できない大阪ドームでは、攻撃は力より機動力、守備では野手の足、肩が要求される「スピード野球」が主流となる傾向が強まりそうだ。

優勝戦を戦ったNTT関東、日本生命はともに投打の層の厚さで一步抜けていた。初優勝のNTT関東は4試合で3人の先発投手を起用し立石、柳沢が1完投ずつ。3人起用した中継ぎ、抑え投手も合計で1失点のみだった。打線は足とパワーを兼ね備えた飯塚、阿久根の1、2番、長距離打者の4番・キーナンを核に、つながりが良く、たたみかける攻撃は迫力があつた。

準優勝の日本生命は先発・辻の粘り強い投球と、三振を取れる抑え・土井のリレーで1、2回戦の接戦を勝ち抜いて勢いづいた。福留が4本塁打を効果的な場面で打ち、つながりを欠いていた打線を支えた。

また1回戦では、三菱自動車岡崎が「夏秋連覇」を狙った日産自動車に5点差を逆転して勝利、都市対抗、日本選手権を通じて初陣の大和銀行も7点差をはね返して初勝利をあげた。延長戦が4試合あったのに対し、ゴールド試合はなし。実力が伯仲し、内容の充実した好試合が相次いだ大会だった。



技巧派の左腕として活躍した本田技研鈴鹿の稲葉



投手投げの本格派としてチームを引っばった松下電器の建山

### 大会審判

▷審判委員長=大村一彦▷審判副委員長=西大立目永、三宅卓次、竹中清二▷幹事=南宮右衛門、岡本好二、津田薫▷委員=小林勉、大橋優三、木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、赤井淳二、山崎浩、南口正人、柳川弘一、小谷啓介、池友久、三宅卓介、植村忠、松浦信夫、井口光史、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、榎田健一、東優孝、新卓完、北野雅行、橋公政、長谷川文彦、藤宜寿、藤本勝巳、山邊光喜、宮木明、井田保則、梅本吉徳、伏見文隆、石原義市郎、堀見英昭、清水忠雄、赤坂雅彦、松村洋、浜田敏明、川崎義則、小西忠宏、今井豊、谷口吉洋、飯根雅弘、中尾真也、堀口光、岡崎清太郎、清水雅彦、田代圭二、土井淳宏、林清一



▽10月3日

Table for Game 1 (October 3): 三菱自動車京都 vs J. Score: 0-6. Includes batting order and statistics for both teams.

本塁打=藤田1号(森), 半田1号(森) 二塁打=佐伯, 岩本2号 捕逸=内海 試合時間 2時間39分

絶妙カーブJT・能島

「金沢君を1イニングでも早く引きずり出すこと」。三菱自動車京都・川崎監督は、勝敗の分岐点をこう語っていた。JTの快進撃、金沢を打ち込むにはロングリリーフさせるしかない。相手先発を早い裏に崩す。指示はこの一点に集中した。

が、JTの先発右腕・能島は、その狙いを見事に阻止した。入社2年目、2度出場都市対抗はいずれも初戦敗退。直球は最速135km前後で、打ちどころに見える。しかし内外角に投げ分け、要所ではフォークを織り交ぜ、立ち上がりから三菱京都打線の打ち気をそらした。三回からは、早いカウントの直球が埋められていると見るや、縦に大きく割れるカーブを多投し、次々と凡球を打ち上げさせた。

JT・加藤監督が「ここまでもってこれれば」と考えていた五回、2死一、二塁のピンチを招くが、ここでも絶妙のカーブを外角に落として、右邪飛に打ち取った。打てそうで打てない能島の投球に三菱京都打線の焦りは募った。

七回、球数が100球を超え、二塁球と内野安打で2死満塁となったところで、金沢にスイッチ。金沢は、球威のある直球で三塁に切って取り、勝利を大きく引き寄せた。

「ベストピッチじゃないです。先発は完投しなければ」。2大会での初戦勝利にも、能島は不満そうな顔をした。それでも、加藤監督に呼び止められ、ウイニングボールを手渡されると、うれしそうにひと回りしてから、バググにしまった。

Table for Game 2 (October 3): 東芝府中 vs 川崎製鉄水島. Score: 7-11. Includes batting order and statistics.

Table for Game 3 (October 3): 東芝府中 vs 川崎製鉄水島. Score: 7-11. Includes batting order and statistics.

本塁打=竹下1号(都坂), 萩谷1号(小谷), 二塁打=1号(朝間) 二塁打=青岡3, 青松, 萩谷, 岩切 試合時間 2時間58分

小技も決めたベテラン

竹下和敏三塁手(30)川崎製鉄水島
痛烈な先制パンチだった。一回裏の1死満塁の好機。「併殺打になるくらいなら、思い切り三振したほうが早い」と積極的な気持ちで打席に立った。3球目、読み通りの速球だった。「イチ、ニッ、サン」で強振。打球はバックスクリーン右に飛び込み、大会通算22本目の満塁アーチとなった。「満塁本塁打?高校以来かな。まぐれですよ」とおどけてみせたが、チームを勢いづける一発だった。

そして1点差に迫られた三回、この5番打者は心憎い小技を披露した。1死一塁で、初球を投手前に絶妙なバント安打。相手バッテリーの動揺を誘った。この直後に岩切の適時打と敵失で計3点。東芝府中に傾きかけた流れを断ち切った。

広島工から専大を経て、入社8年目。その前主将の活躍で、チームは2年連続の初戦突破を果たした。今夏の都市対抗ではグループ企業の川崎製鉄千葉が準優勝。「秋はウチが優勝するつもりで頑張ります」。30歳ベテランはますます意気軒高だ。

満塁本塁打 川崎製鉄水島の竹下和敏三塁手が、1回戦の対東芝府中戦の一回に記録。大会通算22本目。

Table for Game 3 (October 3): 本田技研鈴鹿 vs 小西酒造. Score: 1-0. Includes batting order and statistics.

Table for Game 4 (October 3): 本田技研鈴鹿 vs 小西酒造. Score: 1-0. Includes batting order and statistics.

三塁打=楠井 二塁打=上中 試合時間 2時間47分

▽10月4日

Table for Game 1 (October 4): NTT四国 vs 王子製紙苫小牧. Score: 4-3. Includes batting order and statistics.

Table for Game 2 (October 4): NTT四国 vs 王子製紙苫小牧. Score: 4-3. Includes batting order and statistics.

本塁打=近藤1号(古川), 山本1号(古川), 山上1号(古谷) 三塁打=楠木 二塁打=林田2, 山上, 堀谷, 葉田 試合時間 3時間19分

荒れ球が幸い 負けても100点

鈴木貴志投手(19)王子製紙苫小牧
つかみかけていた勝利はあと一歩で逸したが、試合後は悔しきよりも力を出し切った満足感でいっぱいだった。「100点をつけてもいい。42球ができた」と笑顔を見せた。直球の速さはせいぜい134.5kmだが、球離れが速く、

手元で伸びる。過当に荒れたため、NTT四国打線に狙い球を絞らせない。1点リードの九回に1死三塁のピンチを招いて降板するまで、4安打2失点に抑えた。

旭川で高を経て入社2年目。一昨年の夏に甲子園に出場したが、初戦でPL学園(大阪)に0-4で敗れた。入社直後に左肩を痛め、昨年の登板はゼロ。「コーチから『球威がある』と報告があったので、いつか使おうと思った」と石井監督。この日は球威よりも球の切れを重視した投球内容だったが、抜てきに見事に応えた。

チームは延長戦の末に取れたが、大舞台での会心の投球は「すごい自信がついた」という。「オフにはスピードを増し、シュートかシンカーを見たい。次代を担うホープは、来年さらに大きくなってドームに戻ってくるつもりだ。」

Table for Game 2 (October 4): 大和銀行 vs 日産自動車九州. Score: 2-8. Includes batting order and statistics.

Table for Game 3 (October 4): 大和銀行 vs 日産自動車九州. Score: 2-8. Includes batting order and statistics.

本塁打=小川1号(後藤), 中尾1号(永常) 三塁打=中尾 二塁打=中野, 山口 試合時間 3時間38分

Table for Game 3 (October 4): NTT東北 vs 本田技研. Score: 4-3. Includes batting order and statistics.

Table for Game 4 (October 4): NTT東北 vs 本田技研. Score: 4-3. Includes batting order and statistics.

本塁打=三瓶1号(中尾), 山口1号(楠松) 二塁打=只野, 長谷川12, 小山, 大関, 高野, 高倉, 堀田, 深瀬, 園分 試合時間 2時間59分

本田反撃届かず

本田技研の中心・山口が最後に4番打者の意地をみせた。八回の第4打席でNTT東北・楠松から中越え本塁打。それまでの3打席は「うまく攻められた」という緩い変化球にはふるりされて凡退を重ねた。そこで「打ってチームのムードを変えよう」と狙い球を直球に絞り2球目をブルスイング。この一発で楠松を降板に追い込み、反撃ムードを高めた。しかし、チームは九回に1点差まで詰め寄る粘りを見せたが、会社創立50周年を勝利で飾れなかった。

# 第25回大会 大会記録

## ▽10月5日

### 第1試合=1回戦(午前10時29分開始)

三菱自動車岡崎	100	034	210	11
日産自動車	600	000	210	9

▶審判(球審)大橋(塁審)板根、山崎、井田(外審)中尾、谷口

【三菱自動車岡崎】	打安点	【日産自動車】	打安点
① 夏小北	5 4 3	① 伊吉	3 2 0
② H	0 0 0	② 吉吉	2 1 0
③ ④ 北村	5 3 2	③ H 9	1 1 0
④ ⑤ 西野	5 3 1	④ ⑤ 小上	3 1 2
⑤ D	3 0 0	⑥ ⑦ 黒武	5 2 2
⑥ HD	1 1 0	⑧ ⑨ 武村	2 0 0
⑦ HD	1 1 0	⑩ H 2 7	1 1 0
⑧ R 7	2 1 0	⑪ ⑫ 渡辺	4 2 0
⑨ ⑩ 長谷川	4 2 1	⑬ ⑭ 木寺	2 2 0
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	3 0 0	⑮ ⑯ ⑰ ⑱	2 2 0

振球併残 6 6 2 8 計 37 17 11 振球併残 5 8 3 7 計 34 10 8

回	打安費	川	藤	回	打安費
1	6 2 6	5	239 4	1	5 2 0
2	14 2 0	3	4 2 1	2	1 4 3
3	1 0 0	4	1 6 3	3	1 4 3
4	1 6 3	5	4 0 0		
5	4 0 0				

▶本塁打=仲村1号(川崎)三塁打=村上、夏目(二塁打=北村2、小山、夏目、丹羽、渡辺、鹿野、伊藤)暴投=川崎、木寺(試合時間3時間50分)

### 好機に凡退「出直す」

③…3点を追う八回無死満塁の反撃機に選出された日産自動車の渡辺は、一塁ベースを走り抜けると、ドームの天井を仰いだ。「相手は最後の力を振り絞って投げてきた。完敗です」。27歳だった昨年初めて全日本代表に選ばれた速球のバッタ。今年もなかなかの働きができて、今夏の都市対抗でも、日産打を放った鹿野の陰に隠れた。「このままでは選手生命が尽きてしまう。一から出直す」。渡辺は危機感を深めた。

### 第2試合=1回戦(午後2時57分開始)

N K K	004	000	000	00	4
北陸銀行	010	001	011	01	5

▶審判(球審)浜田正(塁審)梅本、浜田敏、今井(外審)坂根、松村

【N K K】	打安点	【北陸銀行】	打安点
① 川	5 1 0	① 藤	6 3 0
② 向	5 0 0	② 田	6 2 0
③ ④ 石	4 1 0	③ ④ 加	5 2 1
④ ⑤ 井	4 3 1	⑤ ⑥ 田	0 0 0
⑤ ⑥ 上	4 1 1	⑦ ⑧ 田	4 2 1
⑦ ⑧ 福	5 3 2	⑨ ⑩ 井	3 1 1
⑨ ⑩ 古	3 0 0	⑪ ⑫ 田	2 0 0
⑪ ⑫ 毛	1 0 0	⑬ ⑭ 安	2 5 2
⑬ ⑭ 久	4 0 0	⑮ ⑯ 木	1 1 1
		⑰ ⑱ 浜	4 0 0
		⑲ ⑳ 西	5 1 0

振球併残 13 2 1 6 計 40 9 4 振球併残 7 4 0 1 2 計 43 14 5

回	打安費	竹	島	回	打安費
1	6 2 7 8 2	11	439 2	1	1 4 1 1
2	1 4 1 1	3	10 3 1	2	1 6 3
3	1 6 3	4	8 2 1	3	
4	1 6 3				
5	4 0 0				

▶三塁打=木村、田川(二塁打=福元2、谷川、加藤、後藤)試合時間3時間13分

### しぶとく全員奪三振

③…延長十一回を投げ抜いた北陸銀行の竹島投手。球を丁寧に散らし、ひょうひょうと完投したかに見えたが、実は「何度もキレそうになった」という。しかし、冷静さを失わないよう心掛けた。相手の狙いが変化球と見てとると、直球主体に切り替え、しり上がりに満塁を上げた。九回無死二、三塁のピンチにも聞き直して直球で押し、後続を断った。3年ほど前に背筋を痛めてから負担が少ない構え投げにフォームを改造するなど、地道な努力と経験の蓄積が、ベテランのしぶい働きを支えている。

### 第3試合=1回戦(午後6時45分開始)

新日鉄名古屋	000	001	100	2
日本生命	101	002	00X	4

▶審判(球審)川崎(塁審)東、伏見、監(外審)橘、清水源

【新日鉄名古屋】	打安点	【日本生命】	打安点
① H	3 0 0	① ② 野	4 2 0
② ③ 三	1 0 0	③ ④ 野	4 1 1
④ ⑤ 小	5 4 1	⑤ ⑥ 福	3 1 2
⑥ ⑦ 金	4 1 0	⑦ ⑧ 天	3 1 1
⑧ ⑨ 林	2 0 0	⑨ ⑩ 下	0 0 0
⑩ ⑪ ⑫ 林	4 1 1	⑪ ⑫ 大	4 0 0
⑬ ⑭ ⑮ ⑯	4 1 0	⑬ ⑭ 下	3 0 0
⑰ ⑱ ⑲ ⑳	4 0 0	⑰ ⑱ 大	2 0 0
㉑ ㉒ ㉓ ㉔	4 3 0	㉑ ㉒ 大	1 1 0
㉕ ㉖ ㉗ ㉘	1 0 0	㉓ ㉔ 大	2 0 0
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	1 0 0	㉕ ㉖ 大	0 0 0
㉝ ㉞ ㉟ ㊱	1 0 0	㉗ ㉘ 大	2 0 0
㊲ ㊳ ㊴ ㊵	1 0 0	㉙ ㉚ 大	0 0 0
㊶ ㊷ ㊸ ㊹	1 0 0	㉛ ㉜ 大	2 0 0

振球併残 103 0 9 計 3410 2 8 2 0 4 振球併残 10 5 1 1 2 計 28 6 4

回	打安費	注	井	回	打安費
1	6 2 4 5 3	7	319 2	1	7 1 0
2	2 8 1 0	2	7 1 0	2	
3				3	
4				4	
5				5	

▶本塁打=野上1号(岩崎)、福留1号(岩崎)三塁打=天野(二塁打=前村、山元)試合時間2時間46分

### 低め突く「抑え」頼もし

日本生命・早瀬監督は一つの確信を抱いていた。「土井の状態が上がっているから、終盤まで2、3点リードして迎えば、必ず逃げ切れる」。その思い通りの展開となった。先発の辻は打たれながらも、七回まで2失点で踏ん張る。打線はつながりを欠いて6安打に終わったものの六回に飛び出した野上、福留の連続本塁打が効き、2点のリードで八回を迎えた。無死一塁、満を持して土井がマウンド上がった。投球の7、8割は直球でスピード表示は143～146km。低めの内外角にぐいぐい伸びていく力強さが感じられた。

八回は、まず喜多を144kmの速球で三振に仕留めたのを皮切りに、3者連続空振り三振。九回は、先頭打者の振り遅れの打球が安打となったものの続く2人を連続三振。締めくくりも145kmで打ち取った。

「思い切り投げることでか頭になかった。とにかく必死だった」と土井。東海大から加入して7年目となるが、ここ数年は故障続き。しかし、今春から「左足の入り方を変えてみたら、球に威力が出るようになった」という。

追力満点の投球は「ストッパー誕生」を予感させた。「秋」にかかる日本生命の切り札となるかもしれない。

## ▽10月6日

### 第1試合=1回戦(午前10時30分開始)

日本通運	403	031	010	12
NTT北海道	010	002	000	3

▶審判(球審)小谷(塁審)南口、北野、藤本(外審)赤坂、今井

【日本通運】	打安点	【NTT北海道】	打安点
① 田	3 0 0	① 船	4 0 0
② 山	4 0 1	② H	0 0 0
③ 工	5 3 0	③ 船	2 0 0
④ 萩	0 0 0	④ H 4	1 0 0
⑤ ⑥ 萩	6 3 2	⑤ ⑥ 本	3 1 0
⑦ ⑧ 萩	0 0 0	⑦ ⑧ 高	2 0 0
⑨ ⑩ ⑪ ⑫	5 2 1	⑨ ⑩ 山	4 0 0
⑬ ⑭ ⑮ ⑯	5 2 0	⑪ ⑫ 青	3 0 0
⑰ ⑱ ⑲ ⑳	1 1 0	⑬ ⑭ 木	0 0 0
㉑ ㉒ ㉓ ㉔	2 1 4	⑮ ⑯ 山	4 1 0
㉕ ㉖ ㉗ ㉘	0 0 0	⑰ ⑱ 山	4 2 0
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	4 2 3	㉑ ㉒ 山	3 2 1
㉝ ㉞ ㉟ ㊱	0 0 0	㉓ ㉔ 山	3 1 2
㊲ ㊳ ㊴ ㊵		㉕ ㉖ 山	1 0 0

振球併残 5 11 0 1 2 計 35 14 11 振球併残 1 2 5 1 9 計 34 7 3

回	打安費	杉	之	回	打安費
1	6 2 8 7 3	2	188 7	1	1 1 0 0
2	2 7 0 0	3	11 2 3	2	1 3 2 1
3	4 0 0	4	1 5 1 1	3	1 3 1 0
4		5	1 1 0 0	4	
5		6	1 3 1 0	5	

▶三塁打=中村(二塁打=四十万、工藤、柏崎2、浦、並井)暴投=遠藤(試合時間3時間25分)

### 第2試合=2回戦(午後2時30分開始)

NTT北陸	002	201	000	00	5
J T	100	220	000	01	6

▶審判(球審)洋越(塁審)橋本、井口、大石(外審)小西、堀口

【NTT北陸】	打安点	【J T】	打安点
① 川	4 2 1	① 佐	5 1 1
② ③ 川	3 1 2	② 佐	5 1 1
④ ⑤ 祖	6 2 0	③ ④ 江	5 1 0
⑥ ⑦ 祖	6 3 1	⑤ ⑥ 江	3 1 0
⑧ ⑨ 野	6 2 1	⑦ ⑧ 江	2 0 0
⑩ ⑪ 野	5 1 0	⑨ ⑩ 江	5 1 0
⑫ ⑬ 石	5 1 0	⑪ ⑫ 江	5 4 0
⑭ ⑮ 井	3 0 0	⑬ ⑭ 江	4 1 1
⑯ ⑰ 佐	5 1 0	⑮ ⑯ 江	4 2 2
⑱ ⑲ 佐	3 0 0	⑰ ⑱ 江	4 0 0
㉑ ㉒ 佐	3 0 0	⑲ ㉑ 江	4 0 0

振球併残 10 5 1 1 2 計 43 13 5 振球併残 4 1 0 5 計 42 12 6

回	打安費	橋	島	回	打安費
1	4 20 8 5	3	20 6 4	1	7 1 0 1
2	6 23 4 0	2	30 7 1	2	
3				3	
4				4	
5				5	

▶本塁打=佐伯1号(桜井)、瀬戸1号(桜井)三塁打=不破(二塁打=江井、堺、川崎)暴投=全沢(試合時間3時間)

### 無念 勝負球打たれた

伊藤雄二投手(29)NTT北陸。長引く不況で企業チームを取り巻く環境は厳しい。負ければ、いつ解散になるとも限らない。五回途中からリリーフした伊藤も、「これが最後かもしれない」という思いを秘めてマウンド上がった。自信のあるスライダーが、普段にも増してプレーキ弱く曲がった。延長十一回裏2死二塁の場面でも、カウント2-2から投じた勝負球はスライダー。だが、「あのスライダーだけグューっと大きく曲がらず、グューという感じだった」。J・半田の打球は中前へ、二塁走者が生還する瞬間をぼうぜんと見送った。

試合後のロッカールーム。NTT北陸一筋7年目のベテラン左腕は、視線を床に落としていた。「こういう結果になったけれど、ドームの上を踏めていいピッチングができて……。メガネの奥の潤んだ目は隠せなかった。

### 第3試合=2回戦(午後6時5分開始)

川崎製鉄水島	002	001	000	3
本田技研鈴鹿	001	031	00X	5

▶審判(球審)辻(塁審)榎田、松村、石原(外審)清水忠、坂根

【川崎製鉄水島】	打安点	【本田技研鈴鹿】	打安点
① 吉	4 0 0	① 津	4 2 1
② ③ 吉	4 1 0	② 手	4 1 1
④ ⑤ 山	4 3 2	③ 松	4 1 1
⑥ ⑦ 藤	1 0 0	④ 藤	4 2 2
⑧ ⑨ 竹	3 1 1	⑤ 近	4 0 0
⑩ ⑪ 竹	1 0 0	⑥ 古	2 0 0
⑫ ⑬ 岩	1 0 0	⑦ 野	3 0 0
⑭ ⑮ 岩	2 0 0	⑧ 三	4 0 0
⑯ ⑰ 阪	1 0 0	⑨ 野	2 1 0
⑱ ⑲ 小	1 0 0		
⑳ ㉑ 加	0 0 0		
㉒ ㉓ 加	2 0 0		
㉔ ㉕ 加	2 1 0		
㉖ ㉗ 加	0 0 0		
㉘ ㉙ 加	1 0 0		
㉚ ㉛ 加	1 0 0		
㉜ ㉝ 加	1 0 0		
㉞ ㉟ 加	1 0 0		
㊱ ㊲ 加	1 0 0		

振球併残 4 5 0 9 計 31 9 3 振球併残 7 3 1 6 計 31 7 5

回	打安費	近	向	回	打安費
1	4 22 5 1	5	244 3	1	3 1 5 0
2	3 13 2 0	3	15 5 0	2	
3				3	
4				4	
5				5	

▶本塁打=山本1号(近岡)三塁打=近藤(二塁打=山本)試合時間2時間40分

### 故障治り自信つかむ

③…第3試合の本田鈴鹿戦。五回2死から自らのバント処理ミスをかっかけに3連打で逆転された川崎製鉄水島の吉本だが、表情は暗くなかった。高知商時代に甲子園出場して将来を期待されたが、右肩痛で戦列から離れていた。5年目の今季、その故障がようやく治り、この日が全国大会で初の先発。四回までを2安打1失点に抑えた。「自分のエラーでリズムを崩してしまっただけで、手応えを感じた」と吉本。敗れはしたが、自信という収穫を得たようだった。



10月7日

第1試合=2回戦(午前10時29分開始)

NTT四国 000 000 010 | 1
日本新薬 101 000 01X | 3

審判(球審)岡本(塁審)浜田正、山辺、松浦(外審)岡崎、中尾

Table with batting order and statistics for the first game on Oct 7.

振球併殺 6 1 1 5 計 327 1
振球併殺 5 1 2 8 計 3210 2

回 打安費 吉川 8 35101 田村 9 337 1

二塁打=橋本、中川2、河原、柴田>捕逸=中川>試合時間2時間11分

第2試合=2回戦(午後1時19分開始)

大和銀行 000 000 000 | 0
NTT関東 104 112 00X | 9

審判(球審)林(塁審)大石、長谷川、谷口(外審)川嶋、浜田敏

Table with batting order and statistics for the second game on Oct 7.

振球併殺 11 1 1 9 計 3412 0
振球併殺 6 5 2 4 計 3117 7

回 打安費 水田 3 1/2 197 4 立石 6 1/2 248 0
田村 2 103 3 田中 2 7 1 0
後藤 2 1/2 8 1 0 金沢 1 5 3 0

本塁打=吉田1号(水田)、キーン1号(田村)>三塁打=池田、阿久根>二塁打=沖原、川村、飯塚、阿久根>暴投=水田>捕逸=寺井>試合時間2時間38分

「勝てない」汚名を返上

アマ球界屈指のスラッガー、キーンを4番に何久根、沖原ら全日本クラスを並べたNTT関東打線。やはり全日本候補の立石を中心にした投手陣。丹監督が指揮を執って5年目。この間「関東実力ナンバーワン」と評価を高め、都市対抗には3回出場。ところが、すべて初戦で敗退した。

今夏の都市対抗では優勝候補に挙げられた。この選手権でも高評価され、監督として「実力はあるながら勝てないチーム」への憂慮が強かったに違いない。しかし、選手は「雪辱」を期していた。「都市対抗で出来なかった野球を大阪でやるよ」(野寺主将)がチームの指針だった。

1点先制して迎えた三回、阿久根の三塁打を口火に150%近い速球を持つ大和銀行の先発、水田から沖原、川村が二塁打。そして吉田が左翼席にたたき込んで流れをつかむ。五回、キーンが2番手・田村から本塁打を奪うと、試合の主導権を握った。守っては、立石から田中、金沢へとつなぎ、1回戦で7点差を引っ返した大和打線を牽制した。

前評判通りの快勝に野寺主将は「今年、都市対抗に負けて分かったのは、どこが勝つかは分からない、冷静に自分たちの野球ができたところが強いということ。この大会は上を狙ってます」と笑みを浮かべた。

第3試合=2回戦(午後4時35分開始)

松下電器 000 002 241 | 9
NTT東北 000 100 002 | 3

審判(球審)新井(塁審)井田、三宅、廣瀬(外審)今井、土井

Table with batting order and statistics for the third game on Oct 7.

振球併殺 2 2 0 5 計 3712 9
振球併殺 7 1 0 8 計 3510 3

回 打安費 建山 9 3810 3 津河 6 1/2 277 4

本塁打=木村1号(津河)>三塁打=井上>二塁打=三瓶、阿部、奥塚2、河口、只野、西岡、井上、橋原、田原>試合時間2時間49分

10月8日

第1試合=2回戦(午前10時29分開始)

NTT九州 000 000 000 | 0
三菱自動車岡崎 001 200 02X | 5

審判(球審)木嶋(塁審)林、池、南口(外審)川嶋、中尾

Table with batting order and statistics for the first game on Oct 8.

振球併殺 6 3 1 4 計 283 0
振球併殺 6 3 2 7 計 3010 5

回 打安費 津留 7 319 3 岩下 9 313 0
野村 1 5 1 2

本塁打=武輪1号(野村)>三塁打=武輪>二塁打=仲村>試合時間2時間11分

第2試合=2回戦(午後1時16分開始)

北陸銀行 020 000 000 | 2
日本生命 100 011 00X | 3

審判(球審)浜田正(塁審)大橋、橋、飯塚(外審)山崎、藤本

Table with batting order and statistics for the second game on Oct 8.

振球併殺 7 1 0 4 計 317 1
振球併殺 4 5 1 8 計 296 3

回 打安費 後藤 5 224 2 辻 7 1/2 297 2
竹島 3 132 1 土井 1 1/2 40 0

本塁打=福留2号(桑名)>二塁打=加藤、野上、後藤>暴投=桑名、辻>試合時間2時間33分

アッパー打法、で飛んだ流れ変え面目躍如 5回に同点弾

福留孝介三塁手(2)日本生命

第1打席から待ち続けていた狙い球は、左腕・桑名のカーブ。「大会前から江上コーチと一緒に、変化球を打ち上げ気味にして飛ばす練習をしてきたから」。その成果を試す機会がやってきたのは五回、2死無走者での第3打席だった。カウント1-3からこの日、初めてカーブが来た。

フルスイング。中堅手がすぐに追うのをやめた打球はバックスクリーン左へ、1回戦の一発と同様、観客席に突き刺さった後もまだ伸びていきそうな勢いを感じさせた。「五回が終わればグラウンド整備で間があくので、流れを考えるとその前に同点にしておきたかった」という狙って打った一撃、長距離打者の面目躍如だった。もっとも2試合で安打は、本塁打の2本だけ。「打ち損じも多い」というが、決勝まで進めばまだ3試合残っているだけに、さらなる爆発の予感も十分だ。

去就が注目されるドラフト前、最後の大会。「国際試合を多く経験して、力と力の勝負ができたことが最大の収穫だった」という社会人3年間の集大成にするつもりだ。



五回裏日本生命2死、福留(右)が同点のソロ本塁打を打つ

第3試合=2回戦(午後4時27分開始)

大阪ガス 220 000 000 | 4
日本通運 000 000 000 | 0

審判(球審)梅木(塁審)小林、清水忠、橋田(外審)渡口、土井

Table with batting order and statistics for the third game on Oct 8.

振球併殺 7 2 3 5 計 339 4
振球併殺 6 4 2 9 計 315 0

回 打安費 坂本 9 365 0 乙 6 1/2 299 4
田 2 1/2 7 0 0

本塁打=保瀬1号(乙)、沢多1号(乙)>二塁打=寺坂、保瀬2、木村>試合時間2時間41分

最速147km「信頼」のエース

九回裏1死、二塁、日本通運が送り出した打者は、今夏、2度目の久慈賞を獲得したスラッガー・田中泰。大阪ガス・坂本はおくすることなく直球を投げ込む。打球は二塁の正面を突き、三塁手がベースを踏んで一塁へと転送して併殺。マウンドの坂本は肩で大きく息をしてから笑顔を見せた。

豊富な投手陣を誇る日本通運と大阪ガスの対決。大阪ガスのキーポイントは、エース坂本の出来だった。竹村監督も「4、5点勝負。坂本が4点に抑えてくれば、なんとかなる」と踏んでいた。坂本自身も「中盤までは投げ合いになる」と覚悟。試合前はひどく緊張したという。しかし一回表、打線が2本塁打を放って援護する。「あれで楽になった」の言葉通り、一回、

# 第25回大会 大会記録

二回といずれも2三振を含む3者凡退で打ち取り、波に乗った。

その後は毎回走者を背負い、7回には1死満塁のピンチを迎えたが、最速147km/hを表示した直球で切り抜け、完投ベースに持ち込んだ。

「序盤に4点取れたので、7、8点取られても坂本でいくつもりだった」と話した竹村監督だが、強力投手陣に投げ勝ったエースに「いま、だれよりも頼りになる投手」と全幅の信頼を寄せなかった。

## ▽10月9日

### 第1試合=準々決勝(午前8時58分開始)

J	T	100	111	000	4
本田技研鈴鹿	002	040	00X	6	

▶審判(球審)生越(塁審)林、橋、監(外審)中尾、南口

[J]	T	打安点	【本田技研鈴鹿】	打安点
① 佐藤	伯戸	5 4 0 0	① 津	2 1 1
② 江	井	3 0 0 0	② 旗	4 1 2
③ 小	岡	5 1 1 1	③ 松	4 0 0
④ D	田	1 0 0 0	④ 近	4 1 1
⑤ HD	田	2 0 0 0	⑤ 古	4 1 0
⑥ 佐	茂	3 0 0 0	⑥ 村	4 0 0
⑦ 藤	屋	2 1 1 1	⑦ 三	4 2 0
⑧ 長	田	3 0 0 0	⑧ 翼	1 0 0
⑨ 半	奈	4 1 1 1		
⑩ 門	川	3 1 0 0		
⑪ 古	田	1 0 0 0		
⑫ H				
振球併殺		7 5 0 8	振球併殺	10 4 1 4
計		32 8 3	計	30 7 6

回	打安費	回	打安費
能 島	4/17 3 3	近 岡	5 22 4 2
金 沢	4 17 4 2	川 嶋	1/1 8 3 1
		太	1/1 5 0 0
		福 登	1 4 1 0

▶本塁打=眞本1号(能島)、長坂廣1号(近岡)▶三塁打=旗手▶二塁打=佐伯、野瀬、近藤、門倉▶捕逸=門倉▶試合時間2時間37分

### 第2試合=準々決勝(午後0時13分開始)

NTT関東	200	000	101	4
日本新薬	100	000	000	1

▶審判(球審)山崎(塁審)松村、井口、小西(外審)田代、堀口

【NTT関東】	打安点	【日本新薬】	打安点
① 坂	4 3 0 0	① 村	4 1 0
② 阿	5 3 2 2	② 永	3 1 0
R5 飯	0 0 0 0	H 奥	1 0 0
③ 飯	5 1 0 0	③ 中	4 0 0
④ 沖	5 2 2 2	④ 西	4 1 1
⑤ 千	2 0 0 0	⑤ 野	3 0 0
D 川	2 0 0 0	D 本	3 1 0
HD 笠	2 0 0 0	HD 本	2 0 0
HD 上	1 0 0 0	HD 野	1 0 0
HD 沢	4 2 0 0	H3 芝	3 2 0
⑥ 青	3 1 0 0	⑥ 松	2 0 0
⑦ 池	4 0 0 0		
⑧ 野	3 1 0 0		
振球併殺	8 2 0 10	振球併殺	7 0 0 3
計	38 13 4	計	30 5 1

回	打安費	回	打安費
藤 沢	9 31 5 1	田 村	8/1 40 13 4
		小 山	1/1 1 0 0

▶本塁打=阿久根1号(田村)▶三塁打=阿久根▶二塁打=飯塚、上村、池田、キーナン▶試合時間2時間47分

## まさかの先発 開き直り完投

「あの送りバントで気分的に楽になった」。NTT関東の先発・柳沢がそう振り返ったのは、2点リードで迎えた八回1死一、二塁の場面だった。

日本新薬・松村は初球、送りバントを決めて2死二、三塁に走者を進めた。この試合最大のピンチを背負った柳沢だが「あと1人アウトにすればいい」と、逆に次打者へ全神経を集中できたという。迎えた打者は一回に二塁打を浴びた上村。得意のフォークを連投し、6球目のフォークで上村を一塁ライナーに打ち取り、勝負を決定づけた。

先発は前日の夜に言い渡された。今季はほとんど中継ぎか、抑え役ばかり。まして、フォームを崩して先月12日の2次予選以来、登板は公式戦1試合だけ。

不安感が先走った。

しかし、マウンドに立つと開き直った。「最初から飛ばして、あとは若手に任せる」。一回に長短打を浴びて1点を失ったが、以降はスピードより制球重視の投球に切り替えた。二回以降は日本新薬のエース田村との投手戦。「向こうもきつい。この重任に耐えた方が勝ち」と、気持ちだけで投げた。終わってみれば5安打1失点の完投勝利。「メチャクチャうれしい」と柳沢。16年ぶり2度目のベスト4に導いた柳沢の予期せぬ完投劇は、初の頂点へ大きな弾みをつけた。

### 第3試合=準々決勝(午後3時34分開始)

三菱自動車岡崎	000	003	100	4
松下電器	122	000	24X	11

▶審判(球審)池田(塁審)三宅、橋本、飯塚(外審)石原、小林

【三菱自動車岡崎】	打安点	【松下電器】	打安点
① 夏	3 2 0 0	① 西	4 2 2
② 北	3 0 0 0	② 西	2 0 0
③ 6	2 1 0 0	D 若	3 1 1
④ 仲	1 0 0 0	R 森	0 0 0
H9 小	0 0 0 0	HD 丸	1 1 1
H4 田	4 1 2 2	③ 丸	5 0 0
⑤ 野	4 0 0 0	④ 山	4 2 1
⑥ 武	4 0 0 0	⑤ 木	2 0 0
D 岩	2 0 0 0	H 美	0 0 0
HD 佐	2 2 0 0	⑥ 竹	1 0 0
H 藤	3 1 0 0	⑦ 井	4 3 2
⑧ 長	1 0 0 0	⑧ 北	4 1 1
H4 谷	2 0 0 0	⑨ 藤	3 1 0
⑨ 黒	1 0 0 0	R7 清	2 0 0
振球併殺	6 2 2 5	振球併殺	7 5 0 10
計	33 7 2	計	35 11 8

回	打安費	回	打安費
桂	3 17 4 4	田 中	7 27 5 0
後 藤	3/1 15 1 0	建 山	2 9 2 0
山 口	1/1 6 0 0		
下 岩	1/1 7 3 0		

▶本塁打=田村1号(田中)▶二塁打=山口、光元、佐藤▶暴投=岩下▶捕逸=丸鬼▶試合時間3時間1分

### 第4試合=準々決勝(午後7時11分開始)

日本生命	210	010	300	7
大阪ガス	100	000	000	1

▶審判(球審)櫻根(塁審)小谷、橋本、新井(外審)山辺、清水雅

【日本生命】	打安点	【大阪ガス】	打安点
① 7	3 0 0 0	① 浦	4 1 0
② 野	4 1 1 1	② 保	3 1 0
③ 福	5 3 4 4	③ 沢	4 2 1
④ 天	4 2 0 0	D 中	4 1 0
⑤ 下	2 1 1 1	D 中	4 0 0
⑥ 野	0 0 0 0	④ 野	3 2 0
⑦ 内	3 0 1 0	⑤ 馬	2 0 0
D 大	3 1 0 0	⑥ 中	2 0 0
⑧ 下	0 0 0 0	H 牧	1 0 0
H 野	0 0 0 0	H 野	0 0 0
⑨ 野	3 0 0 0	⑦ 野	2 0 0
⑩ 全	4 1 0 0	H3 大	1 0 0
振球併殺	7 5 1 5	振球併殺	4 0 2 4
計	31 9 7	計	30 7 1

回	打安費	回	打安費
小 堀	9 32 7 1	前 山	2 12 3 3
		中 島	5 21 6 4
		北 田	1/1 5 0 0
		松 本	1/1 1 0 0

▶本塁打=福留3号(中島)、4号(中島)▶二塁打=天野、中西、箱崎2、下野▶試合時間2時間27分

## 効果的な連発

⑩…福留の2発はいずれも効果的な場面で飛び出した。五回の第3打席は、カウント2-2と迫り込まれながら、右中間に飛ぶ待望の追加点。七回の第4打席は、外角低めの嬉しい変化球を引っ張り、右中間上段席に届く豪快なアーチ。5点差に開くとどめの一撃だった。「右へ打球が飛ぶのは、体がよく回っている証拠。バットが振り切れている。甘い球を絶対見逃さないように集中している」と福留。この試合では先制の適時打も放ち、3安打、4打点。社会人では、手にしていない大きな大会での優勝まであと2勝、いよいよエンジン全開となってきた。

## ▽10月10日

### 第1試合=準決勝(午後0時2分開始)

NTT関東	600	001	110	9
本田技研鈴鹿	000	000	001	1

▶審判(球審)岡本(塁審)生越、伏見、東(外審)山崎、藤

【NTT関東】	打安点	【本田技研鈴鹿】	打安点
① 坂	6 2 2 2	① 津	2 0 0
② 阿	3 2 1 1	② 旗	3 1 0
③ 飯	4 0 0 0	③ 松	4 1 0
D 沖	4 0 0 0	④ 近	4 0 0
④ 千	1 0 0 0	⑤ 古	4 2 0
D 川	3 2 2 2	⑥ 村	4 0 0
HD 上	4 1 2 2	HD 三	2 0 0
⑦ 吉	0 0 0 0	HD 田	2 1 1
⑧ 江	4 2 1 1	⑦ 三	4 2 0
⑨ 野	5 2 1 1	⑧ 眞	3 0 0
⑩ 野	4 0 0 0		
振球併殺	2 7 2 10	振球併殺	3 3 0 7
計	38 11 9	計	32 7 1

回	打安費	回	打安費
伊 藤	5 20 4 0	福 登	1 11 5 6
海 老 原	1 4 1 0	木	8 35 6 2
金 沢	3 11 2 1		

▶本塁打=阿久根2号(太)、上本1号(太)▶二塁打=古川2、阿久根、磯部▶暴投=伊藤▶試合時間2時間38分

## NTT関東 2死から6点

NTT関東が積極的な打撃で、本田技研鈴鹿の成長株、左腕稲葉をあささり一回で粉砕した。

2死二塁。主砲のキーナンは勝負を避けられ一塁に歩かされた。2-2と迫り込まれながらも、5番・川村は2球連続でボールを選び、調整とチャンスを広げた。「勝負にいったが、ストライクがとれなかった」。稲葉がそう悔やんだように、この連続四球が結果的に致命傷となった。

「浮足立っているのが分かった」。稲葉の動揺を見て取った6番・青田は初球の甘い変化球を右前適時打。「簡単にストライクを取りにいってしまった」という稲葉の失役を見逃さなかった。さらに7番・池田も1球目を右前に、8番・鈴木は2球目を中前にはじき返した。野寺の四球で再度満塁としたあと、飯塚が1イニング2安打となる中前適時打で計6点。適時打4本のうち左打者が放ったのは3本。左打者封じを狙った稲葉を返り討ちにし、打者一巡の猛攻を浴びせた。

だが、今大会では7点差を逆転された試合もあり、丹監督は中盤までに、中押しできなかった攻撃陣に苦言を呈した。「二回以降はセンター返しを指示したが、修正できなかった」と、丹監督。先制打の青田も「(決勝に)勢いをつけるためにもコールド試合にしたかった」と、打線の申るみを反省した。

とはいえ、打線は3試合連続の2けた安打。投手陣は3試合でわずか2失点で、エース・立石を2試合温存できた。投打の歯車ががっちりと噛み合い、初優勝への階段を一気に駆け上がる勢いだ。

### 第2試合=準決勝(午後3時16分開始)

松下電器	000	030	040	7
日本生命	007	110	01X	10

▶審判(球審)大塚(塁審)宮本、赤坂、松村(外審)橋本、橋本

【松下電器】	打安点	【日本生命】	打安点
① 西	4 3 3 3	① 7	4 1 1
② 田	4 0 1 1	② 野	2 1 2
D 若	3 0 0 0	③ 福	4 1 1
HD 光	2 0 0 0	D 天	4 0 0
③ 丸	5 2 0 0	④ 野	3 1 1
④ 山	4 0 0 0	⑤ 内	0 0 0
⑤ 丸	4 0 0 0	D 藤	4 1 2
⑥ 竹	1 0 0 0	D 山	3 2 2
⑦ 木	4 2 0 0	⑥ 中	1 1 0
⑧ 井	3 1 0 0	⑦ 橋	2 0 0
⑨ 北	4 2 1 1	⑧ 賀	3 2 1
⑩ 藤	2 0 0 0		
H5 田	1 1 2 2		
振球併殺	1 3 0 8	振球併殺	10 2 0 3
計	37 11 7	計	30 10 10

回	打安費	回	打安費
植 田	2/1 15 4 3	辻	6/1 28 6 2
妹 須	1/1 2 1 0	谷 口	1/1 8 3 4
田 中	3 13 4 2	土 井	1/1 6 2 0
建 山	2 7 1 1		

▶本塁打=下野1号(山中)▶二塁打=西岡3、下山、田上、橋田▶暴投=辻▶試合時間2時間52分





▽10月11日

決勝(午後1時2分開始)

日本生命000 203 002 7  
NTT関東001 410 002 8

▶審判(球審)小林(塁審)大橋、榎田、木崎(外審)三宅、小西

【日本生命】	打安点	【NTT関東】	打安点
①竹内	4 1 0 0	①藤原	5 1 0 1
②H8 野上	1 0 0 0	②阿久根	5 2 2 1
③H5 早川	4 0 0 0	③沖野	5 2 2 1
④H6 福田	1 0 0 0	④一ノ瀬	4 1 1 1
⑤天下	4 1 0 0	⑤DHD	3 0 0 0
⑥H4 内下	5 4 0 0	⑥DHD	3 0 0 0
⑦H4 河	0 0 0 0	⑦DHD	4 2 0 0
⑧H4 大下	1 1 1 1	⑧DHD	3 0 0 3
⑨H2 三	1 1 1 0	⑨H	1 1 0 0
⑩H2 谷	3 1 0 0		

振球併殊	計	振球併殊	計
10 1 1 9	41 14 7	8 3 0 6	35 12 8

回	打安費	回	打安費
同	3/4 16 4 2	立	9 43 14 5
同	1/4 2 1 0		
同	2 10 3 1		
同	1/4 5 1 0		
同	1/4 6 3 2		

▶本塁打=キーナン2号(阿字)、阿久根3号(小畑)、三島1号(立石)▶三塁打=鈴木、大宅▶二塁打=下山、天野、吉田、鈴木、十河章、沖原▶録球=小畑▶捕逸=鈴木▶試合時間3時間16分

## “伏兵”サヨナラ打 NTT 関東

のをきっかけに1死一、三塁のピンチを招く。しかし、下野に対しては「変化球が決まらなかったの、カウントを整えるのも、決め球も同じだった」という最高148%を記録した横手からの直球一本で勝負。「ここしかない」というひざ元に142%を決めて三振に仕留め、大宅も内野ゴロに打ち破った。

159球の完投。「最初から飛ばしたのに疲れは感じなかった。監督がマウンドに来た時も何を言われたか覚えていない。これだけ集中したのは記憶にない」

結末の全く読めないドラマは、“伏兵”が決着をつけた。NTT関東の3番沖原は、九回の打席が回ってくるまで打率1割7分6厘、打点ゼロ。2人で16安打、9打点を挙げている1、2番の飯塚、阿久根、効果的な2本塁打を放った4番キーナンに挟まれて「乗り遅れていると感じていた」という。

だが、最後のひと振りですべてを帳消しにした。0-1からの2球目。高めに入ってきた直球を振り抜いたあたりは左中間へ。同点と逆転の走者の生還を確認したのは、二塁ベース上。「立石さんが粘りの投球をしていたので、このままでは終われないと思った。気持ちだけで打ちました」

その立石の頑張り、七回が圧巻だった。福留に予想外のバント安打を喫した

勝負のポイントと思われた福留との勝負は、失策と四球合わせて3回出塁を許したが、外野に打球は飛ばず、得点源を封じて流れを少しずつ引き寄せた。

NTT関東は野球部の再編問題に揺れる中、全員が「このチームで日本選手権を戦うのは最後かもしれない」という気持ちで臨んだ。その団結心が、大阪ドームに大輪の花を咲かせた。

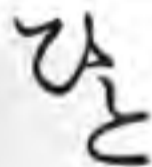


九回裏NTT関東1死一、三塁、沖原が左中間に逆転のサヨナラ二塁打を放つ

## 監督談話

NTT関東・丹 利男監督 立石は完ぺきな投球だった。五回までに4点リードで安心したが、簡単には日本一にはなれないですね。感激が込み上げてきます。

日本生命・早瀬万豊監督 選手は最後の1球まで戦う姿勢を見せたが、目標の全国制覇を果たせず悔しい。守りにミスが出た。もっと攻撃的な守備をしたい。



## NTT関東 丹 利男監督

チームとして23年ぶりの全国制覇。「NTT関東の名をもう一度歴史に刻むことができました」。やや語尾の上がる北関東なまりで目を細めた。

NTT本体の分割に伴い、全国11の野球部は今季限りの統廃合がささやかれる。そんな中、優勝

戦を前に「全NTTの代表として戦う」と力が入った。

高校卒業後1年目で都市対抗優勝投手になり、MVPに当たる橋戸賞、新人賞の若獅子賞、さらに打撃賞の3賞を同時に獲得したのが23年前。「電電関東の紅顔のエース」は6年間の選手生活後、電電公社のサラリーマンとして過ごした。

1995年春、監督に就任。掲げた方針が「自覚と責任」だった。「要するに『非管理野球』ということです」。練習の半分は自主練習。遠征中も門限・起床時間なし。

「怠けたら好きな野球ができなくなるだけ。自分で自分を律するのが社会人です」

しかし、優勝候補として臨んだ95年と今年の都市対抗で初戦敗退。「甘過ぎたのかも思ったが、選手が自己管理できないチームは強くない」。方針は変えなかった。

単々決勝。バントのサインを出したが選手は強振。本塁打となった。「すみません」と頭を下げる選手に、笑って手を差し出した。そんな監督を「厳しいが嫌いなれない親父を感じる」と選手は言う。

大会中、いつも成績を気に掛けてくれた義父が亡くなった。決勝の日が告別式。「立派な手向けの花になったと思います」。この時、初めて目を伏せた。

北茨城市出身。農家の5人兄弟の末っ子。北茨城高から電電関東(現NTT関東)へ。42歳。



## 福留悔し守備に乱れ

鋭く抜いた守備力で何度もピンチをしのいできた日本生命。だからこそ、四回に出た福留のミスが、この試合を大きく左右するポイントとなった。

先発・阿字がキーナンにソロ本塁打を浴びた直後の川村の打席。初球を引っかけた平凡な三ゴロだったが、腰高に守っていた福留がトンネル。緊張の糸が切れた阿字はこの後、二塁打と四球で満塁と傷口を広げ、無投した池添が鈴木に適時二塁打を打たれ、さらに3点を失った。

このミスにも増して福留が悔やんだのが九回1死一、三塁のサヨナラの場面。沖原の打球は、この向に三塁から遊撃の位置に回った福留の頭上を襲った。福留はジャンプ一番、飛びついたが、グラブの先をかすめるようにして左中間を転々。福留はサヨナラ負けを悟った瞬間、中継地点でへたり込んでしまった。

最後の場面を聞かれた福留は目を泣きはらして言った。「(あの打球は)捕れないこともなかった。捕りたかった」。九回表の連続長打で一時は逆転し、四回の福留のミスが帳消しになるところだった。それだけに「ミスは起こりうる。だが、カバーし切れなかった」という早瀬監督の言葉が、この大一番を最も適切に表現している。

注目去就については「プロに行きたい気持ちはある。納得がいけない終わり方なので、この後ゆっくり考えたい」と福留。4本塁打と豪打を連発して8年ぶりの選手権制覇に向けてチームを引っ張った福留だが、優勝旗にあと一步届かなかった責任を一身に背負うかのような顔だった。



九回表日本生命1死、福留の二ゴロが失策をさせよう

第25回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞・打撃賞 阿久根鋼吉内野手(NTT関東)  
4試合で16打数9安打、打率5割6分3厘をマーク。3本塁打、6打点。好守功打で優勝に貢献した。創価大卒。24歳。  
◇敢闘賞 辻太一投手(日本生命) 3試合に先発し3勝を挙げ、決勝進出の立役者となった。計21回を投げ、防御率は2.57。同大卒。25歳。  
◇首位打者賞 井上大外野手(松下電器) 3試合で11打数7安打、4打点。打率6割3分6厘。東洋大卒。25歳。  
◇大会優秀選手

【投手】辻太一、土井善和(以上日本生命)立石尚行(NTT関東)稲場孝夫(本田技研鈴鹿) 【捕手】門奈雄虎(JT)鈴木輝彦(NTT関東) 【一塁手】天野義明(日本生命)キーナン・ティミイ(NTT関東) 【二塁手】阿久根鋼吉(NTT関東)西岡隆一(松下電器) 【三塁手】福留孝介(日本生命)北口正光(松下電器) 【遊撃手】野上修(日本生命)沖原佳典(NTT関東) 【外野手】下山真二(日本生命)飯塚智広(NTT関東)井上大(松下電器)夏目昌則(三菱自動車岡崎) 【指名打者】鎌田倫昌(JT)



【準決勝】NTT関東-本田技研鈴鹿 一回裏NTT関東2死満塁、飯塚が中前打を放ち5、6点目



【準々決勝】三菱自動車岡崎-松下電器 七回裏松下2死満塁、北口のゴロが相手エラーを誘い三塁走者森下(左)、二塁走者奥野が相次いで生還



【2回戦】大和銀行-NTT関東 一回裏NTT関東2死一、二塁、打者川村の時、水田の暴投で二塁から阿久根が生還し先制



【決勝】日本生命-NTT関東 五回裏NTT1死、阿久根が右越えの本塁打を放つ



【準々決勝】日本生命-大阪ガス 七回裏日本生命2死一塁、福留が2打席連続本塁打となる右越え2ランを放つ



【2回戦】大阪ガス-日本通運 三回裏日本通運1死一、三塁、田中敏の一塁ゴロで三塁走者の木村が本塁を突き、捕手・田島に逸突するが、タッチアウト



【1回戦】三菱自動車岡崎-日産自動車 五回裏三菱自動車岡崎1死一塁、仲村が右越え2ランを放つ



【2回戦】松下電器-NTT東北 八回裏松下電器、2死満塁、井上大が二塁強襲の適時打を放つ



【準々決勝】JT-本田技研鈴鹿 五回裏本田技研鈴鹿1死一、二塁、投手の右翼陣三塁打で二塁走者に繋ぎ一塁から津田が生還し5点目

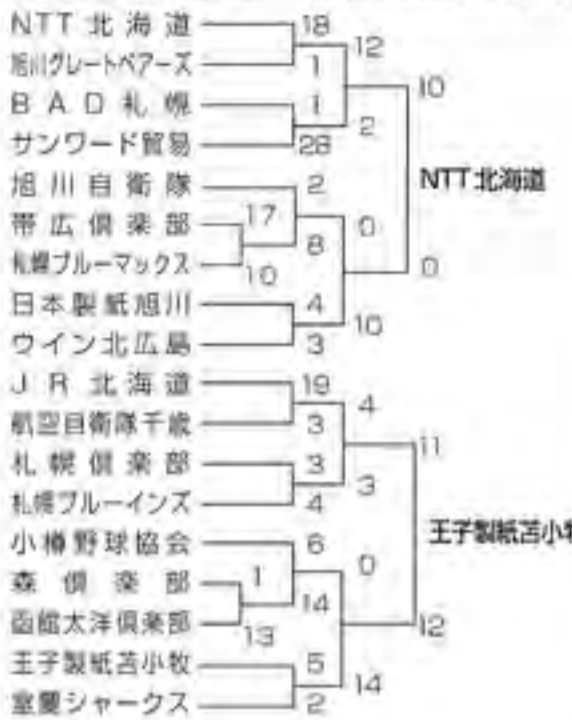


【1回戦】新日鉄名古屋-日本生命 力投する日本生命の先発、辻



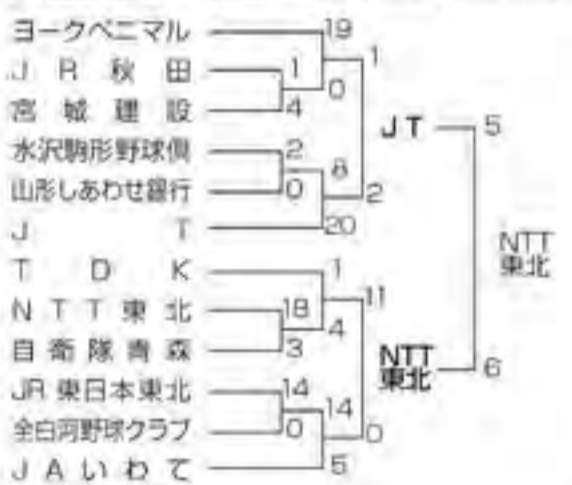
**北海道**

9月8日から 6日間 苫小牧市宮緑ヶ丘球場



**東北**

9月11日から 3日間 秋田市宮八幡球場・秋田県立野球場



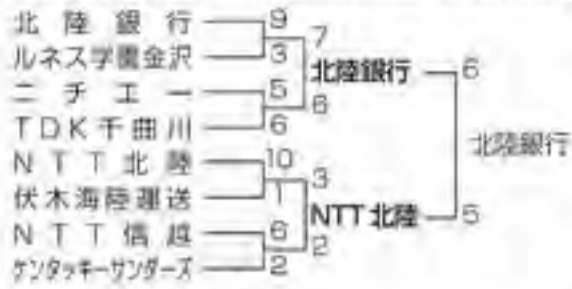
**関東**

9月8日から 5日間 群馬県太田市運動公園



**北信越**

9月12日から 2日間 富山県富山市民球場



**東海**

9月4日から 7日間 岡崎市民球場



**近畿**

9月10日から 7日間 西京極総合運動公園・野球場



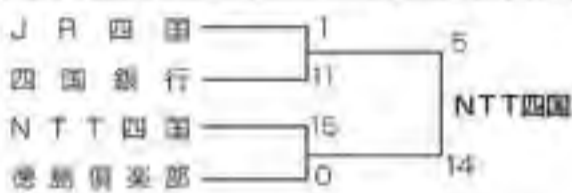
**中国**

9月1日から 6日間 倉敷マスカットスタジアム・岡山県倉敷市野球場



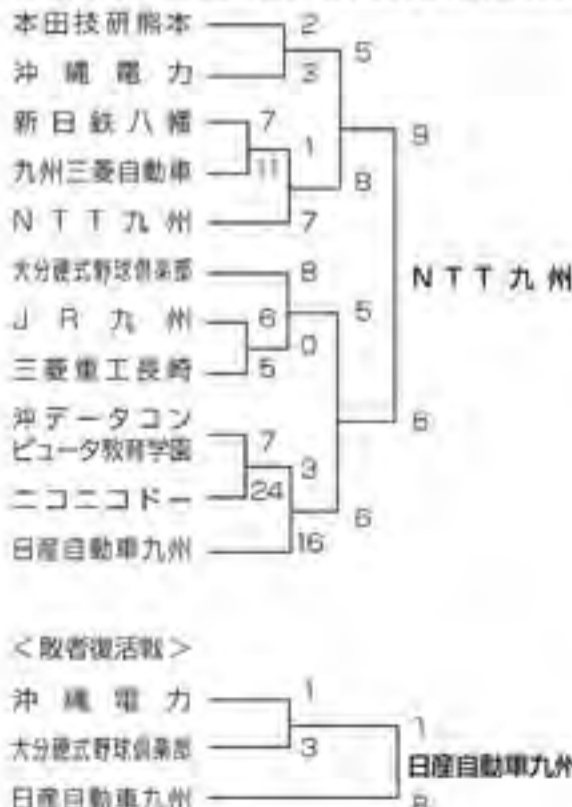
**四国**

9月5日から 2日間 高知県宮春野球場



**九州**

9月9日から 5日間 熊本県山鹿市民球場・熊本県宮崎台球場



NTT北海道

Table listing players for NTT北海道, including names like 野高小石, 堀野井成, and 堀野井成, with their respective positions and numbers.

日本通運

Table listing players for 日本通運, including names like 杉本大樹, 杉本大樹, and 杉本大樹, with their respective positions and numbers.

日産自動車

Table listing players for 日産自動車, including names like 村上隆一, 村上隆一, and 村上隆一, with their respective positions and numbers.

新日本製鐵名古屋

Table listing players for 新日本製鐵名古屋, including names like 山田隆一, 山田隆一, and 山田隆一, with their respective positions and numbers.

王子製紙苫小牧

Table listing players for 王子製紙苫小牧, including names like 石木山崎, 石木山崎, and 石木山崎, with their respective positions and numbers.

本田技研

Table listing players for 本田技研, including names like 柳川隆一, 柳川隆一, and 柳川隆一, with their respective positions and numbers.

北陸銀行

Table listing players for 北陸銀行, including names like 石川隆一, 石川隆一, and 石川隆一, with their respective positions and numbers.

本田技研鈴鹿

Table listing players for 本田技研鈴鹿, including names like 山田隆一, 山田隆一, and 山田隆一, with their respective positions and numbers.

J T

Table listing players for J T, including names like 加藤隆一, 加藤隆一, and 加藤隆一, with their respective positions and numbers.

NTT関東

Table listing players for NTT関東, including names like 丹波隆一, 丹波隆一, and 丹波隆一, with their respective positions and numbers.

NTT北陸

Table listing players for NTT北陸, including names like 北川隆一, 北川隆一, and 北川隆一, with their respective positions and numbers.

三菱自動車京都

Table listing players for 三菱自動車京都, including names like 山田隆一, 山田隆一, and 山田隆一, with their respective positions and numbers.

NTT東北

Table listing players for NTT東北, including names like 堀野井成, 堀野井成, and 堀野井成, with their respective positions and numbers.

東芝府中

Table listing players for 東芝府中, including names like 堀野井成, 堀野井成, and 堀野井成, with their respective positions and numbers.

三菱自動車岡崎

Table listing players for 三菱自動車岡崎, including names like 堀野井成, 堀野井成, and 堀野井成, with their respective positions and numbers.

日本新薬

Table listing players for 日本新薬, including names like 堀野井成, 堀野井成, and 堀野井成, with their respective positions and numbers.



松下電器

監督	大高専大	43
投手	大高専大	19
捕手	大高専大	20
内野	大高専大	23
外野	大高専大	24

小西酒造

監督	大高専大	37
投手	大高専大	24
捕手	大高専大	26
内野	大高専大	21
外野	大高専大	22

NKK

監督	大高専大	36
投手	大高専大	31
捕手	大高専大	25
内野	大高専大	23
外野	大高専大	20

日産自動車九州

監督	大高専大	43
投手	大高専大	19
捕手	大高専大	20
内野	大高専大	21
外野	大高専大	22

日本生命

監督	大高専大	40
投手	大高専大	19
捕手	大高専大	20
内野	大高専大	23
外野	大高専大	24

川崎製鉄水島

監督	大高専大	40
投手	大高専大	19
捕手	大高専大	20
内野	大高専大	23
外野	大高専大	24

NTT四国

監督	大高専大	39
投手	大高専大	25
捕手	大高専大	21
内野	大高専大	22
外野	大高専大	23

NTT九州

監督	大高専大	47
投手	大高専大	24
捕手	大高専大	25
内野	大高専大	26
外野	大高専大	27

大阪ガス

監督	大高専大	37
投手	大高専大	26
捕手	大高専大	22
内野	大高専大	19
外野	大高専大	19

大和銀行

監督	大高専大	40
投手	大高専大	25
捕手	大高専大	23
内野	大高専大	24
外野	大高専大	24

「夏」との違い  
試される単独チームの力

日本選手権は、都市対抗と並ぶ社会人野球の2大会。今年の出場チームの中で、日本選手権だけを制したチームは、第3回の新日鉄名古屋と、第7回の日本鋼管福山(現NKK)の2チーム。いずれも大会初期のチャンピオンだ。来年で70回を数える都市対抗に比べると、歴史では及ばないものの、両チームにとって、日本選手権のタイトルはどんな影響を与えているのだろうか。

新日鉄名古屋の中村淳監督(36)は「かつて実力日本一に輝いたということは誇りだが、今の選手に押しつけるつもりはない」といい、NKKの村上文敏監督(35)も「正直な話、うちは元チャンピオンチームという意識はない」という。中村監督は優勝の5年後、村上監督は4年後に入社した。当時、都市対抗を終えるとシーズンオフと考えるチームが多く、夏を最後に引退する選手も少なかった。両監督とも「選手権に夏ほどの意気込みはなかった」と打ち明ける。

「しかし、いまは違う。各チームが異なる野球スタイルで優劣を競う意識が、秋にはある」と村上監督は、選手権が25回を重ねて都市対抗とは違う「味」を生み出したという。他チームの主力を5人まで

補強できる都市対抗は、独自のカラーが出にくくなる。だが、単独チームで戦う選手権は、チームが目指す野球で勝負する大会だというのが、

「選手権制覇は、今後も守るべき伝統」と村上監督は続ける。優勝時の日本鋼管福山は、田村忠義という32歳のベテランが投手陣をまとめ、全4試合で相手をいずれも2点に抑えて頂点に立った。「うちは鋼打線の変種で、打のチームといわれるが、投打のまとまりがあってこそ、初めて優勝できるということを実証したのです」。チームの指針と力量が試されるのが、選手権の最大の魅力だと力説した。



第7回大会で優勝、ダイヤモンド旗を手にした日本鋼管福山(現NKK)

# 第26回 大会

1999年(平成11年)10月9日▶10月17日 大阪ドーム

優勝=シダックス ————— 初優勝



## 創部7年 シダックス初の栄冠

松下電器三たび悲願逃す

同じ年の都市対抗で黒獅子旗を手にした東芝をはじめ都市対抗の8強中6チームが姿を消す一方、5チームが初出場を果たした『戦国大会』。2年連続の東西対決となった決勝は、本塁打攻勢で得点を重ねたシダックスが松下電器の反撃を振り切って、初のダイヤモンド旗を手にした。シダックスは1992年に創部、翌年から主要大会に出場して以来、わずか7年で日本一の栄冠を勝ち取った。一方、20年ぶりに決勝進出を果たした松下電器にとって、悲願の優勝はまたしても成らなかった。

強打のシダックスは、カストロ政権が生んだキューバの英雄・メサが放った特大アーチを合図に、計4本の本塁打を見舞った。序盤のリードを保って八回から吉井が投入されると、この守護神はアウトを取るたびに派手なアクション。「相手は名門。絶対に負けたくなかった」。田中主将が振り返るように、キューバ選手の参加や積極的な補強で全国クラスに躍り出した新興チームの闘志が優勝旗を引き寄せたといえる。一方、過去に都市対抗と日本選手権で1回ずつ決勝に進出している松下電器は、三た

び栄冠を逃した。

また、この大会限りで休、廃部となった北陸銀行、小西酒造、住友金属の3チームは、いずれも闘志あふれる接戦を最後まで演じ、ドーム全体に感動を呼んだ。



初優勝を決め、喜びを爆発させるシダックスナイン。

### 大会 審判

▷委員長=大村一彦▷副委員長=西大立目永、三宅孝次、竹中清二▷幹事=南喜右衛門、岡本好二、津田進▷委員=小林勉、大橋慶三、木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、赤井淳二、山崎浩、南口正人、小谷啓介、池友久、三宅章介、松浦信夫、井口光史、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、東優孝、新単定、北野雅行、樋公政、長谷川文彦、脇宣寿、藤本勝巳、山邊光喜、宮木明、井田保則、梅本吉徳、伏見文隆、石原義市郎、細見英昭、赤坂雅彦、松村洋、浜田敏明、川崎義樹、小西忠宏、谷口吉洋、阪根雅弘、堀口光、岡崎慎太郎、清水雅彦、田代圭二、土井淳宏、高矢陸彦、山口篤彦、豊川清、西尾由紀治



▽10月9日

第1試合=1回戦(午前10時25分開始)

Table with 5 columns: Team, R, H, E, Score. North Gumi Bank 110 000 200 4, Seiyo Shuzo 000 012 101 5

Player statistics table for the first game, including batting averages and runs scored for both teams.

>本塁打=西川原1号(鈴木),加藤1号(鈴木)◇二塁打=橋井2,柴本2,上中◇試合時間3時間

「休部」対「廃部」意地の激突 先制、再逆転も…北陸銀行無念のフィナーレ

原部が決まった北陸銀行のエースは竹島彰伸、32歳。ベテランだけに他の企業チームに移るつもりはなく、負ければ白球を木気で握ることは二度とない。休部になる小西酒造の主将は柴本哲男、27歳。妻と1男があり、会社に残る決意を固めている。やはり黒星を喫した時点で、バットを置く覚悟はできている。

ともに今大会が最後となる「休部対決」は、下手投げ竹島の熱投で幕を開けた。柴本が回想する。「直球が速いという情報はなかったのに、下手からホップするすごい直球を投げた。思っていたより、2点を追う小西酒造は四回まで3安打無得点。竹島の気迫に完全にのみ込まれていた。

公的資金を受け入れた銀行の野球部は次々に消えている。企業側の「せめて(復活の可能性を残す)休部に」という懇願が金融当局に却下されたケースも。竹島を支えたのはそんな状況への反骨心だったかもしれない。

だが、切羽詰まっているのは小西酒造も同じだ。同情しているわけにはいかない。逆転した直後に再逆転された七回、2死二塁。柴本が直球を振り抜くと、白球は中堅手後方を襲う。こん身の同点二塁打。序盤のハイペースがたたり、竹島は「球威が落ちていた」(2番・松下)。九回裏の攻撃では1死一、三塁から登板した桑名から柴本、松下が連続四球を選び、押し出しでシーソーゲームに幕が下りた。

がっくりひさを折る選手。地面に視線を落として身動きしない選手。北陸銀行ナインの最後の姿に見入った柴本は「相手のことや、自分たちの休部のことを考えたら沈んでしまう。とにかく1試合でも多く、それだけを考える」。勝ち残った選手の胸の内も、また複雑だった。

第2試合=1回戦(午後2時8分開始)

Table with 5 columns: Team, R, H, E, Score. NKK 020 120 211 9, Shinko 010 110 000 3

Player statistics table for the second game, including batting averages and runs scored for both teams.

>本塁打=谷川1号(飯島)◇三塁打=坂野◇二塁打=久門2,坂野2,鈴木,福元,向井◇暴投=加藤◇ボーク=渡辺俊,加藤◇試合時間3時間7分

新人離れの頭脳投球

加藤竜人投手(23)NKK

流通経済大から入社して1年目。新日鉄君津の渡辺俊(国学院大)とルーキー同士の先発となったが、新人らしからぬプレート度胸で、勝ち投手の権利をものにした。

「相手がストレートを打っていると最初から分かった」ため、100%。そこそこのスローカーブを組み立ての中心に割れた。真しんでとらえられたファウルが毎回続いたが「制球が良かったから、決定打にならないと思って」と平然と同じ球を連投した。追い込めば、140%。近い速球で内角をスバリ、くせ者の1番・青木を4打席連続三振に仕留めるなど、30%を超えろの緩急を武器に、七回まで毎回の12三振を奪った。

「今日は調子が悪かったです。今度は完投します」。大胆な投球術とは対照的に、試合後の口ぶりは控えめだった。

第3試合=1回戦(午後5時47分開始)

Table with 5 columns: Team, R, H, E, Score. Daihatsu 000 002 040 6, NKK 000 014 04x 9

Player statistics table for the third game, including batting averages and runs scored for both teams.

>本塁打=大森1号(秋吉),木戸1号(森嶋)◇二塁打=徳山,丸山,藤山,今村,中島,広畑◇試合時間3時間9分

▽10月10日

第1試合=1回戦(午前10時28分開始)

Table with 5 columns: Team, R, H, E, Score. Prince 000 000 002 2, Daihatsu 010 400 00x 5

Player statistics table for the fourth game, including batting averages and runs scored for both teams.

>本塁打=西内1号(長崎)◇二塁打=福川,誠田,荒木◇試合時間2時間5分

勝ちへの投球に徹し

山口和男投手(25)三菱自動車岡崎

全力投球しているようには見えないが、ストレートは140%。台の後半を記録する。バットに当たられても球威でねじらせる持ち味を存分に発揮し、八回まで相手打線を完ぺきに封じ込めた。

広島電機大を出て入社3年目の25歳。昨年の日本選手権予選までは、制球難で出番はなかった。威力あるボールを持ちながら、力んで投げでは自滅していたという。しかし、昨年のこの大会で優勝候補だった日産自動車戦に抑えて登板。「かけだった」という堀井監督の期待に応え、1回3分の1を無安打で抑えたのを機に急成長した。

「150%?出ると思います」と自信を隠さないが「でも、フォームを崩したくないんで」とスピードよりも勝利のための投球に徹することができるようになった。プロ入りが確実視され、今の仲間と野球ができるのもこれが最後の大会になる。「あいつがいたから勝てた。そう言われるようになりたい」

決勝が行われる17日は長女の1歳の誕生日。その日に最高のピッチングをして、世話になったチームメートに恩返しをしようと考えている。

第2試合=1回戦(午後1時14分開始)

Table with 5 columns: Team, R, H, E, Score. NKK 030 010 44 12, Daihatsu 000 000 00 0

Player statistics table for the fifth game, including batting averages and runs scored for both teams.

>本塁打=前田敦1号(太田)◇三塁打=大塚◇二塁打=西田,山田,三井◇試合時間2時間15分

仲間の分まで、こんしんの87球

「思い切って投げることを考え、初回から飛ばした。今日は出来すぎ」。14安打と爆発した打線に援護され、無四球で危なげなく3安打完封したNTT西日本の先発・山本は再編されたチームにとっても、自身にとっても日本選手権での初勝利を素直に喜んだ。

NTT中国のエースだった山本は移籍の際、少し迷ったという。28歳。「各チームの主力がそろそろで、今まで積み上げてきた実績を一から始めるのは年齢的にも、かなり厳しい」

だが、覚悟を決めた後は初心に帰り「手抜きなしで走り込んだ」。先発の機会が巡ってきたのは、都市対抗で主戦・立木ら8人が補強に出ている間だった。そのチャンスを生かした山本に、北川監督は「今、一番調子がいい」とドーム初戦の先発を託した。

右腕から伸びのある速球と、スライダーを正確に投げ分けた。二塁を踏ませたのも一度だけ。八回コールドだったが、わずか87球で仕留めた。山本を奮い立たせた理由はもう一つある。山本らが抜けたNTT中国は、クラブ化など厳しい現実を抱え、今大会も1次予選で敗退。「中国時代のチームメートから、おれたちの分も活躍してくれよって言われているんです」

旧チームの期待を背負いながら、山本に代表されるように切磋琢磨して、新戦力を整えてきた「西のドリームチーム」は、怖い存在になりそうだ。







第3試合=2回戦(午後4時46分開始)

日本IBM野洲 100 100 010 | 3
N K K110 000 000 | 2

Scoreboard for the 3rd game, Japan IBM Nishiyama vs NKK. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=向井、福元、久門、大森、重東>試合時間3時間16分

10月13日

第1試合=2回戦(午前10時25分開始)

松下電器 000 010 203 | 6
三菱自動車岡崎 000 000 014 | 5

Scoreboard for the 1st game, Panasonic vs Mitsubishi. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=野波1号(愛敬)、丸鬼1号(平井)>二塁打=清原、北村、山口(松)>試合時間2時間37分

制球の差で明暗

多彩な投球術でほんろうする松下電器・愛敬。力で押す三菱自動車岡崎・山口。柔と剛の対決は、制球の差が明暗を分けた。

五回に四球をきっかりに1点を失った山口は、七回にも1死から奥野四球、森下安打と五回と同じパターンで、三塁に走者を背負った。続く田原の打球は強引な当たりゴロ。絶好の併殺コースに「これで終わり」と思った山口だったが、二塁ベースに入った遊撃手からの送球が、走者に当たり1点を失ったうえ、一塁に走者を残した。

走者の守備妨害との三菱出場前の抗議は認められず、清原に直球を投げられ中越え二塁打。「抗議の間に気が緩んだ」という山口は、マウンドを岩下に託して降板した。速球は常時140km/h。台後半を記録したが、奥野に与えた二つの四球が、いずれも失点につながった。

これに対し「出来は良くなかった」という愛敬だったが、切れのあるスライダーや直球を、内外角に投げ分けた。スピードこそ山口に譲るものの、精密機械のような制球で、七回まで徹発3安打と、付け入るすきを与えなかった。

最終回に打球を右手中指に受け、しびれから微妙に制球が狂って1点差まで迫り上げられ、なおも2死一、二塁のピンチ。だが「愛敬と心するつもりだった」という島田監督の期待を裏切らなかつた。

山口は精神力で負けた」と悔いた。長打でサヨナラのピンチにも制球を乱さない愛敬の精神力が、三菱岡崎を屈辱させた。

第2試合=2回戦(午後1時35分開始)

JR東日本東北 004 000 111 | 7
NTT西日本 000 300 030 | 6

Scoreboard for the 2nd game, JR East vs NTT. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=西村1号(宜木)、西田1号(小沼)、丹野1号(酒井)、鈴木祐1号(山本)、三井1号(誠)>二塁打=佐藤薫、山口、大原、西村、山田、宮崎>試合時間2時間47分

第3試合=2回戦(午後4時55分開始)

神戸製鋼 000 010 101 3 | 6
朝日生命 200 100 000 0 | 3

Scoreboard for the 3rd game, Kobe Steel vs Asahi Life. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=藤井徹1号(小倉)、松山1号(小倉)、下原1号(長谷川)>二塁打=山本、則次、柴、上明>暴投=小倉>試合時間2時間55分

ドームでアウトなし

神戸製鋼は8番の上羽が4打数4安打と大活躍。中堅、右翼へクリーンヒットを飛ばした。同点の十回には先頭打者としての活躍に二塁打、勝ち越しの口火も切った。2年前の日本選手権も4打数4安打で、大阪ドームではアウト知らず。「地元の応援があるから、気持ち盛り上がる。相性もいいから次も打ちたいですね」

10月14日

第1試合=2回戦(午前10時26分開始)

J T 010 211 104 | 10
JR西日本 011 200 200 | 6

Scoreboard for the 1st game, JR West vs JTB. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=川崎1号(前島)、瀬戸1号(泉)>二塁打=瀬戸、高山2、中川、上川、金谷>試合時間3時間21分

第2試合=2回戦(午後2時21分開始)

JR東海 000 200 0 | 2
シダックス 035 030 1 | 12

Scoreboard for the 2nd game, JR Tokai vs Sidax. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=坂田1号(大角)、酒藤1号(家接)>二塁打=入江、田中、伊藤、佐々木、壽山>試合時間2時間27分

第3試合=2回戦(午後5時25分開始)

日産自動車 010 000 001 | 2
三菱自動車京都 000 230 10X | 6

Scoreboard for the 3rd game, Nissan vs Mitsubishi. Includes batting order, statistics, and individual player performance.

二塁打=石川1号(辻)>二塁打=石川、内海、廣野>暴投=久保>ボーク=辻>試合時間3時間10分

「ソウル体験」ダテじゃあない

登板数・予選リーグ2(投球回数・フィリピン戦1、台湾戦2)

三菱自動車京都の森が、先月、日本代表としてソウルのシドニー五輪アジア最終予選で残した数字だ。アマでは杉浦(日本生命)に次ぐ26歳の経験を買われて選ばれたが、全8打手中、ただ一人被だけが、決勝リーグで投げられることを許されなかった。

合流した後、仲間のだれもが森の異変を感じた。ノリがよく、笑いとれるキャラクターに笑顔がない。そして、事あるごとにこんな言葉を漏らしていた。「ソウルの借りは必ず返す。日産を完済する」。屈辱感を、何としても聞かしたい。そんな気遣いがこの口のマウンドにみなぎっていた。だが、序盤はそれが空回り。「自分でどうしようもないくらい、入れ込んでいた」と振り返る森。制球が定まらず、度々四球を出し、二回には、それを足場に先制点を許した。

だが、ここからソウルでの経験が生きた。松坂の力投、韓国への応援で沸き返る球場の喧騒...「あの修羅場に比べれば、これくらい」と思うと肩の力が抜け、球に気持ちを乗せられた。八回まで許した安打は先制された適時打だけ。日産の主砲・鹿野や村上監督に「ビデオで研究した以上のキレと、すさまじい気遣いを感じた」と言わしめた。

キューバが参加する22日からの4カ国・地域対抗に呼





### ▽10月17日

決勝(午後0時59分開始)

松下電器	0 0 0	0 0 2	0 0 0	2
シダックス	2 0 3	0 0 0	1 0 X	6

▶審判(球審)小林(塁審)木島、赤井、生越(外審)小谷、北野

【松下電器】	打安点	【シダックス】	打安点
① 7 濱	4 0 0	① 江	4 2 0
② 西	4 1 0	② 藤	4 0 0
③ 山	4 1 0	③ サ	4 2 2
④ 九	3 0 0	④ ツ	4 2 3
⑤ 井	4 2 2	⑤ 中	3 0 0
⑥ 田	4 2 1	⑥ 島	3 0 0
⑦ 光	3 1 1	⑦ 田	3 1 1
DH 藤	1 0 0	⑧ 藤	3 0 0
⑧ 石	0 0 0	⑨ 野	3 0 0
⑨ 水	2 1 0		
⑩ 奥	2 0 0		
⑪ 田	4 1 0		

振球併残	計	振球併残	計
7 1 0 7	35 9 2	9 0 2 1	31 7 6

▶本塁打=メサ2号(大久保)、田中4号(大久保)、5号(藤田)、坂田2号(田中)▶二塁打=入江▶試合時間2時間23分

## 「名門には負けない」 移籍組・田中が連発

上げられ、チームは「いつもの野球」で頂点へと進んでいった。

「相手は名門。絶対に負けたくなかった」。主将の田中は言う。キューバ選手の参加や積極的な補強で全国クラスに躍り出た新興チームには「勝つための寄せ集め集団」という中傷もある。選手のだれもが「勝つてはね返すしかない」と分かってきた。

そして頂点へ。社会人野球界で休部、廃部が相次いだ今年、その最後を飾る選手権の優勝旗・ダイヤモンド制授与に、廃部したたくぎん、徳谷組から来た田中主将と斉藤、西濃運輸から移籍した吉井の3人が並んだ。「野球をやる喜びは、だれよりも知っているつもりです」。晴れ晴れとした笑顔で、田中が優勝旗を高々と掲げた。

### 監督談話

シダックス・竹内昭文監督 投手陣が本当に素晴らしい仕事をした。好投手の条件は制球だと証明した。金属バット全盛期に1点台の防御率は、称賛に値する。  
松下電器・島田幸雄監督 適時打が出なかった。だが最後までゴロでつなぐ野球が徹底できたのは大きな財産。来年の糧にしたい。

## ひとと

## 今度は堂々と妻子のもとへ帰れます。

### シダックス 竹内 昭文監督

「未練」。この2文字のために、妻と3人の子どもを札幌に残し、「約束された将来」を捨てた。

その未練とは「日本一になる」ことだった。1973年、法大から北海道拓殖銀行(たくぎん)に入行、捕手として活躍し、日本選手権の第5回大会(78年)で優勝。都市対抗でも準優勝2回を味わい、北海道社会人野球の全盛期を築いた。

だが、指導者としては頂点を極めていない。87年から3年務めた法大監督では、リーグ優勝を4回しながら大学選手権で勝つ、たくぎん監督も92年までの3年間で、都市対抗に1回出場して初戦敗退、日本選手権には顔を出すことすらできなかった。

銀行の支店長研修を一年半こなし、95年小樽支店次長に。その後の経営破たんは想像できなかったが、順調なら支店長の夢もあった。妻純子さん(48)にも「安定した道をどうして捨てたの」と反対された。しかし聞き入れず、96年にシダックス入りを決意。昨年、コーチから監督に昇格した。

練習では、専用球場を持たないハンディがある。が、メサの母国キューバを引き合いに出し、選手に「もっと質いい環境でも金メダルの野球はできる。自分らもその気概を学ぼう」と言い聞かせた。單身社任生活5年目。すべてを犠牲にしてロマンを迫る男の言葉に、選手は意気を感じた。

30日に小学3年生の二女の学芸会がある。「ストレス発散に、普段は上司に内証で札幌に逃げ帰っていましたが、今度は堂々と帰れますし、父の顔に戻った」

シダックス一回2死、打席にはメサ。松下電器先発・大久保の初球。ストレートをたたき、打球はライナーで中堅へ。スコアボードに届こうかという強烈な一発。続く打席は田中。長打を警戒して直球はすべてボールにする大久保の4球目、スライダを捕らえて左翼席へ。二塁上を、田中が両手を大きく広げたまま走り抜けた。

チャンピオンを決める一戦。流れは、まだプレーボールの余韻の中で飛び出した2者連続の本塁打で、シダックスに大きく傾いた。

「あの投手陣から、5点も6点も取れない」。松下電器との対戦を前に、竹内監督には、投手戦になれば不利との読みがあった。しかし、三回に田中の2打席連続アーチ、七回にも坂田の大会2号が打ち



三回裏シダックス2死、二塁、田中が中越えに2打席連続の2点本塁打を打ち両手をあげ、ダイヤモンドを回る

## 9安打を生かせず

強打のシダックスは、カストロ政権が生んだキューバの英雄・メサが放った特大アーチを合図に、計4本のアーチを見舞った。序盤のリードを保って八回から吉井が投入されると、この守護神はアウトを取るたびに派手なアクション。松下電器の愛敬が登板したのは、敗色濃厚な八回だった。

点差は4点。1死からマウンドに上がると、メサの胸元を攻めて一邪飛。さらにこの日2アーチの田中をストレートで押し戻り、中飛。「あれ(吉井のパフォーマンス)を見せつけられて本当に悔しかった」。愛敬は都市対抗で若獅子賞を受賞した大黒柱だが、2回戦で打球を右腕の右手で取りにいき、中指に傷を負った。決勝の先発回避もそのあたりが影響していたのかもしれない。意地が詰まった7球だったが、勝負はその前で決まっていた。

松下電器は過去、都市対抗と日本選手権で1回ずつ決勝に進出したが、いずれも敗退。大会直前には長引く不況から卓球部とサッカー部の廃部が決定され、「出場だけでは意味がない。優勝が宿命」(主将・西岡)と頂点を意識して大会に臨んだ。西岡は言う。「シダックスは大舞台にずっと入り込んだ。自分たちはそれができなかった」。先制パンチをもらって、背負った荷物がさらに重くなったのか、名門・松下電器が3たび、眼前で優勝旗をさらわれた。



松下電器の愛敬



第26回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 田中善則内野手(シダックス) 5試合で19打席9安打、打率4割7分4厘をマーク。5本塁打、8打点の活躍で優勝に貢献した。法大卒。32歳。

◇敢闘賞 九鬼義典捕手(松下電器) 4試合で15打数6安打の打率4割、2本塁打、5打点。守備でも好リードが光った。大院大卒。30歳。

◇打撃賞 ビクトル・メサ外野手(シダックス) 5試合で21打数8安打、2本塁打、6打点。打率3割8分1厘。キューバ文化体大卒。39歳。

◇首位打者賞 上羽巧晃内野手(神戸製鋼) 3試合で9打数6安打、1打点。打率6割6分7厘。駒大卒。29歳。

◇大会優秀選手

【投手】萩原康、吉井憲治(以上シダックス)鈴木学(小西酒造)愛敬尚史(松下電器)野村昌裕(神戸製鋼) 【捕手】門奈雄虎(J T)九鬼義典(松下電器)坂田精二郎(シダックス) 【一塁手】上羽巧晃(神戸製鋼) 【二塁手】西岡隆一(松下電器)津野裕幸(シダックス) 【三塁手】田上朋寛(松下電器)田中善則(シダックス) 【遊撃手】瀬戸博之(J T)大森章弘(日本 I B M野洲) 【外野手】井上大(松下電器)入江崇宏(シダックス)原野優(J T)上中芳仁(小西酒造)広畑大輔(日本 I B M野洲) 【指名打者】ビクトル・メサ(シダックス)



【2回戦】神戸製鋼-朝日生命 五回表神戸製鋼、1死二塁、上羽巧晃が右前適時打を放つ



【準々決勝】松下電器-京東日本東北 十回表松下電器1死一、三塁 西岡の左中間二塁打で三塁から代走・高下(左)と一塁から清原が連リカッソホース、捕手・西村



【1回戦】J T-J R西日本 七回表 J T無死、瀬戸が左越えにソロ本塁打を放つ 捕手大黒



【1回戦】JR東海-住友金属 一回裏住友金属無死、先頭打者の小寺が遊撃正面へのゴロを放ち、一塁に頭から飛び込みセーフ、一塁は川越



【2回戦】日産自動車-王子製紙苫小牧 八回表日産1死二、三塁、渡辺がダメ押し2ランスクイズを決める、投手藤田、捕手白石



【決勝】本塁打攻勢でシダックス 三回裏シダックス2死二塁、田中が中越えに2打席連続の2点本塁打



【1回戦】プリンスホテル-三菱自衛隊 六回1死まで無走者の好投を見せた三菱自衛隊の先発・山口



【2回戦】J R四国-小西酒造 三回裏小西酒造2死、上中が左越えに2打席連続のソロホームランを放つ 捕手幸



【2回戦】松下電器-三菱自動車岡崎 九回表松下電器、2死二塁、九鬼義典が左中間に2点本塁打を放つ



### 北海道

9月7日から 6日間 札幌市円山球場

王子製紙苫小牧	14	7
帯広倶楽部	2	
札幌倶楽部	12	9
小樽野球協会	1	1
航空自衛隊千歳	9	
JR北海道	28	
旭川自衛隊	0	7
ブレーブくしろ	3	3
ウイン北広島	13	3
日本製紙旭川	12	
NTT釧路硬式野球	48	
札幌ブルーマックス	0	16
森倶楽部	7	4
旭グレートベアーズ	6	0
函館大洋倶楽部	14	
室蘭シャークス	3	1
札幌ブルーインズ	1	1
サンワード貿易	44	11
B A O 札幌	0	

**王子製紙苫小牧**

**サンワード貿易**

### 東北

9月10日から 3日間 宮城県宮城球場・宮城県栗原球場

太平洋セメント	3	3
秋田銀行	4	11
J T	7	2
宮城建設	2	5
川侯ク	0	9
日本製紙石巻	18	
J A いわて	1	18
JR東日本東北	10	8
オール青森ク	5	3
山形しあわせ銀行	3	3
鶴山パースボールクラブ	0	5
七十七銀行	31	

**J T 東日本東北**

**J R 東日本東北**

### 関東

9月8日から 3日間 埼玉県大宮球場・埼玉県大宮市宮球場

プリンスホテル	15	5
大月クラブ	0	
本田技研	7	4
三菱重工横浜	9	
日石三菱	3	0
富士重工業	4	
鷺宮製作所狭山	2	11
シダックス	4	
日産自動車	10	13
川崎製鉄千葉	1	
日立製作所	8	3
NTT東日本	7	
朝日生命	7	13
日本通運	6	
住友金属鹿島	4	8
三菱自動車川崎	1	
JR東日本	8	4
新日鉄君津	10	5
全足利クラブ	5	2
東 芝	6	

**プリンスホテル**

**シダックス**

**日産自動車**

**朝日生命**

**新日鉄君津**

### 北信越

9月4日から 2日間 金沢市民球場

TDK千曲川	11	3
ルネス学園金沢	1	
伏木海陸運送	1	2
NTT北陸	1	5
NTT徳島硬式野球	15	
ニチエー	0	9
北陸銀行	11	

**北陸銀行**

### 東海

9月4日から 6日間 岡崎市民球場

新日鉄名古屋	3	6
西濃運輸	0	7
三菱自動車岡崎	8	14
三菱重工名古屋	5	
東海理化	1	3
トヨタ自動車	3	2
本田技研鈴鹿	5	6
河合楽器	6	
ヤマハ	15	6
関東自動車	3	1
一光	14	3
サンジルス醸造	8	11
JR東海	4	12
昭和コンクリート	3	13
王子製紙春日井	6	7
東邦ガス	5	

**JR東海**

**河合楽器**

### 近畿

8月19日から 6日間 姫路球場・高砂市野球場

三菱重工神戸	6	10
大和銀行	5	
日本新薬	2	13
住友金属	4	
NTT西日本	9	16
大和高田クラブ	1	9
新日鉄広畑	6	
ニチダイ	3	3
ミキハウス	0	3
松下電器	8	0
日本生命	2	
小西酒造	4	14
大阪ガス	6	
神戸製鋼	7	3
田村コピー	5	6
日産車体京都	6	3
三菱自動車京都	7	6
阿部企業	0	3
日本IBM野洲	6	
デュプロ	2	3

**住友金属**

**NTT西日本**

**松下電器**

**神戸製鋼**

**三菱自動車京都**

**小西酒造**

**日本IBM野洲**

### 中国

9月1日から 7日間 倉敷マスカットスタジアム

JR西日本	10	11
協和発酵	8	5
リースキン広島	0	2
N K K	1	10
三菱重工広島	4	4
三菱自動車水島	9	5
光シーガルス	7	4
川崎製鉄水島	8	6
三菱重工三原	4	

**JR西日本**

**N K K**

**N K K**

### 四国

9月4日から 2日間 志度町総合運動公園

徳島倶楽部	3	8
JR四国	18	
四国銀行	7	

**JR四国**

### 九州

8月18日から 5日間 新日鉄大谷球場・北九州市民球場

JR九州	8	22
NTT熊本硬式野球	7	10
大分硬式野球倶楽部	4	3
蕭クトビー桐蔭	1	6
三菱重工長崎	19	7
本田技研熊本	4	8
日産自動車九州	13	5
新日鉄八幡	9	
新-クワン-クワテ	3	3
沖繩電力	10	8
九州三菱自動車	11	

**日産自動車九州**

**NTT西日本九州硬式野球倶楽部**

サンワード貿易

Table listing players for Sanward Trading, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

新日本製鐵君津

Table listing players for Nippon Steel Kyushu, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

日産自動車

Table listing players for Nissan, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

三菱自動車岡崎

Table listing players for Mitsubishi Motors Okazaki, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

王子製紙苫小牧

Table listing players for Prince Paper Kamoi, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

朝日生命

Table listing players for Asahi Life, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

TDK千曲川

Table listing players for TDK Chikuma, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

JR東海

Table listing players for JR Tokai, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

JR東日本東北

Table listing players for JR East Tohoku, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

プリンスホテル

Table listing players for Prince Hotel, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

北陸銀行

Table listing players for Hokuriku Bank, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

日本IBM野洲

Table listing players for Nippon IBM Nozomi, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

J T

Table listing players for J T, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

シダックス

Table listing players for Sidax, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

河合楽器

Table listing players for Kawai Instruments, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.

三菱自動車京都

Table listing players for Mitsubishi Motors Kyoto, including names like 高木 大, 川崎 大, and their respective positions and teams.



松下電器

Table listing players for Matsushita Electric, including names like 藤本 浩一, 田代 浩二, and their respective teams and positions.

住友金属

Table listing players for Sumitomo Metal, including names like 井原 隆夫, 石川 功一, and their respective teams and positions.

JR西日本

Table listing players for JR West, including names like 利一 司, 利二 司, and their respective teams and positions.

日産自動車九州

Table listing players for Nissan Kyushu, including names like 藤本 浩一, 田代 浩二, and their respective teams and positions.

NTT西日本

Table listing players for NTT West, including names like 川本 善治, 山崎 隆夫, and their respective teams and positions.

NKK

Table listing players for NKK, including names like 村上 隆夫, 山下 隆夫, and their respective teams and positions.

JR四国

Table listing players for JR Shikoku, including names like 藤本 浩一, 田代 浩二, and their respective teams and positions.

NTT西日本九州硬式野球倶楽部

Table listing players for NTT West Kyushu Hardball Club, including names like 藤本 浩一, 田代 浩二, and their respective teams and positions.

小西酒造

Table listing players for Onishi Brewery, including names like 玉村 隆夫, 中村 隆夫, and their respective teams and positions.

神戸製鋼

Table listing players for Kobe Steel, including names like 鈴木 隆夫, 山崎 隆夫, and their respective teams and positions.

2大大会初出場

TDK千曲川・JR西日本

社会人野球チームの最大の目標は都市対抗、日本選手権という2大大会で好成績を残すことだ。今大会、念願の初出場を果たしたのは5チーム。うち3チームが都市対抗を通じ、初のひのき舞台を踏む。しかし、その喜びは一様ではない。

TDK千曲川は創部17年目で初出場。部員は監督、マネージャーを含めて18人。全員が2交代勤務のため、合同練習の時間はほとんどない。関本監督の「クラブチームのようなもの」という言葉は誇張ではない。こうしたハンディを越え、全国への壁を破ったキーワードは「意識改革」だった。

関本監督は8年前の就任時から、楽しめればよいというチームの雰囲気「勝てば、もっと楽しいじゃないか」と言い続けてきた。就任3年目、敗戦後の選手の態度が変わった。個人の練習時間も増え、一人一人が着実に力をつけていく。

そこへ、都市対抗4回、日本選手権1回の出場経験を持つTDK(秋田)の4番・佐藤が昨年11月の異動で加わる。佐藤は合流してすぐ、さらりと「選手のレベルは(秋田と)変わらないですよ」。この言葉がチームに自信をもたらした。2次予選2試合は、1失点完投の主戦・加藤を2桁

安打で援護。危なげなく勝ってドーム行きを決めた。「組み合わせにも恵まれたが、実力がついた証明」。関本監督も大きく胸を張った。

JR西日本の場合、1935年の創部から65年目で初の2大大会出場となった。しかし、森重監督は「その要した時の長さよりも、一人前になれたことがうれしい」と話した。JRは全国6社が7チームを運営。旧国鉄時代から互いにライバル意識も強い。しかし、民営化後、西日本と九州だけが都市対抗、日本選手権への出場がなかった。「なんとしてもドームに出て、兄弟の仲間入りを果たしたかったんです」



中国2次予選を無敗で突破し、2大大会初出場を果たしたJR西日本

## 優勝=松下電器 初優勝

NTT北海道硬式野球倶楽部 (北海道)	1								
J T (東北)	1	日本生命	19						
日本生命 (近畿)	6	日本生命	15						
新日鉄君津 (関東)	7	新日鉄君津	12						
TDK千曲川 (北信越)	2	新日鉄君津	6						
ヤマハ (東海)	4	デュプロ	4						
デュプロ (近畿)	5								
三菱重工神戸 (近畿)	5	東芝	6						
東芝 (関東)	4	東芝	7						
協和発酵 (中国)	1								
四国銀行 (四国)	2	ミキハウス	0						
ミキハウス (近畿)	13	NTTグループ九州野球クラブ	1						
NTTグループ九州野球クラブ (九州)	6								
松下電器 (近畿)	5	松下電器	3						
日本通運 (関東)	3	日本通運	2						
NTT信越硬式野球クラブ (北信越)	2	JR東海	8						
JR東海 (東海)	10	JR東海	2						
鷺宮製作所狭山 (関東)	2								
サンワード貿易 (北海道)	5	NTT西日本	7						
N K K (中国)	6	NTT西日本	5						
NTT西日本 (近畿)	7	NTT西日本	4						
プリンスホテル (関東)	11	プリンスホテル	3						
T D K (東北)	0								
三菱重工長崎 (九州)	1	神戸製鋼	3						
新日鉄名古屋 (東海)	4	神戸製鋼	1						
神戸製鋼 (近畿)	9								

## 創部49年目 松下電器ついに頂点へ

20世紀の社会人野球を締めくくる決勝で、創部49年目の松下電器(近畿)が日本選手権、都市対抗野球を通じて初の頂点を極めた。

初優勝の原動力は、厚い投手層だった。左腕・鈴木、愛敬と大久保の両右腕を3本柱に、チーム防御率2.25と8強中最高の数字を残した。完投はなく、鈴木—大久保—愛敬とつなぐ早めの継投で失点を防いだ。防御率0.64を残した愛敬も見事だったが、3試合の先発を担った鈴木が存在が大きい。140kmの直球と、スクリーンボールを軸にした丁寧な投球術が、試合の流れをつくり、勝ちパターンを築いた。

準優勝の東芝も、投手リレーが軸。5試合すべてを継投でしのいだ。その基盤となったのが、緩急と抜群の制球で打者のポイントを外した左腕・須田。決勝序盤の鈴木との投げ合いは、試合を引き締めた。

両チームに代表されるように、継投を守りの基本戦略に拠えるチームが目立ち、第25回11人、第26回は9人だった完投投手はわずかに4人(いずれも延べ人数)だった。



初優勝を決め抱き合っており喜ぶ愛敬—九鬼バッテリーと松下

### 大会 審判

▷審判委員長=大村一彦▷審判副委員長=西大立目永、三宅享次、竹中清二▷幹事=南喜右衛門、岡本好二、津田進▷委員=小林勉、大橋慶三、木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、赤井淳二、山崎浩、南口正人、池友久、三宅章介、松浦信夫、井口光史、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、東優孝、新阜定、北野雅行、橋公政、長谷川文彦、鶴寛寿、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、宮本明、井田保則、榎本吉徳、伏見文隆、石原義市郎、松村洋、浜田敏明、川嶋義則、谷口吉洋、阪根雅弘、辻幸太郎、山口義夫、向嶋章、清水忠雄、小谷啓介、中尾真也、堀口光、清水雅彦、田代圭二、土井淳宏、高矢越彦、山口篤彦、小山吉雄、田中幹雄













第27回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 愛敬尚史投手(松下電器) 先発、抑えにフル回転して、4試合すべてに登板。切れ味のあるスライダーで14回で被安打13、自責点1、防御率0.64と抜群の安定感を見せ、勝利を呼び込んだ。新人だった。昨年、都市対抗で若獅子賞。帝京大卒、23歳。

◇敢闘賞 須田喜照投手(東芝) 4試合23回3分の2を自責点8、防御率3.04。大会屈指の左腕で緩急のつけ方が巧み。昨年の都市対抗決勝を完封したのは記憶に新しい。専大卒、30歳。

◇打撃賞 上中芳仁外野手(松下電器) 4試合で17打数7安打、2本塁打、5打点。打率4割1分2厘。箕島高卒。昨年まで小西酒造に10年間在籍。29歳。

◇首位打者賞 佐々木隆司外野手(JR東海) 3試合で12打数8

安打2打点。打率6割6分7厘。

◇大会優秀選手

[投手]徳留慶(NTT九州クラブ)須田吉照、銭場一浩(以上東芝)山本英斗(NTT西日本)鈴木学、愛敬尚史(以上松下電器)土井善和(日本生命) [捕手]安田真範(東芝)野田浩輔(新日鉄君津)九鬼義典(松下電器) [一塁手]西川勝文(NTT西日本) [二塁手]一色和也(NTT西日本)西岡隆一(松下電器) [三塁手]鈴木肇(東芝)澤村通(新日鉄君津) [遊撃手]魚住俊文(日本生命)古川裕生(新日鉄君津) [外野手]佐々木隆司、青山真也(以上JR東海)上中芳仁(松下電器)竹間容祐、下山真二(以上日本生命)吉川祥求(東芝) [指名打者]天野義明(日本生命)



[1回戦]西国銀行ーミキハウス 一回裏ミキハウス1死満塁、鈴木俊が2者を退す中前打を放つ



[準決勝]NTT西日本ー松下電器 八回裏松下電器、無死二塁、上中芳仁が中越えに2点本塁打を放つ



MVPに松下電器の愛敬投手



[1回戦]デューローヤマハ 七回表デューロー1死二、三塁藤本が投前にスクイズ、三塁の免出に続き二塁の今村も一挙にすべりこんで生還した



[2回戦]富士製作所狭山対JR東海 一回裏JR東海、1死三塁、佐々木隆司が右中間に過時三塁打を放つ



[準決勝]NTT西日本ー松下電器 十回裏松下電器1死満塁、山口の二塁内野安打で三塁から九鬼が生還しサヨナラ



[2回戦]デューロー新日鉄君津 六回裏新日鉄君津1死一塁、矢口が左越えに2ランホームーを放つ



[決勝]松下電器ー東芝戦 力投する東芝の先発・須田喜照



[準々決勝]日本生命ー新日鉄君津 五回表日本生命1死一、三塁、下野が左前通時打を放つ。この回9本目の安打となり、1イニング最多安打を記録



**北海道**

9月1日から 6日間 札幌市立球場・札幌合衆公園球場・千歳市立球場



**東北**

9月8日から 3日間 宮城県営球場・緑スポーツセンター硬式球場



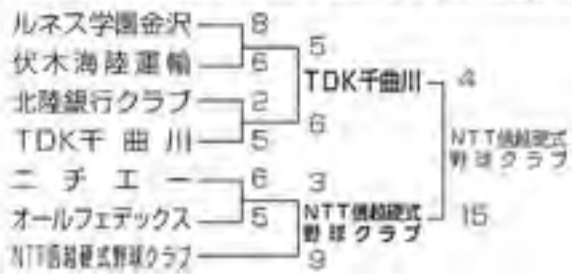
**関東**

9月8日から 3日間 埼玉県営大宮球場・埼玉県大宮市立球場



**北信越**

9月16日から 2日間 長野オリンピックスタジアム



**東海**

9月12日から 7日間 岡崎市民球場



**近畿**

9月15日から 7日間 難波ベースボールスタジアム・旭が丘球場



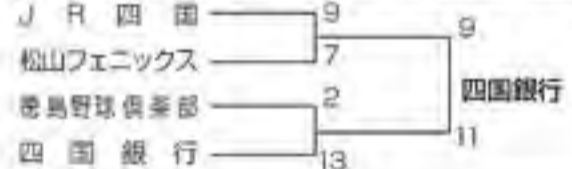
**中国**

9月4日から 7日間 倉敷マスカットスタジアム



**四国**

9月9日から 2日間 徳島県営球場



**九州**

9月4日から 8日間 福岡県かきとり球場・福岡オリンピックスタジアム



第27回大会出場選手等一覧(○は主将)

サンワード貿易

Table listing players for Sanward Trading, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

日本通運

Table listing players for Nippon Express, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

東芝

Table listing players for Toshiba, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

JR東海

Table listing players for JR Tokai, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

NTT北海道硬式野球倶楽部

Table listing players for NTT Hokkaido Hardball Club, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

鷺宮製作所狭山

Table listing players for Sakamiya Seisakujo Sakai, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

NTT信越硬式野球クラブ

Table listing players for NTT Shinkyo Hardball Club, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

新日本製鐵名古屋

Table listing players for Shin Nippon Steel Nagoya, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

J T

Table listing players for JT, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

新日本製鐵君津

Table listing players for Shin Nippon Steel Kimitsu, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

TDK千曲川

Table listing players for TDK Chikuma, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

松下電器

Table listing players for Panasonic, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

TDK

Table listing players for TDK, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

プリンスホテル

Table listing players for Prince Hotel, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

ヤマハ

Table listing players for Yamaha, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.

デュプロ

Table listing players for Dupro, including names like 菅野 隆一, 菅野 隆二, and their positions.





## 優勝=三菱重工長崎 初優勝

三菱自動車水島 (中 国) 4	松 下 電 器 (近 畿) 11	三菱自動車水島 2	三菱重工長崎 11	三菱重工長崎 5	三菱重工長崎
日立製作所 (関 東) 4	松 下 電 器 (近 畿) 3	三菱自動車水島 2			
松下電器 (近 畿) 11	松山フェニックス (四 国) 4	三菱重工長崎 11			
J R 東 海 (東 海) 3	三菱重工長崎 (九 州) 5	三菱重工長崎 23			
松山フェニックス (四 国) 4	日 本 生 命 (近 畿) 2	日産自動車 (関 東) 6	日産自動車 14		
三菱重工長崎 (九 州) 5	日産自動車 (関 東) 10	サンワード貿易 (北 海 道) 3	日産自動車 1		
日本生命 (近 畿) 2	サンワード貿易 (北 海 道) 10	日本新薬 (東 北) 4	日本新薬 1		
日産自動車 (関 東) 6	七 十 七 銀 行 (東 北) 4	三菱自動車岡崎 (東 海) 9	日本新薬 1		
サンワード貿易 (北 海 道) 3	三菱自動車岡崎 (東 海) 9	日本新薬 (近 畿) 12	東 芝 12		
日産自動車 14	いすゞ自動車 (関 東) 6	NTT西日本 (近 畿) 2	東 芝 7		
日産自動車 1	NTT西日本 (近 畿) 2	一 光 (東 海) 1	東 芝 13		
日本新薬 1	一 光 (東 海) 1	東 芝 (関 東) 5	東 芝 0		
東 芝 12	東 芝 (関 東) 5	三菱ふそう川崎 (関 東) 11	JR東日本東北 5		
東 芝 13	三菱ふそう川崎 (関 東) 11	神戸製鋼 (近 畿) 7	三菱自動車京都 4		
東 芝 0	神戸製鋼 (近 畿) 7	JR東日本東北 (東 北) 2	三菱自動車京都 6		
	JR東日本東北 (東 北) 2	三菱自動車京都 (近 畿) 8	三菱自動車京都 4		
	三菱自動車京都 (近 畿) 8	バイクルネット (北 信 越) 4	三菱自動車京都 6		
	バイクルネット (北 信 越) 4	日産自動車九州 (九 州) 14	三菱自動車京都 4		
	日産自動車九州 (九 州) 14	協和発酵 (中 国) 8	三菱自動車京都 4		
	協和発酵 (中 国) 8	トヨタ自動車 (東 海) 9	三菱自動車京都 4		
	トヨタ自動車 (東 海) 9	J R 東 日 本 (関 東) 0	三菱自動車京都 4		
	J R 東 日 本 (関 東) 0	大 阪 ガ ス (近 畿) 8	三菱自動車京都 4		
	大 阪 ガ ス (近 畿) 8		三菱自動車京都 4		

## 打撃上位制し、三菱重工長崎 九州勢初の優勝

第28回大会の決勝は、三菱重工長崎(九州)が東芝(関東)を5-0で破り、初優勝を果たした。九州勢の優勝は大会初。都市対抗と合わせた社会人2大大会でも、1954年の都市対抗の八幡市(現北九州市)・八幡製鉄(現新日鉄八幡)以来、47年ぶりとなった。

金属バット最後の年となった第28回大会は、大会平均打率が3割3厘に達し、打撃上位が際立った。三菱重工長崎は6割6分7厘の開田を筆頭に、4割5分の村上和らが高打率をマークし、チーム打率は4割3分6厘。翌年からの木製バット導入をにらんだ竹バットでの打撃練習が、ミート力の向上につながった。一方、エース後藤が決勝で2安打完封を果たし、杉内も健闘してチーム防御率は1.88。打撃上位の大会で、投手陣も踏ん張り、投打とも力は抜きん出ている。

準優勝した東芝も、須田、銭場の左右の両輪が決勝進出の原動力となった。クラブチームの松山フェニックスの初出場初勝利も左腕・兼頭的好投が呼び込んだ。打撃上位の中でも投手力が勝敗の決め手になった。



大会  
審判

▷委員長=三宅亨次▷副委員長=竹中清二、森生祐二▷幹事=小林勉、赤井淳二、岡本良一、新章定、宮本明、梅本吉徳、中本尚▷委員=木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、山崎浩、南口正人、池友久、三宅章介、松浦信夫、井口光史、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、北野雅行、橋公政、長谷川文彦、髙宣寿、山盛光喜、松川明弘、岸見俊明、井田保則、伏見文隆、石原義市郎、松村洋、浜田俊明、川嶋義則、谷口吉洋、阪根雅弘、辻幸太郎、山口義夫、向嶋章、清水忠雄、小谷啓介、中尾真也、田代圭二、土井淳宏、高矢聡彦、山口篤彦







10月10日

Table for October 10th Game 1: Sanward Trading vs Nissan. Includes scores, lineups, and statistics.

三塁打=岡部 二塁打=渡辺直、伊藤、村上、小山、吉浦、石田 試合時間 2時間31分

10月10日 Game 2

Table for October 10th Game 2: Isuzu vs Nippon Shinyaku. Includes scores, lineups, and statistics.

本塁打=上村 3号(岩淵)、横山 1号(岩淵)、笠 1号(岩淵)、中村 1号(田村)、長谷高 1号(田村) 二塁打=奥、西野浩 2、野野 藤投=木村 試合時間 2時間49分

10月10日 Game 3

Table for October 10th Game 3: Toei vs Nippon Telegraph. Includes scores, lineups, and statistics.

本塁打=鈴木 1号(栗野)、工藤 1号(前田克)、宮崎 1号(須田)、山田 1号(須田) 二塁打=平高、大原、西田 試合時間 3時間25分

拙攻の末の敗戦

前四強のNTT西日本が2年連続で延長戦で涙をのんだ。同点の延長十回1死一、三塁、東芝・山本のやや浅い左野飛を前田敦が捕ったが、本塁送球は三塁ベースを直撃。「送球がベースに当たるなんて練習でも一度もないのに」とぼうぜん。九回まで5度の得点機を逃す拙攻の末の敗戦に「勝負弱さが目立っ

た)今年1年を象徴する負け方」と嘆いた。

10月11日

Table for October 11th Game 1: Sanfudo vs JR East. Includes scores, lineups, and statistics.

三塁打=古見、鈴木良 2 二塁打=中村 捕逸=高根沢 2 試合時間 2時間21分

今季最高の出来

神戸製鋼戦で二回までに10点を奪った三菱ふそう川崎の豪打をスタンドで見、JR東日本東北の盛は顔を失った。「一体何点取られるか。自信なく登った先発マウンドだったが、緩急と制球力を駆使し、4安打1失点の完投勝利。柔よく剛を制し「今季最高の出来」と声を弾ませた。

10月11日 Game 2

Table for October 11th Game 2: Nissan Kyushu vs Daihatsu. Includes scores, lineups, and statistics.

本塁打=森田 1号(田口) 二塁打=今村、中村俊 捕逸=内海 試合時間 2時間38分

幅広げたエース 十回サヨナラ演出

三菱自動車京都のサヨナラ劇を呼び込んだのは、十回表にエース・森が見せた気迫の投球だった。九回に同点とし、勢いに乗る日産自動車九州を3人でピシャリ。傾きかけた流れを断ち切った。七回までは失策絡みで1点を許しただけ。1回戦で5本塁打の重量打線に「踏み込んで打たせない」ことを意識。右打者の多い日産九州は、右横手からのシュートに詰まらされた。八、九回はコースが甘くなったところを捕打された。しかし延長十回、「0点に抑えるだけでは駄目。3者凡退しかない」と誓い実行するところが11年目、28歳のベテランの老かいさ。準優勝した6年前には敗戦賞、140万を越えていた直球は3~4。落ちたが、シュートとシンカーを覚え、粘りは増した。「あのころは真っすぐを打たれたら、仕

方ないと。今は負けなことが大事」。投球の幅は、人間的な幅にも通じるようだ。

10月11日 Game 3

Table for October 11th Game 3: Toyota vs Osaka Gas. Includes scores, lineups, and statistics.

本塁打=藤多 1号(山下)、山井 2号(山田幸) 三塁打=小野 二塁打=浦口 試合時間 2時間34分

フォーム戻して復調

山田幸二投手(25)大阪ガス 188cmの長身から投げ下ろす右腕。制球力を武器に打たせて取るタイプだ。一回は一、三塁。二回にも一、三塁に走者を背負ったが、後続を内野ゴロに仕留めてピンチを切り抜けた。シュート、スライダーにフォークを織り交ぜ、七回までゼロ行進。「打ち崩せると思ったが、千円で微妙に変化した。ズルズルとやられてしまった」とトヨタ自動車の川島監督を悔しがらせた。これほどの制球力を持ちながらスピードにこだわっていた時期があった。昨年の都市対抗の準優勝に貢献し、久慈賞を獲得。もっと球速をつけたいと、その直後からフォームを改造。しかし、逆にバランスを乱して調子までも崩してしまっ。早々とKOされた今夏の都市対抗など不調続きだったが、日本選手権の予選ごろから昨夏のフォームに戻し、再浮上のきっかけをつかんだ。この日は終盤に投げ急いで満塁本塁打を浴びた。「最後まできっちり投げないと」自己採点は辛めだったが、持ち味を再認識している限り、大崩はないだろう。

10月12日

Table for October 12th Game 1: Sanfudo vs Daihatsu. Includes scores, lineups, and statistics.

本塁打=河田 1号(早藤)、根岸 1号(後藤) 二塁打=開田、吉村忠 2、原田、柴田、伊藤 捕逸=松島、河田 試合時間 2時間31分





第28回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 後藤隆之投手(三菱重工長崎) 3試合に先発して3勝。シュートと制球力で、22回を投げて被安打13、自責点3、防御率1.23。九州東海大卒。31歳。

◇敢闘賞 銭場一浩投手(東芝) 4試合に投げて防御率2.89。右横手からの速球は威力抜群で1回戦で完投勝利。延長戦を制した2回戦はロング救援で好投した。東洋大卒。28歳。

◇打撃賞 村上竜太郎外野手(三菱重工長崎) 5試合で15打数9安打12打点。打率6割。熊本工大高卒。32歳。

◇首位打者賞 開田博勝外野手(三菱重工長崎) 4試合で18打数12安打2打点。打率6割6分7厘。法大卒。26歳。

◇大会優秀選手

[投手]銭場一浩(東芝)、後藤隆之(三菱重工長崎)、杉内俊哉(同)、元木貴也(三菱自動車京都) [捕手]河田寿司(三菱重工長崎)、松下和行(日本新薬) [一塁手]小山豪(日産自動車)、鈴木肇(東芝) [二塁手]上村匡史(日本新薬)、村上和幸(三菱重工長崎) [三塁手]原田能英(同)、有銘真之(東芝) [遊撃手]伊藤祐樹(日産自動車)、平馬淳(東芝) [外野手]村上竜太郎(三菱重工長崎)、開田博勝(同)、伊藤大輔(同)、山内弘一(三菱自動車京都)、吉川祥求(東芝) [指名打者]石垣達也(東芝)、柴田哲也(三菱重工長崎)



[1回戦]東芝—光 力投する東芝・銭場



[2回戦]松下電器—三菱自動車水島 十回裏三菱自動車水島1死一、二塁、代打・高橋がサヨナラ打を放つ



[準決勝]三菱重工長崎—日産自動車 8回1失点と好投した三菱重工長崎の杉内



[1回戦]三菱自動車京都—バイタルネット 六回裏三菱自動車京都無死、石岡が左越えに本塁打を放ちガッツポーズ



[1回戦]日本生命—三菱重工長崎 一回裏三菱重工長崎無死、開田が中前安打を放つ



[決勝]東芝を完封で降し初優勝を決め抱き合う、三菱重工長崎・後藤、河田バッテリー



[2回戦]日産自動車九州—三菱自動車京都 一回裏三菱自動車京都2死一、三塁、一塁走者がけん制で挟まれ、一塁手の落球の間に、三菱走者の岩本が生還



[1回戦]日本生命—三菱重工長崎 一回裏先制タイムリーを放った村上竜



[2回戦]日産自動車—日本新薬 八回裏日本新薬1死二塁、西野浩が左中間に決勝の追いつき二塁打を放つ



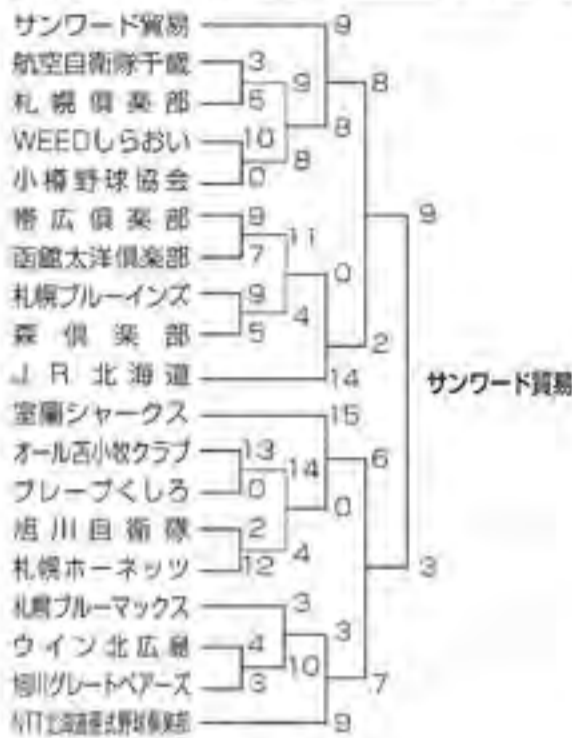
[準々決勝]三菱自動車京都—大阪ガス 大阪ガス打撃を6安打に抑え、完封勝利を挙げた三菱自動車京都の元木





北海道

9月5日から 5日間 札幌ドーム



東北

9月7日から 3日間 宮城野球場・名取スポーツパーク野球場



関東

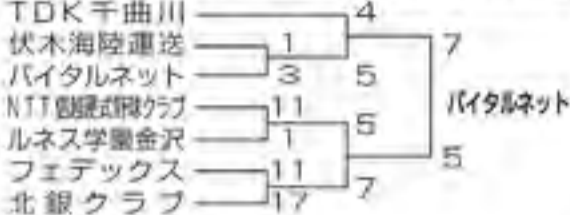
9月7日から 3日間 埼玉野球場・さいたま市野球場



(関東連盟推薦で東京スポニチ大会優勝のJR東日本が出場)

北信越

9月15日から 3日間 新潟市営鳥屋野球場



東海

9月3日から 9日間 岡崎市民球場



近畿

9月6日から 7日間 西宮野球場・NTT西宮野球場・大阪ガス野球場



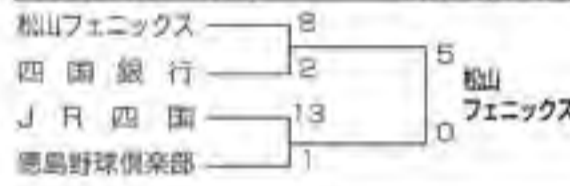
中国

9月8日から 7日間 山口・宇部市野球場



四国

9月8日から 2日間 高知市東部球場



九州

9月9日から 7日間 新大分球場・日田市野球場



第28回大会出場選手等一覧(○は主将)

サンワード貿易

Table listing players for Sanward Trading, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

JR東日本

Table listing players for JR East, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

いすゞ自動車

Table listing players for Isuzu Motor, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

トヨタ自動車

Table listing players for Toyota Motor, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

七十七銀行

Table listing players for 77 Bank, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

三菱ふそう川崎

Table listing players for Mitsubishi Fuso Kawasaki, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

バイタルネット

Table listing players for Vitalnet, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

三菱自動車岡崎

Table listing players for Mitsubishi Motor Okazaki, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

JR東日本東北

Table listing players for JR East Tohoku, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

東芝

Table listing players for Toshiba, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

一光

Table listing players for Ichikawa, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

三菱自動車京都

Table listing players for Mitsubishi Motor Kyoto, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

日立製作所

Table listing players for Hitachi, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

日産自動車

Table listing players for Nissan Motor, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

JR東海

Table listing players for JR Central, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.

日本新薬

Table listing players for Nippon Shinyaku, including names like 菅野, 菅野, 菅野, and their respective positions and teams.



松下電器

Table listing players and their numbers for the Panasonic team.

神戸製鋼

Table listing players and their numbers for the Kobe Steel team.

協和発酵

Table listing players and their numbers for the Kyokai Hakkou team.

日産自動車九州

Table listing players and their numbers for the Nissan Kyushu team.

日本生命

Table listing players and their numbers for the Nippon Life team.

三菱自動車水島

Table listing players and their numbers for the Mitsubishi Motors team.

松山フェニックス

Table listing players and their numbers for the Matsuyama Phoenix team.

三菱重工長崎

Table listing players and their numbers for the Mitsubishi Heavy Industries team.

大阪ガス

Table listing players and their numbers for the Osaka Gas team.

NTT西日本

Table listing players and their numbers for the NTT West Japan team.

一球一打に執着心求めて

七十七銀行

Main text article discussing the dedication of players from the 77 Bank team.

Continuation of the article and a photo of the team.



初の大大会を決め、喜びを爆発させる七十七銀行ナイン

# 第29回 大会

2002年(平成14年)10月12日▶10月20日 大阪ドーム

優勝=日本生命 ————— 12年ぶり2回目

J R 東 海 (東 海)	1	}	松下電器 3	}	日本生命 2	}	日本生命 4
四 国 銀 行 (四 国)	0		松下電器 4				
松 下 電 器 (近 畿)	3	}	新日鉄八幡 1	}	日本生命 5		
新 日 鉄 八 幡 (九 州)	4						
川 崎 製 鉄 水 島 (中 国)	3	}	日本生命 5	}	東 芝 1		
NTT東 日 本 (関 東)	0						
日 本 生 命 (近 畿)	1	}	日産自動車 1	}	東 芝 4		
日 産 自 動 車 (関 東)	3						
TDK千 曲 川 (北 信 越)	1	}	J R 東 日 本 東 北 1	}	東 芝 9		
J R 東 日 本 東 北 (東 北)	7						
東 芝 (関 東)	4	}	ホンダ 3	}	ホンダ 3		
三 菱 重 工 神 戸 (近 畿)	3						
王 子 製 紙 (東 海)	0	}	ホンダ 6	}	ホンダ 3		
日 本 新 薬 (近 畿)	3						
ホ ン ダ (関 東)	3	}	三菱重工長崎 4	}	ホンダ 3		
ヤ マ ハ (東 海)	2						
三 菱 重 工 長 崎 (九 州)	4	}	三菱重工長崎 2	}	ホンダ 1		
NTT西 日 本 (近 畿)	0						
J ー T (東 北)	3	}	三菱自動車両崎 2	}	東京ガス 0		
三 菱 自 動 車 岡 崎 (東 海)	5						
神 戸 製 鋼 (近 畿)	4	}	東京ガス 3	}	新日鉄君津 2		
J R 北 海 道 (北 海 道)	2						
東 京 ガ ス (関 東)	7	}	新日鉄君津 8	}	新日鉄君津 1		
新 日 鉄 君 津 (関 東)	4						
三 菱 重 工 広 島 (中 国)	3	}	新日鉄君津 1	}	大阪ガス 4		
大 阪 ガ ス (近 畿)	3						

## 「投高打低」制し、日本生命 12年ぶりV

第29回大会の決勝は、日本生命(近畿)がホンダ(関東)を4-1で破り、12年ぶり2回目の優勝を果たした。

第29回大会から木製バットが復活し、平均打率は前年より6分3厘低い2割4分。前回11試合あった2ケタ得点の試合はゼロになり、総得点は半分以上。本塁打数は16本と前年より7割も減った。

そんな「投高打低」の大会を、日本生命はチーム防御率1.20の安定した投手力で制した。大卒2年目の佐藤が140km以上の速球に、カーブ、フォークを織り交ぜて3勝。辻、土井の両ベテランへの早めの継投も決まった。夏の都市対抗出場を13年ぶりに逃し、主力12選手が補強された間、早朝から深夜までの居残り練習に耐えて、佐藤や及川、石田の1、2番ら新戦力が台頭した。

ホンダは右のランドルから左の藤井への継投

で17年ぶりに決勝に進んだ。1点差試合は前年より7試合増え、12。ロースコアの接戦が相次ぎ投手を含めた守備力が勝敗を大きく左右した。



### 大会 審判

▷審判委員長=三宅孝次▷審判副委員長=竹中清二、麻生純二▷幹事=小林勉、赤井淳二、岡本良一、新卓定、宮木明、梅本吉徳、中本尚▷委員=木嶋一貴、桃田晴彦、辻喜正、大石泰、梶浦照樹、櫻根清一、山崎浩、井口光史、池友久、三宅章介、松浦信夫、伊東登、田代圭二、土井淳宏、堀口光、清水雅彦、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、北野雅行、橋公政、長谷川文彦、鶴宣寿、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、稲留雅文、藤野真、殿川浩一、井田保則、伏見文隆、松村洋、川嶋義則、谷口吉洋、阪根雅弘、辻幸太郎、山口義夫、向嶋章、高矢謙彦、山口篤彦、細見英昭、梶原信行、小西忠宏、小谷啓介、南谷宏治、木原浩吉、赤坂雅彦、小久保志朗、新美克直、西井久登、津田晋輔、筒井修史、伊藤洋文













第29回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 佐藤充投手(日本生命) 4試合に先発して3勝。緩急を使った投球で18回余りを被安打14、自責点4、防御率1.96。日体大卒。24歳。

◇敢闘賞 藤井稔也投手(ホンダ) 5試合すべてに登板。19回を12安打、自責点4、防御率1.89。法政大卒。24歳。

◇打撃賞 竹間容祐外野手(日本生命) 5試合で18打数9安打5打点。打率5割。日体大卒。30歳。

◇首位打者賞 原田能英内野手(三菱重工長崎) 3試合で11打数6安打2打点。打率5割4分5厘。東海大五高卒。30歳。

◇大会優秀選手

[投手]佐藤充(日本生命)、土井善和(同)、マーク・ランドル(ホンダ)、藤井稔也(同)、香月良太(東芝)、内海哲也(東京ガス) [捕手]九鬼義典(松下電器)、安田真範(東芝)、鷺北剛(日本生命) [一塁手]福田敏久(東芝)、鈴木秀範(新日鉄君津) [二塁手]工藤賢二(東芝)、沢村通(新日鉄君津) [三塁手]原田能英(三菱重工長崎)、高松広晴(ホンダ)、下野敦司(日本生命) [遊撃手]米山学(ホンダ) [外野手]竹間容祐(日本生命)、木之内薫(新日鉄君津)、伊藤大輔(三菱重工長崎)、小坂将高(松下電器)、岡野勝俊(ホンダ)、天野桂太(東京ガス) [指名打者]大宅敦司(日本生命)、矢口健一(新日鉄君津)



[決勝]ホンダー-日本生命 最高殊勲選手賞の日本生命・佐藤



[準決勝]日本生命-東芝 六回表日本生命1死三塁、石田が一塁前にスリーバントスクイズを決める



[準々決勝]日産自動車-東芝 好投した東芝の銭場



[準々決勝]松下電器-日本生命 一回裏2死二塁、大宅が左中間に逆時二塁打を放つ(投手・丸尾)



[2回戦]三菱重工長崎-JT 九回表三菱重工長崎1死二三塁、代打衛藤が右越えに逆時3点本塁打を放つ(投手・熊島)

[1回戦]川崎製鉄水島-新日鉄八幡 八回表川崎製鉄水島1死二三塁、上四元が右前に同点打を放つ



[決勝]ホンダー-日本生命 初回に3失点したものの、敢闘賞を受賞したホンダの藤井



[1回戦]三菱重工長崎-NIT西日本 五回表三菱重工長崎2死二塁、伊藤が中越えに逆時二塁打を放つ



[2回戦]三菱重工長崎-JT 五回表三菱重工長崎無死、原田が右前安打を放つ



[決勝]ホンダー-日本生命 一回裏日本生命2死満塁、竹間が2者を遠く遊撃手の頭上を越す左前逆時打を放つ、投手・藤井



### 北海道大会

9月19日から 7日間 釧路市民球場・千歳市球場・札幌市民球場



### 東北大会

9月6日から 3日間 宮城県営球場・秋田スポーツセンター・鹿角球場



### 関東大会

9月20日から 4日間 埼玉県営大宮球場・さいたま市営大宮球場



### 北信越大会

9月20日から 3日間 富山市民球場アルペンスタジアム



### 東海大会

9月14日から 8日間 愛知県・岡崎市民球場



### 近畿大会

9月14日から 8日間 姫路球場・高砂市野球場



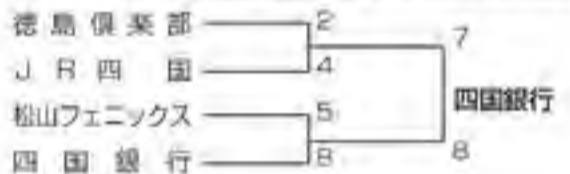
### 中国大会

9月17日から 7日間 岡山・倉敷マスカットスタジアム



### 四国大会

9月21日から 2日間 徳島県営蔵本球場



### 九州大会

9月8日から 8日間 熊本・藤崎台県営球場



JR北海道

Table listing players for JR北海道, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

新日本製鐵君津

Table listing players for 新日本製鐵君津, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

日産自動車

Table listing players for 日産自動車, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

王子製紙

Table listing players for 王子製紙, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

JR東日本東北

Table listing players for JR東日本東北, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

NTT東日本

Table listing players for NTT東日本, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

TDK千曲川

Table listing players for TDK千曲川, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

JR東海

Table listing players for JR東海, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

J T

Table listing players for J T, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

東京ガス

Table listing players for 東京ガス, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

ヤマハ

Table listing players for ヤマハ, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

日本新薬

Table listing players for 日本新薬, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

ホンダ

Table listing players for ホンダ, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

東芝

Table listing players for 東芝, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

三菱自動車岡崎

Table listing players for 三菱自動車岡崎, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.

松下電器

Table listing players for 松下電器, including names like 菅野, 藤田, 山田, and their respective teams and positions.



日本生命

監督	林 洋	投手	山田 隆	捕手	山田 隆	内野	山田 隆	外野	山田 隆
選手	山田 隆	山田 隆	山田 隆	山田 隆	山田 隆	山田 隆	山田 隆	山田 隆	山田 隆

神戸製鋼

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

三菱重工広島

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

新日本製鐵八幡

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

大阪ガス

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

川崎製鉄水島

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

四国銀行

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

三菱重工長崎

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

NTT西日本

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

三菱重工神戸

監督	高橋 繁	投手	高橋 繁	捕手	高橋 繁	内野	高橋 繁	外野	高橋 繁
選手	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁	高橋 繁

感動と共感発信

初日からNTT東VS日生

開会式では、昨年優勝した三菱重工長崎の原田能英主将が、木戸淡・毎日新聞社専務取締役大阪本社代表に優勝旗を返還した。木戸代表は「野球ほど市民に愛されているスポーツはない。素晴らしいプレーで全国のファンに感動を伝えてほしい」と激励。出場チームの監督を代表し、松下電器の大本二郎監督が「ファンに感動と共感を与えられるように全力でプレーすることを誓います」と決意を表明した。その後、日本野球連盟の山本英一郎会長らが鏡開きし、歓迎会を行った。

日本選手権大会 開会式

催：大阪市 後援：スポーツニッポン新聞社・大阪



開会式で、決意表明をする大本二郎・松下電器監督(中央)

優勝=日産自動車

初優勝

日産自動車(関東)	4	}	日産自動車 2	}	日産自動車 6	}	日産自動車
J R 四国(四国)	4		三菱重工神戸 2				
三菱重工神戸(近畿)	7	}	トヨタ自動車 5				
トヨタ自動車(東海)	7		日本新薬 0	}	光 10		
東京ガス(関東)	4	}	J F E 西日本 1				
サンワード貿易(北海道)	1		}	日本生命 3	}		
日本新光(近畿)	2	}		NTT東日本 1			
T D K(東北)	2		}	NTT西日本 1	}		
J F E 西日本(中国)	5	}		西濃運輸 1			
三菱重工長崎(九州)	1		}	大阪ガス 9	}		
日本生命(近畿)	4	}		大阪ガス 2		}	
NTT東日本(関東)	4		}	日立製作所 3	}		
NTT西日本(近畿)	3	}		日立製作所 4		}	
西濃運輸(東海)	2		}	東芝 7	}		
J R 西日本(近畿)	0	}		ミキハウス 10		}	
かずさマジック(関東)	1		}	ミキハウス 9	}		
大阪ガス(近畿)	2	}				}	
九州三菱自動車(九州)	4		}		}		
伏木海陸運送(北信越)	3	}				}	
松下電器(近畿)	2		}		}		
J R 東日本東北(東北)	1	}				}	
日立製作所(関東)	2		}		}		
東芝(関東)	3	}				}	
三菱重工名古屋(東海)	2		}		}		
ミキハウス(近畿)	2	}				}	

## 屈辱の夏を乗り越え 日産自動車初優勝

第30回記念大会はサヨナラ試合が5試合あるなど接戦続き。決勝も日産自動車(関東)が延長十一回、6-5のサヨナラ勝ちで大阪ガス(近畿)を降し、初の頂点に立った。

木製バット復活2年目で各チームとも対応が進み、本塁打数は前回大会より10本増。その中で日産は投手力で勝ち上がった。中村、押本、宮田の3本柱を軸に、防御率は4強以上では最高の1.42。打線は2割5分と打率こそ低かったものの効果的な本塁打が出るなど勝負強さが際立っていた。

この夏、日産は6年連続で出場していた都市対抗を逃した。敗退後は昼夜を問わずミーティングを繰り返し、敗因を分析。その結果、「自分は何をすればいいのかを考えて行動で示すという強い気持ちチームに芽生えた」(渡辺主将)。サヨナラ劇を演出したのは青柳、中原、伊藤の3連打。途中出場の岩越が同点ソロ。中村を好リードで引っ張った中原は今大会は控え。初の頂点はナイン全員が持てる力を発揮した結果だった。

大阪ガスも山田幸、能見ら充実した投手力を武器に12年ぶりに決勝に進出。投手力が勝負の鍵になった。



大阪ガス-日産自動車 十一回裏にサヨナラ勝ち、初優勝に歓喜する日産ナイン

大会  
審判

▷審判委員長=三宅卓次▷審判副委員長=竹中清二、麻生敏二▷幹事=小林勉、赤井淳二、岡本良一、新早定、梅本吉徳、中本尚、清水幹裕▷委員=木嶋一貴、桃田晴彦、辻嘉正、大石泰、梶浦照樹、山崎浩、井口光史、池友久、三宅卓介、松浦信夫、伊東登、土井淳安、堀口光、犬飼康、鹿多延道、浜田正二、生越芳明、北野雅行、橋公政、長谷川文彦、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、稲留雅文、藤野真、殿川浩一、井田保則、伏見文隆、川崎義則、谷口吉洋、阪根雅弘、辻幸太郎、山口義夫、向嶋章、高矢勝彦、山口篤彦、細見英昭、松原信行、小西忠宏、池浪光雄、堀尻澄夫、小谷啓介、南谷安治、木原浩吉、赤坂雅彦、土方賢、山口徹悟、岡崎豊、能地園彦、奥村一徳、森山重良、松田謙成、渡辺一久













▽11月30日

決勝(午後1時開始)	
大阪ガス	0 2 0 1 2 0 0 0 0 0 5
日産自動車	0 0 0 4 0 0 0 1 0 1 6

(延長11回)

【大阪ガス】		【日産自動車】	
① 阪本	6 1 0 0	① 伊藤	5 3 3
② 山田	6 1 0 0	② 伊藤	4 0 0
③ 岩田	5 1 0 0	③ 吉	5 0 0
④ 沢田	4 4 2 0	④ 小	5 1 0
⑤ 栗本	2 0 0 0	⑤ 渡	5 1 1
⑥ 牧野	4 2 0 0	⑥ 大	4 0 0
⑦ 小野	5 2 1 1	⑦ 上	1 0 0
⑧ 高野	5 1 1 1	⑧ 藤	3 1 1
⑨ 塚本	2 0 0 0	⑨ 藤	5 4 1
⑩ 中山	1 0 0 0	⑩ 中	1 0 0
⑪ 山田	0 0 0 0	⑪ 中	3 1 0
⑫ 山田	2 0 0 0		
振替併減	6 3 0 9	振替併減	8 3 0 8
計	42 12 4	計	41 11 6

▶本塁打=渡辺1号①(坂本)、岩田1号①(能見)②二塁打=小野2、沢田、伊藤2▶試合時間3時間56分

## 屈辱の夏越え 初栄冠

まで、無類の勝負強さを見せつけた。

日産は今夏、6年連続出場していた都市対抗を逃した直後、約1週間は朝から夜までミーティングの日々を送った。神奈川予選のビデオを繰り返し見て、それぞれの立場で一球一球について分析しながら負けた理由を洗い出した。そして今大会。「自分は何をすればいいのかを考えて行動で示すという、強い気持ちチームに芽生えた」と、主将の渡辺は言う。

象徴的なのは、夏まで正捕手だった中原。今大会控えに回り、新人の須田がマスク

日産自動車の伊藤が鋭く振り抜いた打球は右翼線いっぱいに入り、転々とフェンスまで達した。劇的なフィナーレだ。

5-5の同点で迎えた延長十一回。日産の攻撃は2死から8番・青柳、中原が連続安打で一、二塁とした。中原の打席で「オレまで回せ」と心の中で念じたという1番・伊藤は、カウント1-2から4球目の直球をジャストミートして青柳がサヨナラ勝利の生還。今大会4試合で、伊藤が放った安打は5本だが、うち4本は打点付き。最後の最後

をかぶり続けた。だが、1点を追う六回から途中出場し、冷静なリードで3番手左腕・田村の持ち味を引き出して、大阪ガスを無得点に封じた。六回に代打出場した岩越は、八回2死無走者から起死回生の同点ソロをたたき込んだ。「みんなが持てる力を出し切ってくれた結果」と久保監督。夏の雪辱の思いは、決勝で見事に結晶された。



十一回裏日産自動車2死二塁、サヨナラの走者・青柳(中央カッツポーズ)を抱き、歓喜の日産自動車ナイン

## 監督談話

日産自動車・久保恭久監督 こういう(接戦の)展開になることは予想できる相手だった。最後は2死からつないでくれたし、その粘りに応えて伊藤がよく打ってくれた。

大阪ガス・湯川素哉監督 能見は直球が走っていた。(十一回の)続投は作戦通り。起用に悔いはない。中村を攻略できなかったのが原因。そこが技術の甘さかと思う。

ひと

また新しい野球を生まだしていきたい

日産自動車 久保 恭久監督

災いを転じて福とし、会社の創立70周年に、見事な優勝で花を添えた。

「われわれの気持ちを天まで届かそう、とみんなが誓い合って試合に臨んだ。選手たちが、誓った通りの魂のこもった野球をしてくれた」

今夏の都市対抗野球は神奈川予選で敗退。本大会への連続出場は「6」で途切れた。監督就任4年目。選手の内発性を重視し、個性を引き出すことに重点を置いた指導方針を夏以降、切り替えた。監督の思いを選手に問いかけて「答え」を自らの頭で考えさせた。さらに、若手の登用……。

「流れが切れたことで、思い切ったことができました」

常に頭にあるのは、工夫すること。小学校に入ったばかりのころ、父親から毎日、夕方の2時間、机の前に座らされた。指示は何もなし。何をして過ごすかは自分で考えた。その「考える習慣」が、自分の道を切り開いていくうえで役立つ。

身長172センチ。大柄ではないが、大学、社会人と投手として活躍。体のハンディは頭を使い、1球に魂を込めることでカバーした。大学では1年がかりで寝の変化球を習得。社会人になってからはシュートを覚え、調子を落とすと、棒を使った独特のシャドーピッチングで好調時を思い出した。

そんな経験を自らのピンチで生かし、チームに浸透させた。刀匠の魂がこもった名刀を見るのが趣味。全国制覇の日、グラウンドの選手が、名刀の輝きとどぶって見えたのではないかと。

和歌山県橋本市出身。橋本高、東京大を経て83年入社。生産事業本部生産人事部勤務。妻と1男2女。43歳。



## 大ガス 夢に手応え

ベンチ前で身を乗り出して、打球の軌跡を祈る思いで追った。サヨナラの瞬間は「負けた」という事実だけ。大阪ガス・沢多が13年間追い続けた夢は、またもついていた。

不動の4番の執念を見せたのは五回だった。逆転された直後、1死二、三塁、フルカウントから外角低めの鋭いコースに投じられた138°。キロの直球に食らいつき、差し込まれながらも右翼線へ運んだ。逆転の2点二塁打にも、にこりともしない。「チャンスで選するのが僕の仕事」。木のバットが金属に見えるほどのホームランバッターが、中堅返しをイメージして臨んだ結果だった。

入社13年。1年目の「何も見えていなかった」91年、同じ決勝の舞台に立っていた。ここに戻ってくるまでに、年齢は背番号の「31」に迫りつき、チーム最年長となっていた。持病のけがで不調が続き、今大会も準決勝まで3安打1打点。この日の4安打は、夢見続けた日本一への思いの深さの証しだった。

「負けたら何も残らない」。沢多はぼう然とつぶやいたが、思い直すように「でも、いいチームになってきましたよ」と言った。ベテランと若手、移籍組の岩本らがかみ合った打線の粘り。能見ら若手が伸びた層の厚い投手陣。そして堅守。敗戦の中にも、就任1年目の湯川監督が目指す「きっちりした野球」がくっきりと見えた。沢多が、そしてチーム全員が心から喜べる日は、そう遠くないはずだ。



十一回裏のピンチに能見(中央)のもとに集まる大阪ガスナイン

第30回記念大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 伊藤祐樹内野手(日産自動車) 1番・遊撃手として4試合フル出場し、16打数5安打6打点。決勝では、決勝の二塁打など3安打3打点の活躍で打線をけん引した。福井工大卒。31歳。

◇敢闘賞 能見篤史投手(大阪ガス) 3試合に登板し、防御率1.99。切れのあるスライダーで速球の威力を生かし、先発した2回戦、準決勝で2勝を挙げ、決勝戦も五回からロング救援で粘った。鳥取城北高卒。24歳。

◇打撃賞 柏野浩二内野手(ミキハウス) 4番として3試合とも出場し、10打数5安打5打点。準々決勝では4打点を挙げる活躍。岡山商科大卒。26歳。

◇首位打者賞 中野滋樹捕手(ミキハウス) 3試合に8番・捕手

でフル出場し、13打席10打数7安打3打点。打率7割。東洋大。23歳。

◇大会優秀選手

【投手】押本健彦、中村将明(以上日産自動車)、山田幸二郎、能見篤史(以上大阪ガス)、内山博昭(ミキハウス) 【捕手】中野滋樹(ミキハウス)、柴田秀仁(一光) 【一塁手】栗栖敏(大阪ガス)、柏野浩二(ミキハウス) 【二塁手】坂上真世(一光) 【三塁手】青柳大輔(日産自動車)、山井晃男(トヨタ自動車)、西田朋生(N T T西日本) 【遊撃手】伊藤祐樹(日産自動車)、岩本達也(大阪ガス) 【外野手】飯塚智広(N T T東日本)、嶋田功一、丸山義人(以上日立製作所) 【指名打者】沢多弘也(大阪ガス)、広瀬栄作(トヨタ自動車)



【1回戦】三菱重工神戸ーJ R四国 七回1死まで相手打線をノーヒットに抑えた三菱重工神戸の遊辺



【1回戦】TDKーJFE西日本 四回裏JFE西日本1死一、二塁、小谷が逆転3ランを放ち、笑顔のナインに迎えられる



【2回戦】東芝ーミキハウス 七回裏ミキハウス、2死一、二塁、中野が内野安打を放つ



【決勝】大阪ガスー日産自動車 十一回裏日産2死一、二塁、伊藤が右翼線にサヨナラ二塁打を放つ



【2回戦】大阪ガスー九州三菱自動車 公式戦で初完投勝利を挙げた大阪ガス・能見



【2回戦】日本生命ーN T T東日本 十一回裏N T T東日本1死一、二塁、キーナンがサヨナラ打、抱き合い喜ぶ二塁走者の紙塚



【準々決勝】トヨタ自動車ー日産自動車 七回裏日産自動車2死、右越えソロ本塁打を放ちガッツポーズをする小山



【1回戦】東芝ー三菱重工名古屋 五回裏三菱重工名古屋2死一、二塁、嶋田が左中間に逆時二塁打



【準々決勝】ミキハウスー日立製作所 五回裏ミキハウス、2死満塁、柏野が走者一掃の右越え三塁打を放つ



サンワード貿易

Table listing players for Sanward Trading, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

かずさマジック

Table listing players for Kazusa Magic, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

日産自動車

Table listing players for Nissan, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

三菱重工名古屋

Table listing players for Mitsubishi Heavy Industries Nagoya, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

JR東日本東北

Table listing players for JR East Tohoku, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

NTT東日本

Table listing players for NTT East Japan, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

伏木海陸運送

Table listing players for Fuki Kaikoku Kosen, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

西濃運輸

Table listing players for Seino Transport, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

TDK

Table listing players for TDK, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

東京ガス

Table listing players for Tokyo Gas, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

トヨタ自動車

Table listing players for Toyota, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

日本新薬

Table listing players for Nippon Shinyaku, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

日立製作所

Table listing players for Hitachi, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

東芝

Table listing players for Toshiba, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

一光

Table listing players for Ichikawa, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.

松下電器

Table listing players for Panasonic, including names like 菅野 隆, 菅野 隆, and 菅野 隆, with their respective positions and numbers.



日本生命

Table listing players and their statistics for the Nippon Life team.

三菱重工神戸

Table listing players and their statistics for the Mitsubishi Heavy Industries Kobe team.

JR西日本

Table listing players and their statistics for the JR West team.

九州三菱自動車

Table listing players and their statistics for the Kyushu Mitsubishi Motors team.

大阪ガス

Table listing players and their statistics for the Osaka Gas team.

JFE西日本

Table listing players and their statistics for the JFE West team.

JR四国

Table listing players and their statistics for the JR Shikoku team.

三菱重工長崎

Table listing players and their statistics for the Mitsubishi Heavy Industries Nagasaki team.

ミキハウス

Table listing players and their statistics for the Mikihouse team.

NTT西日本

Table listing players and their statistics for the NTT West team.

「ありがとう」生む大会に 初戦に三菱重工神戸

単独チームで日本一を争う第30回記念社会人野球日本選手権大会が22日、大阪市西区の大

阪ドームで開幕、9日間にわたる熱戦を展開する。開幕に先立ち21日夜、同市内のホテルで開会



社会人野球日本選手権の開会式で、決意表明する、かずさマジックの露無監督

優勝=JFE西日本 ————— 初優勝



## 実力伯仲、JFE西日本が堅守で初の頂点に

1点差が9試合あり延長戦は3試合。タイブレーク制が初適用されるなど接戦続き。頂点に立ったJFE西日本も、延長十回で準々決勝を制して以降、すべて1点差試合を勝ち上がって来た。

決勝も投手戦となり延長戦へと突入し、十五回に福竹のソロ本塁打で決勝点を奪った。福竹はこの秋にレギュラーに抜てきされたばかり。決勝アーチを放った投手は阪神入団が内定の大阪ガス・能見だったが、「投手が誰であろうと関係ない。一球との勝負にかけた」と言い切った。

この無名の21歳による殊勲打を演出したのは堅い守りだった。六回。連打で2死一、二塁とされ、さらに左前打を浴びたが、本塁を狙った二塁走者を左翼手・難波が好返球。得点を許さず、七回以降は菅崎、田中の継投で9イニングを無安打無得点に抑えた。JFE西日本はこの夏の都市対抗2次予選で連敗。防御率が5.00と振るわなかったが、そこから選手一人一人が奮起。選手権ではエース山下敬、速球派の田中に加え、山本、菅崎の両左腕の継投が成功し、チーム防御率1.38と立て直してきた。

大阪ガスは2年連続準優勝に終わったが、能見、山田幸、坂本の投手陣が好投。5試合で無失策と守備力を誇るチームが決勝にコマを進めた。



大会  
審判

▷委員長=木嶋一貴▷運営委員=小林勉、赤井淳二、岡本良一、宮木明▷委員=櫻根精一、桃田晴彦、辻喜正、大石泰、梶浦照樹、山崎浩、井口光史、池友久、三宅章介、土井淳宏、堀口光、堅田外司昭、長谷川次郎、新早定、鹿多証道、脇宣春、浜田正二、生越芳明、橋公政、山邊光喜、松川明弘、岸見慎明、藤野真、殿川浩一、梅本吉徳、阪根雅弘、辻幸太郎、山口義夫、山口篤彦、小西忠安、池浪光雄、向嶋章、松村洋、小谷啓介、南谷宏治、木原浩吉、小島喜作、森田進一、稲垣勲、吉田成人、伊藤彰、阿部生男、大西浩司、中田恵博、内田武昭、清水豊美













第31回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 田中敬人投手(J F E 西日本) 5試合すべてに登板。切れのいい直球を内外角に投げ分け、防御率1.86。決勝では十回途中から救援登板し、5回3分の2を無安打に抑えた。駒大出。25歳。

◇敢闘賞 坂本健二投手(大阪ガス) 2回戦と決勝に先発し、防御率0.50。140\*。台の直球に威力があり、18回を投げて被安打8、23奪三振の快打を見せた。瀬戸内高出。31歳。

◇打撃賞 福竹政人内野手(J F E 西日本) 決勝で決勝本塁打。通算20打数6安打、3本塁打。倉敷商高出。21歳。

◇首位打者賞 西田朋生内野手(N T T 西日本) 5番・一塁手として4試合フル出場。16打席14打数7安打、打率5割。帝京大出。29歳。

◇大会優秀選手

[投手]山下敬之、田中敬人(以上J F E 西日本)、能見篤史、坂本健二、山田幸二郎(以上大阪ガス)、岸田護(N T T 西日本)、野間口貴彦(シダックス)、神田幸輝(サンワード貿易)、渡辺恒樹(N T T 東日本) [捕手]小谷良文(J F E 西日本)、小野和隆(大阪ガス) [一塁手]徳山達訓(J F E 西日本)、中本拓(大阪ガス)、西田朋生(N T T 西日本) [二塁手]宮崎昌樹(N T T 西日本)、佐藤二郎(シダックス) [三塁手]福竹政人(J F E 西日本)、脇谷亮太(N T T 西日本) [遊撃手]森永孝(J F E 西日本) [外野手]永井裕也、難波和彦(以上J F E 西日本)、溝下進崇(大阪ガス) [指名打者]大崎有倫(J F E 西日本)



[2回戦]松下電器-トヨタ自動車 一回表松下電器1死一塁、堀が先制の右越え二塁打を放つ



[2回戦]JFE西日本-三菱重工神戸 三回表JFE西日本無死、福竹が左越えソロを放つ。捕手は高嶺



[準々決勝]松下電器-NTT西日本 二回裏NTT西日本無死二塁、黒塚が同点の左翼線二塁打を放つ



[準々決勝]JFE西日本-サンワード貿易 十回表JFE西日本1死二塁、永井が右翼線に勝ち越し打を放ちカッパース



[2回戦]J R 四国-大阪ガス 八回裏大阪ガス1死二塁、沢多の中前打で岩本が生還し、勝ち越し



[2回戦]J R 四国-大阪ガス 大阪ガスの先発・坂本



[1回戦]J R 西日本-七十七銀行 4時間半近い激闘を制し、ナインと共に喜ぶJR西日本の中須賀

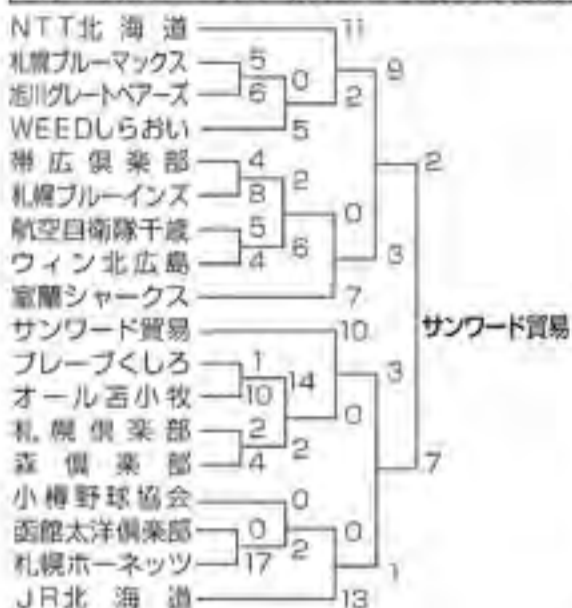


[2回戦]住友金属鹿島-NTT西日本 五回裏NTT西日本2死三塁 西田が右中間2ランを放つ



### 北海道

9月11日から 6日間 札幌山崎球場・東山町球場・定規沢市民球場



### 東北

9月24日から 4日間 県営宮城球場・磐島球場



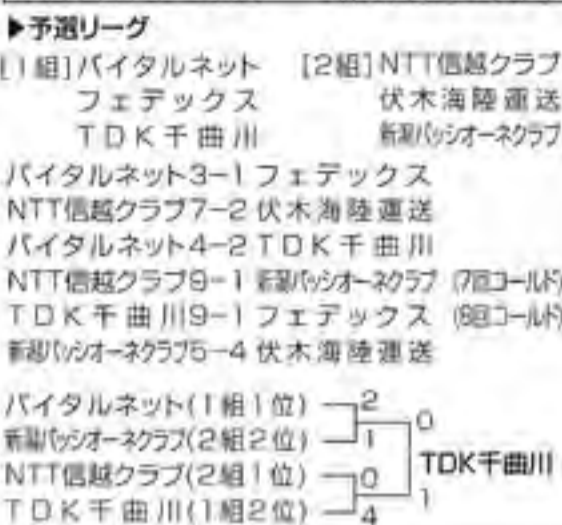
### 関東

10月12日から 5日間 東京・大田スタジアム・府中市民球場



### 北信越

10月7日から 5日間 新潟市営鳥屋野球場



### 東海

9月23日から 7日間 愛知・岡崎市民球場



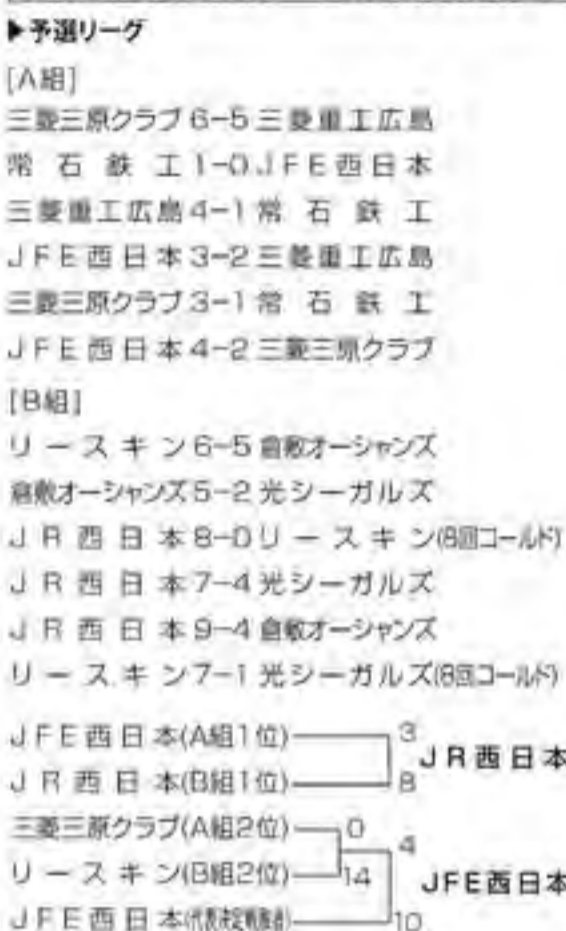
### 近畿

10月16日から 7日間 藤井中央球場・豊洲ベースボールスタジアム



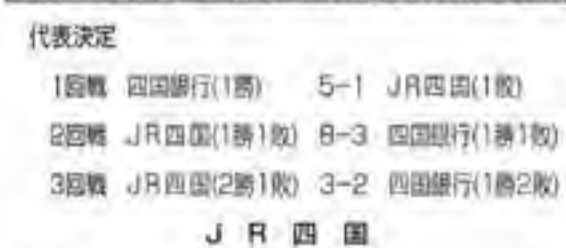
### 中国

10月8日から 6日間 山口・周南市野球場



### 四国

9月25日から 2日間 松山・坊ちゃんスタジアム



### 九州

9月25日から 7日間 福岡県営球場・熊本県営みどり野球場



第31回大会出場選手等一覧(○は主将)

サンワード貿易

Table listing athletes for Sanward Trading, including names like 山本 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

東京ガス

Table listing athletes for Tokyo Gas, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

東芝

Table listing athletes for Toshiba, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

トヨタ自動車

Table listing athletes for Toyota Motor, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

七十七銀行

Table listing athletes for Seventy-Seven Bank, including names like 山本 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

NTT東日本

Table listing athletes for NTT East Japan, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

TDK千曲川

Table listing athletes for TDK Senri, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

三菱重工名古屋

Table listing athletes for Mitsubishi Heavy Industries Nagoya, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

JR東日本東北

Table listing athletes for JR East Tohoku, including names like 山本 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

鷺宮製作所

Table listing athletes for Sagami Works, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

ヤマハ

Table listing athletes for Yamaha, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

ニチダイ

Table listing athletes for Nichidai, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

住友金属鹿島

Table listing athletes for Sumitomo Metal Kamishima, including names like 山本 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

シダックス

Table listing athletes for Sidax, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

東海理化

Table listing athletes for Tokai Rika, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.

松下電器

Table listing athletes for Panasonic, including names like 大塚 隆, 佐藤 健, and their respective schools.





日本生命

Table listing player names and statistics for the Nippon Life team.

三菱重工神戸

Table listing player names and statistics for the Mitsubishi Heavy Industries Kobe team.

JR西日本

Table listing player names and statistics for the JR West Japan team.

JR九州

Table listing player names and statistics for the JR Kyushu team.

デュプロ

Table listing player names and statistics for the Dupro team.

JFE西日本

Table listing player names and statistics for the JFE West Japan team.

JR四国

Table listing player names and statistics for the JR Shikoku team.

三菱重工長崎

Table listing player names and statistics for the Mitsubishi Heavy Industries Nagasaki team.

大阪ガス

Table listing player names and statistics for the Osaka Gas team.

NTT西日本

Table listing player names and statistics for the NTT West Japan team.

選手が職場の戦力に 唯一の初出場 ニチダイの挑戦

今大会唯一の初出場チームが創部8年目のニチダイだ。京都府京田辺市にある自動車部品などの精密金型メーカー。社員約300人のうち24人を野球部員が占める。

主将の田中敬次(26)の起床は午前5時40分。工場では旋盤で金型を切削する。危険を伴う、集中力が必要な作業だ。午後4時から9時過ぎまで練習し、一日が終わる。

一昨年は三菱自動車京都、昨年は日本IBM野洲と近隣の大手チームの休部を日の当たりにしてきた。「野球部の維持は、小さな企業にとっては挑戦だ」と話すのは、同社常務の藤本光洋・野球部長だ。

昨年2月、練習場に夜間照明を設置。プロ経験者の指導も積極的に取り入れてきた。今季は阪神でプレーした桑野謙(55)が監督に就任。阪神の古田義男元監督らを招くこともある。勤務時間を除けば、同社の野球部への支援は決して薄くない。「選手が職場の戦力とされ、引退後は管理職となり、やがて野球部の存在意義が社内外で認知されていく」。これが藤本部長の描く青写真だ。

今大会の出場26チーム中、1日8時間以上就労するのは、工場の3交代制に入るTDK千曲川、車掌補助や駅の改札などを行うJR四国を加えた3チーム。「ともに働くことで、社員や地域に愛される野球部を目指す」が共通の思いだ。休部部が相次ぐ逆境の中で、社会人の原点に活路を求め、



初出場を決め、歓喜のニチダイ

## 優勝=松下電器 ————— 5年ぶり2回目

伯和ビクトリーズ (中国)	1	鷺宮製作所 7	鷺宮製作所 3	松下電器 2
鷺宮製作所 (関東)	3	鷺宮製作所 6		
三菱重工神戸 (近畿)	2	東海REX 2	日本生命 2	
JR四国 (四国)	0	東海REX 2		
東海REX (東海)	3	日本生命 8	九州三菱自動車 2	
シダックス (関東)	1	日本生命 8		
日本生命 (近畿)	2	九州三菱自動車 8	松下電器 4	
ホンダ鈴鹿 (東海)	7	九州三菱自動車 8		
ニチダイ (近畿)	0	東芝 1	松下電器 13	
九州三菱自動車 (九州)	5	東芝 1		
東芝 (関東)	8	松下電器 4	NTT西日本 4	
JR東日本東北 (東北)	1	NTT西日本 5		
松下電器 (近畿)	4	三菱ふそう川崎 0	NTT西日本 2	
七十七銀行 (東北)	2	三菱ふそう川崎 0		
NTT西日本 (近畿)	3	JR九州 2	NTT西日本 1	
王子製紙 (東海)	0	JR九州 2		
三菱ふそう川崎 (関東)	6	JFE西日本 1	ホンダ 3	
サンワード貿易 (北海道)	3	JFE西日本 1		
JR九州 (九州)	5	ホンダ 5	ホンダ 0	
JFE西日本 (中国)	6	トヨタ自動車 1		
TDK千曲川 (北信越)	4	トヨタ自動車 0		
デュプロ (近畿)	1			
ホンダ (関東)	3			
新日本石油ENEOS (関東)	1			
トヨタ自動車 (東海)	3			
大阪ガス (近畿)	0			

## 見事な立て直し 松下電器が5年ぶり頂点へ

大会直前、7年ぶりに都市対抗出場を逃した松下電器が見事な立て直しを見せ、大会史上初の「大阪決戦」を制した。これで02年の日本生命以降、日産自動車、JFE西日本、松下電器と、4大会連続で都市対抗不出場チームが頂点に立った。松下電器の優勝は5年ぶり2回目。

4強のチーム防御率がすべて1点台と投手優勢の中で、松下電器は打線の勢いが際立った。4、5番の梶原、吉田憲が毎試合安打で引っ張り、準々決勝以降の3試合は2けた安打だった。投手起用では、3試合に山本之が先発、山本司が全試合抑えて登板し、「山本で始め山本で締める」形を貫いた。都市対抗予選敗退の反省から、投打の柱を確立したことがチーム内に安定感と信頼感を生んだ。

準優勝のNTT西日本は、零封勝ちが2試合。右の岸田、左の笠木を中心に高い投手力を示した。誤算は31回大会で3割近かった打線が振るわなかったこと。初の決勝進出だったが涙をのんだ。

4強入りしたホンダは投手力が光り、左腕・坂本をはじめ5投手が4試合でわずかに4失点。鷺宮製作所は33歳左腕・岡崎の好投で大会初勝利を飾って波に乗った。



### 大会 審判

▶委員長=赤井淳二▶運営委員=小林勉、岡本良一、宮木明▶委員=山崎浩、井口光史、池友久、三宅章介、土井淳宏、堀口光、堅田外司昭、長谷川次郎、新卓定、鹿多証道、浜田正二、生地芳明、橋公政、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、藤野真、殿川浩一、花尾謙明、飯根雅弘、辻幸太郎、山口義夫、山口篤彦、池波光雄、松原信行、古川泰史、左海資士、小谷啓介、南谷宏治、木原浩吉、桑原和彦、戸田隆治、石川雅彦、丸山茂春、塚田和也、鈴木孝則、橋原啓資、富岡伸行、初田幸広、永山万盛、小林俊久











▽11月27日

決勝(午後1時1分開始)

NTT西日本	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
松下電器	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2

(延長11回)

▶審判(球審)生野(塁審)橋、池、三宅

【NTT西日本】	打安点	【松下電器】	打安点
① 脇 谷	4 2 0	① 野 野	5 2 0
② 宮 崎	2 0 0	② 甲 斐	3 0 0
③ 山 崎	2 0 0	③ 田 堀	4 0 0
④ D 山 崎	1 0 0	④ 野 原	4 1 0
⑤ HD 井 阪	2 1 0	⑤ D 吉 田	5 5 0
⑥ HD 西 井	4 1 0	⑥ 中 平	3 0 0
⑦ 西 大	5 0 0	⑦ 山 山	4 1 1
⑧ 大 藤	4 1 0	⑧ 山 野	5 2 1
⑨ 藤 一	3 1 0	⑨ 野	4 1 0
⑩ 広 瀬	2 0 0		
⑪ H 清	1 0 0		

振球併残 計 34 6 0  
振球併残 計 37 12 2

岸田	6 1/3	26	8	1	山本之	7 1/3	27	4	1
徳留	1	5	0	0	田中修	1/3	3	1	0
西藤	1	1	1	0	山本司	3 1/3	13	1	0
大倉	3 1/3	12	3	1					

▶二塁打=吉田憲▶暴投=田中修▶守備妨害=真野▶試合時間 3時間34分

## 延長11回 新田サヨナラ打

前に運び、サヨナラの走者となった。開幕前のプロ野球ドラフト会議で指名を受けた岸田、斎藤からの4安打を含む5打席5安打。止めようもない勢いを示した吉田憲だが、チームメイトとともに、「どん底」に突き落とされたのはほんの数カ月前のことだ。松下電器は今夏、7年ぶりに都市対抗出場を逃した。2次予選で負けた相手は、活動2年目のNOMOクラブ。半世紀を超える歴史を持つチームには、あってはならない失態だった。「負けて原点に戻った」と吉田憲が振り返る。暑い日差しの下で基本練習を繰り返

## 監督談話

**松下電器・北口正光監督** 今年の都市対抗出場を逃したが、その分しんどい練習をしてチームがレベルアップした。選手がよくやってくれた。  
**NTT西日本・村本忠秀監督** 点を取れなかったのは、すべて私の責任。また宿題ができました。選手たちには文句のつけようもない。

ひと

調子が良すぎて怖いくらいでした

松下電器 北口 正光監督

「夏以降、選手が気持ちを切り替え、厳しい練習に耐えてくれた。精神的にもたくましくなったことが

この結果につながった。そう言うとき大きな自から湧きあふれた。

今年夏の都市対抗野球大阪・和歌山予選はデュプロ、NOMOクラブに敗れ、7年連続を目指していた本大会への道を閉ざされた。「全国大会でも優勝を狙える戦力」と自信を持って臨んだだけに「経験したことのないような大きなショックを受けた」。原因を追求する中で自身の「意識改革」の必要性を痛感した。

選手との接し方、言葉のかけ方、監督としての態度……。投手には「四球を出すな」、打者には「積極的に打て」とアドバイスしていたが、表現を変えた。投手には「打たれていっから真ん中に思い切り投げる。気持ちがこもってれば打ち損じをしてくれるよ」、打者には「三振OK、思い切り初球から行け」と、プレッシャーを取り除くことで選手の気持ちを楽にし、ベンチでは選手と一緒にムードを盛り上げた。

体は大きくないが、高校時代は清原、桑田両選手の1年先輩として甲子園に出場、84年夏には準優勝を経験した情熱の人。「監督の立場を意識しすぎて、かつての情熱を忘れかけていた。夏のショックがそれを思い出させてくれた」。チームが一つになっての全国制覇。スタンドも歓喜に包まれたこの日は、会社の創業者、松下幸之助さん(故人)の誕生日だった。

和歌山市出身。PL学園、亜細亜大を経て89年に入社。現役時代は内野手として活躍した。03年12月に監督就任。妻と2男、38歳。



北口正光監督

しながら、日本選手権を制した5年前を思い出した。「チームに一体感があふれていた。それが、知らず知らず薄れていった」。

思いは北口監督にしても同じ。「能力のある選手をそろえながら機能させられなかったのは、信頼関係が欠けていたから」と痛感した。

選手と監督が、夏の精進を信じて臨んだ大会。シーズン最後の日に、最高の形で一体感を表現した。



十一回裏松下電器2死二塁、サヨナラの中越えを放ち、この試合を突き上げる新田

## プロで「恩返し」を

岸田護投手(24) NTT西日本

チームへの置き土産と心に決めていたダイヤモンド旗が、遠のいていく瞬間だった。延長十一回。同期の斎藤が浴びたサヨナラ打を、ベンチでぼうぜんと見ていた。

大切な一戦での先発。一、六回を除いて毎回走者を背負ったが、要所は140%以上の直球でねじ伏せた。だが、七回1死二塁。高めに入ったスライダースを痛打され、先制点を許して降板した。

今夏の都市対抗。試合直前の練習で右肩を痛めた。涙ながらに村本監督に登板を訴えたが、かなわなかった。それだけに、「この大会にかけてきた」。

開幕前日のドラフトで、オリックスの3巡目指名を受けてチームを巣立つことになり、意気込みは一層強くなった。「気持ちよく終わりたい一心で投げ続けた」。

今大会2勝を挙げ、初の決勝進出の原動力となったが、結局、ダイヤモンド旗はつかめなかった。「恩返しできなかった」という思いが残る。試合後しばらくベンチで動けなかったが、目を赤くしたまま意を決するよう口を開いた。「成長した姿を見せたい」。立つマウンドはプロにかわるが、恩返しはこれからだ。



七回途中まで力投したNTT西日本の先発・岸田

第32回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 山本隆之投手(松下電器) 2回戦、準々決勝、決勝の計3試合に先発。切れのある速球と落差のある変化球を駆使し、防御率1.89。決勝では八回途中まで4安打8奪三振。法大出。26歳。

◇敢闘賞 岸田護投手(NTT西日本) 3試合に先発。準々決勝のJ R九州戦では完封勝ち、決勝でも七回途中まで1失点の好投。武器は切れのあるスライダー。防御率1.21。東北福祉大出。24歳。

◇打撃賞 吉田憲一郎内野手(松下電器) 決勝で5打数5安打。通算15打数8安打、1本塁打。福岡大出。29歳。

◇首位打者賞 重石勝司外野手(九州三菱自動車) 7番・右翼手として3試合出場。12打席9打数6安打、打率6割6分7厘。

九州産大出。23歳。

◇大会優秀選手

【投手】岡崎淳二(鷺宮製作所)、山本隆之(松下電器)、岸田護、笠木伸二(以上NTT西日本)、坂本保(ホンダ)、吉見一起(トヨタ自動車) 【捕手】新田玄気(松下電器)、大原周作(NTT西日本) 【一塁手】梶原康司(松下電器)、宇多村典明(J R九州) 【二塁手】宮崎昌樹(NTT西日本) 【三塁手】関大輔(鷺宮製作所)、平山嗣人(松下電器) 【遊撃手】石井剛(九州三菱自動車)、田原隆三郎(松下電器)、一色和也(NTT西日本) 【外野手】重石勝司(九州三菱自動車)、開田成幸(ホンダ)、甲斐俊治(松下電器)、福田晃(鷺宮製作所) 【指名打者】吉田憲一郎(松下電器)



【1回戦】J R四国-東海REX 三回裏東海REX1死一、三塁、上月が投前スクイズを決める(捕手・松谷)



【準々決勝】九州三菱自動車-松下電器 二回表九州三菱自動車、無死、重石が左前安打を放つ



【2回戦】東芝-松下電器 六回裏松下電器無死、吉田憲が右越え本塁打を放つ



【準々決勝】J R九州-NTT西日本 一回裏NTT西日本2死二塁、西田が三塁打を放ち三塁に滑り込む



【準決勝】ホンダー-NTT西日本 完封したNTT西日本の先発・笠木



【2回戦】日本生命-東海REX 三回表日本生命1死二塁、下野が左越え2点本塁打を放つ(捕手・久保)



【1回戦】J F E西日本-TDK千曲川 十回表J F E西日本2死一、二塁、三宅が右翼線に勝ち越しの三塁打を放つ



【1回戦】NTT西日本-王子製紙 二回表NTT西日本1死一、三塁、一色が三塁ゴロを打ち三塁走者を迎え入れる(捕手・川上)



【決勝】NTT西日本-松下電器 八回途中まで4安打の力投でMVPに選ばれた松下電器の先発・山本之





サンワード貿易

Table listing athletes for Sanward Trading, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

鷺宮製作所

Table listing athletes for Sagami Seisakusho, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

新日本石油ENEOS

Table listing athletes for Eni Petroleum, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

東海REX

Table listing athletes for Tokai REX, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

七十七銀行

Table listing athletes for Seventy-Seven Bank, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

シダックス

Table listing athletes for Sidax, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

TDK千曲川

Table listing athletes for TDK Chikuma, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

ホンダ鈴鹿

Table listing athletes for Honda Suzuka, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

JR東日本東北

Table listing athletes for JR East Tohoku, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

東芝

Table listing athletes for Toshiba, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

トヨタ自動車

Table listing athletes for Toyota Motor, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

ニチダイ

Table listing athletes for Nichidai, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

ホンダ

Table listing athletes for Honda, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

三菱ふそう川崎

Table listing athletes for Mitsubishi Fuso Kawasaki, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

王子製紙

Table listing athletes for Oji Paper, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.

松下電器

Table listing athletes for Panasonic, including names like 菅原 大, 菅原 大, and 菅原 大, with their respective university affiliations.



## デュープロ

監督	佐久間 隆夫	投手	佐久間 隆夫	捕手	佐久間 隆夫	内野	佐久間 隆夫	外野	佐久間 隆夫
選手	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫	佐久間 隆夫

## 三菱重工神戸

監督	松田 山久	投手	松田 山久	捕手	松田 山久	内野	松田 山久	外野	松田 山久
選手	松田 山久	松田 山久	松田 山久	松田 山久	松田 山久	松田 山久	松田 山久	松田 山久	松田 山久

## 伯和ビクトリーズ

監督	東洋 隆夫	投手	東洋 隆夫	捕手	東洋 隆夫	内野	東洋 隆夫	外野	東洋 隆夫
選手	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫	東洋 隆夫

## JR九州

監督	吉田 隆夫	投手	吉田 隆夫	捕手	吉田 隆夫	内野	吉田 隆夫	外野	吉田 隆夫
選手	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫

## 日本生命

監督	前山 隆夫	投手	前山 隆夫	捕手	前山 隆夫	内野	前山 隆夫	外野	前山 隆夫
選手	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫	前山 隆夫

## JFE西日本

監督	吉田 隆夫	投手	吉田 隆夫	捕手	吉田 隆夫	内野	吉田 隆夫	外野	吉田 隆夫
選手	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫	吉田 隆夫

## JR四国

監督	高橋 隆夫	投手	高橋 隆夫	捕手	高橋 隆夫	内野	高橋 隆夫	外野	高橋 隆夫
選手	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫	高橋 隆夫

## 九州三菱自動車

監督	山口 隆夫	投手	山口 隆夫	捕手	山口 隆夫	内野	山口 隆夫	外野	山口 隆夫
選手	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫	山口 隆夫

## 大阪ガス

監督	山本 隆夫	投手	山本 隆夫	捕手	山本 隆夫	内野	山本 隆夫	外野	山本 隆夫
選手	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫	山本 隆夫

## NTT西日本

監督	村山 隆夫	投手	村山 隆夫	捕手	村山 隆夫	内野	村山 隆夫	外野	村山 隆夫
選手	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫	村山 隆夫

## 「新風」起こす好機 唯一の初出場・伯和ビクトリーズ

「毎日練習することさえしなかった。何も分からずに野球部を持つことになって、マジックにかかったようでした。」

広島県東広島市に本拠を置き、同県を中心に遊技、飲食、衛生業を展開する伯和グループの安本義伯代表は言う。今大会唯一の初出場チーム、伯和ビクトリーズの出発は今年3月。「地域に野球チームを」という東広島商工会議所の仲立ちで、昨夏の都市対抗初出場直後に休部を決めたリースキンを引き継いだ。「企業がお金の一部を野球部に充てるのも、社会への恩返し」と安本代表は考えた。

半年余りがたち実感するのは「野球部を生かすには、企画力が必要だ」ということだ。西条酒で知られる同市の「酒まつり」には連日20万人が訪れる。ここにグループが出す屋台の運営を、野球部に任せることを考えた。ユニホーム姿で立ち働けば地域の人に見知ってもらえる。グループの役員として「稼ぐ」ことにもなる。日本選手権予選と目標が重なり実現しなかったが、「来年はぜひとも」と思う。

ただ、選手らの勤務体系や後援会組織をどう整えるか、野球部運営の基礎はまだ、試行錯誤の段階だ。今大会の応援態勢も、東賢孝監督や選手兼任の北外宏喜コーチが自ら練るしかない。

チームの立て直しのため、5年ぶりに野球部に復帰した北外は、昨夏の都市対抗で応援リーダーとしてマイクを持った。「会社の人たちとの一体感に感動した」と言うが、「今年は、応援して頂く自分たちが、応援の仕方を提案しなければならない」。

休部決定で選手11人が去る中、再出発初年に代表権をつかんだことは、殊に値する一方で早過ぎたといえなくもない。だが、「企画力で社会人野球に新風を起こす」という安本代表の意気込みや、野球部の誘致を望んだ地域の思いを形にしていくには絶好のチャンスとなった。



初出場を決め、喜ぶ伯和ビクトリーズの選手たち

# 第33回 大会

2006年(平成18年)11月18日▶11月26日 京セラドーム大阪

優勝=富士重工業 ————— 25年ぶり2回目

TDK (徳島秋田)	6	1	ホンダ3	ホンダ6	富士重工業
和歌山箕島球友会 (徳島和歌山)	0	3	ホンダ3		
JFE東日本 (関東)	0	4	トヨタ自動車4	トヨタ自動車0	
トヨタ自動車 (東海)	3	1	トヨタ自動車0		
日産自動車九州 (九州)	2	3	日本生命3	日本生命6	
三菱重工神戸 (近畿)	0	2	JR四国2		
鷺宮製作所 (関東)	1	2	倉敷オーシャンズ2	日本生命8	
日本生命 (近畿)	10	1	セトセ銀行1		
JR四国 (四国)	3	0	七十七銀行4	七十七銀行1	
一光 (東海)	2	0	七十七銀行0		
倉敷オーシャンズ (中国)	4	1	柏和ビクトリーズ1	柏和ビクトリーズ1	
NTT西日本 (近畿)	3	2	柏和ビクトリーズ1		
七十七銀行 (東北)	3	2	富士重工業2	富士重工業3	
デュプロ (近畿)	0	1	松下電器1		
柏和ビクトリーズ (中国)	3	0	NTT北海道0	富士重工業7	
東芝 (関東)	2	1	ホンダ熊本1		
NTT信越硬式野球クラブ (北信越)	0	2	ホンダ熊本2	ホンダ熊本1	
富士重工業 (関東)	11	7	新日本石油ENEOS1		
西濃運輸 (東海)	3	1	新日本石油ENEOS7	新日本石油ENEOS2	
松下電器 (近畿)	4	5	新日本石油ENEOS2		
東邦ガス (東海)	5	0	大阪ガス5	大阪ガス5	
NTT北海道 (北海道)	8	1	大阪ガス5		
ホンダ熊本 (九州)	5	1			
NOMOベースボールクラブ (近畿)	1	1			
JR東日本東北 (東北)	1	10			
新日本石油ENEOS (関東)	10				
大阪ガス (近畿)		5			

## 堅守を誇った富士重工業が25年ぶり制覇

決勝まで5試合を通じて無失策の富士重工業が25年ぶり2回目の優勝を飾った。3試合に登板し、防御率0.98で最高殊勲選手賞を獲得した。

優勝を飾った。3試合に登板し、防御率0.98で最高殊勲選手賞を獲得した。エース阿部を筆頭に、チーム防御率は1.05。実に硬い守りで頂点まで駆け上がった。

準優勝の日本生命は投打のバランスがとれていた。佐々木正、阿部の1.2番は打率4割を超え、中軸も3割以上で1試合平均6点近い得点を挙げた。投手陣は4試合に登板した新人の下手投げ、下級選手が3勝して引っ張った。

4強入りした新日本石油ENEOSは4試合で6本塁打するなど打線が充実していた。都市対抗ベスト8に続いて4強に入ったホンダは、自慢の強力打線に波があり、守備にもほころびが出た。

ベスト4のうち三つの枠を関東勢が占め、関東勢3、東北1だった都市対抗と同様、東高西低の傾向が色濃く出た。また、今大会から新設された推薦枠では、都市対抗優勝のTDK、全日本クラ



### 大会 審判

▷審判委員長=赤井淳二▷審判運営委員=小林勉、岡本良一、宮本明▷審判委員=桃田晴彦、辻喜正、梶浦照樹、山崎浩、池友久、三宅章介、土井淳安、堀口光、野田外司、長谷川次郎、新早定、鹿多証道、浜田正二、橋公政、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、殿川浩一、花尾聡明、阪根雅弘、井田保則、細見英昭、辻幸太郎、山口義夫、山口篤彦、池浪光雄、松垣信行、谷口吉洋、古川泰史、左海資士、小谷啓介、南谷安治、木原浩吉、桑原和彦、齊藤完司、井上憲也、高橋京一、勝山泰司、伊藤英俊、中園晃成、杉江周作、金子慎一、木下敬二、高島俊一



▽11月18日

第1試合=1回戦(午前8時58分開始)

和歌山箕島球友会 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
ホンダ 0 3 0 0 1 1 0 1 X | 6

Scoreboard for the first game on Nov 18, listing players and statistics for both teams.

本塁打=佐伯1号(古岡) 二塁打=岡野勝、小坂、金子、早川 試合時間2時間18分

持ち味発揮 意地の3盗塁

スコアだけ見れば完敗だろう。和歌山箕島球友会の日本選手権初挑戦は、優勝候補ホンダの分厚い壁にはね返された。しかし、チームの持ち味は随所に出した。

「アリの象を倒すようなもの。クラブ日本一とはいえ、西川監督は対戦前、そう語っていた。打てないでしょう。だから機動力を使って、1安打で2、3点を奪える試合をしたいと、突破口を探していた。

言葉通りに攻めた。2安打にもかかわらず、積極的な走塁で4度も得点圏に走者を送った。特に2番・古川は2四球に安打、失策で4打席とも出場し、2盗塁を決めた。古川は普段使うことのない人工芝に戸惑いながらも一塁手の仕草やボールカウントなどを冷静に考えたうえで盗塁。「普段の練習でも機動力を磨いてきた。その結果が出て良かった」。意地は見せた。盗塁は好機で安打が出なかったことだ。

「相手もこの試合に、目いっぱい力をぶつけてきたと思う。それでも、埋まらない差ではないと感じた」と西川監督。大きな収穫を得た。

第2試合=1回戦(午後11時56分開始)

JFE東日本 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
トヨタ自動車 0 0 0 0 0 0 1 2 X | 3

Scoreboard for the second game on Nov 18, listing players and statistics for both teams.

二塁打=広瀬、藤原、尾張 試合時間2時間34分

第3試合=1回戦(午後3時4分開始)

日産自動車九州 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 | 2
三菱重工神戸 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

Scoreboard for the third game on Nov 18, listing players and statistics for both teams.

二塁打=河野、池田 試合時間3時間56分

完投したかった

⑩…三菱重工神戸は34歳の左腕・木林が先発し、10回3分の1を無失点に抑えた。近畿2次予選では敗者復活戦で連続完投するなど、5年連続出場の原動力に、この日も130km/hの直球にスライダーなどを織り交ぜ、打たせて取る巧みな投球。八回まで許した安打は内野安打1本のみ。延長十一回に連打されて降板したが、応援団から盛んな拍手を浴びた。ただ、チームは昨年に続いて初戦で惜敗。「やっぱり完投できないと、スタミナが課題ですね」。16年目のベテランは、なお自分に厳しかった。

第4試合=1回戦(午後7時33分開始)

日本生命 0 5 0 0 0 4 0 1 0 | 10
電宮製作所 0 0 1 0 0 0 0 0 0 | 1

Scoreboard for the fourth game on Nov 18, listing players and statistics for both teams.

本塁打=澄川1号(小高) 三塁打=古賀、岡部2 二塁打=石田2、金本 暴投=竹中 試合時間2時間55分

緩急にやられた

⑩…日本生命の新人アンダースロー、下敷筋を攻略できず初戦で敗れた電宮製作所。無安打に終わった主将の5番・久保は「球速表示より速球が手で伸び、変化球は遅かった」と緩急にやられた様子。34歳のベテラン岡崎も「なかなかいないタイプ」と認めた。

▽11月19日

第1試合=1回戦(午前10時28分開始)

J R 四国 0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3
光 0 0 0 0 0 0 0 2 0 | 2

Scoreboard for the first game on Nov 19, listing players and statistics for both teams.

二塁打=西村、妹尾、伊志満 試合時間2時間38分

第2試合=1回戦(午後1時43分開始)

倉敷オーシャンズ 0 0 0 0 1 0 0 2 0 0 1 | 4
NTT西日本 0 0 1 0 0 1 1 0 0 0 0 0 | 3

Scoreboard for the second game on Nov 19, listing players and statistics for both teams.

本塁打=小坂1号(三谷) 森拓1号(糸川) 三塁打=宮崎 二塁打=西田、藤森、熊沼 試合時間3時間58分

九回2死走者なしから 2点差追いつき

延長十三回、左翼席に飛び込む打球が決着をつけた。倉敷オーシャンズの森拓にとって、ここまでタイミングが合わなかった変化球。この時ばかりはスライダーがまたとない好球に見えた。「ベンチの雰囲気は打たせてくれた」と声を弾ませた。

相手は今夏、都市対抗出場を逃し、巻き返しを期すNTT西日本。オーシャンズとて、代表決定戦2連敗で“夏”を逃している。勝ちたい気持ちは負けず、2点を追う九回2死、無走者から代打・戸伏の右前打などで一、二塁。藤森が左翼手の頭越しに2点二塁打を放って同点。土俵際で踏ん張った。

しぶとさは、バッテリーもしかり。七回から救援した側は、持ち味のスライダーに精彩を欠いた。140km/h前後の速球に活路を見いだしたのは捕手の松島。先頭に右前打された九回を速球また速球でしのぐと、その後もフォークを見せ球に速球勝負。

その顔が「こんなに粘りがたくましかったとは」と目を丸くする。02年限りで本社支店を断たれ、クラブ化後は初出場。藤森をはじめ、選手の大半は企業チーム時代を知らない。大会前の松下電器との練習試合で大敗するなど、強豪を前に時にひ弱さを見せ





たが、九回に岩下が盗塁のソロを左翼席に運んだ。

予選を経ない推薦出場はモチベーションの維持が難しい。

船本監督は「緊張感を取り戻すのは確かに難しかったが、練習試合で実践経験を積むなど、それなりの準備は十分にできた。残念だが結果がついてこなかっただけ。でも、岩下の本塁打は来季につながるアーチ。根が明るく無類の酒好き指揮官の心は早くも来季に飛んでいた。

第3試合=2回戦(午後4時24分開始)
日産自動車九州 0 0 0 1 0 0 0 0 1
トヨタ自動車 0 1 0 3 0 0 0 0 X 4

審判(球審)山口(塁審)古川、豊多、左海
【日産自動車九州】打安点... 【トヨタ自動車】打安点...

▽11月22日

第1試合=2回戦(午前10時27分開始)
J R 四国 0 0 0 0 0 0 1 1 2
日本生命 1 2 0 0 0 0 0 0 X 3

審判(球審)池(塁審)辻、左海、松川
【J R 四国】打安点... 【日本生命】打安点...

技巧派本領、下敷領

日本生命の勝利の立役者は下敷領だった。上宮高から法大を経て入社したルーキー。「しもしきりょう」と舌をかみそうな名前の男がチームを8強へと導いた。

投球プレートの右端を踏み、183cmの長身を折り曲げて地面スレスレに投げ込むアンダースロー。左打者には対角線、右打者は背中から来るような球筋だ。八回に1点を失って降板したが、24アウトのうち、内野ゴロ14、内野飛球4、三振4に抑えた内容は技巧派の本領を十分に発揮した。

「左も、右も、内角を中心にコースをうまく攻められた」。2種類のスライダーとチェンジアップで揺さぶ

た。走者を背負ってからはシンカーと直球で内角を突いた。死球は2試合で3個与えたが、四球は出していない。制球力で、1回戦の鷲宮製作所に続く今大会2勝目を手にした。

杉浦監督は現役時代に五輪を3度経験し、兼任コーチの上井も国際大会の経験が豊富。下敷領は社会人を代表する2人の投手から指導を受けて投球術を磨き、11人を擁する投手陣の将来を担う右腕に成長している。

「いい仕事をしたな」と十井にねぎらわれたのがうれしかった。その土井は九回から登板。満打を浴びて1点差に迫られ、「勝てたのは下敷領が力を出したおかげ」と苦笑いして称賛した。

準々決勝からの3連戦が正念場となる。下敷領は「高校から肩やひじを増したことがない。連投も大丈夫」と話す。エース国安を温存し、下敷領の状態もいい。4年ぶりの優勝を狙う態勢は整った。

第2試合=2回戦(午後1時41分開始)
七十七銀行 0 0 1 2 0 1 0 0 0 4
倉敷オーシャンズ 0 0 0 0 2 0 0 0 0 2

審判(球審)水原(塁審)沼田、金子、伊藤
【七十七銀行】打安点... 【倉敷オーシャンズ】打安点...

本塁打=八嶋1号(半田) 二塁打=小松、馬場 暴投=海老沢 捕逸=小河 試合時間2時間48分

第3試合=2回戦(午後5時1分開始)
デュプロ 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
伯和ビクトリーズ 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1

審判(球審)梶浦(塁審)山口、井上、杉江
【デュプロ】打安点... 【伯和ビクトリーズ】打安点...

三塁打=宮田 二塁打=森、田中 試合時間3時間3分

粘投報われず

⑩…デュプロの先発米沢は九回まで無失点と好投した。何度も三塁に走者を進められたが、粘り強い投球で、適時打を許さなかった。「気持ちで負けずに投げた」と気合を強調。しかし、延長に突入して交代。悔しさを募らせていた。

▽11月23日

第1試合=2回戦(午前10時26分開始)
富士重工業 0 0 0 0 0 0 1 1 2
松下電器 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1

審判(球審)三宅(塁審)橋田、杉江、金子
【富士重工業】打安点... 【松下電器】打安点...

二塁打=松尾、林、新田、梶原 暴投=阿部 試合時間2時間12分

第2試合=2回戦(午後1時19分開始)
NTT北海道 0 0 0 0 0 0 0 0 0
ホンダ熊本 1 1 0 0 0 0 0 0 X 2

審判(球審)土井(塁審)井出、伊藤、井上
【NTT北海道】打安点... 【ホンダ熊本】打安点...

二塁打=工藤 試合時間1時間50分

第3試合=2回戦(午後4時13分開始)
新日本石油ENEOS 0 2 0 0 0 5 0 0 7
大阪ガス 1 0 0 0 1 2 1 0 0 5

審判(球審)藤原(塁審)豊多、高島、花塚
【新日本石油】打安点... 【大阪ガス】打安点...

本塁打=池田2号(坂本) 暴投1号(山田幸) 平山1号(広瀬) 二塁打=岩本(新)2 試合時間2時間24分

粘る「らしさ」来季への希望

「一つ勝てないというのがうちの弱さ」。敗戦投手の坂本がくちびるをかんだ。今夏の都市対抗に続き、雪辱を期したこの大会でも初戦で敗退。一昨年まで2年連続準優勝に輝いた面影はなかった。

序盤は互角の戦いだった。試合が大きく動いたのは六回。それも2死からだ。「投げ急いだ」と坂本。第1打席で本塁打を浴びた池田に右前に運ばれると、続く岩本に1ストライク後のカーブを、山岡には初球







▽11月26日

決勝(午後1時開始)			
日本生命	000 100 100   2		
富士重工業	022 000 00X   4		
▶審判(球審)山口義(塁審)橋、桃田、井田			
【日本生命】	打安点	【富士重工業】	打安点
⑧ 佐々木 正	5 2 0	⑧ 鬼 佐 崎	4 3 0
⑨ 阿部 野	4 2 1	⑨ D	4 3 2
④ 石下 野	5 0 0	⑦ 橋 元	4 4 2
③ 下 野	3 0 0	⑥ 林	4 3 1
⑤ D	4 1 1	⑤ 谷 村	3 4 2
H RD	3 1 0	④ 神 富	4 2 1
H RD	3 0 0	③ 谷 村	4 2 1
H RD	0 0 0	② 松 山	2 4 1
② 及 藤	3 1 0	① 下	3 0 0
① 佐 久	2 0 0		
H	2 1 1		
H	1 0 0		
振球併進	8 3 0 10	振球併進	2 2 0 7
計	35 9 2	計	31 10 3
回 打安	2 10 4 2	回 打安	7 31 6 2
山 家	7 5 2 1	平 井	7 31 6 2
新 下	4 1 0 0	阿 部	1 8 3 0
下 数	4 1 6 3 0		
士 井	4 3 1 0		

▶二塁打=濑川、佐伯▶補逸=佐久間▶試合時間2時間45分

## “自滅の夏”教訓 失策0

二、三塁で145°の直球。阿部を空振り三振に仕留める。八回途中まで投げて2失点と踏ん張った。

「バックを信頼していた」。好投の理由を平井はそう説明した。今夏の都市対抗の初戦では3失策を犯し、日産自動車に敗れた。明確な課題を得て練習でノックを増やした。内野陣は毎日、守備の自主練習を続けた。

成果は出た。五回、新人遊撃・鬼崎が左前に抜けそうな打球を、逆シングルで好捕するビッグプレー。七回には三塁・山下が横っ飛びで打球をつかむ。今大会通算失策

### 監督談話

富士重工業・村田博幸監督 序盤で2点ずつ取られて、うちらしいゲームが出来た。今大会は投手陣が頑張ったし、野手も無失策で良かった。

日本生命・杉浦正則監督 投手交代が後手に回るなど、私の経験不足、もっと、選手に力を出させてやれるさい配が出来ていれば…。

ひと

## 仕事のできる人間が 野球でも結果残せる

富士重工業 村田 博幸監督

28チーム中、順上げされる監督は1人だけ。「最高ですよ。天井まで届かないかなと思いましたが、笑って帰った目が、うっすら潤んでいました。ベンチではボーカフェースを決め込む

が、実は感激涙。25年前、1番・遊撃手として初優勝したときは、なかなか実感がわかなかったが、「今回はまた泣きますね」。

会社に請われてコーチから監督に就任し今年で4年目。親子ほど年の離れた選手との距離を縮めるため、コミュニケーションを大切に。キャンプや大会後の打ち上げでは、飾らずに自分の心情をさらけ出し、若手選手の本音に耳を傾ける。

監督に就任した直後、選手に言った。「職場の仲間にあされる野球選手になれ」。34歳で現役を退いた後、11年間、社業に専念した。総務部の一員として野球部応援団の裏方を務める機会があった。ファンや同僚から声援を受けるチームを初めて部外者として見たとき、「ありがたい」と思った。午後、選手が練習に専念できるのも、同僚のフォローがあればこそ。「仕事もさっちりできる人間が、野球でも結果を残せる」と語る。

グラウンドを離れると、野球のことは考えない。オフシーズンにはゴルフを楽しむ。映画鑑賞も趣味の一つ。好んで見るのは「プリティ+ウーマン」「孤奇的な彼女」などラブコメディ。「悲しい話は、見終わったときモヤモヤするから苦手」。今シーズンは野球でも、大好きなハッピーエンドで締めくくれた。

千葉県香取市生まれ。土浦口大高3年のとき、遊撃手として春夏連続で甲子園に出場。日大から富士重工業に入社。妻と2女。50歳。



村田博幸監督

八回途中まで2失点の好投を見せた富士重工業・平井

ひで、夏に得た課題に答えを出した。

山下は「投手がリズムよく投げしてくれるので、守りやすい」。投手のリズムが守備を助け、堅守が投手に思い切った投球をさせる。相乗効果でディフェンス力は高まっていった。

昨年は都市対抗、日本選手権ともに出場を逃した。「去年の今ごろはねえ……」と村田監督。しみじみとつぶやくその言葉に、偉業を果たした充実感が感じられた。



八回途中まで2失点の好投を見せた富士重工業・平井

## 日生 序盤失点重く

今の日本生命にとって、序盤の失点は荷が重かったのかもしれない。三回2死満塁から救済したのは1年目の下数領。1球目の低めのシンカーに楠平・佐久間のミットが追いつかず、痛い4失点目。それでも、八回途中で上井にマウンドを引き継ぐまで散発3安打無失点。その粘りに、打線も応えようとした。

七回は2死から田中、佐々木正が連打し一、二塁。2番・阿部が、2ストライクから140°の台の速球を3球ファウルして粘った。8球目は左打者の外角に逃げるように落ちる決め球のフォーク。落ち際を中前にはじき返し、田中を迎え入れた。

この大会こそ打率4割を超えた阿部だが、予選は先発を外れることもあった。定位置だった1番も、佐々木正に代わった。出塁すれば、近畿でも一、二を争うランナー。でも、これまでは「打席で相手にプレッシャーを与えられない。状況を考えよう」という点で、自分は足りなかったという。しかし九回1死一、二塁、一塁手の動きが悪いと見てセーフティーバント。結果は投前横打となったが、28歳の進歩を示した。

3年連続2回戦敗退した今年の都市対抗の後、杉浦監督は言った。「チームのために、というマインドは(選手に)十分ある。必要なのは個々のレベルアップだ」。都市対抗で先発出来ず「信頼されることを目標に練習してきた」という下数領が3試合に先発。阿部をはじめ上位の打者は軒並み3割以上を打った。

この日、そのレベルアップが道半ばであることを突き付けられた選手たちは、ベンチ裏に座り込んで涙した。杉浦監督が言う。「選手たちはもっと力をつけられる。最近はどこが勝つか分からないと言われるが、圧倒的に強い日生を作りたい」。日本一とは2点差。悔し涙は、その差を覆す力に変える。



四回表1死一塁、濑川の左中間二塁打で下野敏が生還

第33回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 阿部次男投手(富士重工業) 2回戦の松下電器、準決勝の新日本石油ENEOS戦で先発・好投し、決勝でも八回途中から好救援を演じた。絶妙の制球が持ち味の左腕。群馬・利根商高出。33歳。

◇敢闘賞 下敷領悠太投手(日本生命) 4試合登板し、3試合に先発。決勝も4番手ながら4回3分の2を無失点。右下手からコーナーを突く投球が光り、入社1年目で投手陣の大黒柱に。大阪・上宮高一法大出。23歳。

◇打撃賞 林稔幸外野手(富士重工業) 4番に座り、19打数9安打5打点の活躍でチームの優勝に大きく貢献。茨城・土浦日大高一立正大出。26歳。

◇首位打者賞 衣川隆夫選手(ホンダ) 5番・指名打者として13打席に立ち、9打数5安打で打率5割5分6厘。兵庫・育英高

一日大出。27歳。

◇大会優秀選手

【投手】小出琢磨、平井英一、阿部次男(以上富士重工業)、下敷領悠太、土井善和(以上日本生命)、広瀬繁(新日本石油ENEOS)、坂本保(ホンダ)石渡大介(伯和ビクトリーズ) 【捕手】松尾貢史(富士重工業)、山岡剛(新日本石油ENEOS) 【一塁手】下野敦司(日本生命) 【二塁手】富村優希(富士重工業) 【三塁手】澄川昌也(日本生命) 【遊撃手】鬼崎裕司(富士重工業)、田中啓嗣(日本生命) 【外野手】林稔幸、岩元信明(以上富士重工業)、佐々木正嗣、阿部浩二(以上日本生命)、池辺啓二(新日本石油ENEOS)、保良久生(トヨタ自動車)、船尾隆広(NTT北海道) 【指名打者】衣川隆夫(ホンダ)



【2回戦】富士重工業-松下電器 九回表富士重工1死一塁、林が左翼線に勝ち越し二塁打を放つ



【準決勝】新日本石油ENEOS-富士重工業 好投し



【2回戦】ホンダーTDK 二回表ホンダ無死一塁、衣川が一塁前にバントを決める



【準々決勝】伯和ビクトリーズ-富士重工業 2番手で登板した伯和ビクトリーズ・石渡



【2回戦】富士重工業-松下電器 打球の方向を見る松下電器の新田



【2回戦】新日本石油ENEOS-大阪ガス 五回裏大阪ガス1死二塁、新日本石油ENEOSの捕手山岡のタッチをかわし生還する平山



【1回戦】和歌山箕島球友会-ホンダ 三回表和歌山箕島球友会2死、古川が安打を放つ



【2回戦】J R四国-日本生命 好投する日本生命・下敷領



【1回戦】新日本石油ENEOS-J R東日本東北 好投した新日石・広瀬



北海道

9月9日から 6日間 札幌市立球場・札幌市営球場・札幌市立球場

Table showing the tournament results for the Hokkaido region, listing teams like JR北海道 and their scores.

東北

9月21日から 4日間 こまちスタジアム・秋田市営八幡球場

Table showing the tournament results for the Tohoku region, listing teams like オールいわきクラブ and their scores.

関東

10月10日から 5日間 東京・太田スタジアム、埼玉・緑谷市民

Table showing the tournament results for the Kanto region, listing teams like 日産自動車 and their scores.

北信越

10月5日から 5日間 長野オリンピックスタジアム

Table showing the tournament results for the Hokuriku and Chubu regions, listing teams like フェデックス and their scores.

東海

9月30日から 8日間 愛知・岡崎市立球場

Table showing the tournament results for the Tokai region, listing teams like トヨタ自動車 and their scores.

近畿

10月11日から 7日間 皇子山球場、西京極野球場

Table showing the tournament results for the Kansai region, listing teams like 日本生命 and their scores.

中国

9月27日から 6日間 広島市民球場

Table showing the tournament results for the Chugoku region, listing teams like 伯和ビクトリーズ and their scores.

四国

10月15日から 2日間 香川・オリーブスタジアム

Table showing the tournament results for the Shikoku region, listing teams like JR四国 and their scores.

九州

10月18日から 7日間 北九州西球場、北九州市立大谷球場

Table showing the tournament results for the Kyushu region, listing teams like 九州総合スポーツカレッジ and their scores.

和歌山箕島球友会

Table listing players and their affiliations for the Wakayama Mijima Kyuukai team.

TDK

Table listing players and their affiliations for the TDK team.

NTT北海道

Table listing players and their affiliations for the NTT Hokkaido team.

七十七銀行

Table listing players and their affiliations for the 77 Bank team.

JR東日本東北

Table listing players and their affiliations for the JR East Tohoku team.

Table listing players and their affiliations for the Fuji Heavy Industries team.

富士重工業

Table listing players and their affiliations for the Fuji Heavy Industries team.

ホンダ

Table listing players and their affiliations for the Honda team.

JFE東日本

Table listing players and their affiliations for the JFE East Japan team.

鷺宮製作所

Table listing players and their affiliations for the Sagami Seisakusho team.

東芝

Table listing players and their affiliations for the Toshiba team.

新日本石油ENEOS

Table listing players and their affiliations for the Eni team.

NTT信越硬式野球クラブ

Table listing players and their affiliations for the NTT Shikoku team.

トヨタ自動車

Table listing players and their affiliations for the Toyota team.

一光

Table listing players and their affiliations for the Ichikawa team.

東邦ガス

Table listing players and their affiliations for the Tokai Gas team.

西濃運輸

Table listing players and their affiliations for the Seino Transport team.

松下電器

Table listing players and their affiliations for the Panasonic team.



デュプロ

Table listing players and their statistics for the 'デュプロ' category.

日本生命

Table listing players and their statistics for the '日本生命' category.

大阪ガス

Table listing players and their statistics for the '大阪ガス' category.

NTT西日本

Table listing players and their statistics for the 'NTT西日本' category.

NOMOベースボールクラブ

Table listing players and their statistics for the 'NOMOベースボールクラブ' category.

Table listing players and their statistics for the '三菱重工神戸' category.

三菱重工神戸

Table listing players and their statistics for the '倉敷オーシャンズ' category.

倉敷オーシャンズ

Table listing players and their statistics for the 'J R四国' category.

伯和ビクトリーズ

Table listing players and their statistics for the '伯和ビクトリーズ' category.

J R四国

Table listing players and their statistics for the 'J R四国' category.

日産自動車九州

Table listing players and their statistics for the '日産自動車九州' category.

ホンダ熊本

Table listing players and their statistics for the 'ホンダ熊本' category.

ユニホームで祭り参加

Main article text describing the team's participation in a festival and their community activities.



東広島市の「酒まつり」で接客する伯和の選手

## 優勝=トヨタ自動車 ————— 初優勝

日本新薬(近畿) 5	日本新薬 3	J R 東日本 2	トヨタ自動車 4	トヨタ自動車
J F E 東日本(関東) 3	J R 東日本 5			
J R 東日本(関東) 3	王子製紙 1	王子製紙 5		
七十七銀行(東北) 2	日産自動車 1			
三菱重工広島(中国) 1	王子製紙 3	トヨタ自動車 2		
日産自動車(関東) 5	J R 九州 1			
王子製紙(東海) 10	トヨタ自動車 3	トヨタ自動車 3		
熊本ゴールデンラークス(九州) 1	四国銀行 4			
三菱重工横浜野球場(関東) 1	松下電器 3	四国銀行 1		
J R 九州(九州) 3	東京ガス 2			
トヨタ自動車(東海) 2	日本通運 0	三菱重工名古屋 7		
和歌山箕島球友会(近畿) 1	日本通運 3			
新日本石油ENEOS(関東) 0	大阪ガス 2	三菱重工名古屋 3		
四国銀行(四国) 1	三菱重工名古屋 3			
東芝(関東) 2	ホンダ 0	J R 東日本東北 3		
松下電器(近畿) 7	J R 東日本東北 1			
東京ガス(関東) 3	日本生命 0	J R 東日本東北 4		
大和高田クラブ(近畿) 1	富士重工業 2			
沖縄電力(九州) 1	富士重工業 1	三菱重工名古屋 1		
日本通運(関東) 2				
J R 北海道(北海道) 1				
大阪ガス(近畿) 3				
三菱重工名古屋(東海) 9				
茨城ゴールデンゴールズ(関東) 6				
ホンダ(関東) 4				
倉敷オーシャンズ(中国) 0				
J R 東日本東北(東北) 4				
日産自動車九州(九州) 3				
東邦ガス(東海) 5				
日本生命(近畿) 6				
バイタルネット(北信越) 1				
富士重工業(関東) 2				

## 充実した投手力でトヨタ自動車が初優勝

愛知対決となった決勝はトヨタ自動車が三菱重工名古屋に終盤逆転勝ちして初優勝を飾った。3試合に先発完投し、決勝では2回を無失点に抑え、最高殊勲選手賞を獲得したエース服部を筆頭に決勝までの5試合を計5失点という充実した投手力で頂点まで駆け上がった。準優勝の三菱重工名古屋は準々決勝を除く3試合すべて逆転勝ち。ここ一番の好機での集中打が光った。

4強はほかに機動力を駆使したJ R 東日本東北と都市対抗準優勝のJ R 東日本を破った王子製紙。東海勢が大会史上初めて3チーム勝ち進んだ。これは14の企業チームが加盟する東海地区の各予選などで敵戦を繰り返した成果といえる。

8強では都市対抗初勝利を挙げ、優勝候補の新日本石油ENEOSと松下電器を破った四国銀行が印象的だった。また、1回戦でトヨタ自動車と接戦を演じた和歌山箕島球友会、東京ガスに善戦した大和高田クラブのクラブチームの健闘も光った。

対戦チーム同市の得点合計が31試合中20試合で5点以内。これは、各

チームの力の接近を物語っている。平均打率2割2分4厘は木製バットが復活した第29回大会以降で最低。また本塁打も同大会以降最少の11本にとどまり、投手優位の傾向が顕著だった。



### 大会 審判

▷審判委員長=赤井淳二▷審判運営委員=小林勉、宮木明、新泉定▷審判委員=大石泰、梶浦照樹、山崎浩、池友久、三宅章介、土井淳宏、堀口光、壺田外司昭、長谷川次郎、大藤篤、内山隆雄、清水雅彦、犬飼増、土井政之、鹿多証道、浜田正二、横公政、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、殿川浩一、梅本吉徳、阪根雅弘、細見英昭、辻幸太郎、山口義夫、池浪光雄、松垣信行、古川泰史、左海資上、小谷啓介、南谷宏治、木原浩吉、谷口吉洋、大西政巳、小山克仁、藤原正己、斎藤太、星野光広、副島輝生、株宜田秀樹、寺田和三、山本貴彦、奥村一徳、秋吉秀明



▽11月15日

第1試合=1回戦(午前10時32分開始)

Score table for 1st game: 日本新薬 0 1 0 0 0 1 1 0 0 2 | 5, JFE東日本 0 0 0 0 2 0 1 0 0 0 | 3

Player statistics for 1st game, including batting averages and pitching records for both teams.

本塁打=落合 二塁打=室前 2, 斎藤 谷, 堀田 試合時間 2 時間 41 分

第2試合=1回戦(午後1時48分開始)

Score table for 2nd game: 七十七銀行 0 0 0 0 0 0 1 0 1 | 2, JR東日本 0 0 0 3 0 0 0 0 X | 3

Player statistics for 2nd game, including batting averages and pitching records for both teams.

本塁打=北川 1 号(小杉) 二塁打=松浦 健, 中矢 試合時間 2 時間 36 分

ピンチひるまず 148キロ真っすぐ

2回自出場のJR東日本に選手権初勝利をもたらしたのは、2年目右腕・小林の力投だった。

分岐点は、リードする沢が「あれで肩の力が抜けた」と振り返った。一回、連続四球で自ら招いた1死一、二塁を無失点で切り抜け、腕をムチのようにしならせる投球フォームがよみがえった。

正念場は七回。守備の乱れもあり、2安打で1点を返され、なお2死二、三塁。小林は「こういう苦しい場面を乗り越えない限り、上に行って使ってもらえない」と聞き直る。この日最速の148キロの直球で古川洋を空振り三振に仕留め、1失点でマウンドを降りた。

群馬・富岡高から立教大を経て入社。甲子園経験はないものの、社会人入りして才能が開花し、ドラフト候補にも名を連ねた。だが、四球でリズムを崩し自滅するなど、やや安定感に欠け、準優勝した今夏の都市対抗でも登板機会はなく、投手陣で一人カヤの外に置かれた格好だった。

期待に応えた小林は、ワールドカップ出場のため不在のエース左腕・斎藤貴を引き合いに、「斎藤さんが戻ってくるまでは負けるわけにいきません」。人役を果たし、安堵(あんど)の表情だった。

第3試合=1回戦(午後5時1分開始)

Score table for 3rd game: 日産自動車 0 0 0 0 1 0 0 4 0 | 5, 三菱重工広島 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1

Player statistics for 3rd game, including batting averages and pitching records for both teams.

本塁打=野村 1 号(田中), 小山 1 号(田中) 試合時間 2 時間 26 分

待ちかねた対戦で完投

野上亮磨(20)日産自動車

九回2死一塁、三菱重工広島・佐々木監督の静な計らいだった。05年センバツで準優勝した鹿児島・神村学園高の同期、馬沢を代打に送ったのだ。毎日のように電話で近況を語り合い、対戦を楽しみにしてきた同士だけに「うれしかったです」。すべて運球勝負。3球目をはじき返したライナーを自らつかみ、都市対抗を含む2大会初先発を完投勝利で飾った。

一回は、2死から四球と連打で先取点を献上したが、二回以降の立ち直りに、「気持ちで投げられるようになった」という進境を示した。打者に息つく間を与えない速いテンポ。四回1死満塁は、捕邪飛の後、142キロで胸元を攻めて空振り三振。その後はチェンジアップも利かせて、散発2安打に抑えた。今大会の出場権つかんだ4月の岡山大会は2勝。今夏は新日本石油ENEOSの補強で東京ドームでも登板した。「役職でよかったです。チームにとっても、次につながるから。」「主力」の自覚が、少し大人びた口調で言わせた。

▽11月16日

第1試合=1回戦(午前10時29分開始)

Score table for 1st game: 王子製紙 1 0 3 0 0 0 0 1 5 | 10, 熊本ゴールデンエックス 0 0 0 0 0 0 0 0 1 | 1

Player statistics for 1st game, including batting averages and pitching records for both teams.

本塁打=渡辺 1 号(川畑) 三塁打=井口 二塁打=田辺, 古原 妨害出塁=鈴木賢 一塁打=船越 試合時間 3 時間

第2試合=1回戦(午後2時6分開始)

Score table for 2nd game: JR九州 0 0 1 0 0 1 1 0 0 | 3, 三菱重工横浜ク 0 0 0 1 0 0 0 0 0 | 1

Player statistics for 2nd game, including batting averages and pitching records for both teams.

二塁打=田城 試合時間 1 時間 59 分

第3試合=1回戦(午後4時42分開始)

Score table for 3rd game: 和歌山箕島球友会 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | 1, トヨタ自動車 0 2 0 0 0 0 0 0 X | 2

Player statistics for 3rd game, including batting averages and pitching records for both teams.

三塁打=桑田 二塁打=中本, 藤 試合時間 2 時間 9 分

左腕エース服部 13奪三振で完投

トヨタ自動車の左腕エース・服部が13奪三振で完投した。一回に和歌山箕島球友会に先制点を許し、その後も走者を背負う苦しい内容。服部は「相手が踏み込んで打ってきたので、内角を攻めようと意識し過ぎた」と反省し、中盤からは「自分の投球をやるだけ」と立ち直った。眠めへの直球に加え、スライダーやチェンジアップが効果的に決まった。大学生・社会人ドラフトの有力候補で、この大会が社会人最後となりそうだ。

▽11月17日

第1試合=1回戦(午前10時30分開始)

Score table for 1st game: 四国銀行 0 0 0 0 0 0 0 1 0 | 1, 新日本石油ENEOS 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

Player statistics for 1st game, including batting averages and pitching records for both teams.

二塁打=山岡 試合時間 2 時間 15 分











▽11月25日

決勝(午後1時4分開始)

トヨタ自動車	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
三菱重工名古屋	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)新井(塁審)赤井、大石、橋本

【トヨタ】			【三菱名古屋】				
打	安	点	打	安	点		
(1) 野田	5	2	0	(1) 花田	3	0	0
(2) 佐藤	4	1	0	(2) 野村	4	2	1
(3) 高橋	4	1	0	(3) 野村	3	1	1
(4) 高橋	2	0	0	(4) 野村	3	0	0
(5) 高橋	2	1	0	(5) 野村	4	1	0
(6) 高橋	3	1	2	(6) 野村	2	0	0
(7) 高橋	4	1	2	(7) 野村	1	1	0
(8) 高橋	0	0	0	(8) 野村	1	1	0
(9) 高橋	4	1	0	(9) 野村	2	1	0
(10) 高橋	2	0	0	(10) 野村	0	0	0
(11) 高橋	1	0	0	(11) 野村	1	0	0
(12) 高橋	1	0	0	(12) 野村	4	1	0
(13) 高橋	1	0	0	(13) 野村	3	0	0

振球併残 2608 計 3284 振球併残 9228 計 3271

中 根	回	打	安	点
白 倉	7	33	5	4
中 根	1	1	1	0
白 倉	1	5	0	0
中 根	2	7	1	0

▶二塁打=秋田、坂田、千蔵▶試合時間3時間1分

「エースへはなむけ」  
一丸逆転

た。たたきつけて右前へ運ぶ2点打。さらに坂田が二塁打で2者を運し、その裏、服部をマウンドに迎えた。  
「若い投手が頑張っているのも、何とかしたかった」と殊勲打の清水が言う。新人の申沢と大谷の継投で中盤まで1失点。六回1死一、三塁のピンチは、服部より1年若

最後の打者を低く沈む125°で空振り三振に仕留めると、トヨタ自動車のエース服部は全身でガッツポーズを決めた。3完投した準決勝までの冷静な姿に似合わぬ歓喜の表現。「皆の気持ちを背負って投げた。思いがあふれた。」

ドラフトでロッテに1巡目指名された服部には、トヨタ自動車では最後のマウンド。エースへのはなむけとばかりに、仲間たちが最高の舞台を用意した。  
八回の攻撃。2死満塁。打席に向かうDH清水には、明するものがあった。六回2死二、三塁。明らかにコースを外れた速球を振らされて三振した。「それでも、この打席を残してもらった」。カウント2-3。高め

い2年目の佐竹が登板した。代打・加藤を速球で空振り三振に仕留めると、続く三森はこん身の146°で見逃し三振。七回も三者凡退で締め、反撃を呼び込んだ。

3点リードの八回。最高の場面を服部に譲った佐竹が言う。「僕は服部さんの背中を見てきた。だから、次は自分が背中で引っ張るといって投げた」。服部が言う。「魂のこもったリレーを引き継いだ。絶対に負けられなかった」  
有力選手が集まる世界のトップ企業のチーム。だが、これまで都市対抗を含む2大会は8強止まり。「勝負に弱い」と言われたチームが、魂をつないだ逆転劇で殻を破った。



最後の打者を打ち取り、両手を上げて喜ぶトヨタ自動車の服部

監督談話

トヨタ自動車・山中繁監督 みんな硬さがあつたが、八回は集中できた。(六回のピンチを2奪三振で切り抜けた)佐竹の投球にはしびれた。  
三菱重工名古屋・加納功監督 選手は優勝を目指し精いっぱいやった。投手の代え時やチャンスでの代打など、采配(さいはい)ミスがあった。



成功体験味わってこそ成長がある

トヨタ自動車 山中 繁監督

異色の経歴だ。大学までは名捕手として鳴らしたが、トヨタ自動車入社後は2年後輩で同ポジションの古田敦也・前ヤクルト監督の陰に隠れ、活躍の場が失われた。「社会人としての実績はないに等しい」と振り返る。  
現役を6年で退き社業に専念。部品工場の原価管理や人事など幅広い仕事をこなした。8年前、元全日本監督の川島勝司氏を野球部監督に招いたところから、選手を助誘する「補強委員」として再び野球部に携わった。04年秋にヘッドコーチとなり、翌年には監督に。  
野球部外の活動を通じて、「自分の野球観の狭さを痛感した」。社員の健康づくり活動をバックアップする仕事を通じて、運動生理学の専門家の話を聴き、故障がちな選手にアドバイスを送れるようになった。補強で全国の大学を訪問し、駒大の太田誠・元監督ら名將の野球からは「1点を取るすべ」を学んだ。  
都市対抗、日本選手権の2大会でベスト8をなかなか超えられなかった。同一隻のプレーがことごとくアウトになり2回戦敗退した昨年の都市対抗の反省から、「100分の1秒でも速く走れるように」と今年は選手全員がユニホームのすそをひざ近くまで上げる「クラシックスタイル」を採用。勝負にことごとこたわった結果、接戦を制して勝ち上がった。  
「練習の成果を試合で試してこそ成長できる」と、選手の様子をしっかりと観察し、「毎の選手」を起用する。「野球で学んだことを仕事で生かせるように」がモットーだ。  
大阪府枚方市出身。大阪・興国高、同志社大を経て86年にトヨタ自動車入社。05年12月から野球部監督。妻と1男1女。愛知県三好町在住。44歳。



継投遅れ 三菱重工名古屋失速

中根慎一郎投手(23)三菱重工名古屋

八回2死一、二塁。2-3からの7球目。自信を持って投げたつもりの外角直球がわずかに外れた。満塁。133球を投げ、徐々に浮き始めた球。しかし自分では、疲れにも球の浮きにも気付かなかった。  
今大会はこの日も含めて3試合に登板し、七回まで計15回を無失点に抑えていた。六回2死二、三塁は、6番・清水を直球で空振り三振に仕留めた。そして八回の2死満塁も打席は清水。六回のイメージで直球勝負に出た。しかし、球威は十分でなく、逆転を許した。  
中京大中京高で00年夏、02年春、甲子園に出場したが、慶大では控え。今春入社したが、予選では出場しなかった。しかし、4投手を投入した1回戦で九回に登板。準々決勝では先発を任せられ、持ち前の制球力で七回まで4安打に抑え込んだ。  
決勝で敗れたが、成長は実感できた。「試合は作れるようになった。次は勝てるピッチャーに」。決勝での敗戦投手という肩書は、発展途上の新人にとって不名誉なものではない。



三菱重工名古屋の先発・中根

第34回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 服部泰卓投手(トヨタ自動車) 3試合に先発し3完投。決勝は5番手で登板し2回を無失点に抑えて嗣上げ投手になった。制球力抜群の左腕。25歳。徳島・川島高、駒大出。

◇敢闘賞 白倉昌章投手(三菱重工名古屋) すべて救援で4試合13回3分の1を投げ無失点に抑えた。変化球主体のベテランらしい投球が光った。30歳。京都・福知山商高、朝日大出。

◇打撃賞 清水明彦内野手(トヨタ自動車) 2回戦で決勝ソロを打ち、決勝でも決勝適時打を放つ勝負強さを見せた。26歳。山梨・甲府工高、国士大出。

◇首位打者賞 牧田一晃外野手(J R 東日本東北) 新人ながら8番打者として15打席に立ち、11打数5安打で打率4割5分5厘。23歳。群馬・桐生第一高、亜大出。

◇大会優秀選手

[投手]服部泰卓(トヨタ自動車)、白卓昌章、中根慎一郎(以上三菱重工名古屋)、小町裕貴(王子製紙)、平井英一(富士重工業)、小林太志(J R 東日本)、東出康成(四国銀行)、古沢翔(日本通運)、森内寿春(J R 東日本東北) [捕手]沢文昭(J R 東日本)、二葉祐貴(トヨタ自動車) [一塁手]野内彰大(三菱重工名古屋)、神谷譲二(富士重工業) [二塁手]村田泰教(三菱重工名古屋)、佐野比呂人(トヨタ自動車) [三塁手]福田康一(トヨタ自動車)、藪花新也(三菱重工名古屋) [遊撃手]乗田貴士(トヨタ自動車) [外野手]中矢浩次(J R 東日本)、牧田一晃(J R 東日本東北)、亀山智己(三菱重工名古屋)、荒木逸生(王子製紙)、秋田祥孝(トヨタ自動車) [指名打者]渡辺悟(王子製紙)



[準決勝] J R 東日本東北-三菱重工名古屋 四回表 J R 東日本東北2死二塁、牧田が右中間適時三塁打を放つ



[1回戦]王子製紙-熊本ゴールデンラークス 三回表王子製紙2死一、二塁、渡辺が右越え3点本塁打を放つ



[1回戦]四国銀行-新日本石油ENEOS 二回裏新日本石油ENEOS無死二塁、山岡の三盗を阻止する三塁手・谷輪



[1回戦]茨城ゴールデンゴールズ-三菱重工名古屋 三回途中で降板した茨城ゴールデンゴールズの先発・北野健



[決勝]トヨタ自動車-三菱重工名古屋 八回表トヨタ自動車2死満塁、清水が逆転の右前2点適時打を放つ



[2回戦]トヨタ自動車-J R九州 1失点で完投勝利をあげたトヨタ自動車の服部



[2回戦]大阪ガス-三菱重工名古屋 好投した三菱重工名古屋のリリーフ白倉



[1回戦]バイタルネット-富士重工業 九回裏富士重工業無死、岩元が同点に追いつく左越え本塁打を放つ



[準々決勝] J R 東日本東北-富士重工業 二回表 J R 東日本東北2死満塁、大西が2者を運ず左翼線二塁打を放つ



北海道

9月7日から 8日間 釧路市野球場・釧路市民球場・札幌市民球場

Table showing tournament results for Hokkaido region. Includes team names like JR北海道, 西館大洋倶楽部, and scores.

北信越

10月4日から 5日間 新潟市営鳥屋野球場

Table showing tournament results for Hokuriku region. Includes sub-groups A and B, and team names like フェデックス, バイタルネット.

中国

10月10日から 6日間 山口・周南市野球場

Table showing tournament results for China region. Includes sub-groups A and B, and team names like JFE西日本, 倉敷オーシャンズ.

東北

9月28日から 4日間 仙台市民球場

Table showing tournament results for Tohoku region. Includes team names like JR東日本東北, 秋田王冠クラブ.

東海

9月29日から 8日間 愛知・岡崎市民球場

Table showing tournament results for Tokai region. Includes team names like 王子製紙, 東海理化, 東邦ガス.

関東

10月9日から 5日間 埼玉・岩槻球場、東京・大塚スタジアム

Table showing tournament results for Kanto region. Includes team names like JFE東日本, 東京ガス, 日立製作所.

四国

10月13日から 2日間 高知県営春野球場

Table showing tournament results for Shikoku region. Includes team names like 四国銀行, JR四国.

九州

10月13日から 7日間 福岡市野球場・福岡市総合運動場

Table showing tournament results for Kyushu region. Includes team names like 日本ゴールデンテックス, 日産自動車九州, 本田熊本.

Table listing national tournament information: 大会名, 期, 開催地, 優勝チーム.

近畿

10月4日から 5日間 皇子山球場、西京樹野球場

Table showing tournament results for Kansai region. Includes team names like 和歌山箕島球友会, 大阪ガス, 松下電器.

東芝

Table listing players for the Toshiba team, including names like 山田, 田中, and 佐藤, with their positions and jersey numbers.

茨城ゴールデンゴールズ

Table listing players for the Ibaraki Golden Goddesses team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

J R九州

Table listing players for the JR Kyushu team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

ホンダ

Table listing players for the Honda team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

日産自動車

Table listing players for the Nissan team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

新日本石油ENEOS

Table listing players for the Eni team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

J R東日本

Table listing players for the JR East team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

トヨタ自動車

Table listing players for the Toyota team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

七十七銀行

Table listing players for the 77 Bank team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

日本通運

Table listing players for the Nippon Yusen team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

東京ガス

Table listing players for the Tokyo Gas team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

三菱重工横浜硬式野球クラブ

Table listing players for the Mitsubishi Heavy Industries Yokohama team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

バイタルネット

Table listing players for the Vitalnet team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

王子製紙

Table listing players for the王子製紙 team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

東邦ガス

Table listing players for the Tokai Gas team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

J R北海道

Table listing players for the JR Hokkaido team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

J R東日本東北

Table listing players for the JR East Tohoku team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

富士重工業

Table listing players for the Fuji Heavy Industries team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.

J F E東日本

Table listing players for the JFE East Japan team, including names like 佐藤, 田中, and 山田.



Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '三菱重工名古屋' and '日本新薬'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '松下電器' and '日本生命'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '大阪ガス'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '和歌山箕島球友会'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '大和高田クラブ'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '三菱重工広島'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '四国銀行'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '日産自動車九州'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '熊本ゴールデンラークス'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '沖繩電力'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '和歌山箕島球友会'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '大和高田クラブ'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '三菱重工名古屋'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '日本新薬'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '松下電器'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '三菱重工広島'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '四国銀行'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '日産自動車九州'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '熊本ゴールデンラークス'.

Table with 2 columns: Team names and scores. Includes '沖繩電力'.

名称変更で得た宝

岡山県倉敷市の三菱自動車工業水島製作所は年間約60万台を生産する、同社の一大拠点。現場を回る所長の松本伸さん(58)に、しばしばこんな声がかかる。「もう一度、野球部は三菱自動車を名乗れないか」

野球部が三菱自動車水島から名称変更したのは、同社がリコール騒ぎに悩まされた04年の都市対抗前。02年限りで本社支援を打ち切れ、クラブチームとして活動していた「どうしたら出場できるか、考えた結果だった」。「倉敷」は岡山からの要望で、「オーシャンズ」は「海のようにならないうちの植栽」という希望を込めて、選手がつけた。

クラブとしての5年は、「勉強になった」。選手は午前7時半からフルタイム就業し、大学卒の選手を本社採用で獲得することもできない。その中で、クラブ化後に高校から入社した選手たちが主力に成長した。「仕事も野球も、やる気のあるところに結果は生まれる」と目を細める。「企業チームに戻ることもあっても、勤務形態は変えない」と言うように、選手は現場の戦力としても受け入れられた。

もう一つ、「オーシャンズ」の名称は、地域との垣根を低くした。商店街には日本選手権出場を祝う横断幕がかかり、後援会の総会で社外のファンが発言する。同製作所と地域のコミュニケーションという点では、本社チーム時代以上の存在感を発揮している。

万難を排してチームを維持するのは、「会社にとって、メリットがあるかないかの問題ではない」。「製造業が、物づくりに特化していいとは思わない。社員や地域の人に楽しんでもらうことも必要でしょう。チームプレーが善手だとされる今の若者に、『野球をやりたい』と思わせるようなチームにしたい」と言う。

チームや所内の希望を受けて、三菱自動車の名称の米奉からの復活を目指す。でも、「苦しい時を、乗り越えてきた名前だから」。迷うほどに、「倉敷オーシャンズ」から得たものは大きい。



優勝=トヨタ自動車 ————— 2年連続2回目

日本生命(近畿) 2	日本生命 6	日本生命 4	日本生命 0	トヨタ自動車 4	トヨタ自動車
NTT越前式野球クラブ(北信越) 1	ホンダ熊本 2				
ホンダ熊本(九州) 3	ホンダ熊本 2	ヤマハ 0	トヨタ自動車 4	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
富士重工業(関東) 1	日産自動車 1				
日産自動車(関東) 3	ヤマハ 2	トヨタ自動車 5	トヨタ自動車 4	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
JR東日本東北(東北) 0	ヤマハ 2				
茨城ゴールデンゴールズ(関東) 1	トヨタ自動車 5	NTT西日本 2	トヨタ自動車 4	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
ヤマハ(東海) 5	NTT西日本 2				
トヨタ自動車(東海) 5	JR東日本 3	J R 東日本 2	J R 東日本 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
日本通運(関東) 0	J R 東日本 3				
NTT西日本(近畿) 1	JFE西日本 2	J R 東海 4	J R 東海 3	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
J R 四国(四国) 0	JFE西日本 2				
J R 東日本(関東) 3	J R 東海 4	J R 九州 2	J R 東海 3	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
西濃運輸(東海) 0	伯和ビクトリーズ 2				
パナソニック(近畿) 1	伯和ビクトリーズ 2	J R 九州 2	J R 東海 3	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
JFE西日本(中国) 4	新日鉄広畑 1				
日本新薬(近畿) 0	J R 九州 3	日立製作所 0	J R 東海 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
J R 東海(東海) 10	日立製作所 3				
伯和ビクトリーズ(中国) 3	日立製作所 3	ENEOS 2	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
NTT東日本(関東) 2	ENEOS 4				
新日鉄広畑(近畿) 5	ENEOS 4	ENEOS 4	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
住友金属鹿島(関東) 0	ENEOS 4				
ホンダ(関東) 1	ENEOS 4	ENEOS 4	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
J R 九州(九州) 2	ENEOS 4				
日立製作所(関東) 4	ENEOS 4	ENEOS 4	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
七十七銀行(東北) 3	ENEOS 4				
東邦ガス(東海) 5	ENEOS 4	ENEOS 4	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
沖繩電力(九州) 3	ENEOS 4				
三菱重工神戸(近畿) 0	ENEOS 4	ENEOS 4	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
新日本石油ENEOS(関東) 4	ENEOS 4				
ホンダ鈴鹿(東海) 9	ENEOS 4	ENEOS 4	ENEOS 2	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車
J R 北海道(北海道) 2	ENEOS 4				

## トヨタ自動車が大会史上2チーム目の連覇

2年連続の愛知対決となった決勝は、トヨタ自動車が昨年と同じ八回の逆転劇でJR東海を降し、84年・第11回大会の住友金属以来、2チーム目となる連覇を果たした。トヨタ自動車は早大から2年目の大谷をはじめ、安定感のある若手の投手陣と、荒波、荻野、田中ら新人3人を積極起用した打線がうまく絡み、危なげない戦いぶりでも2度目の栄冠をつかんだ。準優勝のJR東海は1回戦で大勝して波に乗り初の決勝進出を果たした。トヨタ自動車とは対照的に30代選手がチームをけん引した。

決勝進出した両チームは、12の企業チームが加盟する東海地区内で激戦を繰り返していることが勝負強さにつながっている。

地元近畿勢の日本生命が竹中ら中堅、若手の活躍で4強入りした。同じく4強の新日本石油ENEOSは田沢(現レッドソックス)が150\*。前後の速球に加え、変化球を駆使した投球術で実力を発揮した。

第1日の3試合がすべて無失策、所要時間2時間半未満だったように引き締まった試合が多かった。一方で、31試合中、先制チームが勝利したのが21試合。投手優位の傾向が続いている。



### 大会 審判

▷審判委員長=赤井淳二▷審判運営委員=小林勉、宮本明、新井定▷審判委員=山崎浩、井口光史、他友久、三宅章介、土井淳宏、堀口光、堅田外司明、土井政之、大飼靖、清水雅彦、大塚健、内山隆雄、西本和博、長谷川次郎、浜田正二、橋公政、山邊光壽、松川明弘、岸見俊明、藤野真、殿川浩一、花尾聡明、浜田敏秀、文殊弘富、山口義夫、坂根雅弘、辻幸太郎、山口篤彦、池浪光雄、楢垣信行、古川泰史、左海資士、谷口吉洋、金岡利明、小谷啓介、南谷宏治、水原浩吉、大西政巳、小山克仁、中井一夫、鈴木国夫、西田秀幸、沼和也、清水康大、田成人、寺田和三、前田康弘、横田公夫、岩永聡









▽11月18日

第1試合=1回戦(午前10時30分開始)

Honda鈴鹿 0 0 2 0 0 0 0 6 1 9
JR北海道 0 0 0 0 0 0 0 2 2

Scoreboard for Honda Suzuka vs JR Hokkaido

Player stats for Honda Suzuka vs JR Hokkaido

本塁打=渡辺1号①(神田)中藤1号④(片山)船越1号②(藤本)二塁打=藤原、具志◇試合時間2時間46分

第2試合=2回戦(午後1時53分開始)

日本生命 0 4 0 0 0 2 0 0 0 6
Honda熊本 0 0 0 2 0 0 0 0 2

Scoreboard for Nippon Seimei vs Honda Kumamoto

Player stats for Nippon Seimei vs Honda Kumamoto

本塁打=佐々木1号③(竹中)三塁打=高橋二塁打=山本、有竹、須田◇試合時間2時間27分

第3試合=2回戦(午後4時56分開始)

日産自動車 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1
ヤマハ 0 0 0 0 0 0 1 0 X 2

Scoreboard for Nissan vs Yamaha

Player stats for Nissan vs Yamaha

本塁打=マガリャエス1号①(野上)小第1号①(野上)◇試合時間1時間51分

ドラ2に教訓

①…西武からドラフト2位指名を受けた日産自動車の右腕・野上。この日はヤマハ打撃を4安打に抑えたが、2本塁打に泣いた。「ボールでよかったのに、甘くなった」とうなだれた。05年に神付学園高でセンバツ準...

優勝を経験した21歳は、2年半の社会人生活で一回りも二回りも大きくなった。しかし、最後に厳しい経験も味わった。「全体的にレベルアップしないと、プロでは通用しない」。教訓を胸に新天地に向かう。

▽11月19日

第1試合=2回戦(午前10時28分開始)

トヨタ自動車 2 1 0 0 0 0 2 0 0 5
NTT西日本 0 0 0 2 0 0 0 0 2

Scoreboard for Toyota vs NTT West Japan

Player stats for Toyota vs NTT West Japan

三塁打=荻野二塁打=田中、西田、宮崎、北崎◇試合時間2時間22分

第2試合=2回戦(午後1時25分開始)

JR東日本 0 0 1 0 0 0 2 0 0 3
JFE西日本 0 2 0 0 0 0 0 0 2

Scoreboard for JR East vs JFE West Japan

Player stats for JR East vs JFE West Japan

三塁打=川端二塁打=谷、石川◇試合時間2時間34分

迷わず直球狙い

1点を越え七回、JR東日本の堀井監督が勝負に出た。前の回まで、4安打1点に抑えられてきたJFE西日本・陶山に対して、「左打者には、ボールが先行する」とみた。

先頭の本本に代え左の市場、右前打で出塁、さらに代打・霜木雄を左打席に送った。読みは正しかった。連球が立て続けに外に振って四球。続いてこれも左の代打・田中が犠打で二、三塁。「左を3人並べれば、陶山君は崩れる」という堀井監督のおげん立ては整った。

JR東日本の策がことごとく成功している状況下だ。既に2安打されている川端を打席に迎えた陶山に対して、古毛監督の「ストライクゾーンを広く使え」という指示は、酷だったのかもしれない。同じころ、堀井監督から川端へ告げられたのは、「迷わずストレートを狙え」。

2球目。「勝負か、歩かせるか」。陶山の揺れる胸中...

を映すように、外を狙った140°が真ん中に入った。強くたいて右中間を破る逆転三塁打。「ここしかない、という流れを感じていた」と川端が声を出した。

これでもかと代打を送り、守っては2番手以降の坂上、斎藤貴が四回途中から被安打ゼロで通した。心憎いばかりに高い戦力を見せてつけて、JR東日本が2年連続の8強に進出した。

第3試合=2回戦(午後4時33分開始)

伯和ビクトリーズ 0 0 0 0 1 0 0 0 1 2
JR東海 0 0 0 0 0 4 0 0 X 4

Scoreboard for Tokai Victor vs JR Tokai

Player stats for Tokai Victor vs JR Tokai

本塁打=青山1号③(戸口田)二塁打=石本、生野、高広◇試合時間2時間6分

▽11月20日

第1試合=2回戦(午前10時31分開始)

JR九州 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 2 3
新日鉄広畑 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 1

Scoreboard for JR Kyushu vs Nippon Steel Hirohata

Player stats for JR Kyushu vs Nippon Steel Hirohata

本塁打=大崎1号①(米倉)三塁打=富浦、田中二塁打=入江、石原◇暴投=榎木◇試合時間3時間26分

第2試合=2回戦(午後2時31分開始)

日立製作所 0 1 0 0 0 0 0 0 2 3
東邦ガス 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1

Scoreboard for Hitachi vs Tohoku Gas

Player stats for Hitachi vs Tohoku Gas

本塁打=前田1号①(伊波)二塁打=高倉◇暴投=甲斐◇試合時間2時間25分





## ▽11月23日

決勝(午後1時5分開始)

トヨタ自動車	0	0	0	0	0	3	1	4
J R 東海	0	0	0	2	0	0	0	2

▶審判(球審)山崎(塁審)赤井、池波、橋

【トヨタ自動車】打安点		【J R 東海】打安点	
(1) 荒瀬 波	5 0 0 0	(1) 上内 甲	2 0 0 0
(2) 廣瀬 波	3 0 0 0	(2) 中田 中	5 0 0 0
(3) 藤原 波	1 1 0 0	(3) 野高 本	3 1 0 0
(4) 廣瀬 波	0 1 0 0	(4) 野高 本	0 1 0 0
(5) 藤原 波	4 1 0 0	(5) 野高 本	1 0 0 0
(6) 藤原 波	3 1 0 0	(6) 野高 本	3 1 0 0
(7) 藤原 波	3 1 0 0	(7) 野高 本	3 1 0 0
(8) 藤原 波	0 0 0 0	(8) 野高 本	4 1 0 0
(9) 藤原 波	2 0 0 0	(9) 野高 本	4 2 0 0
(10) 藤原 波	2 1 0 0	(10) 野高 本	2 1 0 0
(11) 藤原 波	4 1 0 0	(11) 野高 本	1 0 0 0
(12) 藤原 波	2 0 0 0	(12) 野高 本	0 0 0 0
(13) 藤原 波	1 0 0 0	(13) 野高 本	4 1 0 0
(14) 藤原 波	0 0 0 0	(14) 野高 本	0 0 0 0
(15) 藤原 波	0 0 0 0	(15) 野高 本	0 0 0 0
捕手 藤原 波	5 4 1 6	捕手 藤原 波	8 4 0 10
計	30 6 4	計	34 9 2

トヨタ打=中1号(川野)二塁打=藤原、青山、上野  
東海打=内田>試合時間2時間33分

### 八回 今年は一撃

逆に川野。カウント2-2から、「力んだ」真ん中に入った133km/hは、速球に鋭いを絞っていた田中にはまたとない好球。振り抜いた瞬間、逆転を確信した。

今春、華やかな球歴を引っ提げて入社した直後から、「スピードも体も、全然違う」と課題をつきつけられた。さらに出場を逃した都市対抗でも補強選手の中に田中の名はなかった。

今夏、「自分の実力を思い知って、キャッチボールからやり直した」という。切れを求

八回、2死一、三塁。4番・田中の打順で、トヨタ自動車首脳陣には「代打か」という思いがよぎったという。

田中はこの試合、ここまで無安打。第1打席は速球、第2打席は外へ逃げる変化球を空振りし、ともに3球三振。J R 東海・川野の揺さぶりに翻弄(ほんろう)されてきたが、山中監督の決断は「最後まで、やらせよう」。準決勝まで毎試合安打の新人に懸けた。

田中は早大4年の昨秋、東京六大学の打撃3冠に輝き、大学全日本の4番も担った。それでも「やはり決勝は違う。力んでしまった」。だが、八回は「不思議と、振れそうな感覚があった」。

めて、入社時に89%あった体重を77%まで落としたことも、決勝の一振りに結実した。六大学のスターを一夜むけさせてつかんだ連覇。トヨタ自動車にとって、「強豪」の仲間入りの証しとなりそうだ。



八回表トヨタ自動車 2死一、三塁、田中幸長が左越えに逆転の3点本塁打を放つ(捕手・鈴木宏明)

### 監督談話

トヨタ自動車・山中繁監督 動かないと流れが変わらないと思い、八回に代打攻勢をかけた。すごいドラマが待っていた。田中はまさかの一発だった。

J R 東海・家接順也監督 川野は粘り強く投げてくれた。(失投は3ランを浴びた)あの1球だけ。選手たちをほめてやりたい。

## ひと

### トヨタ自動車 大谷 智久投手(最高殊勲選手賞)

九回はまっすぐで押した。「限界寸前だった。とにかく、ど真ん中に投げ続けた」。最後の打者を空振り三振に仕留めると、マウンド上でバンザイ。そのまま、仲間たちに押し倒された。歓喜の輪からはいざり出たときは、涙で顔がくしゃくしゃになった。「力を全部出し切った。もう倒れそうです」

高校、大学と球界の表舞台を歩んできた。「高校時代にはひたすら練習し、土台を作った。大学時代は頭で考えながらプレーすることを学んだ」。昨春、トヨタ自動車に入り、自信を持って臨んだ社会人野球だったが、新たに気づかされたことがあったという。

節目は、今夏の都市対抗だった。三菱重工名古屋の補強選手として出場し、2回戦の新日本石油ENEOS戦を任された。アマ球界ナンバーワン右腕の田沢純一投手と投げ合ったが、1本の本塁打に泣いた。「たった1球で流れが変わる野球の怖さを学んだ。課題だった精神面で成長できた」

昨年の日本選手権は故障明けで、思ったような活躍ができなかった。しかし、今大会では計4試合に登板して3勝(3完投)。この日も、山中繁監督は投手交代を考えなかったという。

「練習に取り組む姿勢が違う。あの姿が、チームに『こいつで負けるなら、仕方ない』と思わせる」。その信頼に応えた147球だった。

兵庫・報徳学園高では02年センバツ優勝投手に。早大に進み、東京六大学通算18勝。



### 痛恨の112球目

川野慎也投手(30) J R 東海

八回に痛恨の逆転3ランを浴びた。「失投だったが、序盤は同じ球がファウルになったのに」。重圧の中の112球目。疲れがボールに伝わった。「かなり悔しい」。右腕はそう振り返った。

だが、今大会は1、2回戦で勝利投手に。決勝も七回までは無失点と好投した。大会最優秀のトロフィーを抱え「社会人で最高の大会だった」と満足感も漂わせた。

昨秋5年半ぶりに横手投げに戻した。球速を求めて上手にしたが「スピードだけでは通用しない」と決断。制球が安定し、変化球も鋭さを増した。

宮崎・鶴翔高のエースとして96年のセンバツに出場し、神戸製鋼に進んだが02年に休部。同じころJ R 東海の監督に就任した家接順也監督に誘われた。

その監督から、今大会の先発の柱として起用され、準優勝。「意気を感じた。結果が出て恩返しできた」と口にした後、すぐこう言った。「もう一つ上につなげたい」。思い描いたのは、間違いなくチームの2大会初制覇だろう。



七回まで無失点と好投するも、八回の112球目、田中幸長に逆転3ランを浴び、ぼうぜんとする川野慎也投手

第35回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 大谷智久投手(トヨタ自動車) 主戦右腕として4試合に登板。9安打2失点で抑えた決勝を含む3試合で完投した。23歳。兵庫・報徳学園高、早大出の入社2年目。

◇敢闘賞 川野慎也投手(J R 東海) 3試合に先発。計23回3分の1を投げ、防御率0.77と安定感を見せた。神戸製鋼を経て入社6年目。30歳。宮崎・鶴翔高出。

◇打撃賞 田中幸長外野手(トヨタ自動車) 全5試合4番で出場。決勝では逆転3点本塁打を放つなど、計5打点と新人離れた勝負強さを示した。22歳。愛媛・宇和島東高、早大出。

◇首位打者賞 大島洋平外野手(日本生命) 新人ながら1番打者として4試合すべて安打を放ち、16打数9安打。打率5割6分3厘。23歳。愛知・享栄高、駒大出。

◇大会優秀選手

[投手]大谷智久(トヨタ自動車)、川野慎也、中須賀論(以上J R 東海)、竹中慎之介(日本生命)、田沢純一(新日本石油 E N E O S)、岡本洋介(ヤマハ)、米藤太一(J R 九州)、梶本侑平(新日鉄広畑) [捕手]佐久間健一(日本生命)、山岡剛(新日本石油 E N E O S) [一塁手]金谷剛幸(J R 東海)、田中政則(日立製作所) [二塁手]佐野比呂人(トヨタ自動車)、杉田匡平(J R 東海)、柳田俊幸(新日本石油 E N E O S) [三塁手]秦健悟(トヨタ自動車)、宮沢健太郎(新日本石油 E N E O S) [遊撃手]日野原宏和(J R 東海)、田中マルシオ敬三(J R 九州) [外野手]荒波翔、荻野貴司(以上トヨタ自動車)、大島洋平(日本生命)、榊原浩司(新日本石油 E N E O S)、川端崇義(J R 東日本)、富浦祥吾(J R 九州) [指名打者]田中幸長(トヨタ自動車)、青山真也(J R 東海)



[1回戦]住友金属鹿島-新日鉄広畑 三回裏新日鉄広畑2死二、三塁、米田が先制となる中前適時打を放つ



[1回戦]J R 四国-NTT西日本 力投するNTT西日本先発・藤原



[1回戦]NTT信越ク-日本生命 一回表NTT信越ク1死二塁、進路の中前打で走者・福地が本塁を突くもタッチアウト(捕手・佐久間)



[1回戦]三菱重工神戸-新日本石油ENEOS 初戦を完封勝利で飾った新日本石油ENEOS・田沢



[1回戦]NTT信越ク-日本生命 五回裏、日本生命・大島洋平がこの日2本目の二塁打を右翼線に放つ



[1回戦]日本通運-トヨタ自動車 完封したトヨタ自動車・大谷



[1回戦]西濃運輸-J R 東日本 一回裏J R 東日本1死、池田が右中間を破り、三塁へヘッドスライディング



[2回戦]日本生命-ホンダ熊本 二回表日本生命無死、有竹が右前打を放つ



[決勝]トヨタ自動車-J R 東海 逆転3ランを打たれたJ R 東海・川野









J R 四国

Table listing J R 四国 teams and their statistics (wins, losses, etc.)

ホンダ熊本

Table listing Honda Kumamoto teams and their statistics

沖縄電力

Table listing Okinawa Electric teams and their statistics

新日鐵広畑

Table listing Nippon Steel Hirohata teams and their statistics

J F E 西日本

Table listing J F E West Japan teams and their statistics

伯和ビクトリーズ

Table listing Tokai Victories teams and their statistics

日本生命

Table listing Nippon Life teams and their statistics

NTT西日本

Table listing NTT West Japan teams and their statistics

三菱重工神戸

Table listing Mitsubishi Heavy Industries Kobe teams and their statistics

東邦ガス

Table listing Tokai Gas teams and their statistics

西濃運輸

Table listing Seino Transport teams and their statistics

日本新薬

Table listing Nippon Shinyaku teams and their statistics

パナソニック

Table listing Panasonic teams and their statistics

偉業へ向け泰然自若

新日本石油ENEOS 田沢純一投手(22)=米大リーグ挑戦

米大リーグ挑戦表明から2カ月。この間、球界はアマ有望選手の流出防止策などをめぐって対応に追われた。だが、本人は泰然自若。信念に裏付けられた決断だからだろう。

今夏の都市対抗で4勝を挙げ、橋口賞(最優秀投手)を受賞した。しかし、高校までの球歴は地味だ。横浜商大高2年で甲子園出場したが、控えて登板はなかった。3年時は神奈川大会準決勝で、今や西武のエースに成長した涌井秀章を擁する横浜にコールド負けしている。社会人入りして才能が一気に開花した日本人大リーガーのバイオニア、野茂英雄(元ロイヤルズ)の球歴とも、どこか重なり合う。

都市対抗に続く社会人2大会制覇に向け打撃戦できる権利があるのはウチだけ。しっかり照準を合わせたい。淡々とした口調で語っていた。



優勝=J R 九州 ————— 初優勝

新日鉄広畑(近畿) 4	新日鉄広畑 1	三菱重工横浜 3	三菱重工横浜 0	ホ > ダ 2	J R 九州
新日本石油ENEOS(関東) 3	三菱重工横浜 3				
三菱重工横浜(関東) 8	三菱重工横浜 3	三菱重工横浜 0			
J R 北海道(北海道) 2	三菱重工横浜 3				
大阪ガス(近畿) 2	大阪ガス 1	大阪ガス 1			
東芝(関東) 0	大阪ガス 1				
NTT東日本(関東) 4	NTT東日本 0	NTT東日本 0			
東邦ガス(東海) 3	NTT東日本 0				
日立製作所(関東) 6	日立製作所 0	九州三菱自動車 0			
四国銀行(四国) 2	日立製作所 0				
日本生命(近畿) 2	九州三菱自動車 1	九州三菱自動車 0			
九州三菱自動車(九州) 3	九州三菱自動車 1				
トータル阪神(近畿) 1	J F E西日本 1	ホンダ 2			
J F E西日本(中国) 2	J F E西日本 1				
日本新薬(近畿) 0	ホンダ 8	ホンダ 5			
ホンダ(関東) 1	ホンダ 8				
大和高田クラブ(近畿) 6	大和高田クラブ 4	大和高田クラブ 3			
T D K(東北) 4	大和高田クラブ 4				
三菱重工神戸(近畿) 1	三菱重工神戸 3	J R 九州 6			
鷺宮製作所(関東) 0	三菱重工神戸 3				
NTT西日本(近畿) 2	J R 九州 3	J R 九州 4			
J R 九州(九州) 3	J R 九州 3				
富士重工業(関東) 1	富士重工業 2	J R 九州 3			
ヤマハ(東海) 0	富士重工業 2				
NTT越前式野球クラブ(北信越) 6	NTT越前式野球クラブ 0	日本通運 2			
三菱重工広島(中国) 2	NTT越前式野球クラブ 0				
O B C高島(近畿) 1	日本通運 8	日本通運 2			
日本通運(関東) 5	日本通運 8				
パナソニック(近畿) 3	パナソニック 3	日産自動車 4			
J R 東日本(関東) 0	パナソニック 3				
日産自動車(関東) 4	日産自動車 5	日産自動車 2			
トヨタ自動車(東海) 3	日産自動車 5				

## J R九州 粘り一路

決勝は、J R九州(九州・福岡)が延長の末、ホンダ(関東・埼玉)を降して初優勝した。きん差の試合を勝ち上がってきたJ R九州は、決勝でも粘り強さを発揮。2度先行されながらその都度追いつき、最後は下位打線で勝負を決めた。同一年の2大会(都市対抗、日本選手権)連覇を目指したホンダは、自慢の打線がJ R九州の継投に抑えられた。最高殊勲選手(MVP)はJ R九州の浜田雅博(まさみつ)投手、敢闘賞にはホンダの諏訪部貴大投手が選ばれた。

J R九州が持ち前の粘りを発揮した。2-2の延長十一回、中田の遊撃内野安打を足場に2死二塁とし、途中出場の田中充が中前に適時打を放ち、勝ち越した。三、六回にホンダの先行を許したが、直後の四回に中野の中犠飛、七回は只限の右前適時打ですぐさま同点とし、接戦に持ち込んだ。

ホンダは打線がつながりを欠き、散発8安打。六回途中から登板のJ R九州・浜野の内外角を丁寧に突く投球に攻撃の勢いをそがれた。



大会  
審判

▷審判委員長=赤井淳二▷審判運営委員=小林勉、山崎浩、新早定、山口義夫▷審判委員=土井淳安、堀口光、清水雅彦、長谷川次郎、大都篤、内山隆雄、大綱靖、土井政之、堅田外司昭、西本和博、山邊光喜、松川明弘、岸見俊明、藤野真、殿川浩一、花尾睦明、文殊弘富、阪根雅弘、辻幸太郎、山口篤彦、池浪光雄、松垣信行、古川泰史、左海賢士、金岡利明、小谷啓介、南谷宏治、木原浩吉、大西政巳、善積重文、桑原和彦、田中靖治、渡辺敏男、阿部泰尚、宮内一哉、斎藤太、小出嘉則、松川啓一、鈴木雅美、富岡伸行、藤村孝、永田章、芦辺大輔、佐古辰夫、岡本恵一、佐藤文彦











▽11月22日

決勝(午後1時5分開始)

J R 九州	000	100	100	01	3
ホンダ	001	001	000	00	2

(延長11回)

▶審判(球審)松川(明審判)阪根、山崎、山辺

【J R九州】		打安点		【ホンダ】		打安点	
① 只田	中	5	1	① 吉川	回	4	0
② 田中	敬	5	0	② 戸野	4	1	1
③ 藤原	島	4	2	③ 長西	4	1	0
④ 宇野	村	5	1	④ 西野	5	1	0
⑤ 田中	野	4	0	⑤ 小大	3	1	1
⑥ 中野	野	4	1	⑥ 手	4	1	0
⑦ 角谷	野	4	2	⑦ 大矢	4	1	0
⑧ 富田	谷	1	0	⑧ H	3	0	0
⑨ 東山	浦	1	1	⑨ 矢野	2	2	0
⑩ R 8	向	1	0	⑩ 上野	1	0	0
田中	允	2	2	H	1	0	0
振球併残		6	3	0	10	計	40
		11	3			計	36

米野	回	打安費	武藤	回	打安費
浜野	5/3	226	大田	6	234
		2	園訪	1	63
		0	4		174

▶三塁打=角谷▶二塁打=中野、川戸、宇多村▶失策=川戸▶試合時間 2時間58分

## 「屈辱の夏」越え栄冠 夏覇者ホンダ降す

いた。そして、六回途中から登板の浜野(国土大山)が流れを作った。

準々決勝まではすべて1点差、準決勝もタイブレークを制し、決勝に駒を進めた。接戦続きのチームをフル回転で支えてきた右腕は「疲れはあったが、終盤勝負がうちの展開ですから」と、4日連続の登板にもかかわらず、右投手からの140°前後の速球と、大きく滑るスライダを低めに集めて連打を許さず、勝機を呼び込んだ。

チームは都市対抗出場を逃し、今年は失意の夏を送った。だが、その屈辱があったからこそ、終盤の強さが選手に芽生えた。1点勝ち越した十一回、ホンダは2番から

### 監督談話

J R九州・吉田博之監督 大会を通じ投手が好投したが、中野のリードがあったからこそ、決勝はリードされても慌てず、粘りの野球ができた。

ホンダ・安藤強監督 いい試合と言われても、やはり勝たないと、2大会制覇は意識しなかった。投手はよく投げたが、点を取った直後の失点が課題だ。

ひと

### J R九州 吉田 博之監督

自ら「雑草軍団」と呼ぶ。学生時代に注目された選手はいない分、猛練習を課して鍛えてきた。毎年3回行う合宿は、連日朝9時から夜10時まで練習漬け。これが選手の自信を支える。そんなチームだから、プレースタイルも「泥臭い野球」。決勝戦の

延長十一回、1死から中野一機投手が遊撃内野安打をもぎ取った一塁へのヘッドスライディングを「流れを呼び込んだ」と評価する。

「感謝の心を持って」と言い続けている。「この景気で野球をやれる喜び、さらに、選手の前には一社会人であれ」。自分たちで練習グラウンドの芝を敷いた。決勝の表彰式後、グラウンドに投げ込まれた紙テープも選手たちが片づけた。

門司鉄道管理局(現J R九州)入社は82年。戦前に都市対抗で優勝したこともある古豪だが、現役のころは弱かった。都市対抗への出場歴はなく、10年後に引退。00年のシーズンからコーチとして復帰し、03年に監督就任すると、チームを変ぼうさせた。その後は都市対抗に4回出場し、05年には4強入り。日本選手権は5回目の出場だ。

「野球は投手力が特長。だから投手の育成に力を注ぎ、育て上げた4人のプロ野球選手は小松聖(さとし)投手(オリックス)らいずれも投手。今大会も投手力でしのいで勝ち進んだ。「試合に入ったら、選手に任せる」。だから、「優勝は選手たちの力。ありがとうと言いたい」。

福岡県生まれ、国土館大卒。現役時代は内野手。趣味のゴルフは80を切る腕前。妻と2男。



今大会の戦いぶりを象徴するような一打だった。延長十一回、2死二塁。J R九州の新人・田中允信(まさのぶ)=東亜大出=の打球は詰まっていた。だが、それが幸いし、前進した中野一のグラブはわずかに届かず、二塁走者が決勝のホームを踏んだ。殊勲打の田中允信は、満面の笑みで言った。「詰まっても(野手の)間に落ちればいいと思って振り抜いた。しぶとく、粘り強くが」Rの野球ですから」

都市対抗の覇者・ホンダに一歩も引かなかった。三回到先制を許しても直後に追いつき、六回に勝ち越されても、また直後に追いつ

の好打順だったが、浜野は落ち着いた気持ちでマウンドにいたという。「1点やっても同点。同点なら打線がしぶとく勝ち越してくれる」

接戦を勝ち上がることによって投手陣と打者陣の信頼関係も深まり、つかんだ初優勝だった。



十一回表J R九州2死二塁、田中允信が中前通時打を放つ

## 唯一の失投 初失点

園訪部貴大投手(ホンダ・21歳)=中越高出

J R九州の選手の優勝インタビューが響き渡るベンチ裏で、仁王立ちのまま耳を傾けていた。口にしたのはチームのスローガンである「一への執着」「あの一球」だけが甘く入った。悔いが残る。決勝打を浴びた延長十一回を繰り返し、思い返していた。

安藤監督からは「(今季)最後の試合だから頼む」と送り出された。今大会は大事な初戦を任せられ、完封した準決勝を含め、計17イニングを無失点に抑え期待に応えた。初戦の後、右手の指の違和感を訴えたエース筑川の穴を感じさせなかった。

この日も140°。台の力のある直球と抜群の制球力で得点を許さない。十回を終えた時点で連続無失点回数は「20」に達した。「勝つための投球を心掛けていただけ」と語るが、それだけに「エースの役割を果たせなかった」と自分を責めた。

中日からドラフト6位指名を受けた右腕。今後について「自分の中では決まっている」と語った。プロに進むにせよ、残るにせよ、この「一球」は財産となるはずだ。



十一回表J R九州2死二塁、田中允信に決勝点となる中前通時打を打たれ打

第36回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 浜野雅慎投手(J R九州) 主戦右腕として5試合に登板。2回戦で完投し、他の4試合はロングリリーフで好救援。24歳。兵庫・神戸西高、国士館出の入社3年目。

◇敢闘賞 諏訪部貴大投手(ホンダ) 3試合に登板し、21回で失点はわずか1。準決勝の三菱重工横浜戦は4安打完封した。21歳。新潟・中越高出の入社3年目。

◇打撃賞 長野久義外野手(ホンダ) 全5試合3番を務め、21打数8安打1本塁打の打率3割8分1厘と活躍した。24歳。福岡・筑陽学園高、日大出の入社3年目。

◇首位打者賞 吉田承太外野手(日産自動車) 新人ながらスタメンで全4試合に安打をマーク。13打数5安打。打率3割8分5厘。23歳。福岡・筑陽学園高、関東学院大出。

◇特別賞 木林敏郎投手(三菱重工神戸) 1回戦の鷺宮製作所戦で大会初の無安打無失点試合を達成した。37歳。大阪藤井寺

工高出の19年目。

◇大会優秀選手

【投手】諏訪部貴大、武藤祐太(以上ホンダ)、浜野雅慎、米藤太一(以上J R九州)、秋葉知一(日産自動車)、亀川裕之(三菱重工横浜)、石見優輝(大阪ガス)、米倉大介(大和高田ク)、幸松司(九州三菱自動車)、【捕手】佐伯亮(ホンダ)、中野滋樹(J R九州)、小野和隆(大阪ガス) 【一塁手】西郷泰之(ホンダ)、小山豪(日産自動車)、田代智博(三菱重工横浜) 【二塁手】北山恵承(日産自動車)、坂上真世(三菱重工横浜)、小松良平(九州三菱自動車) 【三塁手】只隈裕貴(J R九州)、藤田利樹(大和高田ク) 【遊撃手】川戸洋平(ホンダ) 【外野手】長野久義、小手川喜常(以上ホンダ)、吉田承太(日産自動車)、榎篤久、小甲和俊(以上日本通運)、山地大輔(大阪ガス)、佐伯裕次郎(大和高田ク) 【指名打者】渡部英紀(三菱重工横浜)



【1回戦】三菱重工横浜ーJ R北海道 五回表三菱重工横浜2死満塁、渡部が走者一掃の適時二塁打を放つ



【準決勝】J R九州ー日産自動車 延長十三回裏日産自動車、最後の公式戦を終え、グラウンドでうずくまる松井



【準決勝】ホンダーー三菱重工横浜 三回表ホンダー2死、本塁打を放ち二塁を回る西郷



【準決勝】J R九州ー日産自動車 十三回表2死二塁、山下城太郎の適時打で生還し、雄たけびを上げる中野滋樹



【2回戦】日産自動車ーパナソニック 三回表日産自動車2死二、三塁、吉田が左前適時打を放つ



【2回戦】富士集工業ーJ R九州 完投したJ R九州の浜野



【2回戦】日立製作所ー九州三菱自動車 九回裏九州三菱自動車2死満塁、中村が右前にサヨナラ打を放つ



【2回戦】ホンダーーJ F E西日本 八回表ホンダ無死、長野が左越え本塁打を放つ



【1回戦】ホンダーー日本新薬 8回無失点に抑えたホンダの先発・諏訪部





北海道

9月11日から 3日間 9月20日から22日間 苫小牧市営球場、新札幌市民球場、札幌山手球場

トーナメント表 for Hokkaido region showing matches between teams like JR北海道, ウイン北広島, 帝広倶楽部, etc.

東北

9月25日から 4日間 仙台市スタジアム、仙台市川崎球場

トーナメント表 for Tohoku region showing matches between teams like JR盛岡, 創体ベースボールクラブ, NTT東北マックス, etc.

関東

10月5日から 4日間 鶴ヶ島・北国運動公園、東京・大田スタジアム

トーナメント表 for Kanto region showing matches between teams like NTT東日本, JR千葉, 富士重工業, etc.

Table listing tournament names, dates, and locations: 都市対抗大会, 全日本クラブ選手権.

Table listing JABA tournament names, dates, and locations: JABA 東京スプリングス, JABA 静岡, etc.

北信越

10月1日から 5日間 オリンピックスタジアム

トーナメント表 for Hokuriku region showing matches between teams like NTT徳島野球クラブ, バイタルネット, フェデックス, etc.

東海

10月1日から 9日間 愛知・岡崎市民球場

トーナメント表 for Chubu region showing matches between teams like トヨタ自動車, ヤマハ, 東海REX, etc.

近畿

10月6日から 5日間 京都・わかさスタジアム京都

トーナメント表 for Kansai region showing matches between teams like 新日鉄広畑, NOMOベースボールクラブ, 日本新薬, etc.

中国

10月12日から 6日間 広島・三原市民球場

トーナメント表 for Chugoku region showing matches between teams like 三原ベースボールクラブ, JFE西日本, 光シーガルズ, etc.

四国

10月10日から 2日間 高松・大取スポーツオーシャンコート

トーナメント表 for Shikoku region showing matches between teams like 四国銀行, 松本フェニックス, JR四国, etc.

九州

10月13日から 7日間 北九州市民球場、北九州市立球場

トーナメント表 for Kyushu region showing matches between teams like JR九州, エナジック, 新タコビュータ倶楽部, etc.

日産自動車

日産自動車 選手名 所属校 学年 備考
久井 隆弘 日産自動車 選手名 所属校 学年 備考

NTT信越硬式野球クラブ

NTT信越硬式野球クラブ 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 信越硬式野球クラブ 選手名 所属校 学年 備考

ヤマハ

ヤマハ 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 ヤマハ 選手名 所属校 学年 備考

トヨタ自動車

トヨタ自動車 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 トヨタ自動車 選手名 所属校 学年 備考

東邦ガス

東邦ガス 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 東邦ガス 選手名 所属校 学年 備考

富士重工業

富士重工業 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 富士重工業 選手名 所属校 学年 備考

日本通運

日本通運 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 日本通運 選手名 所属校 学年 備考

NTT東日本

NTT東日本 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 NTT東日本 選手名 所属校 学年 備考

東芝

東芝 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 東芝 選手名 所属校 学年 備考

三菱重工横浜

三菱重工横浜 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 三菱重工横浜 選手名 所属校 学年 備考

鷺宮製作所

鷺宮製作所 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 鷺宮製作所 選手名 所属校 学年 備考

JR北海道

JR北海道 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 JR北海道 選手名 所属校 学年 備考

TDK

TDK 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 TDK 選手名 所属校 学年 備考

日立製作所

日立製作所 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 日立製作所 選手名 所属校 学年 備考

ホンダ

ホンダ 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 ホンダ 選手名 所属校 学年 備考

トータル阪神

トータル阪神 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 トータル阪神 選手名 所属校 学年 備考

新日本石油ENEOS

新日本石油ENEOS 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 新日本石油ENEOS 選手名 所属校 学年 備考

JR東日本

JR東日本 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 JR東日本 選手名 所属校 学年 備考

パナソニック

パナソニック 選手名 所属校 学年 備考
山内 隆弘 パナソニック 選手名 所属校 学年 備考



# 第37回 大会

2010年(平成22年)10月30日▶11月14日

一回戦会場=日立市民球場、岡崎市民球場、わかさスタジアム、倉敷マスカットスタジアム  
二回戦以降会場=京セラドーム大阪

## 優勝=トヨタ自動車——2年ぶり3回目

新日鉄広畑(近畿) 0	明治安田生命(関東) 5	トヨタ自動車(東海) 10	伏木海陸運送(北信越) 0	東芝(関東) 1	三菱自動車岡崎(東海) 5	JR東日本東北(東北) 6	三菱重工横浜(関東) 6	王子製紙(東海) 1	NTT東日本(関東) 4	パナソニック(近畿) 3	沖縄電力(九州) 1	富士重工栗(関東) 0	JR北海道(北海道) 2	JFE西日本(中国) 0	四国銀行(四国) 5	緑園バスボールクラブ(関東) 4	三菱重工名古屋(東海) 4	JR九州(九州) 5	JFE東日本(関東) 5	室蘭シャークス(北海道) 0	大阪ガス(近畿) 3	日本通運(関東) 7	JX-ENEOS(関東) 10	伯和ピクトリーズ(中国) 1	東邦ガス(東海) 7	セガサミー(関東) 2	九州三菱自動車(九州) 1	ヤマハ(東海) 3	かずまジック(関東) 0	日本新薬(近畿) 1	明治安田生命 0	トヨタ自動車 1	三菱自動車岡崎 3	三菱重工長崎 2	三菱重工横浜 1	NTT東日本 6	沖縄電力 7	JR北海道 9	四国銀行 2	JR九州 8	JFE東日本 3	日本通運 4	JX-ENEOS 4	東邦ガス 0	ヤマハ 16	日本新薬 12	トヨタ自動車 2	トヨタ自動車 7	三菱自動車岡崎 0	NTT東日本 5	JR北海道 3	JR九州 3	日本通運 0	JX-ENEOS 1	ヤマハ 0	トヨタ自動車 4	NTT東日本 2	JR九州 1	JR九州 2	トヨタ自動車
-------------	--------------	---------------	---------------	----------	---------------	---------------	--------------	------------	--------------	--------------	------------	-------------	--------------	--------------	------------	------------------	---------------	------------	--------------	----------------	------------	------------	-----------------	----------------	------------	-------------	---------------	-----------	--------------	------------	----------	----------	-----------	----------	----------	----------	--------	---------	--------	--------	----------	--------	------------	--------	--------	---------	----------	----------	-----------	----------	---------	--------	--------	------------	-------	----------	----------	--------	--------	--------

## 若手台頭目立つ

2年ぶりに優勝したトヨタ自動車(東海・愛知)は1回戦から準々決勝までの3試合で連続零封勝ちなど投手力が安定していた。3勝の岩崎は右投手からコーナーを突き、18回余りを投げて1失点(自責点0)。佐竹も球威のある直球にフォークやチェンジアップを織り交ぜ、2試合に完投勝利。4番・的場が軸の打線は一時不振も準決勝以降復調し、チーム計5本塁打と長打力が抜群だった。

準優勝のJR九州(九州・福岡)も接戦に強かった。右投手のエース・浜野を中心にした堅守と、機動力を絡めた多彩な攻撃で、前回優勝、今夏の都市対抗準優勝に続く決勝進出は見事。決勝では今大会唯一の失策で失点し、リズムが狂ったのが悔やまれる。

今大会2回戦以降は広島アジア大会に主力を取られたチームがあったが、NTT東日本(関東・東京)は北道、上田の中輪2人が不在の中で4強入り。新人左腕・小石や打率5割2分9厘の1番・目黒ら若手が活躍した。4強のJX-ENEOS(関東・神奈川)も4番・池辺を欠いたが、2勝した大城、準々決勝で14奪三振(大会タイ記録)の倉又の両新人左腕が奮闘した。

今大会は1回戦が全国4球場で分散開催されたため、単純比較はできないが、総得点(総失点)219は昨年より55点も多く、5点差以上の試合数が昨年の4から9に。本塁打は21本と7年ぶりに20本台に乗り、犠打飛数133は昨年比30増、失策数47は昨年(23)から増倍以上。フルスイングの打撃と、絶妙のバントで相手のミスを誘う戦術が奏功しており、近年続く「投高打低」傾向

に多少歯止めがかかった。

過去2試合だった延長タイブレークが今大会は4試合もあり、拮抗(きっこう)した試合も多かった。



### 大会 審判

審判委員長=赤井淳二 審判運営委員=小林勉、山崎浩、新原定、山口義夫、橋政政 審判委員=池友久、土井淳安、堀口光、清水雅彦、長谷川次郎、大塚篤、内山隆雄、土井政之、野田外司郎、西本和博、松川明弘、岸見俊明、藤野真、殿川浩一、花尾謙明、文殊弘富、美野正則、阪根雅弘、辻幸太郎、山口篤彦、梅垣信行、古川泰史、左海貴士、金岡利明、小谷賢介、南谷宏治、木原浩吉、大西政巳、善積重文、栗金信、堀井明、三浦和幸、佐藤誠、熊倉勝、室高克明、井上孝則、松原光春、池内一史、中田恵博【日立】成田洋一、寺門茂、熊田恒男、尾清秀、田中要、大高哲、辻雄次、渡辺行夫、倉川正信、鈴木政男、大竹雄輝、道島直人、細川幸久【岡崎】杉江周作、竹内勝、福加勉、梶岡隆岡、服部俊樹、山本洋史、清水茂、新美克直、小松信幸、立松浩、吉田成久、奥田正勝、土方直、大石博也【北信越】【倉敷】西井久登、津田智輔、友次三男、大橋直典、初田幸隆、前田康弘、藤田大輔、庄司健、山岡誠、安藤始臣、日下正



第37回大会 大会記録

倉敷第2試合=1回戦(午後1時46分開始)

J R 北海道 000 101 000 | 2
J F E 西日本 000 000 000 | 0

審判(球審)西井(塁審)友次、藤田、前田
【J R北海道】 打安点 【J F E西】 打安点
(1)松山 原川 4000 (1)大近 北 4100

振球併残 6326 計3162
武 藤 9 3470

▽10月31日

倉敷第1試合=1回戦(午前9時58分開始)

四国銀行 000 000 010 031 | 5
所沢グリーンク 000 100 000 030 | 4

審判(球審)前田(塁審)西井、日下、安藤
【四国銀行】 打安点 【所沢ク】 打安点
(1)藤 池山 524 (1)西村 村 510

振球併残 7308 計3545
東 出 11 4161

岡崎第1試合=1回戦(午前9時53分開始)

三菱重工名古屋 200 100 000 01 | 4
J R 九州 000 210 000 02 | 5

審判(球審)新美(塁審)山松、立花、大石
【三菱名古屋】 打安点 【J R九州】 打安点
(1)村 田 410 (1)中 牧 5200

振球併残 8318 計3774
中 根 3 1852

つないで延長サヨナラ

タイブレークによる延長十一回、J R九州は下位から5番に抜けてきた中野がサヨナラ劇の主役になった。一死満塁から、4番宇多村が同点左犠飛。なお二死一、二塁の場面で中野、「追いついて、気楽だった」と外に逃げる球を逆らわずに右へ流すと、打球は「二塁間を抜けた。(一死足の二塁走者)田村さんなら選ってこられる」。期待通り、田村は捕手のタッチをかいくぐって、ホームを離れた。

三菱重工名古屋の好左衛門攻略のため苦戦下位を打

つことが多い右打者を主軸に据えた。その一人の中野は、史上初めて2大会(日本選手権、都市対抗)で首位打者賞を獲得。『いつも通りつなぐことを心がけただけ』。3点先行された四回には反撃の口火を切るバスターエンドランを決めるなど、この日は3安打。

「腹り合えば絶対に負けないのが、うちの真骨頂」と吉田監督は事もなげに言う。優勝した去年の日本選手権、今年の都市対抗を通じて3度延長戦を戦って全勝だ。接戦に持ち込む投手力、好機を着実にものにできる攻撃力があるからこそのだ。

日立第1試合=1回戦(午前9時58分開始)

J F E 東日本 001 040 000 | 5
室蘭シャークス 000 000 000 | 0

審判(球審)細川(塁審)辻、成田、星
【J F E東】 打安点 【室 蘭】 打安点
(1)澤 大 511 (1)加 加 4000

振球併残 3115 計35115
本 野 7 2210

京都第1試合=1回戦(午前9時56分開始)

日本通運 000 020 014 | 7
大阪ガス 001 001 010 | 3

審判(球審)辻(塁審)大原、善積、中田
【日本通運】 打安点 【大阪ガス】 打安点
(1)山 口 410 (1)藤 原 4100

振球併残 72110 計39157
牧 田 7 31103

倉敷第2試合=1回戦(午後1時9分開始)

J X-ENEOS 013 002 013 | 10
伯和ピクトリーズ 000 000 001 | 1

審判(球審)津田(塁審)山岡、大橋、庄司
【J X】 打安点 【伯 和】 打安点
(1)柳 原 300 (1)池 永 4100

三 井 嶺、坂下、二 農、東、池辺、山岡、西川

日立第2試合=1回戦(午後0時51分開始)

東邦ガス 111 220 000 | 7
セガサミー 011 000 000 | 2

審判(球審)渡辺(塁審)倉川、鈴木、大曾根
【東邦ガス】 打安点 【セガサミー】 打安点
(1)新 村 520 (1)川 大 2200

振球併残 44010 計36147
水 田 8 3472

岡崎第2試合=1回戦(午後1時14分開始)

ヤマハ 001 002 000 | 3
九州三菱自動車 000 100 000 | 1

審判(球審)吉田(塁審)奥田、宝島、土方
【ヤマハ】 打安点 【九州三菱白】 打安点
(1)石 野 400 (1)小 松 3100

振球併残 6307 計3363
ナデル 4 1851

京都第2試合=1回戦(午後1時22分開始)

かずさマジック 000 000 000 | 0
日本新薬 000 001 00X | 1

審判(球審)池田(塁審)西本、大西、内山
【かずさ】 打安点 【日本新薬】 打安点
(1)伊 藤 420 (1)森 川 3000

振球併残 38012 計2880
山 川 5 2351



雨の中、力投する日本新薬の加藤



▽11月9日

Table for 11月9日 第1試合=2回戦(午前11時58分開始)
トヨタ自動車 0 1 0 0 0 0 0 1
明治安田生命 0 0 0 0 0 0 0 0
Includes batting and pitching statistics for both teams.

ここぞの直球

佐竹功年投手(27)トヨタ自動車
1-0の緊迫した試合を楽しむかのような投球。
「制球を心がけた(フォークやチェンジアップで打ち取り、ここぞという場面は伸びのある直球がきた)。

第2試合=2回戦(午後2時51分開始)

Table for 11月9日 第2試合=2回戦(午後2時51分開始)
三菱自動車岡崎 0 0 0 0 1 0 0 1 3
三菱重工長崎 0 1 0 0 0 0 1 0 0 2
Includes batting and pitching statistics.

救援失敗

⑨-2-1で試合を締めるべく8回に続いて9回のマウンド上がった三菱重工長崎の山中は04年の1年間、相手の三菱自動車岡崎に所属していた。

第3試合=2回戦(午後6時30分開始)

Table for 11月9日 第3試合=2回戦(午後6時30分開始)
三菱重工横浜 0 0 0 0 1 0 0 0 1
NTT東日本 0 2 0 1 0 0 0 3 6
Includes batting and pitching statistics.

▽11月10日

Table for 11月10日 第1試合=2回戦(午後11時58分開始)
J R 北海道 0 0 3 0 0 5 0 0 1 9
沖縄電力 0 0 0 1 0 3 0 3 0 7
Includes batting and pitching statistics.

タイB狙ったが

⑨-1-8の劣勢から猛追を見せた沖縄電力。六回に3点、八回にも代打・仲村の右翼線二塁打など4長打を集めて3点を挙げ、一時は1点差まで追い上げた。

第2試合=2回戦(午後3時32分開始)

Table for 11月10日 第2試合=2回戦(午後3時32分開始)
四国銀行 0 2 0 0 0 0 0 0 2
J R 九州 1 0 0 0 4 1 2 0 8
Includes batting and pitching statistics.

第3試合=2回戦(午後6時15分開始)

Table for 11月9日 第3試合=2回戦(午後6時15分開始)
J F E 東日本 0 0 1 0 0 0 0 1 3
日本通運 3 0 0 0 0 0 0 1 4
Includes batting and pitching statistics.

▽11月11日

Table for 11月11日 第1試合=2回戦(午後0時1分開始)
東邦ガス 0 0 0 0 0 0 0 0 0
JX-ENEOS 0 0 0 0 1 1 0 2 4
Includes batting and pitching statistics.

満塁しのいだ新球

大城基志投手(23) J X-ENEOS
磨いてきた新球が、ここぞの場面で力となった。六回2死満塁。1番・本多を追い込み、決め球にチェンジアップを求めた捕手の山岡に首を振った。







▽11月14日

決勝(午後1時1分開始)

トヨタ自動車	0	0	2	0	1	1	0	0	4
J R 九州	0	0	1	0	0	0	0	1	2

▶審判(球審)阪根(塁審)池、南谷、山口義

【トヨタ】	打安点	【J R九州】	打安点
① 桑	3 0 0 0	① 中	3 1 1 0
② 桑	1 0 0 0	② 中	4 1 1 1
③ 桑	2 0 0 0	③ 中	3 1 1 1
④ 桑	4 1 0 0	④ 中	4 0 0 0
⑤ 桑	2 1 1 1	⑤ 中	4 0 0 0
⑥ 桑	2 0 0 0	⑥ 中	4 2 0 0
⑦ 桑	2 1 0 0	⑦ 中	0 0 0 0
⑧ 桑	1 0 0 0	⑧ 中	2 0 0 0
⑨ 桑	2 1 1 1	⑨ 中	2 1 0 0
⑩ 桑	0 0 0 0	⑩ 中	4 1 0 0
⑪ 桑	1 0 0 0	⑪ 中	3 1 0
⑫ 桑	2 0 0 0		
⑬ 桑	4 0 0 0		
⑭ 桑	3 1 1		
振替併録	計 29 5 3	振替併録	計 33 8 2

回	打安費	回	打安費
岩崎	7 27 5 0	米藤	3 13 1 0
佐竹	2 8 3 1	浜野	6 23 4 2

▶本塁打=的場2号①(浜野)、藤島2号①(佐竹)②(桑)③(桑)④(桑)⑤(桑)⑥(桑)⑦(桑)⑧(桑)⑨(桑)⑩(桑)⑪(桑)⑫(桑)⑬(桑)⑭(桑)⑮(桑)⑯(桑)⑰(桑)⑱(桑)⑲(桑)⑳(桑)㉑(桑)㉒(桑)㉓(桑)㉔(桑)㉕(桑)㉖(桑)㉗(桑)㉘(桑)㉙(桑)㉚(桑)㉛(桑)㉜(桑)㉝(桑)㉞(桑)㉟(桑)㊱(桑)㊲(桑)㊳(桑)㊴(桑)㊵(桑)㊶(桑)㊷(桑)㊸(桑)㊹(桑)㊺(桑)㊻(桑)㊼(桑)㊽(桑)㊾(桑)㊿(桑)

## 小技でミス誘い逆転

完全に逆転した。

間瀬監督がバスターの場面を「1点差なので送りバントは2人出たからと思っていた」と言えば、坂田も「バスターエンドランのサインが出ると思っていた。そういう練習してきたので」。今大会5本塁打と長打力を誇るトヨタだが、坂田は「普段から各自が自分の役割や試合状況などを考え、バントやエンドランの練習を相当やってきた」と明かす。六回に左越えのソロの元阪神・的場は「僕も都市対抗予選からバント

### 監督談話

トヨタ自動車・間瀬啓介監督 浜野投手の継投は予想通り。後半は左打者をどんどんつぎ込んだ。(投手の)岩崎と佐竹は大会を通じて安心して見ていられた。

J R九州・吉田博之監督 先頭打者への四球、守備の乱れ、失投などミスが響いた。2大会での連続準優勝は、各選手が自覚を持って精進した結果。

ひと

### トヨタ自動車 間瀬 啓介監督

監督就任要請は、あまりにも唐突だった。2年前、チームが日本選手権2連覇を遂げた後のことだ。

03年にコーチを退き、社業に専念していた。しかも前任の山中繁監督が1年後輩という事情もあり、「声がかかった時は正直驚いた」。だが、当時の上司が「手を挙げてもやれる仕事じゃない。頼まれたならやってみよう」と気持ちよく送り出してくれ、今がある。

今季のチーム作りはたやすくはなかった。昨秋のプロ野球ドラフト会議で主力投手2人を含む3選手が指名され、プロへ進んだからだ。抜けた穴は大きい。どう埋めるか。しかし、「そのせいで弱くなったと言われたくない」との反骨心がチームにわき、まとまってくるのを感じたという。

今月初め、愛知県豊田市の練習場に突然、豊田章男社長が姿を見せた。隣で練習する女子ソフトボール部が日本リーグ決勝トーナメントに進出し、激励に訪れた様子だった。「頑張って」と声をかけられ、がっちり握手を交わした。その女子ソフト部は今年7月、一足先に26年ぶりの優勝を果たしている。「バトンをしっかりと受け継ぎました」

08年秋のリーマン・ショック後の世界的な不況で、一時は大きく落ち込んだ会社の業績も持ち直してきている。「(試合に)勝って明るい話題を提供することがぼくらの使命」。企業スポーツのあり方が見直される今、社会人野球の魅力が優勝という最高の形で表した。

愛知県生まれ。東海大卒。愛知・大府高時代に夏の甲子園に出場。元巨人投手の植原寛己さんは1年後輩。



意表をついたひと振りが流れを変えた。1点を追うトヨタ自動車の四回無死一塁。J R九州の左腕・米藤が投じた初球の直球を、3番・坂田がバスターで鮮やかに三遊間を破った。

無死一、二塁となり、4番・的場は初球を一塁線へ送りバント。だが、直前のバスターによりJ R九州のバントシフトは徹底せず、反応が遅れて焦った一塁手の宇多村は悪送球し、二塁から藤原が還った。さらに救援のエース・浜野から1死後、代打・龜谷が中犠飛。逆に持ち味の守りが乱れたJ R九州はその後、もう一つの持ち味であるバントを失敗。両チームの勢いは完全

に逆転した。

一昨年はエース大谷(現ロッテ)らを擁して2連覇したが、前回は初戦で敗れ、大谷ら3人がプロ入りした今季は都市対抗で2回戦敗退。「3人が抜けて弱くなったと言われたくない。選手全員がその気持ちで臨んだ」と間瀬監督。男の意地をかけた戦いで、名門が2年ぶりによみがえった。



四回表トヨタ自動車無死一、二塁、4番打者・的場の送りバントが悪送球を誘いセーフ(野手・田村)

## エース 被弾悔やむ

浜野雅慎投手(25) J R九州

敢闘賞を受賞した閉会式後に記者に囲まれ、前大会のMVP、今年の都市対抗の久慈賞(敢闘賞)と合わせて「金(メダル)一つ、銀二つ。来年は金二つにしますよ」と都市対抗のMVP奪取を誓うと試合後から厳しい表情がようやく和らいだ。

四回無死一、三塁から今大会全5試合目の登板。既に29回余りを投げているが「そういう想定をして練習してきた」と平然と投げ込んだ。犠飛で逆転を許したが最少失点で切り抜けた。

五回は大きく曲がる右腕からのスライダーを決め球に2者を見逃し三振に。「宝刀」は思わずボールをよける右打者の内角に次々と決まった。準決勝で零封負けしたJ X-E N E O Sの大久保監督が「現時点で社会人ナンバーワン投手」と評した投球を遺憾なく発揮した。だが、六回、的場に甘くなった直球を左翼席に運ばれた。これが決勝点。吉田監督は「相手が上」とかぼったがエースは「3日目が重かった」と悔やんだ。

都市対抗の決勝で涙を流し「一球一球を大事に無駄のない練習をやり尽くしてきたはずだった。何か足りない。それを探す」。さらなる高みへの苦しみがまた始まる。



力投するJ R九州の浜野

第37回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 岩崎司投手(トヨタ自動車) 決勝を含む3試合で先発登板し、3勝。18回余りを投げて自責点0と好投した。28歳。鹿児島・樟南高出の入社8年目。

◇敢闘賞 浜野雅慎投手(JR九州) 全5試合に登板し、準々決勝(日本通運戦)の完封など4勝を挙げた。25歳。兵庫・神戸西高、国士館大出の入社4年目。

◇打撃賞 的場寛一内野手(トヨタ自動車) 4番として2試合で本塁打を放つなど打率3割5分3厘。33歳。愛知・弥富高、九州共立大、阪神を経て入社5年目。

◇首位打者賞 宮沢健太郎内野手(JX-ENEOS) 13打数7安打、打率5割3分8厘。08年都市対抗でも受賞。30歳。長野・岡谷南高、明大出の入社8年目。

◇大会優秀選手

[投手]岩崎司、佐竹功年(以上トヨタ自動車)、浜野雅慎(JR九州)、小石博孝(NTT東日本)、大城基志(JX-ENEOS)、山名康造(三菱自動車岡崎)、武藤好貴(JR北海道) [捕手]二葉祐貴(トヨタ自動車)、中野滋樹(JR九州)、山岡剛(JX-ENEOS) [一塁手]的場寛一(トヨタ自動車)、宇多村典明(JR九州)、泉尚徳(JX-ENEOS) [二塁手]福田康一(トヨタ自動車)、梶岡千晃(NTT東日本)、佐藤二郎(ヤマハ) [三塁手]坂田篤彦(トヨタ自動車)、宮沢健太郎(JX-ENEOS)、柴草健太(JR北海道)、[遊撃手]田中マルシオ敬三(JR九州)、沢村幸明(日本通運)、永田英之(ヤマハ) [外野手]藤島琢哉(JR九州)、目黒聡(NTT東日本)、井領雅貴(JX-ENEOS)、中野孝昭(JR北海道) [指名打者]新垣道太(日本通運)



[2回戦]ヤマハー日本新薬 一回裏日本新薬2死、著尾谷が左越え本塁打を放つ



[準々決勝]三菱自動車岡崎ートヨタ自動車 四回裏トヨタ自動車1死一塁、的場が左越え2点本塁打を放ちベンチ前でハイタッチ



[準決勝]トヨタ自動車ーNTT東日本 安打を放ったトヨタ自動車の二葉祐貴捕手



[2回戦]JR北海道ー沖縄電力 三回裏JR北海道1死一、二塁、中野が右越えに先制の適時二塁打を放つ



[決勝戦]トヨタ自動車4ー2JR九州 六回表トヨタ自動車2死、的場寛一が左越え本塁打を放つ(捕手・中野滋樹)



[決勝]トヨタ自動車ーJR九州 トヨタ自動車先発の岩崎



[第1試合]トヨタ自動車ー明治安田生命 最後の打者を三塁に仕留め嬉しげな佐竹



[準決勝]JX-ENEOSーJR九州 六回裏JR九州無死、藤島が左越え本塁打を放ち大喜びでホームイン



[準決勝]JX-ENEOS0ーJR九州 四回表に右前打を放つ宮沢健太郎



**北海道**

9月23日から 2日間 札幌円山球場  
※3戦先勝方式  
室蘭シャークス 2-0 航空自衛隊千歳  
函館大洋倶楽部 0-8 室蘭シャークス  
代表=室蘭シャークス

**東北**

9月17日から 4日間 愛島球場  
T D K 1  
自衛隊青森 0 6  
七十七銀行 30 3  
フェズント岩手 4 4  
日本製紙石巻 3 4  
きらやか銀行 0 9  
J R 東日本東北 3 2  
J R 盛岡 4 1  
J R 秋田 7

**関東**

9月27日から 2日間 大田スタジアム、越谷市民球場  
明治安田生命 8 6  
J R 水戸 0 3  
鶴宮製作所 1 3  
日立製作所 0 3  
J R 東日本 0 1  
日立スポーツ専門学校 0 1  
かずさマジック 14  
ホンダ 18 1  
日立スポーツ専門学校 0 1  
東京ガス 1 2  
日本通運 2 2  
住友金属鹿島 3 3  
J R 千葉 0 6  
三菱重工横浜 7

大会名	期	間	優	勝
都市対抗大会	8/27	~	12日間	東芝
全日本クラブ選手権	9/14	~	4日間	新井-ス-ス-ス
<b>日本選手権対象JABA大会</b>				
大会名	期	間	優	勝
JABA 東京スポニチ	3/19	~	4日間	富士重工業
JABA 静岡	4/3	~	4日間	セガサミー
JABA 四国	4/9	~	4日間	J R 九州
JABA 日立市長杯	4/15	~	4日間	JFE 東日本
JABA 岡山	4/16	~	5日間	JR 北海道
JABA 長野	4/23	~	4日間	NTT 東日本
JABA 京都	4/30	~	5日間	ヤマハ
読売ベイクス杯	5/1	~	4日間	中日
JABA 九州	5/8	~	5日間	三菱重工長崎
JABA 東北	5/13	~	4日間	J X-ENEOS
JABA 北海道	7/29	~	6日間	トヨタ自動車

**北信越**

9月23日から 5日間 ハードオフ・エコスタジアム  
▶予選リーグ日程  
[Aブロック]  
信越硬式野球クラブ 6-5 フェデックス  
J R 新潟 2-8 信越硬式野球クラブ  
フェデックス 14-1 J R 新潟  
[Bブロック]  
エコモーターズ 1-3 伏木海陸運送  
バイタルネット 2-0 エコモーターズ  
伏木海陸運送 5-4 バイタルネット  
信越硬式野球クラブ(Aブロック1位) 0 3  
バイタルネット(Bブロック2位) 2 3  
フェデックス(Aブロック2位) 3 5  
伏木海陸運送(Bブロック1位) 5

**東海**

9月25日から 7日間 岡崎市民球場  
東邦ガス 3 4  
三菱自動車岡崎 3 1  
ホンダ鈴鹿 1 1  
西濃運輸 7 0  
日カスポーツ専門学校 0 12  
三菱重工名古屋 2  
東海理化 8 1  
東海REX 3 3  
J R 東海 2 1  
ジェイプロジェクト 3 2  
王子製紙 5 5  
東海理化 0 0  
西濃運輸 4 2  
ホンダ鈴鹿 2 3  
三菱自動車岡崎 3 3  
東海REX 4 4  
J R 東海 5 1  
ジェイプロジェクト 4 3  
日カスポーツ専門学校 1 2  
東邦ガス 2

**近畿**

9月21日から 6日間 わかさスタジアム京都  
新日鉄広畑 0 2  
パナソニック 3 2  
慶正社学園 2 2  
NTT西日本 7 3  
日カスポーツ専門学校 0 0  
ニチダイ 5 0  
島津製作所 1 0  
日本新薬 6 2  
トータル阪神 0 2  
大阪ガス 4 3  
甲賀健康医療専門学校 0 3  
日本生命 4 0  
和歌山真島球友会 0 0  
三菱重工神戸 2 1  
大和高田クラブ 1 1  
<敗者復活戦>  
NTT西日本 0 0  
日本新薬 8 4  
慶正社学園 7 0  
日カスポーツ専門学校 8 2  
島津製作所 7 1  
日本生命 12 1  
トータル阪神 4 1  
甲賀健康医療専門学校 0 3  
ニチダイ 3 3  
和歌山真島球友会 2 1  
大和高田クラブ 9 10  
新日鉄広畑 4 3  
三菱重工神戸 3

**中国**

9月24日から 7日間 宇部市野球場  
三菱自動車岡山 10 2  
日カスポーツ専門学校 0 3  
三菱重工広島 4 4  
シティライト岡山 4 7  
JFE西日本 5 6  
ツネイシ 12 1  
三菱重工三原 14 0  
伯和ビクトリーズ 2 5  
光シーガルズ 3 0  
ワイテック 0 0  
<敗者復活戦>  
ワイテック 3 4  
シティライト岡山 4 1  
三菱自動車岡山 3 5  
三菱重工三原 2 2  
日カスポーツ専門学校 1 1  
ツネイシ 8 2  
光シーガルズ 0 4  
三菱重工広島 4 7  
伯和ビクトリーズ 7

**四国**

9月10日から 5日間 香川・レクザムスタジアム  
※3戦先勝方式  
J R 四国 4-5 四国銀行  
J R 四国 0-4 四国銀行  
J R 四国 2-3 四国銀行  
代表=四国銀行

**九州**

10月13日から 7日間 九州野球場、九州市立球場  
九州三菱自動車 1 8  
新井-ス-ス-ス 1 0  
エナジック 3 2  
宮崎梅田学園 3 3  
日カスポーツ専門学校 2 0  
熊本ゴールデンラクス 10 3  
沖縄電力 1 1  
九州-ス-ス-ス 9 3  
てるクリニック 1 2  
宮崎福祉医療カレッジ 9 1  
九州総合スポーツカレッジ 6 2  
ホンダ熊本 14  
<敗者復活戦>  
新井-ス-ス-ス 1 7  
沖縄電力 5 9  
日カスポーツ専門学校 2 4  
宮崎福祉医療カレッジ 5 3  
熊本ゴールデンラクス 3 3  
てるクリニック 2 6  
エナジック 3 7  
九州総合スポーツカレッジ 1 6  
宮崎梅田学園 5 3  
ホンダ熊本 10 2  
九州-ス-ス-ス 2

日本通運

Table listing athletes for Nippon Express (日本通運) with columns for name, position, and number.

かずさマジック

Table listing athletes for Kazusa Magic (かずさマジック) with columns for name, position, and number.

明治安田生命

Table listing athletes for Meiji Yasuda Life (明治安田生命) with columns for name, position, and number.

三菱重工横浜

Table listing athletes for Mitsubishi Heavy Industries Yokohama (三菱重工横浜) with columns for name, position, and number.

伏木海陸運送

Table listing athletes for Fushi Kaikoku (伏木海陸運送) with columns for name, position, and number.

JX-ENEOS

Table listing athletes for JX-ENEOS with columns for name, position, and number.

トヨタ自動車

Table listing athletes for Toyota (トヨタ自動車) with columns for name, position, and number.

室蘭シャークス

Table listing athletes for Muroran Sharks (室蘭シャークス) with columns for name, position, and number.

JR東日本東北

Table listing athletes for JR East Tohoku (JR東日本東北) with columns for name, position, and number.

JFE東日本

Table listing athletes for JFE East Japan (JFE東日本) with columns for name, position, and number.

JR北海道

Table listing athletes for JR Hokkaido (JR北海道) with columns for name, position, and number.

NTT東日本

Table listing athletes for NTT East Japan (NTT東日本) with columns for name, position, and number.

ヤマハ

Table listing athletes for Yamaha (ヤマハ) with columns for name, position, and number.

三菱重工長崎

Table listing athletes for Mitsubishi Heavy Industries Nagasaki (三菱重工長崎) with columns for name, position, and number.

東芝

Table listing athletes for Toshiba (東芝) with columns for name, position, and number.

所沢グリーンクラブ

Table listing athletes for Sotatsu Green Club (所沢グリーンクラブ) with columns for name, position, and number.

富士重工業

Table listing athletes for Fuji Heavy Industries (富士重工業) with columns for name, position, and number.

セガサミー

Table listing athletes for Sega Sammy (セガサミー) with columns for name, position, and number.

JR九州

Table listing athletes for JR Kyushu (JR九州) with columns for name, position, and number.



四国銀行

Table listing members of the Shikoku Bank group, including names and addresses.

九州三菱自動車

Table listing members of the Kyushu Mitsubishi Motors group, including names and addresses.

沖縄電力

Table listing members of the Okinawa Electric Power group, including names and addresses.

Table listing members of the JFE West Japan group, including names and addresses.

JFE西日本

Table listing members of the JFE West Japan group, including names and addresses.

伯和ビクトリーズ

Table listing members of the Tokai Victorians group, including names and addresses.

Table listing members of the Panasonic group, including names and addresses.

パナソニック

Table listing members of the Panasonic group, including names and addresses.

大阪ガス

Table listing members of the Osaka Gas group, including names and addresses.

新日鐵広畑

Table listing members of the Nippon Steel Hirohata group, including names and addresses.

Table listing members of the Daihatsu group, including names and addresses.

三菱自動車岡崎

Table listing members of the Mitsubishi Motors Okazaki group, including names and addresses.

王子製紙

Table listing members of the王子製紙 group, including names and addresses.

東邦ガス

Table listing members of the Tokai Gas group, including names and addresses.

三菱重工名古屋

Table listing members of the Mitsubishi Heavy Industries Nagoya group, including names and addresses.

日本新薬

Table listing members of the Nippon Shinyaku group, including names and addresses.

苦難越え いま感謝 三菱自動車岡崎

スター選手「はいない、主将小林は「選手が100%力を出し切っても相手より劣る」と笑う。だが力を一つにして激戦の東海予選を勝ち抜き、三菱自動車岡崎は全国への切符を手にしてきた。

都市対抗出場を逃した後の東海予選。敗者復活戦に回るなどして4試合消化したが、投手陣が全試合3点以内に抑えた。左腕宇田川が全4試合ロングリリーフして無失点。打撃陣も少ないチャンスを生かして盛り上げた。30日、日立市民球場での1回戦は、今夏7回目の都市対抗劇戦を果たした東芝が相手。小林は「強敵でもずきがあるはず」と言う。

チームは輝かしい実績を持つ。創部3年目で初出場を果たした95年の第22回大会。初戦で前年大会覇者の日本通運相手に丸回裏、逆転サヨナラ3ラン。続く2回戦も松下電器(現パナソニック)相手に延長10回、本塁打が飛び出し、結局4強入りした。小林は「8年ぶりだし、チームで大阪を経験した選手はいない、僕らも初出場みたいなもの」と語る。

8年間でチームは苦しい経験もした。04年に活動自粛。部員30人が12人になった。当時を回顧した佐々木と渡辺は「野球ができなくなるのではないかと不安があった」。だが危機を乗り越え「あの経験があるから今がある。野球をやれる幸せを感じる」とも言う。

グラウンドは三菱重工名古屋と共同使用のため、練習は午前中だけ。だが佐々木らは「街が常に全力疾走する」。1分も無駄にしたい練習への思いが無名選手を強くした。

活動自粛を知る選手も少ない。35歳の座喜味監督は「風化させてはならない」と説き、「会社の元気印の象徴として、我々がトップバッターでありたい。社会人野球の面白さを見せる」と意気込む。



## 優勝=JX-ENEOS——20大会ぶり2回目

バイタルネット(北信越) 3	バイタルネット 1	七十七銀行 1	パナソニック 2	J R 東日本 1	JX-ENEOS
新日鉄住金東海REX(東海) 2	七十七銀行 2				
航空自衛隊千歳(北海道) 0	パナソニック 2	パナソニック 4	J R 東日本 8	J R 東日本 2	JX-ENEOS
七十七銀行(東北) 2	JFE西日本 1				
パナソニック(近畿) 5	ホンダ 3	J R 九州 1	J R 東日本 8	J R 東日本 2	JX-ENEOS
鷺宮製作所(関東) 0	J R 九州 4				
JFE西日本(中国) 3	日本通運 3	J R 東日本 2	トヨタ自動車 5	トヨタ自動車 0	JX-ENEOS 5
滋賀・高島クラブ(近畿) 2	J R 東日本 10				
西濃運輸(東海) 3	トヨタ自動車 7	トヨタ自動車 5	トヨタ自動車 0	東邦ガス 3	JX-ENEOS 5
ホンダ(関東) 5	NTT西日本 1				
三菱重工名古屋(東海) 1	日本新薬 2	東邦ガス 3	JX-ENEOS 2	JX-ENEOS 1	JX-ENEOS
J R 九州(九州) 2	東邦ガス 9				
伯和ビクトリーズ(中国) 3	ニチダイ 2	JX-ENEOS 2	日本生命 1	日本生命 6	JX-ENEOS
日本通運(関東) 4	JX-ENEOS 3				
J R 東日本(関東) 6	J R 東海 0	J R 東海 0	新日鉄住金マジック 3	日本生命 1	JX-ENEOS
新日鉄住金広畑(近畿) 0	J R 東海 0				
トヨタ自動車(東海) 5	新日鉄住金マジック 3	日本生命 1	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
ホンダ熊本(九州) 3	日本生命 6				
NTT西日本(近畿) 1	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
三菱重工横浜(関東) 0	日本生命 6				
日本新薬(近畿) 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
JFE東日本(関東) 3	日本生命 6				
東邦ガス(東海) 11	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
新日鉄住金鹿嶋(関東) 6	日本生命 6				
ニチダイ(近畿) 2	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
日立製作所(関東) 0	日本生命 6				
三菱重工広島(中国) 5	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
JX-ENEOS(関東) 10	日本生命 6				
J R 東海(東海) 0	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
新日鉄住金かずさマジック(関東) 2	日本生命 6				
日本生命(近畿) 13	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	日本生命 6	JX-ENEOS
J R 四国(四国) 0	日本生命 6				

## 総得点、打率上昇 足絡めたプレーも

JX-ENEOS(関東・神奈川)が、史上2チーム目の「夏秋連覇」で、2年ぶりの大会を締めくくった。打線が精彩を欠いた2回戦から準決勝は大城ら投手陣が踏ん張り、3試合連続で1点差勝ち。決勝では井領、宮沢の本塁打などで2年目右腕の厚みを援護して快勝し、勝負どころで投打がかみ合った。準々決勝の1失点完投を含めて3勝した大城が、今夏の都市対抗の橋戸賞(最優秀選手賞)に続き、最高殊勲選手賞を獲得した。

都市対抗に続く準優勝のJR東日本(関東・東京)は、準決勝まで3試合連続逆転勝ち。吉田、片山ら豊富な投手陣に加え、沢や重谷が代打で決定的な仕事をするなど、選手層の厚さが際立った。

連覇を狙ったトヨタ自動車(東海・愛知)は、佐竹が先発3度を含め全4試合に登板。下位打線の活躍も光った。パナソニック(近畿・大阪)は、右横手から力のある直球を繰り出すエース秋吉がチームをけん引した。

一方でニチダイ、バイタルネットは大会初勝利を挙げた。

全試合が今大会と同様、京セラドーム大阪で行われた前々回の第36回大会と比較すると、総得点は39点増えて打率も大幅に上昇。「投高打低」の傾向に歯止めがかかった。本塁打が減る一方、三塁打が10本増えるなど、足を絡めたダイナミックなプレーも目撃された。



### 大会 審判

▷審判委員長=中本尚▷審判副委員長=橋本政▷審判運営委員=新草定、長谷川次郎、山崎浩、堅田外司昭、小谷啓介、赤井淳二▷審判委員=池友久、土井政之、三宅卓介、土井淳宏、堀口光、清水雅彦、犬飼靖、大郡篤、内山隆雄、西本和博、那須正典、諏合久雄、長谷川文彦、松川明弘、岸見俊明、藤野真、飯川浩一、江夏透、花尾聡明、浜田敏秀、文殊弘富、宅間寛、美野正則、石原義市郎、竹本祐一、小西忠宏、谷口吉洋、藤積重文、南谷宏治、本原富貴、永井秀亮、中東桃、酒井真二、和田拓也、奥野弘幸、今泉信、岩永聡、大橋直弥、榎野正義、船川隆弘、庄司勝、田村功、西池直樹、長谷川謙助、深田賢介、星野光男、細川幸久、森下謙介、山口智久



▽11月3日

第1試合=1回戦(午前11時59分開始)
三菱重工横浜 000 000 000 000 | 0
NTT西日本 000 000 000 001 | 1

審判(球審)橋本(塁審)殿川、西本、南谷
【三菱重工横浜】打安点
【NTT西日本】打安点

二塁打=松井、田城>試合時間2時間49分

プロ指名の実力存分に

打者2人に投じた10球は、すべて真っすぐだった。「一番自信のあるボールなので、打たれても悔いがない」。

出番が回ってきたのは、1死満塁から始めるタイブレークに入った十二回。ともにゼロ行進が続く中での登板にも、「どういふ場面でも抑えるための練習をしている」と落ち着いていた。

その抑えの切り札を「後ろに増田がいるので安心して投げられた」と振り返ったのは先発の安部だった。

増田が西武1位、安部がDeNA5位指名を受けた先月のプロ野球ドラフト会議後、初めての公式戦。

第2試合=1回戦(午後3時24分開始)
新日鉄住金東海 REX 000 002 000 | 2
バイタルネット 100 010 01X | 3

審判(球審)土井淳(塁審)木原、谷口、渡田
【東海REX】打安点
【バイタル】打安点

二塁打=北村、藤川、梅原>暴投=曾根2>試合時間

緩急駆使も...

⑧...八回に決勝打を許した新日鉄住金東海の2番手・島山は「直球が甘くなってしまった...」と肩を落

とした。エース長峰を五回途中から救援。七回1死一、二塁の場面でスクイズを仕掛けた谷口を併殺に仕留めるなど、緩急をうまく使った投球が光ったが、八回に力尽きた。「もっと粘り強く投げられるようになりたい」と反省しきりだった。

第3試合=1回戦(午後6時27分開始)
東邦ガス 011 022 005 | 11
新日鉄住金鹿島 000 200 004 | 6

審判(球審)清水(塁審)長谷川次、長谷川源、浜田
【東邦ガス】打安点
【鹿島】打安点

三塁打=小野、村藤、堀越、福盛>二塁打=藤岡、福盛>暴投=佐藤>試合時間3時間9分

▽11月4日

第1試合=1回戦(午後0時1分開始)
JR四国 000 000 0 | 0
日本生命 010 606 X | 13

審判(球審)山崎(塁審)藤原、深田、長谷川謙
【JR四国】打安点
【日本生命】打安点

本塁打=小田1号(田内)>三塁打=小田>二塁打=田中勇、田中健、高橋、井上>暴投=南川>試合時間1時間58分

第2試合=1回戦(午後2時59分開始)
新日鉄住金マツダ 000 000 200 | 2
JR東海 000 000 000 | 0

審判(球審)星野(塁審)文珠、竹本、小西
【マツダ】打安点
【JR東海】打安点

三塁打=佐々木>二塁打=野坂、島影、田中、井上>試合時間2時間35分

好機はあったが

⑧...何度も好機はあったが本塁が遠かったJR東海。五回以降は毎回走者を出塁させたが、得点圏まで進むと途端に当たりが鈍くなる。

第3試合=1回戦(午後6時15分開始)
新日鉄住金広島 000 000 000 | 0
JR東日本 021 000 03X | 6

審判(球審)池田(塁審)内山、柳川、西池
【広島】打安点
【JR東日本】打安点

本塁打=田中1号(山田)>三塁打=田中>二塁打=松本、若山、大久保、田中>試合時間2時間12分

26歳主将の意地

⑧...新日鉄住金広島は、四回から登板した2番手の深水が好救援を見せた。「逆転できる流れを作るのが仕事」とマウンドに立つと、先頭から4連続奪三振。

▽11月5日

第1試合=1回戦(午前11時58分開始)
航空自衛隊千歳 000 000 000 | 0
七十七銀行 001 001 00X | 2

審判(球審)木原(塁審)花尾、星野、柳川
【航空千歳】打安点
【七十七銀行】打安点

暴投=松崎>試合時間2時間2分

慌てず凡打の山

松崎達也投手(24)七十七銀行
終盤まで1点を巡る試合展開になっても、右腕に慌てる様子はなかった。「少ないリードを投手陣が最少失点でしのぐのが、うちの勝ち方だから」

# 第38回大会 大会記録

最速142kmの直球、手元で動く変化球を丹念に内外角へと投げ分け、凡打の山を築いた。最後の打球が中堅・山崎のグラブに収まるのを確認すると、小さくこぶしを握って笑顔。「(就任3年目の)上野監督に全国初勝利をプレゼントしたかった」。記念の1勝を4安打完封で飾ってみせた。

先発を言い渡されたのは前日夕方の練習中。都市対抗、日本選手権を通じて本大会での登板はこれが初めてだった。しかし、緊張はなかった。「(今夏の)都市対抗では投げられず悔しかった。あれ以来、日本選手権で先発することを目標に練習してきた」。強い気持ちで臨んだ129球だった。

第2試合=1回戦(午後2時54分開始)				
JFE西日本	000	030	000	3
滋賀・高島ク	000	000	110	2
▶審判(球審)三宅(塁審)西池、江夏、那須				
【JFE西日本】	打安点	【滋賀・高島ク】	打安点	
①山本	4 0 0	①佐中	4 1 0	
②山北	0 0 0	②松古	4 1 0	
③同	3 1 0	③高橋	4 1 0	
④松橋	4 2 2	④木本	4 2 0	
⑤大久保	4 0 0	⑤中野	4 1 0	
⑥大永	3 2 0	⑥林	3 0 0	
⑦高橋	2 1 0	⑦豊中	1 0 0	
⑧高橋	3 0 0	⑧藤原	3 1 0	
⑨本谷	3 1 0	⑨中根	2 0 0	
振球併殺	3 7 19	振球併殺	5 0 25	
計	298 3	計	338 1	
回	打安費	回	打安費	
森川	7/3 297.2	川原	4/3 215.3	
陶山	1/3 5.10	樋浦	1/3 3.00	
		東戸	3/3 122.0	

▶本塁打=谷1号①(山原)、松浦1号②(山原)▶二塁打=大崎、中村▶試合時間2時間26分

## 堅守も高島ク惜敗

①…滋賀・高島クは粘り強く試合を運び、JFE西日本を最後まで苦しめた。特に光ったのが守備。1試合で1失策だった全日本クラブ選手権と同様、内野への難しい当たりを二遊間がことごとく処理。2点を追う8回には、プロ野球・西武の主砲、剛也を兄に持つ主将の中村が外角への直球に食らいつき、右越え適時二塁打で1点差に迫った。中村は「2打席連続で三振に取られた外角の直球が来ると思い、思い切り振った。最後に好機が来たのは、守りで点を与えなかったから。来年に経験を生かしたい」と手応えを感じていた。

第3試合=1回戦(午後6時1分開始)				
鷺宮製作所	000	000	000	0
パナソニック	020	001	20×	5
▶審判(球審)小谷(塁審)大塚、中東、酒井				
【鷺宮製作所】	打安点	【パナソニック】	打安点	
①津久井	3 0 0	①坂口	5 1 0	
②H渡	1 0 0	②後	3 1 1	
③H井	3 0 0	③森	3 1 1	
④H井	1 0 0	④堤	4 2 0	
⑤D藤	3 1 0	⑤中	4 1 1	
⑥D藤	3 1 0	⑥藤	4 1 0	
⑦H3藤	2 0 0	⑦松	3 2 0	
⑧H3藤	1 0 0	⑧井	2 1 0	
⑨H3藤	3 0 0	⑨保	2 1 2	
振球併殺	7 1 13	振球併殺	7 3 08	
計	292 0	計	30115.5	
回	打安費	回	打安費	
高橋	2/2 125.2	秋吉	9/30 2.0	
高山	4/3 206.3			
藤丸	1/3 5.00			

▶二塁打=松元、藤田、森▶試合時間2時間33分

## 高橋2回KO

①…鷺宮製作所の先発右腕・高橋が二回、早々と捕まった。「死から4連打と捕前で2点を失い、この

回限りで降板。打線も劣勢を盛り返せず、悔しい初戦敗退となった。「若い投手に頑張ってもらいたかった。高橋に一度むけてほしかった」と松元監督。期待に応えられなかった25歳は「結果を出してチームに貢献しなかったけれど、力不足」と悔やんだ。

第1試合=1回戦(午前11時58分開始)				
ホンダ	000	002	210	5
西濃運輸	000	010	110	3
▶審判(球審)土井政(塁審)美野、渡合、文珠				
【ホンダ】	打安点	【西濃運輸】	打安点	
①西長	5 2 0	①生田	3 0 0	
②同	5 0 1	②保	1 0 0	
③H6	4 2 0	③東	4 2 0	
④D福	3 1 0	④藤	4 0 0	
⑤DHD	5 1 1	⑤松	4 0 0	
⑥HD	3 1 1	⑥生	4 2 1	
⑦R5	3 1 0	⑦竹	4 2 1	
⑧R5	3 0 0	⑧金	3 1 0	
⑨R5	3 0 0	⑨小	3 1 0	
振球併殺	3 5 19	振球併殺	9 0 04	
計	34105	計	348.2	
回	打安費	回	打安費	
筑川	7/3 277.2	佐伯	6/3 246.2	
河原井	1/1 4.10	野野	1/3 6.32	
大田	1/1 3.00	下	2/2 7.10	

▶三塁打=多橋、下水流▶二塁打=西郷、川戸、小手川、梅塚、松原、金丸▶暴投=河原井2▶試合時間2時間47分

第2試合=1回戦(午後3時22分開始)				
三菱重工名古屋	000	000	100	1
JR九州	000	002	00×	2
▶審判(球審)堀口(塁審)田村、酒井、浜田				
【三菱重工名古屋】	打安点	【JR九州】	打安点	
①敷	4 2 0	①只	2 0 0	
②山	5 2 1	②田	4 2 1	
③山	5 0 0	③藤	3 0 0	
④山	4 2 0	④多	3 0 0	
⑤村	4 3 0	⑤中	3 0 0	
⑥D石	3 0 0	⑥中	3 0 0	
⑦H9千	3 0 0	⑦山	3 0 0	
⑧H9千	1 0 0	⑧東	3 0 0	
⑨H2安	2 0 0	⑨中	1 1 0	
⑩H2山	1 0 0			
⑪H馬	1 0 0			
⑫R馬	3 1 0			
⑬R三	0 0 0			
⑭H三	0 0 0			
振球併殺	5 3 211	振球併殺	6 2 04	
計	36101	計	256.2	
回	打安費	回	打安費	
菊地	5/3 226.2	浜野	9/39 10.1	
水野	1/1 1.00			
中根	2/2 7.00			

▶二塁打=村田、吉田、田中允▶暴投=浜野▶試合時間2時間23分

第3試合=1回戦(午後6時20分開始)				
信和ビクトリーズ	011	000	0010	3
日本通運	001	010	0011	4
(延長10回)				
▶審判(球審)梶川(塁審)長谷川文、庄司、大塚				
【信和】	打安点	【日本通運】	打安点	
①和	5 4 1	①村	4 4 0	
②内	1 0 0	②今	3 1 0	
③H中	1 0 0	③H9福	3 2 2	
④H6中	0 0 0	④小	3 1 0	
⑤H6原	4 0 0	⑤小	5 1 0	
⑥D中	5 0 0	⑥衣	4 1 0	
⑦D小	4 0 0	⑦衣	3 1 2	
⑧H中	4 2 0	⑧小	4 0 0	
⑨H7中	4 1 0	⑨小	5 2 0	
⑩H7上	0 0 0	⑩H	3 0 0	
⑪H2吉	3 0 1			
⑫H2河	1 1 0			
⑬H4佐	0 0 0			
振球併殺	4 2 08	振球併殺	5 6 114	
計	369.2	計	3713.4	
回	打安費	回	打安費	
藤原	4/4 257.2	野村	5/22 5.1	
藤谷	5/3 205.2	替井	5/19 4.1	
梶谷	1/1 2.10			

▶三塁打=今村▶二塁打=小甲、沢村▶試合時間3時間13分

## ▽11月7日

第1試合=1回戦(午前11時58分開始)				
トヨタ自動車	022	100	000	5
ホンダ熊本	000	000	111	3
▶審判(球審)津見(塁審)石原、竹本、田村				
【トヨタ自動車】	打安点	【ホンダ熊本】	打安点	
①引	4 0 0	①岡	4 1 1	
②中	3 1 1	②崎	3 0 1	
③H6	1 0 0	③小	1 0 0	
④福	4 1 1	④D小	2 1 0	
⑤D	1 1 0	⑤H福	4 0 0	
⑥HD	2 0 0	⑥H福	4 0 0	
⑦HD	1 0 0	⑦H福	3 1 0	
⑧R5	4 2 0	⑧H福	4 1 0	
⑨R5	0 0 0	⑨H福	3 0 0	
⑩R5	0 0 0	⑩H福	1 1 0	
振球併殺	3 3 06	振球併殺	10 5 010	
計	338.4	計	337.2	
回	打安費	回	打安費	
佐竹	5/3 212.0	荒山	3/3 165.4	
上杉	3/3 133.2	西中	5/5 193.1	
川	1/1 6.20	平	1/1 3.00	

▶本塁打=高阪1号①(荒西)▶二塁打=福田、亀谷、佐久本▶暴投=荒西▶試合時間2時間31分

第2試合=1回戦(午後3時5分開始)				
JFE東日本	110	000	010	3
日本新薬	021	010	11×	6
▶審判(球審)清水(塁審)屋野、杉野、庄司				
【JFE東日本】	打安点	【日本新薬】	打安点	
①生	5 1 0	①田	5 2 0	
②生	3 0 0	②森	4 1 0	
③中	3 1 0	③中	4 3 0	
④D中	3 1 0	④尾	4 2 1	
⑤D中	4 0 1	⑤本	3 1 1	
⑥D中	1 0 0	⑥前	4 3 1	
⑦HD	2 2 0	⑦黒	1 0 1	
⑧HD	3 1 1	⑧野	2 0 0	
⑨Hセ	3 1 1			
⑩Hセ	3 1 0			
⑪Hセ	0 0 0			
⑫Hセ	0 0 0			
⑬Hセ	0 0 0			
⑭Hセ	0 0 0			
振球併殺	5 6 110	振球併殺	7 4 17	
計	318.3	計	3012.6	
回	打安費	回	打安費	
杉本	3/3 144.3	榎田	5/5 224.2	
田原	2/2 114.1	尾谷	4/4 184.1	
藤原	1/1 3.00			
藤原	1/1 5.21			
藤原	1/1 3.11			
中	1/1 1.10			

▶本塁打=トマセン1号①(横田)▶三塁打=岡、福田▶二塁打=落合、金森、尾谷、松本、岡▶試合時間2時間34分

第3試合=1回戦(午後6時14分開始)				
日立製作所	000	000	000	0
ニチダイ	000	000	20×	2
▶審判(球審)南谷(塁審)西本、森下、聖田				
【日立製作所】	打安点	【ニチダイ】	打安点	
①村	4 0 0	①田	4 0 0	
②小	3 0 0	②山	3 0 0	
③H9清	1 0 0	③江	1 0 0	
④清	4 1 0	④本	3 1 0	
⑤田	2 1 0	⑤金	3 1 1	
⑥D中	4 2 0	⑥高	0 0 0	
⑦H中	2 0 0	⑦野	0 0 0	
⑧H中	1 0 0	⑧伊	0 0 0	
⑨H中	3 1 0	⑨小	3 0 0	
⑩H中	0 0 0	⑩小	3 0 0	
⑪H大	3 1 0	⑪小	3 0 0	
⑫H大	2 0 0	⑫小	3 1 0	
⑬H大	2 0 0			
⑭H大	1 0 0			
⑮H大	0 0 0			
振球併殺	2 2 06	振球併殺	8 0 03	
計	306.0	計	295.2	
回	打安費	回	打安費	
梅野	7/25 4.1	西原	9/36 6.0	
大場	1/4 4.10			

▶三塁打=金▶試合時間2時間3分

## あいまいな1球

①…六回まで1安打に抑えていた日立製作所の梅野にとって、悔やみきれない1球となった。七回2死二塁の場面で、外角の直球がシュート回転して内に入ったところを先制打されて「空振りを狙うか、打たせて取るかがあいまいになった」と料をかんた。





くことはできなかった。「勝てるという思いがチーム全体の力みとなってしまった」と三島。それでも、1回戦で日立製作所を相手に大会初勝利を挙げ、この日も強豪相手に健闘。「関東のチームと互角に戦えたことを自信にしたい」と来季のさらなる奮起を誓った。

第3試合=2回戦(午後6時25分開始)
日本生命 000 002 130 | 6
新日本製鐵 102 000 000 | 3
▶審判(球審)山口(塁審)三宅、和田、岩永
【日本生命】打安点... 山本真 1号(平山) 2号(田中) 2号(多井、清水、米田) 試合時間2時間53分

▽11月11日
第1試合=準々決勝(午前8時55分開始)
パナソニック 000 000 022 | 4
七十七銀行 010 000 000 | 1
▶審判(球審)山崎(塁審)松川、今泉、永井
【パナソニック】打安点... 田中 3 10 10
秋吉 2 7 10

第2試合=準々決勝(午後0時41分開始)
J R 九州 000 100 000 | 1
J R 東日本 000 020 00x | 2
▶審判(球審)木原(塁審)山口、谷口、中東
【J R 九州】打安点... 吉田 7 25 4 1
新藤野 2 7 10

勝負強さ 健在
⑧... J R 東日本は代打・重谷のバットと足で「J R 対決」を制した。五回2死三塁で登場すると、J R 九州・与那嶺の速球をたたき、右前へ同点打を選んだ。さらに次打者の際に二盗すると、相手のミスを読み、一気に運って決勝点をもぎ取った。2回戦の日本通運戦では途中出場ながら2安打1打点と活躍し、「それが大きな自信になった。調子も上がっていたので、打てる感じがした」。今夏の都市対抗準決勝でも決勝ゾロを放った勝負強さを見せつけた。

第3試合=準々決勝(午後3時24分開始)
東邦ガス 100 200 000 | 3
トヨタ自動車 401 000 00x | 5
▶審判(球審)長谷川(塁審)善積、内山、石原
【東邦ガス】打安点... 水田 3 17 7 5
小橋 5 16 1 0



第4試合=準々決勝(午後6時29分開始)
日本生命 010 000 000 | 1
J X-ENEOS 000 001 01x | 2
▶審判(球審)池田(塁審)酒本、土井政、和田
【日本生命】打安点... 吉藤 5 22 6 1
藤原 2 10 3 1

▽11月12日
第1試合=準決勝(午後1時59分開始)
J R 東日本 000 003 050 | 8
パナソニック 001 100 000 | 2
▶審判(球審)橋(塁審)三宅、高谷、堀口
【J R 東日本】打安点... 丸山 1 1 0 0
【パナソニック】打安点... 丸山 1 1 0 0

パナ秋吉「収穫多い」
⑨...五回まで2安打無失点と好投したパナソニック・秋吉。4試合連続だったが「疲れはほとんどなく、直球で押すことができた」という。しかし六回、3長打打に野選なども絡んで3点を失い、この回限りで降板し、「相手打線が直球に対応し始めた。配球を変えることも必要だった」と振り返った。それでも大会を通じて24回余りを投げきったことは自信になった様子で「収穫の多い大会。関東の強豪にも、きょうのような投球なら負けない」と言い切った。

第2試合=準決勝(午後5時59分開始)
J X-ENEOS 000 000 000 | 1
トヨタ自動車 000 000 000 | 0 (延長10回)
▶審判(球審)小谷(塁審)藤野、土井淳、美野
【J X-ENEOS】打安点... 三上 6 29 5 0
上原 1 1 0 0

後輩かばう佐竹
⑩...トヨタ自動車の先発・佐竹は「最後まで責任を持って投げたかった」と稱を落とした。この日は直球がさえ、六回1死一、三塁のピンチで5番の池辺を遊飛に仕留めるなど、粘り強い投球を披露。しかし十回、先頭の渡辺に打った直球を右翼線に運ばれ、1死三塁となったところで降板した。継投陣の制球が定まらず決勝点を許したが、「若い投手に今日の苦い経験を生かして来年夏にリベンジしてほしい」と後輩の投手陣をかばった。



▽11月13日

決勝(午後6時6分開始)

J R 東日本 000 000 100 1  
JX-ENEOS 100 003 01X 5

▶審判(球審)岸見(塁審)堅田、大都、山崎

【J R 東日本】	打	安	点	【J X-ENEOS】	打	安	点
○1 田中	3	1	0	○1 田中	4	1	0
○2 中谷	3	0	0	○2 田中	0	0	0
○3 松本	4	0	0	○3 田中	4	1	1
○4 木村	4	2	0	○4 田中	4	1	1
○5 本橋	1	0	0	○5 田中	4	3	2
○6 本橋	1	0	0	○6 田中	4	2	2
○7 石川	2	0	0	○7 田中	4	1	0
○8 石川	1	0	0	○8 田中	4	1	0
○9 石川	0	0	0	○9 田中	3	0	0
○10 石川	3	1	0	○10 田中	3	0	0
○11 石川	3	0	0	○11 田中	3	0	0
○12 石川	4	0	0	○12 田中			

振球併殺 105 1.8 計 294.0 振球併殺 210 6 計 3310.5

西田	回	打	安	野	回	打	安
西田	5分	24	7	野	6分	29	4
片山	1分	5	1	沼	2分	7	0
片山	1分	6	2				

▶本塁打=井領1号①(吉田)、宮沢1号②(吉田)▶二塁打=山田、松本▶三塁打=石田、石井、石川▶失策=片山▶盗塁=田中▶暴投=野野、戸田▶試合時間 2時間22分

## 若手が駄目なら俺たちがカバーする

池辺は入社8年目で、宮沢は10年目。4番に座る2年目の山田が極度の打撃不振に苦しむ中、経験豊富な選手たちが勝負どころで真価を発揮した。それが、この日先発した2年目の野野から投手陣の踏ん張りを導き出した。

「山田たちが駄目なら、自分らがカバーする。都市対抗では助けてもらったから」と池辺。宮沢も「ベテランと若い力がかみあってこそ勝てる。その結果が、都市対抗ときよりの優勝」と言葉に力を込めた。

24年ぶりの「夏秋連覇」。それでも、JX-ENEOSの主将・宮沢は「連覇は意識せず、目の前の敵を倒すことだけ考えていた」と言う。都市対抗王者の貫禄、さらけ出し、大久保監督は「たくましい。誰か欠けてもなしえなかった」と選手たちをたたえた。

試合を決定づけたのは六回。1死から井領の本塁打で2点目を奪うと、5番・池辺の内野安打に続き、チーム最年長・32の宮沢が右越え2ランと畳みかける。リードを4点に広げ、J R 東日本の吉田をマウンドから引きずり下ろした。

都市対抗決勝も同じ顔合わせだったが、前年覇者のJ R 東日本は補強選手なしという布陣だった。「来年は自分たちが同じ立場になる。そのためにも大事な大会だった」と宮沢。次の目標は、51年ぶりとなる都市対抗連覇。偉業達成の余韻に浸る間もなく、選手たちは来夏に向かって歩み始める。



左 六回裏JX-ENEOS 1死、井領が右越え本塁打を放ち指を突き上げる 右 同2死一塁、宮沢が右越え2点本塁打を放つ

## また準V 75球の悔い

吉田一将投手(23) J R 東日本

長身から投げ込んできた、低めへの強い球が魅力だ。「調子は良かった」と言うが、今大会3試合目の登板。疲労から、「気付かないほどのフォームの崩れがあったかもしれない」。高めへの「失投」を狙い打たれた。

一回に3安打で先制され、六回はいずれもベルト付近に入った速球を井領と宮沢にスタンドに運ばれた。4失点で降板。悔いの残る75球となった。

日大から今春入社。前年の都市対抗で初優勝したチームに加わった。「連覇を目標に練習してきた」という言葉通りの活躍で、都市対抗は久慈賞(敢闘賞)と若獅子賞(新人賞)を受賞。今大会でも敢闘賞に選ばれた。

JX-ENEOS・大久保監督の優勝インタビューで「社会人ナンバーワン投手」と賛辞を贈られたが、「優勝のマウンドに立てないようでは、一番ではないです」。

「何が足りないか、この冬考えて、課題をつぶしていきたい」。その右腕から2度もすりぬけていった頂点への渴望を、来夏の糧とする。



六回裏JX-ENEOS 1死、井領に右越え本塁打を許した J R 東日本の先発・吉田

## 監督談話

JX-ENEOS・大久保秀昭監督 選手たちに感謝している。強いチームが勝つのではなく勝ったチームが強い。勝ったということは、うちが一番強い。

J R 東日本・堀井哲也監督 もうちょっと失点を我慢しないと勝てない。決勝の勝負は残酷だ。この敗戦を今後のチーム作りに生かせるかに尽きる。



### JX-ENEOS 大久保 秀昭監督

感無量だった。監督として日本選手権初優勝の喜びはもちろんあったが、「約束を守れたから」でもあった。

大会直前の今日1日、妻でタレントの大東めぐみさんの父勝さんが75歳で亡くなった。実の親のように扱ってきた。最後に行ったのは、10月31日。「ぐっ」と手を握って「決勝はテレビで応援するから」。約束通り決勝に駒を進め、夏の都市対抗に続いての2大会連続優勝を成し遂げたのだから、感情が高ぶるのも無理はない。「野球が大好きでね。病気になる前はよく試合を見に来てくれた」

08年に田沢純一投手(現米大リーグ・レッドソックス)を擁して都市対抗を制し、日本選手権制覇を狙ったが準決勝で敗退した。

今回は、捕手出身らしく、元プロ投手の高橋憲幸コーチとともに投手陣を育て上げての連覇達成。「ブルベンの勝利」と喜んだ。

これまで夏秋連覇を経験した監督は、東芝を率いた大田垣耕造氏(63)だけ。その名將には、96年アトランタ五輪日本代表のコーチと選手として指導を受けた。「とてもクレバーな方で、そうした先輩に追い付け、追い越せとやってきた」と語る。

「この優勝で歴史に名を刻んだ選手たちは大したもの。私は周りに恵まれ、支えられてきただけ」と謙虚だが、こうも言う。「自分でもどうしたら勝てるか懸命に考え、決断してきた」。「勲章」を手にした自負がこじんだ。

神奈川県出身。97年から5季、プロ野球・近鉄でプレー。横浜(現DeNA)で2軍コーチを務めた。



第38回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 大城基志投手(J X-E N E O S) 準々決勝の1失点完投を含め3勝。今夏の都市対抗では橋戸賞。25歳。沖縄・宜野座高、名桜大出の入社3年目。

◇敢闘賞 吉田一将投手(J R東日本) 新人ながら決勝を含む3試合に先発し2勝。今夏の都市対抗では久慈賞、若獅子賞。青森山田高、日大出の23歳。

◇首位打者賞 池辺啓二外野手(J X-E N E O S) 全5試合で安打を放ち、18打数10安打、打率5割5分6厘。30歳。智弁和歌山高、慶大出の入社8年目。

◇打撃賞 松本晃外野手(J R東日本) 二塁打4本を含む7安打をマークし、打率3割6分8厘。27歳。大阪・P L学園高、横浜商大出の入社5年目。

◇優秀選手

【投手】大城基志、屋宜照悟(以上J X-E N E O S)、吉田一将(J R東日本)、秋吉亮(パナソニック)、佐竹功年(トヨタ自動車)、相原和友(七十七銀行)、浜野雅慎(J R九州)、甲斐政孝(東邦ガス)

【捕手】山岡剛(J X-E N E O S)、石川修平(J R東日本)、井上和樹(パナソニック)、二葉祐貴(トヨタ自動車) 【一塁手】高阪行俊(トヨタ自動車)、東向誠(J R九州) 【二塁手】前原祐彦(七十七銀行)、南善規(東邦ガス)、田中啓嗣(日本生命) 【三塁手】宮沢健太郎(J X-E N E O S) 【遊撃手】田中広輔(J R東日本)、宇都伊織(七十七銀行)、小野紘明(東邦ガス)、山本真也(日本生命) 【外野手】井領雅貴(J X-E N E O S)、重谷祐弥、松本晃(以上J R東日本)、松元裕章(パナソニック)、宇津野純一(東邦ガス)、小田裕也(日本生命) 【指名打者】池辺啓二(J X-E N E O S)、畑中翔(J R東日本)、宇多村典明(J R九州)、井上晴哉(日本生命)



【1回戦】J R西国-日本生命 六回裏日本生命無死一塁、小田が右越え2点本塁打を放つ



【決勝】J R東日本-J X-E N E O S 二回表J R東日本無死、松本が左中間二塁打を放つ



【1回戦】J F E東日本-日本新薬 日本新薬の先発・榎田



【1回戦】三菱重工横浜-NTT西日本 先発し十一回途中まで無失点に抑えたNTT西日本・安部



【2回戦】J R九州-ホンダ 六回表J R九州2死三塁、田中允が中前遊撃打を放つ



【準決勝】J X-E N E O S 1-0トヨタ自動車 九回から登板した大城



【1回戦】新日鉄住金広畑-J R東日本6回無失点の好投をみせたJ R東日本の先発・吉田



【準決勝】J R東日本-パナソニック 六回表J R東日本1死二、三塁、迫藤の三塁への当たりが野退を誘い畑中が生還



【2回戦】J X-E N E O S-ニチダイ 六回表J X-E N E O S 1死、池辺が中前打を放つ



JX-ENEOS

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

JFE西日本

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

新日鐵住金鹿島

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

日本通運

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

滋賀・高島クラブ

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

東邦ガス

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

JR東日本

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

新日鐵住金かずさマジック

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

JFE東日本

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

NTT西日本

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

航空自衛隊千歳

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

鷺宮製作所

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

トヨタ自動車

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

西濃運輸

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

七十七銀行

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

三菱重工横浜

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

ホンダ

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

パナソニック

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

日立製作所

大東大 大東大 大東大 大東大 大東大...
選手 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇



バイタルネット

Table with 2 columns: Team names and scores for the Vital Net section.

J R 東海

Table with 2 columns: Team names and scores for the JR Tokai section.

三菱重工名古屋

Table with 2 columns: Team names and scores for the Mitsubishi Heavy Industries Nagoya section.

新日鐵住金東海 R E X

Table with 2 columns: Team names and scores for the Nippon Steel & Sumitomo Metal Chubu REX section.

日本新薬

Table with 2 columns: Team names and scores for the Nippon Shinyaku section.

Table with 2 columns: Team names and scores for the top section.

ニチダイ

Table with 2 columns: Team names and scores for the Nichidai section.

日本生命

Table with 2 columns: Team names and scores for the Nippon Seimei section.

新日鐵住金広畑

Table with 2 columns: Team names and scores for the Nippon Steel & Sumitomo Metal Hirohata section.

Table with 2 columns: Team names and scores for the top section.

伯和ビクトリーズ

Table with 2 columns: Team names and scores for the Hakuho Victories section.

三菱重工広島

Table with 2 columns: Team names and scores for the Mitsubishi Heavy Industries Hiroshima section.

J R 四国

Table with 2 columns: Team names and scores for the JR Shikoku section.

Table with 2 columns: Team names and scores for the top section.

J R 九州

Table with 2 columns: Team names and scores for the JR Kyushu section.

ホンダ熊本

Table with 2 columns: Team names and scores for the Honda Kumamoto section.

地域密着 逆境越え

滋賀・高島クラブ

琵琶湖西岸の滋賀県高島市。人口5万人余りの街に二つ目のクラブチームとして2010年1月に旗揚げした。だが、市の支援を受けてクラブチームの運営にそだったOBC高島からたもとを分かつ形での旗揚げは多難だった。

「投手が指名打者に入ったり、外野を守ったり、草野球のようだった」と伊藤監督は振り返る。発足当初のメンバーは、監督とともにチームを移った中村光佑ら8人を含むわずか13人だった。

ナイターの設備など限内屈指の設備を持つ今津スタジアムが拠点だったOBC時代から一転、グラウンドの確保もままならなくなった。雨の日は、体育館の外階段を利用した体力強化だけで終わることもあった。それでも、主将の中村は「野球をやるだけだと集中していたので、そこまで苦労した思いはない」と話す。雇用先の協力で平日も午後6時半から10時まで練習して力を蓄える一方、障害者施設への訪問など社会貢献活動を続け、地域に根を下ろしていった。

9月の全日本クラブ選手権を制して手にした代表権。プロ野球西武の主砲・中村剛也を兄にもつ中村はOBC時代の38回大会(09年)に出場した経験を持つ。「あの時はあっという間に終わったけれど、今回は多少の余裕はあると思う」。選手19人は出場32チームで最少。「練習時間や経験とか何をとってでも劣るが、クラブ代表として企業チームに一太刀でも入れたらいい」と、伊藤監督は力を込める。



# 第39回 大会

2013年(平成25年)10月28日▶11月7日 京セラドーム大阪

## 優勝=新日鉄住金かずさマジック —— 初優勝

セガサミー(関東) 3	日本生命(近畿) 7	日本生命 6	JFE東日本 0	新日鉄住金かずさマジック 3	新日鉄住金かずさマジック 1	新日鉄住金かずさマジック
JFE東日本(関東) 10	JFE東日本(近畿) 9	JFE東日本 8				
NTT西日本(近畿) 2	パイタルネット(北信越) 1	パイタルネット 2	新日鉄住金かずさマジック 8			
西濃運輸(東海) 3	ヤマハ(東海) 4	新日鉄住金かずさマジック 3				
JFE西日本(中国) 0	ホンダ熊本(九州) 1	ホンダ熊本 1	パナソニック 0			
パナソニック(近畿) 1	JX-ENEOS(関東) 0	パナソニック 5				
東京ガス(関東) 1	東京ガス(東海) 0	東京ガス 4	東京ガス 2			
大阪ガス(近畿) 4	JR東日本(関東) 7	JR東日本 0				
日本通運(関東) 6	新日鉄住金広島(近畿) 0	日本通運 3	富士重工業 5			
JR九州(九州) 0	富士重工業(関東) 1	富士重工業 4				
トヨタ自動車(東海) 1	三菱重工神戸(近畿) 2	三菱重工神戸 8	三菱重工神戸 0			
三十七銀行(東北) 7	四国銀行(四国) 2	三十七銀行 0				
三菱重工広島(中国) 3	JR東海(東海) 2	JR東海 0	三菱重工広島 3			
九州三菱自動車(九州) 0	和歌山筑島球友会(近畿) 0	三菱重工広島 1				
ホンダ(関東) 3	明治安田生命(関東) 1	ホンダ 1	日本新薬 0			
日本新薬(近畿) 6	日本新薬(近畿) 2	日本新薬 2				

### 顕著 打率低迷 2割1分8厘

新日鉄住金かずさマジックの初優勝で幕を閉じた今大会は、今夏の第84回都市対抗野球に続き、「投高打低」の傾向が、より顕著になった。

大会通算打率2割1分8厘は、本製バントが復活した第29回大会(2002年)以降では最低。第34回(07年)の2割2分4厘を、6厘下回った。いきおい接戦が多く、零封試合は17。1点差試合は14を数えた。ただ、1点を争う緊迫感の一方で、淡泊な攻めに映る試合もあったことは残念だ。

準優勝した富士重工業の東明、4強入りした東京ガスの石川、JR東日本の吉田ら、プロ野球の新人選手選択(ドラフト)会議で指名された投手が存分に実力を発揮した結果ではある。また、三菱重工広島の鮫島も、2回戦で大会新記録の15奪三振、6人目の2試合連続完封を記録した。これらの投手が得意とするのは主としてフォークボールやスライダー。打者はボールゾーンに逃げる変化球の見極めが、より重要になってきた。

昨夏の都市対抗から2大会で3季連続優勝していたJX-ENEOSが初戦で敗れる波乱の中、重点に立った新日鉄住金かずさマジックは柔軟な攻めが印象に残った。六回に1点をもぎ取った決勝のように確実な送りバントを決める一方、2回戦、準々決勝では無死一塁からの強攻策で好機を広げた。投手優位の現状で、時に大胆な策も必要なることを実感した。



### 大会 審判

▷審判委員長=中本尚▷審判委員長=橘公政▷審判運営委員=新卓定、長谷川次郎、山崎浩、壺田外司昭、小谷啓介、赤井淳二▷審判委員=池友久、土井政之、三宅幸介、土井淳宏、堀口光、清水雅彦、大飼靖、大塚篤、内山隆雄、西本和博、那須正典、那須健司、諏合久雄、中西良太、長谷川文彦、松川明弘、藤野真、殿川浩一、江夏透、花尾謙明、浜田敏秀、文珠弘富、宅間寛、美野正則、金丸雄一、竹本裕一、飯田昌幸、左海賢士、谷口吉洋、善積重文、太田和宏、南谷安治、木原浩吉、永井秀亮、和田拓也、黒羽磨一、今野浩光、高橋進也、渡辺大作、山崎正男、板山義成、玉置上総、安藤裕文、吉田芳時、古川裕宗、岩本貴之、細川敏秀、岸上修三、山野雅成、三嶋由紀雄、戸塚俊美





▽10月28日

第1試合=1回戦(午前11時59分開始)

バイタルネット 010 000 000 000 1 | 2
西濃運輸 000 000 001 000 0 | 1

審判(球審)松川(塁審)左海、長谷川文、清水

Table showing batting statistics for players like 野村, 山田, 谷口, etc.

編球併残 103 114 計428.2
回 打安費 7 2/3 29.4 0

>三塁打=丸山、島野二塁打=鈴木、丸山試合時間3時間34分

4番抜てき フルスイング

丸山裕介外野手(22)バイタルネット

延長十三回、一死満塁から攻撃が始まるタイブレークで、勝ち越し打となる中飛球を放った。肩口から入るスライダーに「詰まったが、振り切った分、外野まで飛んでくれた」と、大会通算2勝目の立役者となり喜んだ。

新人で今秋からチームの4番に座る。三富監督は「パンチ力があり、確実性も併せ持つ」と評価し、思い切って抜てき。その期待に応え、北信越予選の代表決定戦で満塁弾を放った。本人は「先輩たちがいてくれるから、僕は思い切って振るだけです」という。

行川・星陵高2年時に夏の甲子園に3番打者で出場したが、4打数無安打。「雰囲気にもまれてしまった」と悔やむ。金沢星陵大では全国大会に無縁だった。それだけに、「初めてのドーム球場、楽しもうと思った」。二回に左中間を破る三塁打を放ち、八回にも二塁打。新人らしいフルスイングが光った。

第2試合=1回戦(午後4時11分開始)

ヤマハ 000 003 000 | 3
新日鉄住金ガスター 000 000 103 | 4

審判(球審)大前(塁審)玉置、永井、岸上

Table showing batting statistics for players like 矢野, 長谷川, 高橋, etc.

編球併残 121 06 計348.3
回 打安費 6 2/3 23.4 0

>本塁打=柳1号(岡本)、山藤1号(竹下)三塁打=矢野二塁打=中山、内田試合時間2時間57分

責任果たしたが

◎=主砲の責任は果たした。ヤマハは4番・柳が3安打。六回には2死二塁からランニング本塁打を放つ

て2点を加え、相手エースの岡本を降板に追い込んだ。「思ったほど球が来ていなかった。対応できると感じた」と言う。ただ、左足がつつたため、九回の守備から交代。サヨナラ負けをダッグアウトから見つめ、「勝てる試合だった」と悔しがった。

第3試合=1回戦(午後7時40分開始)

新日鉄住金広畑 000 000 000 | 0
日本通運 140 100 00X | 6

審判(球審)木原(塁審)宅間、吉川、飯田

Table showing batting statistics for players like 物大久, 保, 久, etc.

編球併残 50 13 計284.0
回 打安費 1 1/3 12.7 5

>二塁打=沢村試合時間2時間12分

▽10月29日

第1試合=1回戦(午前11時59分開始)

ホンダ熊本 000 000 000 001 | 1
JFE西日本 000 000 000 000 | 0

審判(球審)内山(塁審)池、玉置、和田

Table showing batting statistics for players like 福三郎, 丸岡, 岡崎, etc.

編球併残 112 18 計374.0
回 打安費 11 1/3 41.2 0

>二塁打=浜岡三塁打=陶山試合時間2時間40分

第2試合=1回戦(午後3時15分開始)

JFE東日本 000 001 005 004 | 10
NTT西日本 120 300 000 003 | 9

審判(球審)殿川(塁審)濱田、中西、吉川

Table showing batting statistics for players like 大山, 生田, トマセ, etc.

編球併残 118 013 計461.310
回 打安費 11 1/3 41.2 0

>三塁打=内藤二塁打=内藤、吉川、大沢、高木三塁打=松田試合時間4時間28分

JFE東 土壇場強く

JFE東日本は5点を追う九回、丹羽の適時打、内藤

の3点三塁打などで追いつくと、タイブレークとなった十二回には4点を加点。反撃を3点でしのぎ、逃げ切った。NTT西日本は四回までに6点のリードを奪ったが、五回以降は打線につなかりを欠いた。

第3試合=1回戦(午後8時18分開始)

JX-ENEOS 000 000 000 | 0
パナソニック 000 100 00X | 1

審判(球審)土井(塁審)岸上、三宅、太田

Table showing batting statistics for players like 渡石, 高石, 山池, etc.

編球併残 93 011 計341.0
回 打安費 7 1/3 26.3 0

>二塁打=池田試合時間2時間51分

裏かいて直球勝負

完封を逃したのは悔やまれるが、九回一死までJX-ENEOSを封じ込める154球の力投。パナソニックのエース秋吉が潜在能力を十分に発揮し、都市対抗、日本選手権で15戦無敗だった「王者」を倒してみせた。

相手右腕の秋吉に対し、相手打線は先発メンバーに左打者を6人並べてきた。ただ、「左が多いので、それをどう封じることが難い」と、いつも通りの配球は、研究されていると、対策は練っていた。

最大のポイントは、ピンチで3番の好打者・井領を打ち取ったことだ。一回一死一塁、三回一死一、二塁では、内野ゴロで併殺。五回二死一、三塁では、空振り三振を奪った。三回は早いカウントからチェンジアップに手を出してくれたが、ほかは変化球をうまく見せて追い込んでの直球勝負。「変化球でかわしてくるイメージと違った。力負けしてしまった」と、完全に裏をかいた。

ただ、さすがにJX-ENEOSもしぶとい。しつこくファウルで粘られ、10安打を浴びた。それでも得点を許さなかったのは、「球が走っていた」からこそ。今季はフォームの狂いに苦しんできたが、本来の球威を完全に取り戻した。

▽10月30日

第1試合=1回戦(午前11時58分開始)

東邦ガス 000 000 000 | 0
東京ガス 000 000 001 | 1

審判(球審)左海(塁審)吉田、美野、郡須健

Table showing batting statistics for players like 荒川, 小野, 山本, etc.

編球併残 111 15 計306.0
回 打安費 7 1/3 26.3 0

>本塁打=遠藤1号(小柳)試合時間2時間11分









▽11月7日

決勝(午後6時5分開始)

富士重工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新日鉄住金かずさマジック	0	0	0	0	0	1	0	0	X

▶審判(球審)三宅、殿川、谷口

【富士重工業】	打	安	点	【か	ず	さ】	打	安	点
① 白	山	4	0	①	米	田	3	1	0
② 小	川	4	1	②	佐	々	3	0	0
③ 竹	田	3	2	③	中	々	3	0	0
④ 藤	田	4	0	④	木	々	3	0	0
⑤ 田	辺	4	1	⑤	山	野	0	0	0
⑥ 金	山	3	0	⑥	野	辺	2	1	0
⑦ 富	山	4	0	⑦	内	野	2	1	0
⑧ 康	村	2	0	⑧	島	田	3	1	0
⑨ 福	谷	1	1	⑨	梅	田	3	0	0
⑩ 福	引	1	1	⑩	山	田	3	1	0

振球併残 7 3 1 8    計 295 0    振球併残 8 4 0 8    計 286 1

	回	打	安	責		回	打	安	責
山 間	5回	2	2	4	山 川	4回	1	9	3
柳 沢	7回	1	3	1	本 加	1回	4	1	0
柳 沢	7回	1	7	1	本 加	1回	1	7	1
柳 沢	7回	1	1	0	本 加	1回	1	5	0

▶二塁打=山間▶捕打=金山、船引、田中、竹田▶試合時間 2時間39分

## 走る、送る、食らいつく

み、間一髪で内野安打とした。

ポイントは、続く田中の犠打成功だった。前日も2点本塁打を放ち、打撃賞を獲得した「強打の2番打者」。だが、鈴木監督は「彼の持ち味は、バントやエンドランをきちんと決めること」と絶賛。「キーマン」と公言してはばからない。

### 監督談話

新日鉄住金かずさマジック・鈴木秀範監督 維投は予定していた。みんながそれぞれの役割を果たしてくれた。100点満点。そう言わないと怒られる。

富士重工業・水久保一監督 捉えられそうなところをうまく維投でかわされた。予想通りのロースコアの展開に持ち込んだが、点を取りきれなかった。

ひと

### 新日鉄住金かずさマジック 鈴木 秀範監督

低迷していたチームを就任6年目で日本一に押し上げた。「いろんな人に助けられてここまで来た」。喜びと感謝、このメンバーでの最後の試合を終えた寂しさ。涙とともに、さまざまな思いがこみ上げてきた。

千葉・拓大紅陵高から法政大、新日鉄君津と強打の内野手でもならした。社会人で12年間プレーし社業に就いたが、2008年に監督として復帰。だが、新日鉄の所有から、複数の企業で支援する「市民球団」に生まれ変わったチームに、かつての輝きはなかった。

「予選で負けると、さっそく休みを話題にする選手たち。これでは勝てない」。その年のオフには10人以上に「戦力外通告」。猛烈な勢いで世代交代を進めた。「狙われているでしょうね」。だが、常に「自分が監督に指名された意味を考えて」の行動だった。

戦力に自信のあった昨年、都市対抗の予選で敗れた。辞任を決意し、小枝守・拓大紅陵高監督(62)を訪ねた。「監督になって30年を超えたが、野球はわからないことばかり」という恩師の言葉に、「わかったような気になっていたことが恥ずかしくなった」。出直しを誓って1年余り、新日鉄時代もなしえなかった高みに立った。

鍛え上げた若手選手に「自ら考え、指示を待たない自立」を求める。「長く、コンスタントに勝てるチーム」にするためだ。次の目標は決まっている。来夏の都市対抗制覇しかない。

千葉県出身。シーズン中の休日は「月に1、2回。家族と過ごします」。妻と高校1年、中学2年の2女。



米田の復足、田中の確実なバント、内田の泥臭さ。新日鉄住金かずさマジックが、各自の持てる力を合わせ、1点をもぎ取った。

富士重工業の左腕・山間に、てこずった。特に左打者が、スライダーに手も足も出ない。「ひょうたんから駒」を出したのは、1番・米田だ。先頭打者の六回。そのスライダーに、「思わず手が出た」。止めたバットに当たった打球は、三塁線へ転がる。ここで、50メートルを5秒台後半で走る足が生きた。一塁へ頭から滑り込

「一塁手、三塁手がダッシュしてきたら、ヒットに切り替える」ことを頭に入れて、1球目を正確に投前へ転がした。役割を果たし、代打・内田の適時打へと流れを導いた。その内田は、「汚いヒット」と照れた。追い込まれてから3球ファウルで粘った後、食らいつづくように左前へ落とした。今大会の代打成績は、これで3打数3安打、3打点。いずれも2ストライクからの一打だった。



六回裏新日鉄住金かずさマジック2死一、二塁内田が左前適時打を放つ

### 東明「一番の思い出」

東明大貴投手(24) 富士重工業

登板4試合で2完封を含め3勝。大会の敢闘賞にも選ばれた。「やりきった。自分の力は出せた」という思いの一方で、「満足はしていない。100%という感覚はない」。

「いつでも行ける準備はしていた」というこの日、最後の登板は八回2死一塁の場面。連球が2球続けてコースを外れた。2ボールから立て直し、6球目で左飛に仕留めた。

「ともかく、目の前の打者を抑えるだけだった」と振り返るが、エースとして、会心の投球を「九回の攻撃につなげたい」という思いも強かった。「良いリズムを作れなかった」と、少し悔いた。

新人だった昨年の都市対抗は2回戦で敗退。今年は予選で好投したもの、チームを東京ドームに導くことはできなかった。初めて5試合を戦い抜いた今大会は、「たぶん、一番の思い出」。自身の社会人野球の集大成にふさわしい日々だったことは間違いない。

試合後のグラウンドでは、選手たちからプレゼントがあった。大会前のプロ野球ドラフト会議でオリックスに2位指名された際は「お預け」だった劇上げ。仲間の祝福に、いつもは控えめな笑顔が、はじけた。



力投する富士重工業の東明

第39回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 岡本健(新日鉄住金かずさマジック) 決勝での救援を含め3試合に登板。10回1/3を投げ15奪三振。21歳。神戸国際大付属高出の入社3年目。

◇敢闘賞 東明大貴(富士重工業) 4試合に登板し、2完封で3勝。20回2/3を無失点で19奪三振。24歳。岐阜・富田高、桐蔭横浜大出の入社2年目。

◇首位打者賞 船引俊秀(富士重工業) 全5試合で安打を放った。二塁打1本を含む14打数7安打で、打率5割。25歳。岡山・関西高出の入社4年目。

◇打撃賞 田中健(新日鉄住金かずさマジック) 18打数7安打。準決勝では試合を決める2点本塁打を放った。福岡・筑陽学園高、日大出の入社2年目。24歳。

◇特別賞 鮫島優樹投手(三菱重工広島) 2回戦で大会新記録の15奪三振、タイ記録の2試合連続完封を達成。鹿児島・神村学

園高、M S H医療専門学校出の25歳。

[投手]中根久貴、岡本健(以上新日鉄住金かずさマジック)、東明大貴、畠山太(以上富士重工業)、石川歩、難波剛太(以上東京ガス)、鮫島優樹、森脇伸行(以上三菱重工広島)、秋吉亮(パナソニック)、守安玲緒(三菱重工神戸)、榎田宏樹(日本新薬) [捕手]山縣有輔(新日鉄住金かずさマジック)、唐谷良磨(富士重工業)、国本剛志(三菱重工広島) [一塁手]佐々木陽(新日鉄住金かずさマジック)、黒田雅和(東京ガス) [二塁手]吉野翔太(日本新薬) [三塁手]船引俊秀(富士重工業)、吉川佳祐(J F E 東日本)

[遊撃手]田中健(新日鉄住金かずさマジック)、遠藤一星(東京ガス) [外野手]鳥影竜馬、米田真幸(以上新日鉄住金かずさマジック)、林稔幸(富士重工業)、内藤大樹(J F E 東日本)、石上輝幸(三菱重工神戸) [指名打者]内田秀行(新日鉄住金かずさマジック)、金森宏徳(J F E 東日本)



[準決勝]新日鉄住金かずさマジック-東京ガス 九回裏、最後の打者を三振に仕留め、ガッツポーズする新日鉄住金かずさマジックの岡本



[1回戦]東邦ガス-東京ガス 九回裏東京ガス無死、遠藤が右越えにサヨナラ本塁打を放つ



[1回戦]三菱重工広島-九州三菱自動車 二回表三菱重工広島無死、井口が三塁打を放つ



[2回戦]三菱重工広島-J R東海 力投する三菱重工広島の鮫島



[1回戦]J R東日本-大阪ガス 九回裏大阪ガス無死、土井が左越え本塁打を放つ



[準決勝]新日鉄住金かずさマジック-東京ガス 五回表かずさマジック2死一塁、田中健が左越えに2点本塁打を放つ



[2回戦]ホンダ熊本-パナソニック 四回裏パナソニック1死一塁、井上和が左越えに2点本塁打を放つ(捕手・浜岡)



[準々決勝]三菱重工広島-日本新薬 力投する三菱重工広島の先発・森脇



[準々決勝]三菱重工神戸-富士重工業 四回裏富士重工業2死二、三塁、小川の中前打で二塁走者・船引(中央)が生還(捕手・森山)



**北海道**

8月30日から 2日間 札幌円山球場

航空自衛隊千歳 1-6 室蘭シャークス  
 WEEDしらおい 3-8 JR北海道  
 航空自衛隊千歳 9-0 WEEDしらおい  
 室蘭シャークス 3-2 JR北海道  
 代表=室蘭シャークス

**東北**

8月30日から 4日間 秋田市・こまちスタジアム

T D K 4  
 きらやが銀行 2 0  
 日本製紙石巻 1 1 3  
 七十七銀行 4 1 1  
 JR盛岡 1 1  
 JR東日本東北 8  
 フェズント岩手 0 3  
 トヨタ自動車東日本 4 6 2  
 JR秋田 0 6

**関東**

8月28日から 4日間 大田スタジアム

栗 芝 4  
 パナソニック 1 1 富士重工業  
 富士重工業 8 7  
 日立製作所 0  
 JR水戸 0 1 東京ガス  
 東京ガス 5 1  
 明治安田生命 2 明治安田生命  
 新日鉄住金鹿嶋 1 1  
 JFE東日本 8 JFE東日本  
 鷺宮製作所 2 2  
 日本通運 4 4 日本通運  
 JR千葉 0 3  
 三菱重工横浜 4 3  
 NTT東日本 3 3  
 パナソニック 0 5 セガサミー  
 セガサミー 7 5

大会名	期	開催	勝
都市対抗大会	7/12~12日間	JX-ENEOS	
全日本クラブ選手権	9/6~4日間	和歌山興業球友会	

**日本選手権対象JABA大会**

大会名	期	開催	勝
JABA 東京スズキ	3/11~4日間	ホンダ	
JABA 静岡	4/3~5日間	JR東海	
JABA 四国	4/5~4日間	JR東日本	
JABA 日立市長杯	4/11~4日間	三菱重工神戸	
JABA 岡山	4/12~5日間	JR東日本	
JABA 長野	4/12~4日間	新日鉄住金アジックス	
JABA 京都	4/27~5日間	日本生命	
JABA ベールズ杯	5/2~4日間	JR東海	
JABA 九州	5/7~5日間	ホンダ熊本	
JABA 東北	5/8~4日間	JX-ENEOS	
JABA 北海道	8/12~4日間	NTT西日本	

**北信越**

9月14日から 3日間 ハードオフ・エコスタジアム新潟

バイタルネット 7 4  
 信越硬式野球クラブ 3 8  
 フェデックス 0 3  
 JR新潟 3 3  
 伏木電機硬式野球部 19 3  
 バイタルネット

**東海**

9月7日から 8日間 岡崎市民球場

ヤマハ 6 1  
 ホンダ鈴鹿 4 4  
 新日鉄住金東海REX 2 5  
 トヨタ自動車 3 5  
 東邦ガス 2 5  
 日本フットボール学院 4 3  
 永和商事ウイング 5 3  
 王子製紙 2 1  
 東海理化 9 1  
 ジェイプロジェクト 8 1  
 三菱自動車岡崎 7 3  
 三菱重工名古屋 0 3  
 西濃運輸 7 4  
 西濃運輸 <敗者復活戦>  
 ヤマハ 2  
 ジェイプロジェクト 0 2  
 三菱重工名古屋 6 1  
 東海理化 0 0  
 三菱自動車岡崎 2 0  
 王子製紙 2  
 新日鉄住金東海REX 1 2  
 東邦ガス 4 4  
 日本フットボール学院 0 4  
 ホンダ鈴鹿 6 3  
 永和商事ウイング 0 3

**近畿**

9月7日から 7日間 わかさスタジアム京都

新日鉄住金広畑 9 0  
 トータル阪神 9 3  
 甲府健康医療専門学校 2 3  
 ニチダイ 2 3  
 パナソニック 7 3  
 履正社学園 0 0  
 日本新薬 2 13  
 島津製作所 0 0  
 大阪ガス 2 0  
 大阪ガス <敗者復活戦>  
 大阪ガス 6 3  
 甲府健康医療専門学校 0 2  
 ニチダイ 2 2  
 履正社学園 7 0  
 島津製作所 0 0  
 トータル阪神 8 4  
 新日鉄住金広畑 4 4  
 ニチダイ 9 0  
 トータル阪神 2 0  
 大阪ガス 7 0

**中国**

9月12日から 8日間 東広島アクアスタジアム

JFE西日本 3 1  
 三菱重工三原 0 12  
 三連輪転機オーシス 3 1  
 三菱重工広島 6 0  
 シティライト岡山 0 3  
 JR西日本 2 3  
 伯和ビクトリーズ 2 7  
 MSH医療専門学校 4 3  
 ツネイシ 5 3  
 光シーガルズ 2 0  
 ワイテック 3 2  
 <敗者復活戦>  
 三菱重工三原 1 2  
 シティライト岡山 8 0  
 MSH医療専門学校 1 3  
 伯和ビクトリーズ 4 3  
 JR西日本 10 12  
 光シーガルズ 1 1  
 三連輪転機オーシス 0 1  
 三菱重工広島 5 5  
 ワイテック 2 7  
 ツネイシ 2 2

**四国**

9月14日~16日、21日・22日 高知東部球場

▶一次予選  
 四国銀行 4-3 JR四国  
 アークバリア 0-7 四国銀行  
 JR四国 13-1 アークバリア  
 四国銀行 1-0 JR四国  
 アークバリア 0-5 四国銀行  
 JR四国 7-1 アークバリア

▶二次予選 3戦2勝方式  
 JR四国 4-5 四国銀行  
 四国銀行 3-2 JR四国  
 代表=四国銀行

**九州**

9月11日から 5日間 7イビスタジアム、わかスタジアム

JR九州 5 4  
 宮崎梅田学園 7 1  
 新日鉄住金大分クラブ 8 1  
 空崎福祉医療カレッジ 1 7  
 熊本ゴールアンラクス 2 2  
 九州総合スポーツカレッジ 0 5  
 沖縄電力 8 5  
 三菱重工長崎 0 1  
 西部ガス 2 3  
 福岡ガス 3 3  
 新日鉄住金福岡 1 3  
 エナジック 2 0  
 福岡工業大学 1 0  
 九州三菱自動車 8 4  
 <敗者復活戦>  
 熊本ゴールアンラクス 11 3  
 西部ガス 1 3  
 九州三菱自動車 4 4







Table with financial data for 四国銀行, J R九州, and 九州三菱自動車. Columns include bank names and numerical values.

Table with financial data for J F E 西日本 and 三菱重工広島. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 新日鐵住金広畑 and パナソニック. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 大阪ガス. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 東邦ガス. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 西濃運輸. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 日本新薬. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 東邦ガス. Columns include company names and numerical values.

Table with financial data for 西濃運輸. Columns include company names and numerical values.

選手の自立心強まる

昨年の都市対抗から、2大会3季連続決勝でJX-ENEOSとJR東日本が対戦している。社会人球界を引っ張る大久保秀昭(44)、堀井哲也(51)の両監督に、チーム作りの哲学や今大会への抱負などを語ってもらった。

◆チームの雰囲気は上がっているか。
もちろん出るからには優勝を狙う。ただうちは「この試合をどう勝ちきるか」と目の前の1試合に臨むので、相手の戦力は分析しても過剰に意識はしない。かにも自分たちのペースに持っていけるのか。それに尽きる。

日本選手権は7月の都市対抗から開闢がないので、戦力は変わらない。チームの成熟度が増しており、誰が出場しても役割を果たせる。選手にリポートを書かせたが、ある選手は「油断したから負けた」というようなレベルの低いチームにはなりたくない」とあった。選手の自立心も深まっており、いい状態だ。



握手を交わすJX-ENEOSの大久保秀昭監督(左)と山中正竹・法大特任教授

◆ENEOSは、なぜ「負けない」チームになったのか。
自立した選手が多く、チームの目標を共有できているからだと思う。監督が何もしなくても勝てるチームが理想だが、今はそこに近づいてきた感がある。勝つためには選手自身が何をすべきか理解していなければならない。だから僕は年初に、明確なキーワードを出す。たとえば今年は「パワーアップ」や「徹底知新の継続」だった。去年よかったから今年もまた勝るとは思わないからだ。
ただ目標やスコアは全員には伝わりづらい。レギュラーの4、5人でも実践してくれたらそこそこのチームにはできる。今年は、チームが目標を一番共有できている。
◆核になる選手がいたのか。
前主将の宮沢と捕手の山岡が、私が言う理想を理解し、中心になって実践してくれた。一を聞いて十を知り、キャプテンシーのある宮沢はチーム育成で、賢くまじめな山岡は勝利への過程で、それぞれ存在感を発揮してくれた。そして若手は、その2人を見て育っていった。
◆そうやって育った若手が厚い層をなし、先発と控えに差がない、それもENEOSの強みと思う。
よい例が2番手の捕手・日高。都市対抗では、けがの山岡

Table with financial data for 東邦ガス, 西濃運輸, and 日本新薬. Columns include company names and numerical values.



## 「投高打底」に歯止め

3大会ぶり4回目の優勝を果たしたトヨタ自動車は、ここ7大会で4度目の日本選手権制覇。京セラドームでの強さを改めて見せつけた。

投打とも選手層が厚く、優勝に驚きはなかった。エース右腕・佐竹は完封した決勝を含めて登板4試合で30回3分の2を無失点。抜群の安定感だった。佐竹を支えたのが上杉。150km/hの直球を武器に、先発や救援で3勝を挙げた。

打線では若手が光った。夏場に急成長した河合、瀧野の中軸に捕手・木下を加えた3新人はミスもあるが、それを補う思い切りのいい打撃でチームに勢いをつけた。

今回の優勝を自信に、2年連続で敗れている都市対抗予選でも伸び伸びプレーできるか注目したい。

セガサミーは2回戦で大会初勝利を挙げると、接戦を続けながら勝ち上がった。原動力は4試合に先発した新人左腕・横田。チーム打率は1割9分ながら、準決勝で4番の川端が二盗を決めて安打1本で決勝点を挙げるなど1点を取るのがうまかった。ただ、トヨタ自動車準決勝で佐竹を温存したのに対し、横田は準決勝から連投。先発の枚数の差が優勝の行方を決めた。

日本生命は打力、パナソニックは投手力。それぞれ持ち味を発揮して4強入り。大会通算打率は2割3分7厘で昨年を1分9厘上回り、「投高打底」の傾向

に一定の歯止めをかけた。しかし、前回大会より四死球が39個、失点が「40」増えたのは残念だ。昨年活躍したJR東日本の吉田(現オリックス)ら好投手がプロ入りしたこともあり、全体の投手レベルが落ちた印象はぬぐえなかった。



### 大会 審判

▷審判委員長=中本尚▷審判副委員長=橋公政▷審判運営委員=新草定、長谷川次郎、堅田外司昭、山崎浩、小谷啓介、赤井淳二▷審判委員=池友久、土井政之、三宅章介、土井淳宏、堀口光、清水雅彦、大郡篤、内山隆雄、西本和博、那須健司、諏合久雄、中西良太、田中豊久、野口敏行、長谷川文彦、藤野真、飯川浩一、江夏透、花尾睦明、浜田敏秀、文殊弘富、宅間寛、美野正剛、金丸雄一、竹本裕一、飯田昌幸、左海資士、谷口吉洋、善積重文、太田和宏、南谷安治、木原浩吉、永井秀亮、加来和彦、和田拓也、萩原義広、黒羽麻一、花田敬亮、村岡祐貴、千田正明、岩崎司、辻明浩、秋山清二、奥津祐太、立松浩、平野正久、戸田和雄、藤井幸夫、中田恵博、上田剛、原靖典、西方淳一、梶井明



▽11月1日

第1試合=1回戦(午前10時58分開始)

ヤマハ 001 001 000 | 2
七十七銀行 000 100 000 | 1

Scoreboard for Yamaha vs 77 Bank. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for Yamaha and 77 Bank, including innings pitched, hits allowed, runs, and earned runs.

>三塁打=川辺、柳、長谷川 >試合時間 2時間40分

前打席三振「吹っ切れた」

前田幹博内野手(19)ヤマハ

右島監督が「大舞台でも物おじせず、しっかりバットが振れていた」とほめた。とはいえまだ10代、序盤は緊張したといいい、2打席目はつり球に手を出し三振。だが、これで「吹っ切れた」。

3打席目の六回2死一、三塁、2ボールから内角変化球をうまく左前に運び、決勝点をたたき出した。この場面は2死から、34歳の佐藤が安打で出塁し、長谷川雄の左前打で果敢に三塁を踏んだ。先輩たちのお蔭立てに、「ここで打たないと」と感謝しての一打。高卒新人ながら、春先から公式戦の打席に立ったが、都市対抗東海2次予選はけがのため出場できず、チームも予選敗退した。秋にかける気持ちは強いだけに、初のホームに「最高でした」と笑顔だ。

母校のPTA学園高は来年度の部員募集を停止し、存続の危機にあり、気をもむ。「すばらしい先輩たちが築き上げたチーム。(現役の)僕らが活躍することで、少しでも力になれば——」

第2試合=1回戦(午後2時29分開始)

ニチダイ 000 000 230 | 5
日本製紙石巻 000 000 100 | 1

Scoreboard for Nichidai vs Nippon Paper. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for Nichidai and Nippon Paper.

>三塁打=三原 >二塁打=大倉、伊場、中嶋 >捕逸=伊場 >試合時間 2時間38分

悔い残る 初出場

①…悔いが残る1球だった。日本製紙石巻の斎藤は六回まで無失点に抑えたが、七回2死後に7番・大

置に左前打。「下位打線なので、最初からは打ってこないだろう」とストライクを取りにいった初球の直球を狙われた。これでリズムを乱し、四球、右翼線三塁打と崩れて2失点。「1球を甘く見てしまった」と悔やんだ。例年29年目で初出場を果たしたが、わずかなほころびから勝利を逃した。25歳左腕は「勝てる投手になって戻ってきたい」と雪辱を誓った。

第3試合=2回戦(午後6時開始)

トヨタ自動車 000 020 100 | 3
日本新薬 000 000 000 | 0

Scoreboard for Toyota vs Nippon Shinyaku. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for Toyota and Nippon Shinyaku.

>本塁打=木下1号②(柳田) >二塁打=瀧野、楊沢、福田 >試合時間 1時間55分

▽11月2日

第1試合=2回戦(午前9時1分開始)

J R九州 040 000 002 | 6
J R東日本 212 000 02x | 7

Scoreboard for JR Kyushu vs JR Tohoku. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for JR Kyushu and JR Tohoku.

>本塁打=影山1号②(菊地) >二塁打=中野、田中敬、岩切、岩沢2 >暴投=井上、菊地 >試合時間 2時間49分

第2試合=2回戦(午後0時30分開始)

明治安田生命 020 000 300 | 5
ホンダ鈴鹿 110 001 100 | 4

Scoreboard for Meiji Anzen Life vs Honda Suzuka. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for Meiji Anzen Life and Honda Suzuka.

>三塁打=島田、藤田、竹内一、加藤 >二塁打=尾崎、宮川、大西 >試合時間 2時間49分

第3試合=2回戦(午後3時51分開始)

J R東日本東北 000 001 000 00 | 1
ホンダ 100 000 000 001 | 2

Scoreboard for JR Tohoku vs Honda. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for JR Tohoku and Honda.

>二塁打=岡部、榎塚、多嶋、長島 >試合時間 2時間30分

第4試合=2回戦(午後6時56分開始)

三菱重工広島 000 100 000 | 1
J F E東日本 200 002 03x | 7

Scoreboard for Mitsubishi Heavy vs JFE Tohoku. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for Mitsubishi Heavy and JFE Tohoku.

>本塁打=内藤1号②(飯島) >二塁打=中嶋、井口、中野 >試合時間 2時間49分

幸松 借り返す

①…J F E東日本の右腕・幸松が三菱重工広島への借りを返した。九州三菱自動車に所属していた前大会で初戦で対戦して敗れていたが、この日は一回に3者連続三振を奪うなど、六回まで被安打5の1失点と好投。右足ふくらはぎがつって降板したが、移籍1年目の32歳は「みんなで勝ち切れてよかった」とホッとしていた。

▽11月3日

第1試合=2回戦(午前11時1分開始)

日本生命 000 000 050 | 5
J R西日本 002 000 000 | 2

Scoreboard for Nippon Life vs JR West. Lists batting order and statistics for both teams.

Pitching statistics for Nippon Life and JR West.

>三塁打=岩下 >二塁打=杉本、有竹 >試合時間 2時間37分





### ▽11月6日

#### 第1試合=2回戦(午前11時開始)

西濃運輸	1	1	0	0	0	2	0	0	4
競コーデンゴース	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)宅間(塁審)花田、藤井、金丸

【西濃運輸】			【競コーデンゴース】				
① 中村	打	安	点	① 佐々木	打	安	点
② 谷	4	1	0	② 岩尾	3	0	0
③ 伊原	4	1	0	③ 岩尾	4	3	0
④ 金丸	5	2	2	④ 岩尾	4	0	0
⑤ 藤本	5	2	1	⑤ 岩尾	4	0	0
⑥ 丸中	4	1	0	⑥ 岩尾	1	0	0
⑦ 李	4	1	0	⑦ 岩尾	3	1	0
⑧ 李	4	1	1	⑧ 岩尾	2	1	0
⑨ 李	4	1	1	⑨ 岩尾	1	0	0

振球併残 計 38114  
山下 9 打安費 3370  
山本 6% 30114  
山本 2% 1000

▶三塁打=伊藤▶二塁打=岩田、李、中村▶試合時間 2時間9分

#### 第2試合=2回戦(午後2時半開始)

三菱重工名古屋	0	0	1	0	0	0	1	2
ニチダイ	0	0	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)清水(塁審)大島、田中、奥津

【三菱重工名古屋】			【ニチダイ】				
① 山田	打	安	点	① 川本	打	安	点
② 小	1	0	0	② 野	4	0	0
③ 吉安	2	0	1	③ 野	4	2	0
④ 山田	3	0	0	④ 野	2	0	0
⑤ 山田	4	0	0	⑤ 野	2	0	0
⑥ 山田	3	0	0	⑥ 野	4	1	0
⑦ 山田	1	1	0	⑦ 野	4	2	0
⑧ 山田	0	0	0	⑧ 野	2	1	0
⑨ 山田	3	1	0	⑨ 野	1	0	0
⑩ 山田	3	0	0	⑩ 野	3	1	1
⑪ 山田	0	0	0	⑪ 野	3	1	1
⑫ 山田	2	1	1	⑫ 野	3	1	1

振球併残 計 2842  
高本 8 打安費 3181  
中根 1 300  
藤地野 9 3742

#### ニチダイ陸地野 153球無念

⑨…ニチダイの先発・藤地野は153球の力投も報われなかった。前半は制球に苦しみ、五回には押し出して先制を許すなど5イニングで計8回球。「前半はしっかり来なかったが、五回のグラウンド整備後は落ち着いて放れた」と、変化球も決まり立ち直ったが、九回に決勝打を浴びた。緊急登壇の投球で1回戦勝利に貢献した高卒2年目の20歳。「まだまだ未熟。成長して戻ってきたい」と誓った。

#### 第3試合=3回戦(午後5時58分開始)

J R 東日本	0	0	1	0	0	0	1
ヤマハ	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)室田(塁審)殿川、美野、中田

【J R 東日本】			【ヤマハ】				
① 岩	打	安	点	① 藤	打	安	点
② 木	4	0	0	② 野	4	0	0
③ 西	4	1	0	③ 野	4	2	0
④ 畑	4	0	0	④ 野	3	1	0
⑤ 松	4	0	0	⑤ 野	4	1	0
⑥ 佐	4	0	0	⑥ 野	4	0	0
⑦ 佐	4	0	0	⑦ 野	4	0	0
⑧ 野	4	0	0	⑧ 野	0	0	0
⑨ 竹	3	1	0	⑨ 野	2	0	0
⑩ 竹	3	1	0	⑩ 野	1	0	0
⑪ 竹	3	1	0	⑪ 野	1	0	0
⑫ 森	2	1	1	⑫ 野	2	1	0
⑬ 森	2	1	1	⑬ 野	1	0	0

振球併残 計 3041  
期谷 5% 2040  
阪田 3% 1100  
東條大 1% 200  
ナテル 4% 1531  
渡辺 1% 410  
大野 2% 600  
竹下 2% 700

▶二塁打=藤谷、河野▶試合時間 2時間27分

### ▽11月7日

#### 第1試合=2回戦(午前11時開始)

J F E 東日本	0	1	0	0	0	0	1
トヨタ自動車	0	0	1	2	0	1	2

▶審判(球審)大郎(塁審)太田、平野、木原

【J F E 東日本】			【トヨタ自動車】				
① 中	打	安	点	① 小	打	安	点
② 岩	3	0	0	② 小	5	4	1
③ 岩	3	1	0	③ 小	4	3	3
④ 岩	3	1	0	④ 小	5	2	1
⑤ 岩	3	1	0	⑤ 小	4	2	1
⑥ 岩	4	1	1	⑥ 小	4	1	1
⑦ 岩	4	1	1	⑦ 小	4	1	0
⑧ 岩	3	1	0	⑧ 小	2	0	0
⑨ 岩	3	0	0	⑨ 小	1	0	0
⑩ 岩	2	0	0	⑩ 小	1	0	0
⑪ 岩	2	0	0	⑪ 小	0	0	0
⑫ 岩	1	0	0	⑫ 小	2	1	0

振球併残 計 3141  
松林 4% 2083  
小林 1% 710  
加藤 1% 431  
市 1% 200  
加藤 1% 312  
古 1% 420  
上杉 6% 2341  
佐竹 2% 1100

▶本塁打=横沢1号(幸松)▶二塁打=金森▶暴投=小原、加藤▶試合時間 2時間50分

#### 第2試合=3回戦(午後2時半開始)

J F E 西日本	0	0	1	0	0	0	1
パナソニック	1	1	0	0	0	0	3

▶審判(球審)瀧川(塁審)千田、中西、永井

【J F E 西日本】			【パナソニック】				
① 森	打	安	点	① 橋	打	安	点
② 森	4	2	0	② 橋	3	1	0
③ 森	5	2	0	③ 橋	3	0	0
④ 森	5	2	0	④ 橋	4	0	0
⑤ 森	3	0	0	⑤ 橋	4	2	1
⑥ 森	3	0	0	⑥ 橋	0	0	0
⑦ 森	3	0	0	⑦ 橋	4	0	0
⑧ 森	5	2	0	⑧ 橋	4	1	0
⑨ 森	2	1	0	⑨ 橋	3	2	2
⑩ 森	2	1	0	⑩ 橋	0	0	0
⑪ 森	5	1	1	⑪ 橋	3	2	0
⑫ 森	2	1	0	⑫ 橋	0	0	0
⑬ 森	2	1	0	⑬ 橋	2	2	0
⑭ 森	1	0	0	⑭ 橋	2	2	0

振球併残 計 3813  
藤谷 2 1042  
岡山 5 2351  
近藤 4% 2471  
藤野 3 1330  
田中 1% 731

#### 好調 見せたパンチ力

まるで再生映像を見るかのような。四回、パナソニック・柳田の放った打球が、二回に続いて左翼席に突き刺さる。今夏の都市対抗、今大会の初戦も出番のなかった8番打者。J F E 西日本にしてみれば、思わぬ伏兵にしてやられた、といったところだろう。  
1本目は2死から先発・藤谷の高め直球を捉えた。2本目も2死から、今度はエース岡山の投げた真ん中のスライダーを捉えていった。  
柳田にとって公式戦のスタメンは、5月のJ A B A九州大会以来。練習熱心な上に、打撃の好調さを買われての抜きた。立命大出身、5年目の27歳。167センチと上背はないが、体重は85キロに増え、パンチ力には定評がある。それにしても、特に2本目は、相手のエースを向こうに押し「武器のスライダーに較べて、削っていた一発」と言うのだから頼もしい。  
都市対抗は初戦突破したとは言え、わずか1安打での勝利。3日の東館ガス戦も5安打での辛勝と、大舞台で打てない、そんなチーム状況に活を入れる柳田を、現代監督は「ここまでやってくれるとは……素晴らしい」と手放して褒めた。たええ。

### 第3試合=3回戦(午後6時開始)

ホンダ	0	1	0	0	0	0	0	0	1
NTT西日本	0	0	0	0	0	1	0	0	2

(延長11回)

▶審判(球審)土井(塁審)原、左海、辻

【ホンダ】			【NTT西日本】				
① 吉	打	安	点	① 中	打	安	点
② 西	3	0	0	② 中	5	2	1
③ 井	1	0	0	③ 中	4	1	0
④ 井	4	2	0	④ 中	2	0	0
⑤ 井	3	0	0	⑤ 中	3	3	0
⑥ 井	5	2	0	⑥ 中	5	1	0
⑦ 井	3	1	0	⑦ 中	5	1	1
⑧ 井	5	2	0	⑧ 中	1	0	0
⑨ 井	4	1	1	⑨ 中	3	3	0
⑩ 井	4	1	0	⑩ 中	3	0	0
⑪ 井	0	0	0	⑪ 中	4	2	0
⑫ 井	4	1	0	⑫ 中	2	0	0
⑬ 井	4	0	0	⑬ 中	1	0	0

振球併残 計 3871  
石橋 7 2760  
石橋 3% 1522  
吉川 3% 1841  
川田 2% 810  
岡田 5 1720

▶本塁打=三浦1号(吉川)、中西1号(橋田)▶二塁打=井上2、吉岡健、梅津、藤山▶試合時間 3時間

### ▽11月8日

#### 第1試合=3回戦(午前9時3分開始)

NTT東日本	0	0	1	0	0	0	0	1
セガサミー	0	0	0	0	0	3	×	3

▶審判(球審)長谷川(塁審)内山、藤野、平野

【NTT東日本】			【セガサミー】				
① 伊	打	安	点	① 政	打	安	点
② 自	4	1	0	② 神	4	2	0
③ 北	2	0	0	③ 江	4	2	1
④ 北	3	0	0	④ 川	3	2	1
⑤ 北	3	0	0	⑤ 川	2	0	0
⑥ 北	3	0	0	⑥ 川	3	1	0
⑦ 北	2	0	0	⑦ 川	3	3	0
⑧ 北	1	0	0	⑧ 川	3	0	0
⑨ 北	1	0	0	⑨ 川	3	0	0
⑩ 北	2	0	0	⑩ 川	3	2	0
⑪ 北	1	0	0	⑪ 川	3	2	0
⑫ 北	1	0	0	⑫ 川	3	2	0
⑬ 北	1	0	0	⑬ 川	3	2	0
⑭ 北	2	0	0	⑭ 川	3	2	0

振球併残 計 2711  
橋山 7% 2981  
森山 1% 211  
黒山 1% 100  
橋田 9 3411

▶三塁打=江藤▶二塁打=川端、坂本▶ホーク=橋田▶試合時間 2時間13分

#### 第2試合=3回戦(午後0時3分開始)

明治安田生命	1	0	1	0	1	0	0	4
大阪ガス	0	1	1	1	0	1	6	×

▶審判(球審)南谷(塁審)辻、谷口、千田

【明治安田生命】			【大阪ガス】				
① 宮	打	安	点	① 野	打	安	点
② 宮	5	4	0	② 野	5	6	2
③ 宮	4	1	1	③ 野	2	2	1
④ 宮	1	0	0	④ 野	5	5	0
⑤ 宮	5	2	1	⑤ 野	3	2	1
⑥ 宮	4	1	1	⑥ 野	3	0	0
⑦ 宮	4	1	1	⑦ 野	0	0	0
⑧ 宮	4	1	0	⑧ 野	4	2	0
⑨ 宮	4	1	0	⑨ 野	4	1	1
⑩ 宮	0	0	0	⑩ 野	1	1	1
⑪ 宮	0	0	0	⑪ 野	1	0	0
⑫ 宮	4	1	0	⑫ 野	2	2	2
⑬ 宮	0	0	0	⑬ 野	3	1	2
⑭ 宮	2	0	0	⑭ 野	3	1	2
⑮ 宮	1	0	0	⑮ 野	3	1	2

振球併残 計 38114  
大久保 2% 1442  
重信 1% 421  
古平 4 2051  
平野 1% 101  
日松 1% 302  
山 2 212  
青木 4 1842  
木村 2% 1142  
坂谷 1% 100  
中橋 2% 1030

▶本塁打=龜山1号(東信)▶三塁打=大谷▶二塁打=土井、大谷、藤原、吉岡▶暴投=鈴木▶捕逸=野地▶試合時間 3時間27分

#### 本盗阻止 流れ呼ぶ

一瞬の出来事だった。ギャンブルスタートを切った明治安田生命の三塁走者・宮川を、大阪ガスの捕手・橋本が本塁で阻止。これが勝敗の分かれ目となった。同点の七回2死一、三塁、打者・竹内の一の4球目に三塁走者がスタートし、大阪ガスバッテリーは外す。橋

# 第40回記念大会 大会記録

本は二塁送球と見せかけて投手の放電に投げ、盗塁からの返球を受け取ると、重盗を狙って三塁を飛び出していた宮川をタッチアウト。「はまったな」、相手の首を見抜き、サインプレーを決めて試合の流れを引き寄せ、その裏の勝ち越し点を呼び込んだ。

熊本・秀岳館高から入社10年目ながら、正捕手になったのは今大会の予選から。8強入りした今夏の都市対抗では、N.T.T.西日本からの補強選手・戸柱に正捕手の座を奪われ、先発出場は1試合だけ。「悔しさはあった」と気持ちを押し殺しながら、今夏以降はコーチからリードやスローイングのアドバイスをを受け、実戦を積んで成長してきた。

竹村監督は昨季まで在籍した岡田(現西武)を引き合いに出し「岡田よりも活躍している」と、褒め言葉を贈った。2試合連続2桁安打と売物物の「強力打線」に目が行きがちだが、それを際立たせたのは頑固的な守りだった。

## 第3試合=2回戦(午後4時4分開始)

日本通運	000	000	000	000	0
西濃運輸	000	000	000	001	1

【日本通運】		【西濃運輸】		振球併残	計
① 浦部	3 1 0	① 東中	4 0 0	8	4107
② D 小友	4 2 0	② 谷	4 0 0	8	4117
③ 松本	4 1 0	③ 伊藤	4 3 0	8	4127
④ 松本	3 1 0	④ D 伊藤	4 0 0	8	4137
⑤ 松本	3 1 0	⑤ 伊藤	3 1 0	8	4147
⑥ H 本口	4 0 0	⑥ D 伊藤	4 0 0	8	4157
⑦ H 9 松本	2 0 0	⑦ 伊藤	3 0 0	8	4167
⑧ H 9 松本	1 0 0	⑧ 伊藤	1 0 0	8	4177
⑨ H 9 松本	1 0 0	⑨ 伊藤	1 0 0	8	4187
⑩ H 9 松本	2 0 0	⑩ 伊藤	2 0 0	8	4197
振球併残	8 1 0 7	振球併残	8 4 1 7		計 304 0

二塁打=小中、伊藤>暴投=井口>試合時間2時間24分

## 第4試合=3回戦(午後7時5分開始)

日本生命	400	000	112	8
三菱重工名古屋	000	100	010	2

【日本生命】		【三菱重工名古屋】		振球併残	計
① 佐々木	4 0 0	① 山田	4 2 0	8	36118
② 山本	3 2 0	② H 山田	0 2 0	8	36218
③ 山本	3 1 0	③ 馬場	5 2 0	8	36318
④ 山本	3 3 3	④ D 小吉	3 1 0	8	36418
⑤ 山本	5 2 0	⑤ 山田	4 2 1	8	36518
⑥ R 福田	0 0 0	⑥ 山田	3 1 1	8	36618
⑦ 3 中加	0 0 0	⑦ H 山田	2 0 0	8	36718
⑧ HD 阿部	3 1 2	⑧ H 山田	1 0 0	8	36818
⑨ HD 佐々木	0 0 0	⑨ H 山田	1 0 0	8	36918
⑩ HD 佐々木	1 0 0	⑩ H 山田	2 0 0	8	37018
⑪ 山本	4 1 1	⑪ H 山田	1 0 0	8	37118
⑫ 山本	4 0 1	⑫ H 山田	3 0 0	8	37218
⑬ 山本	4 1 1	⑬ H 山田	1 0 0	8	37318
振球併残	1 5 1 9	振球併残	9 4 0 9		計 348 2

回	打安責	回	打安責
7	7/8 3172	6	6/8 2611
8	7/8 110	7	6/8 833
9	7/8 200	8	1/8 420
10	7/8 400		

二塁打=馬場、吉田、高橋2、小田>試合時間2時間45分



一回表日本生命1死1、三塁、中前通時打を放ち、拳を出し声を上げる高橋

## ▽11月9日

### 第1試合=準々決勝(午前9時開始)

JR東日本	000	000	000	001	0	1
トヨタ自動車	000	000	000	001	1	2

(延長13回、12回からタイブレーク)

【JR東日本】		【トヨタ自動車】		振球併残	計
① 野内	4 1 1	① 小多	5 1 0	15	1 1 9
② 西竹	5 0 0	② 小多	4 0 0	7	4 0 18
③ D 田中	4 0 0	③ 小多	5 0 0	7	7 4 0 18
④ HD 田中	1 0 0	④ 小多	5 5 1	7	
⑤ RDS 谷	0 0 0	⑤ 小多	5 2 2	7	
⑥ 松本	4 1 0	⑥ 小多	5 2 2	7	
⑦ 松本	0 0 0	⑦ 小多	2 1 0	7	
⑧ H 7 松本	1 0 0	⑧ 小多	1 1 0	7	
⑨ H 7 松本	0 0 0	⑨ 小多	1 1 0	7	
⑩ H 7 松本	2 0 0	⑩ 小多	1 1 0	7	
⑪ H 7 松本	2 0 0	⑪ 小多	1 1 0	7	
⑫ H 7 松本	1 0 0	⑫ 小多	2 0 0	7	
⑬ H 7 松本	0 0 0	⑬ 小多	0 0 0	7	
⑭ H 7 松本	0 0 0	⑭ 小多	0 0 0	7	
⑮ H 7 松本	0 0 0	⑮ 小多	0 0 0	7	
⑯ H 7 松本	0 0 0	⑯ 小多	0 0 0	7	
⑰ H 7 松本	0 0 0	⑰ 小多	0 0 0	7	
⑱ H 7 松本	0 0 0	⑱ 小多	0 0 0	7	
振球併残	1 5 1 9	振球併残	7 4 0 18		計 4010 2

回	打安責	回	打安責
5	5/8 1620	10	10/8 3330
1	1/8 820	2	2/8 800
2	2/8 1340		
2	2/8 1220		

二塁打=水、田中>試合時間3時間7分

### 第2試合=準々決勝(午後0時43分開始)

NTT西日本	010	021	100	5
パナソニック	140	010	00x	6

【NTT西日本】		【パナソニック】		振球併残	計
① 中	4 1 1	① 5 橋大	3 1 0	5	5 2 0 6
② 中	4 0 0	② 5 橋大	4 2 2	5	
③ 中	4 0 0	③ 5 橋大	4 2 2	5	
④ 中	4 2 0	④ 5 橋大	2 0 0	5	
⑤ 中	3 0 0	⑤ 5 橋大	0 0 0	5	
⑥ 中	3 1 2	⑥ 5 橋大	4 3 3	5	
⑦ 中	4 2 0	⑦ 5 橋大	4 3 3	5	
⑧ 中	3 2 0	⑧ 5 橋大	4 1 0	5	
⑨ 中	1 0 0	⑨ 5 橋大	2 0 0	5	
⑩ 中	2 0 0	⑩ 5 橋大	1 0 0	5	
⑪ 中	1 0 0	⑪ 5 橋大	3 1 0	5	
⑫ 中	1 0 0	⑫ 5 橋大	0 0 0	5	
⑬ 中	1 0 0	⑬ 5 橋大	0 0 0	5	
⑭ 中	1 0 0	⑭ 5 橋大	0 0 0	5	
⑮ 中	1 0 0	⑮ 5 橋大	0 0 0	5	
⑯ 中	1 0 0	⑯ 5 橋大	0 0 0	5	
振球併残	5 2 0 6	振球併残	8 3 0 5		計 308 6

回	打安責	回	打安責
1	1/8 1265	5	5/8 2041
3	3/8 310	7	7/8 831
3	3/8 1111	3	3/8 1010
3	3/8 900		

本塁打=足立1号(松岡)>三塁打=森>二塁打=高木>暴投=西丹>試合時間2時間39分

### 戸柱リード悔い

②-2点打と打撃で結果を出したNTT西日本の捕手・戸柱だが、リードの面では悔いが残る試合となった。1点勝ち越され、なお2死一、三塁という二回のピンチ。吉元に要求したのは、「一番良い球」という直球だった。しかし、森に痛打され適時三塁打。ビッグイニングを作ってしまった。「打たればそれが不正解、選択ミスだったということ」と、淡々と振り返った。

### 第3試合=準々決勝(午後3時59分開始)

セガサミー	010	001	001	3
大阪ガス	000	010	010	2

【セガサミー】		【大阪ガス】		振球併残	計
① 野	4 1 0	① 青	5 2 0	4	4 1 1 4
② 野	3 0 0	② 青	4 0 0	4	4 1 1 4
③ H 野	1 0 0	③ H 青	1 0 0	4	4 1 1 4
④ H 野	0 0 0	④ H 青	4 2 0	4	4 1 1 4
⑤ H 野	4 1 0	⑤ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑥ H 野	3 1 1	⑥ H 青	1 0 0	4	4 1 1 4
⑦ H 野	2 0 0	⑦ H 青	1 0 0	4	4 1 1 4
⑧ H 野	4 2 2	⑧ H 青	1 0 0	4	4 1 1 4
⑨ H 野	4 0 0	⑨ H 青	1 0 0	4	4 1 1 4
⑩ H 野	3 1 0	⑩ H 青	3 2 1	4	4 1 1 4
⑪ H 野	3 0 0	⑪ H 青	4 2 0	4	4 1 1 4
⑫ H 野	3 0 0	⑫ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑬ H 野	3 0 0	⑬ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑭ H 野	3 0 0	⑭ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑮ H 野	3 0 0	⑮ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑯ H 野	3 0 0	⑯ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑰ H 野	3 0 0	⑰ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
⑱ H 野	3 0 0	⑱ H 青	0 0 0	4	4 1 1 4
振球併残	4 1 1 4	振球併残	6 2 0 10		計 3711 2

回	打安責	回	打安責
6	6/8 2360	8	8/8 3362
1	1/8 921		
1	1/8 730		

本塁打=沢良木1号(小嶋)>二塁打=沢良木、政野>試合時間2時間30分

## 第4試合=準々決勝(午後7時5分開始)

西濃運輸	000	000	000	0
日本生命	401	001	01x	7

【西濃運輸】		【日本生命】		振球併残	計
① 名	4 1 0	① 木	3 1 0	7	7 1 1 9
② 中	2 0 0	② 木	0 0 0	7	7 1 1 9
③ H 4 丹	1 0 0	③ 木	1 0 0	7	7 1 1 9
④ 谷	4 1 0	④ 木	3 1 1	7	7 1 1 9
⑤ 伊	4 0 0	⑤ 木	3 5 1	7	7 1 1 9
⑥ 伊	4 2 0	⑥ 木	3 2 0	7	7 1 1 9
⑦ 伊	2 0 0	⑦ 木	4 1 1	7	7 1 1 9
⑧ 伊	1 1 0	⑧ 木	4 3 1	7	7 1 1 9
⑨ 伊	3 1 0	⑨ 木	4 1 1	7	7 1 1 9
⑩ 伊	2 0 0	⑩ 木	3 3 1	7	7 1 1 9
⑪ 伊	2 0 0	⑪ 木	3 3 1	7	7 1 1 9
⑫ 伊	2 1 0	⑫ 木	3 3 1	7	7 1 1 9
⑬ 伊	4 0 0	⑬ 木	3 3 2	7	7 1 1 9
⑭ 伊	2 1 0	⑭ 木	3 3 2	7	7 1 1 9
⑮ 伊	4 0 0	⑮ 木	3 3 2	7	7 1 1 9
⑯ 伊	2 0 0	⑯ 木	3 3 2	7	7 1 1 9
⑰ 伊	2 0 0	⑰ 木	3 3 2	7	7 1 1 9
⑱ 伊	4 0 0	⑱ 木	3 3 2	7	7 1 1 9
振球併残	7 1 1 9	振球併残	4 4 0 8		計 3113 5

回	打安責	回	打安責
5	5/8 830	6	6/8 2230
2	2/8 930	3	3/8 1450

三塁打=高橋>二塁打=阪本2、阿加多、権名>試合時間2時間32分

## ▽11月10日

### 第1試合=準決勝(午後1時59分開始)

パナソニック	000	000	030	3
トヨタ自動車	100	200	001	4

【パナソニック】		【トヨタ自動車】		振球併残	計
① 5 橋大	4 0 0	① 小多	4 1 0	10	10 1 1 5
② 大	4 1 2	② 小多	4 2 0	10	10 1 1 5
③ 森	4 2 0	③ 小多	4 2 1	10	10 1 1 5
④ 森	4 1 0	④ 小多	4 2 1	10	10 1 1 5
⑤ 森	4 0 0	⑤ 小多	4 3 2	10	10 1 1 5
⑥ 中	4 0 0	⑥ 小多	2 0 0	10	10 1 1 5
⑦ 中	4 2 0	⑦ 小多	1 0 0	10	10 1 1 5
⑧ 中	3 1 1	⑧ 小多	0 0 0	10	10 1 1 5
⑨ 中	0 0 0	⑨ 小多	3 1 0	10	10 1 1 5
⑩ 中	1 0 0	⑩ 小多	3 0 0	10	10 1 1 5
⑪ 中	3 1 0	⑪ 小多	3 0 0	10	10 1 1 5
⑫ 中	3 1 0	⑫ 小多	3 0 0	10	10 1 1 5
⑬ 中	3 1 0	⑬ 小多	3 0 0	10	10 1 1 5
⑭ 中	3 1 0	⑭ 小多	3 0 0	10	10 1 1 5



▽11月11日

決勝戦(午後6時6分開始)

トヨタ自動車 0 0 0 0 0 1 2 0 2 | 5  
セガサミー 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

▶審判(球審)長谷川次(塁審)藤野、竹本、土井政

【トヨタ自動車】	打安点	【セガサミー】	打安点
① 小多	2 0 0 0	① 野保	4 1 0 0
② 小多	4 0 0 0	② D	3 0 0 0
③ 河	3 0 0 0	③ HD	1 0 0 0
④ 河	2 1 0 0	④ 藤	4 1 1 0
⑤ 藤	4 3 2 2	⑤ 藤	2 0 0 0
⑥ 保	4 1 2 2	⑥ 藤	1 0 0 0
⑦ 保	3 1 1 0	⑦ 藤	3 1 0 0
⑧ HD	3 1 1 0	⑧ 藤	2 0 0 0
⑨ D	4 1 1 1	⑨ 藤	1 0 0 0
⑩ 藤	4 0 0 0	⑩ H	5 0 0 0
		⑪ S	2 0 0 0
		⑫ H	5 0 0 0
		⑬ S	2 0 0 0
		⑭ H	5 0 0 0
		⑮ S	2 0 0 0
		⑯ H	5 0 0 0
		⑰ S	2 0 0 0
		⑱ H	5 0 0 0
		⑲ S	2 0 0 0
		⑳ H	5 0 0 0
		㉑ S	2 0 0 0
		㉒ H	5 0 0 0

振球併殺 4 3 2 4 計 318 5  
振球併殺 8 1 1 5 計 304 0

回	打安	得点	打安	得点
佐竹	9	32	4	0
橋	6	20	3	1
前	1	4	1	2
松	2	8	2	2
上	2	4	2	0
津	2	4	2	0
原	2	4	2	0

▶三塁打=亀谷、二塁打=藤野、保良▶暴投=佐竹▶試合時間2時間19分

## 大黒柱 若手を鼓舞

取った。

決勝のマウンドは自身3度目。31歳の経験豊富なベテランは、危険を察知する嗅覚も鋭かった。三回2死一塁ではけん制を2球続けて刺し、相手の攻撃の芽を摘み

## 監督談話

トヨタ自動車・田中大次郎監督 最終勝負だと思っていた。じっと我慢したことが、いい結果につながった。佐竹には全幅の信頼を寄せ、いつも任せると言っている。

セガサミー・初芝清監督 準決勝まで出ていた(好機での)有効な1本が出ず、最後に自分たちの野球ができなかった。(就任1年目で準優勝)納得はしていない。2大会連続を目指してやりますから。

ひと

## トヨタ自動車 田中 大次郎監督

「楽しいと思ったことは一度もない」と振り返る2年間の監督業。だが、この日は違った。「最高の席」に向けて大きく手を振った。

2人の師がいる。一人は、愛知・東邦高時代の監督、阪口慶三さん(70)。「厳しかったが、本当は優しい。落ち込むと、なぜか顔を見たくなる」。昨年、今年と都市対抗の予選で敗退しては訪れ、「パワーをもらった」。もちろん、相手を細かく観察した上での采配は、お手下木だ。

もう一人は、東海大4年の時の監督だった原貞さん(今年5月に78歳で死去)。「攻撃的な野球を見習いたい」と常々思う。2人の名符の教えは大きな財産だ。

170センチほどの身長で、高校ではエースで4番。甲子園にも3度出場した。大学、トヨタ自動車では内野手。社会人での14年間の現役、コーチ生活を終え、会社で9年間「いわゆる人事課長」も務めた。

だからでもないが、選手からは「プレーのことより、あいさつしろとか、スリッパをそろえろとか、よく言われる」の声。だが、なにより社業で培ったのは「人を見る力」。チーム作りに生きる。

勝ちきれず、「スマートだが、淡泊」とも評されたトヨタの野球。「泥くさく」を掲げ、つかんだ日本一。次は悲願の都市対抗優勝を目指す。唯一の楽しみという「ボーっとしている時間」は、長く取れそうにない。

愛知県出身。甲子園ではいずれも初戦負けし、「いい思い出はない」。社会人では都市対抗に5度出場した。

最後まで外角低めを狙った。三ゴロ併殺に打ち取る。トヨタ自動車の右腕・佐竹は両手を突き上げた。今大会は30回余りを投げ、本塁を踏ませなかった。

「調子は良くなかった」と明かすが、ピンチで投じる外角低めへの直球の制球は、捕手の構えたミットが全く動かないほど。0-0の五回2死二塁、坂本への3球目はミットよりもさらに外角低めに投げ込み、審判に手を上げさせた。5球目も同じコースに139キロの直球を投げ、左肩に打ち

取った。

チームは今夏の都市対抗の東海予選で2年連続敗退。佐竹は補強選手として西濃運輸の優勝に貢献し、チームに戻ってきてから若手にこう言ってきた。「失敗してもいい。勝敗の責任はベテランが取る」。この日も新人2人が失策したが、佐竹が抑えた。田中監督は「佐竹が安心感を与えるから、(若手が)思い切ったスイングができています」と評する。走塁ミスもあった藤野は長打2本を放つなど打撃で取り返した。

佐竹にとって過去3度の優勝は「先輩たちに優勝をさせてもらった」。9年目の今季、身長169センチの小柄な大黒柱は若い選手を引っ張り、頂点にたどり着いた。ベテランが支え、若手が伸び伸びプレーする。チームのこのサイクルが、ここ7大会で4回優勝の源だ。



完投で優勝を果たし、高々と手を上げる佐竹

## 力投 悔しい2球

横田哲投手(22)セガサミー

「悔しい」と、かみしめるように言った。

グラウンド整備で一息ついた直後の六回、先頭の亀谷にファーストストライクを中堅右に運ばれて三塁打。次の木下には追い込んでからの3球目を左前に返され、先制された。いずれも持ち味のチェンジアップが「甘く入った」。この回限りで降板し、結果的にここで勝負が決まった。

五回までは前日の準決勝で149球の完封劇を演じた疲れを感じさせなかった。速球で打者の懐を突き、変化球を内外角に散らす。ストライク先行のテンポの良い投球



力投するセガサミーの先発・横田

で、二塁を踏ませなかった。それだけに惜しまれる2球だった。

社会人1年目は悔しさを力に変えてきた。都市対抗初戦で敗れた富士重工業を、今大会の予選で完封。3回戦では、都市対抗2次東京予選で打ち負かされたNTT東日本を1失点完投した。

今大会4試合30イニングの力投は、都市対抗を含む2大会で2勝以上がなかったチームを「ファイナリスト」に押し上げた。だが、頂点を目前にした敗戦には「こんなに悔しいものはない」。口を一文字に引き締めて、少し苦い。来季への原動力をかみしめた。

第40回記念大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞 佐竹功年投手(トヨタ自動車) 4安打完封した決勝を含め、4試合に登板。30回3分の2を投げて被安打9、無得点に抑えた。香川・土庄高、早大出の入社9年目。31歳。

◇敢闘賞 横田哲投手(セガサミー) 日本生命を完封した準決勝と、決勝を含め4試合に先発。自責点3、防御率0.90で、準優勝に貢献した。埼玉・飯能南高、上武大出の入社1年目。22歳。

◇首位打者賞 岩下知永内野手(日本生命) 全4試合で毎試合安打。15打数8安打3打点。5割3分3厘。大阪桐蔭高、龍大出の入社8年目。30歳。

◇打撃賞 瀧野光太郎内野手(トヨタ自動車) 決勝で2長打を含む3安打2打点の活躍。全5試合で毎試合安打を放ち、21打数10安打6打点を記録した。愛媛・今治西高、立命大出の入社1年目。22歳。

◇優秀選手

[投手]佐竹功年、上杉芳貴(以上トヨタ自動車)、横田哲、上津原詳(以上セガサミー)、四丹健太郎(パナソニック)、清水翔太(日本生命)、飯田哲矢(JR東日本)、松田拓磨(NTT西日本)、小畑彰宏(大阪ガス)、佐伯尚治(西濃運輸) [捕手]木下拓哉(トヨタ自動車)、猶木光(大阪ガス) [一塁手]沢良木喬之(セガサミー) [二塁手]河合完治(トヨタ自動車)、江藤圭樹(セガサミー)、岩下知永(日本生命) [三塁手]瀧野光太郎(トヨタ自動車)、柳田一喜(パナソニック) [遊撃手]樺沢健(トヨタ自動車)、山本真也(日本生命) [外野手]小島宏輝(トヨタ自動車)、川端裕也(セガサミー)、松元裕章(パナソニック)、高橋英嗣(日本生命)、中西純平(NTT西日本)、土井翔平(大阪ガス) [指名打者]三上恭平(パナソニック)、亀山祐輝(大阪ガス)



[2回戦]トヨタ自動車-日本新薬 五回表トヨタ自動車2死一塁、木下が左中間に2点本塁打を放つ



[2回戦]JFE西日本-響宮製作所 六回表JFE西日本1死一、三塁、浦が左前通時打を放つ



[準決勝]パナソニック-トヨタ自動車 打撃賞受賞のトヨタ自動車の瀧野



[2回戦]日本生命-JR西日本 八回表日本生命2死満塁、3点通時二塁打を放ちガッツポーズをする有竹



[2回戦]日本生命-JR西日本 日本生命二回表2死から岩下が左前打



[2回戦]JR東日本東北-ホンダ 延長十一回裏ホンダ1死二塁、長島が左越えにサヨナラとなる二塁打を放つ



[3回戦]JFE西日本-パナソニック 二回裏パナソニック2死、柳田が左越え本塁打を放つ



[2回戦]セガサミー-三菱重工神戸 延長十二回裏、最後の打者を打ち取り、ガッツポーズをするセガサミーの上津原



[準々決勝]NTT西日本-パナソニック 九回裏、最後の打者を打ち取りガッツポーズをするパナソニックの四丹





(赤字チーム本大会出場チーム)

## 北海道

9月20日から 3日間 札幌円山球場

航空自衛隊千歳	9-7	J R 北 海 道
航空自衛隊千歳	6-7	室蘭シャークス
J R 北 海 道	2-1	室蘭シャークス
J R 北 海 道	8-0	航空自衛隊千歳
室蘭シャークス	4-1	航空自衛隊千歳
室蘭シャークス	0-3	J R 北 海 道

代表=J R北海道

## 東北

8月28日から 4日間 仙台市民球場・石巻市民球場

トヨタ自動車東日本	10	2	日本製紙石巻
J R 秋 田	0	2	
七十七銀行	5	4	
J R 盛 岡	0	4	
T D K	2	6	七十七銀行
きらやか銀行	3	3	
日本製紙石巻	10	8	七十七銀行
フェズント岩手	0	2	
トヨタ自動車東日本	8	2	七十七銀行
きらやか銀行	2	3	
七十七銀行		3	

## 関東

8/27・29・31~9/2 5日間 大田スタジアム

J R 千 葉	0	5	東 芝
日立製作所	14	8	
東 芝	2	8	
三菱自動車東芝	0	0	日本通運
日本通運	12	0	
新日鉄住金鹿嶋	0	1	
日本通運	4	1	
J R 水 戸	0	0	セガサミー
富士重工業	5	5	
東京ガス	2	5	
セガサミー	4	5	明治安田生命
日本通運	0	7	
明治安田生命	11	5	
J X - ENEOS	5	5	

大会名	期	間	優	勝
都市対抗大会	7/18~12	日	西 洋 運 輸	
全日本クラブ選手権	9/5~4	日	丸 島 工 業	
日本選手権対象JABA大会				
大会名	期	間	優	勝
JABA 東京近畿	3/10~4	日	JFE東日本	
JABA 静 岡	4/2~5	日	積 宮 製 作 所	
JABA 四 国	4/4~5	日	東 邦 ガ ス	
JABA 日 立 市 長 杯	4/10~4	日	J R 東 日 本	
JABA 長 野	4/11~4	日	パ ナ ソ ニ ッ ク	
JABA 岡 山	4/18~5	日	三 菱 重 工 広 島	
JABA 京 都	4/28~5	日	NTT 西 日 本	
JABA 北 海 道	5/2~4	日	東 邦 ガ ス	
JABA 九 州	5/7~5	日	ホ ン ダ	
JABA 東 北	5/8~4	日	J R 東 日 本 東 北	
JABA 北 海 道	6/23~5	日	NTT 東 日 本	

## 北信越

9月5日から 3日間 富士市民球場アルペンスタジアム

▶予選リーグ

フェデックス	2	6	バイタルネット
バイタルネット	9		
信越硬式野球クラブ	2	2	
伏木海陸運送	3	1	
J R 新 潟	0	0	

## 東海

9月2日から 8日間 岡崎市民球場

ヤマハ	4	2	トヨタ自動車	
ホンダ鈴鹿	6			3
永和商事ウイング	1			1
王子製紙	1	1		
J R 東 海	0	1	3	
トヨタ自動車	8	3		
新日鉄住金東海REX	4	1	三菱重工名古屋	
ジェイプロジェクト	3			2
三菱自動車岡崎	2	2		
三菱重工名古屋	16	1		
日本プロスポーツ専門学校	0	0		
東海理化	0	0	2	
<敗者復活戦>				
新日鉄住金東海REX	3	3	ホンダ鈴鹿	
永和商事ウイング	0			2
J R 東 海	6	6		
ホンダ鈴鹿	6	3	3	
王子製紙	2	4		
ヤマハ	3	1		
三菱自動車岡崎	16	3	ヤマハ	
日本プロスポーツ専門学校	0	1		
ジェイプロジェクト	3	4		
東海理化	1	1		

## 近畿

9月2日から 10日間 わかさスタジアム京都

三菱重工神戸	6	2	大阪ガス
履正社学園	2		
トータル阪神	3	8	
日本新薬	0	1	
大阪ガス	1	6	日本生命
日本生命	4		
島津製作所	0	2	
カナフレックス	7	2	
ニチダイ	2	3	
甲賀健康医療専門学校	0	2	2
新日鉄住金広畑	4	4	
<敗者復活戦>			6
新日鉄住金広畑	7	0	
履正社学園	0	4	
ニチダイ	7	0	
トータル阪神	2	2	5
カナフレックス	0	2	
島津製作所	5	0	10
甲賀健康医療専門学校	9	4	
日本新薬	1	1	15
三菱重工神戸	1	5	
ニチダイ	0	5	三菱重工神戸
三菱重工神戸	5	8	
新日鉄住金広畑	8	15	ニチダイ
ニチダイ	15	2	
新日鉄住金広畑	2	2	

## 中国

9月3日から 5日間 津田恒美メモリアルスタジアム

▶予選リーグ

J R 西 日 本	5	2	J R 西 日 本
光シーガルス	0		
伯和ビクトリーズ	2	1	
シティライト岡山	0	0	
三菱自動車岡山	3	10	
ツネイシ	0	1	JFE西日本
JFE西日本	7		
<敗者復活戦>			2
光シーガルス	1	1	
シティライト岡山	6	2	4
ツネイシ	0	1	
伯和ビクトリーズ	3	2	JFE西日本
三菱自動車岡山	1	3	
JFE西日本	7	3	

## 四国

8月29日から 3日間 レグザスタジアム

▶一次予選

J R 四 国	7-1	アークバリア
四国銀行	2-4	J R 四 国
アークバリア	0-3	四 国 銀 行
四国銀行	8-1	アークバリア
J R 四 国	5-8	J R 四 国
アークバリア	3-4	四 国 銀 行

▶二次予選

J R 四 国	2-0	四 国 銀 行
四国銀行	2-3	J R 四 国

代表=J R四国

## 九州

9月3日から 5日間 筑前市球場・北九州市立大谷球場

ホンダ熊本	3	7	J R 九 州
三菱重工長崎	2		
エナジック	1	0	
福岡ソフトバンク	3	3	
九州三菱自動車	5	1	3
福岡ソフトバンク	1	7	
熊本ゴールデンラークス	9	4	西部ガス
沖崎電力	3		
宮崎梅田学園	4	0	
西部ガス	12	13	1
九州電力ポーツカレッジ	0	2	
新日鉄住金大分クラブ	2	2	3
新日鉄住金大分クラブ	1	2	
J R 九 州	11	11	
<敗者復活戦>			3
熊本ゴールデンラークス	1	8	
西部ガス	8	2	西部ガス
ホンダ熊本	2	2	

Table with 2 columns: Name and Number. Section: バイタルネット. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 日本通運. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 明治安田生命. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: セガサミー. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 東芝. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: J R 東日本東北. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: NTT 東日本. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: J R 北海道. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 日本製紙石巻. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 七十七銀行. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: J R 東日本. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 三菱重工広島. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: パナソニック. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: NTT 西日本. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: Honda. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 西濃運輸. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 茨城ゴールデンゴールズ. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: J F E 東日本. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 鷺宮製作所. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: 東邦ガス. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.

Table with 2 columns: Name and Number. Section: J R 東日本. Includes names like 大田 大, 大田 大, etc.



**ダイヤの軌跡**  
40回記念  
日本選手権

社会人野球日本選手権(毎日新聞社、日本野球連盟主催、大阪市共催)は、第40回の記念大会を迎えた。補強制度のある都市対抗とは異なり、単独チームでの日本一を決めようと、1974年にスタート。優勝チームが手にする「ダイヤモンド旗」を巡る40年の「足跡」を振り返る。

**初代王者、幻の快拳**

1974年11月4日、曇り空の阪神甲子園球場。三菱精機の右腕・大塚喜代美(61)=現松本大野球部監督=の前で打球が跳ね上がった。懸命にジャンプするが、グラブをかすめボールは後ろに。打者走者が一塁を駆け抜けた瞬間、ため息と歓声が交錯した。

日本鋼管福山との第1回大会決勝。下手からのシンカーが「面白いように決まった」。九回二死まで被安打。無安打無得点試合を目前に、唯一許した安打が投手強襲打だった。「しようがない」。気を取り直し次打者を打ち取り、4-0で優勝投手になった。

神奈川県・桐蔭学園高で71年夏の甲子園を制し、社会人になって3年目。期待の21歳は翌春、左足を痛める。現役を続けたが、結局プロ入りすることなく選手生活を終えた。

あの決勝から35年後、三菱重工神戸の木林敏郎(41)が大会唯一の無安打無得点試合を達成したニュースに、「おれもやったりやなあ」。初めて悔しさを感じた。

ドラマに満ちた第1回大会を、近畿地区野球連盟理事(現副会長)の河合貞雄(83)は感慨深く見守った。

前年まで、社会人といえは都市対抗と産業別対抗だった。ともに舞台は東京・後楽園球場。ただ鉄鋼、造船など各業界代表が覇を競う産業別は、産業構造の変化などで見直しの時期にあった。補強制度のない単独チーム日本一を決める大会創設を促す声も出ていた。

河合は「佐伯さんの存在が大きかった」と連懐する。故佐伯達夫は日本高校野球連



<左>第1回大会決勝で九回二死まで無安打に抑えた三菱精機の大塚  
<右>第1回の「社会人日本一」に輝き、ダイヤモンド旗を先頭にグラウンドを一周する三菱精機ナイン

盟会長で、日本社会人野球協会最高顧問を兼ねていた。高校野球と同じく、関西で社会人の選手権大会を開くことを「念願」とし、精力的に企業などから協力を取り付けた。河合は「佐伯さんが言われるなら仕方ないという感じだった」と笑う。

産業別から日本選手権へ、2011年は東日本大震災で中止になったが、甲子園、大阪球場、グリーンスタジアム神戸(ほっともっとフィールド神戸)、京セラドーム大阪と会場を移しながら40年。「観客動員などまだまだ十分とは言えないが、よく育ってきた」と河合。都市対抗とともに2大大会の一つとして、幾多の名勝負、名選手を生んできた。

**最多7回優勝、住友金属**

「油断なく観みなく、今やるべきことを浮かれず騒がず考えられるチームだった」。1982年に都市対抗初優勝、83、84年に日本選手権連覇を遂げ、黄金期の「住友金属野球部」を監督として率いた山中正竹(67)=現法人特任教授=は振り返る。

51年創部。岐阜卓商、慶大で活躍した左腕・清沢忠彦(76)を擁し65、66年に都市対抗で連続準優勝したが、日本一には届かなかった。その壁を破ったのが創部20年を迎えた71年、社外から監督に招へいされた松永裕一(82)だった。法大でも教えを受けた山中は、当時の松永を「妥協を知らない情熱があった」と懐かしむ。

77年は駒大出の新人右腕・森繁和(59)=現中口ヘッドコーチ=を軸に日本選手権で初優勝した。「夏はチーム初の3年連続都市対抗出場が期待されながら初戦敗退。悔しさとともに、トーナメントの厳しさも学んだから、日本選手権は必死だった」と森は言う。

79年は将来の監督候補として人望を集めながら同年に30歳で病死した捕手の中村裕二に、2回目の日本一をささげた。81年に山中が監督になった頃には、箕島高で春夏の甲子園を制した石井毅(53)=木村竹志、元西武、嶋田宗彦(52)=現阪神スコアラ―=のバッテリーをはじめとする高校、大学のスター選手に加えて、松永の監督時代からチームで育った高校卒業

の選手たちが成長していた。山中は「選手の間には妥協を許さない厳しさがあって、どういふ練習をすれば勝ちにつながるかを、選手自身が理解し動いていた」と当時のチームを表現する。試合前から一貫して緊張感ある雰囲気は他チームから一目置かれ、「それが誇りだった」と山中は話す。

厳しさの中で、高校卒業の選手を鍛えてハイレベルの社会人にするチームの育成力は、或る先としては敬遠されがちな地方のチームを、日本選手権で最多7回の優勝を遂げる強豪に押し上げた。

だが、バブル崩壊後の長引く不況には勝てず、99年の日本選手権出場を最後に廃部。「寂しいもんだよ」という森の一言は、多くの球界関係者、ファンの思いでもある。



山中監督を拥上げる住友金属ナイン

**名投手 自在の快投**

2009年の第36回大会。三菱重工神戸のエース左腕だった木林敏郎(41)が、大会唯一の快拳を達成した。1回戦の鷺宮製作所戦での無安打無得点試合(ノーヒット・ノーラン)。大阪・藤井寺工高から入社19年目、37歳での偉業だった。

許した走者は、五回までの3四死球だけ。12奪三振で、打撃が一回に奪った1点

を守り切った。相手が六回から計7人も右の代打軍に出たことが幸いした。「右打者の方が、外角に沈む球で打ち取りやすかった。いけると思った」と言う。

若いころは力投型で制球難。長い年月をかけて力を抜くことを覚え、投手板の踏む位置、球の回りなど工夫を凝らしてきた。この日は「相手の待つ球が、ほとんど分かった」境地に達していた。

だが、続く大和高田夕哉は「要に意識した投球」となり、五回途中に3失点で降板。



チームも敗れた。社業に専念する今も、ボールを取り、握りを模索する。心残りの一つだ。

かつてはエース＝完投の時代だった。1975年の第2回大会を制した鐘淵化学の右腕・宮田典計(60)は全5試合に先発し、4完投のうち北海道拓殖銀行との決勝を含む3完投。力投が際立つ。

兵庫・社高を経て3年目。「頭と体の感覚がピタリと一致した大会」と言う。決め球はスライダー。「このあたりでリリースしたら、こう曲がってこう打ち取れる」と、思い通りの投球ができた。

直後の新人選手選択(ドラフト)会議で阪神へ3位入団。「鐘化の練習から逃げられると、うれしかった」と笑う。練習後はスパイクまで汗だくで「じゃぶじゃぶと音がした」そうだ。

プロでは本領を発揮できず、10年で通算1勝。ただ、「社会人で学んだ金銭感覚や礼儀作法」は後に生きる。81年に移籍した阪急(現オリックス)でスコアラー、査定担当などを歴任。現在はイチロー(ヤンキース)も果立った「青洲館」の寮長だ。



<左>2009年、警宮製作所を相手に無安打無得点を達成し喜ぶ三菱重工神戸・木林敏郎(中央)  
<右>1975年の第2回大会で、5連投して鐘淵化学の優勝に貢献した宮田典計

国際大会の潮流に合わせ、1979年の第6回大会から金属バットが導入され、打撃戦が繰り広げられた。

第21回大会(94年)では、日本通運の松田剛(46)が決勝では初の2打席連続本塁打。日産自動車との激闘を9-8で制する初優勝の原動力となった。

3年間在籍した熊谷組が休部し、移籍1年目。日本通運は前年の都市対抗で準優勝したが、この夏は予選敗退。熊谷組で1年目から4番の松田は「何とか役に立ちたい。日本選手権こそは、という気持ちが強かった」と、当時の心境を語る。

1本目は、2点リードの四回2死一塁。3ボールからの4球目だったが、「甘い球ならば打てと、日ごろから言われていた」。直球をフルスイングすると、左中間席ぎりぎりに飛び込んだ。

後に阪神で活躍した川尻哲郎(45)から放った七回のソロは、「完璧に打った」。一発。「右のアンドースローに、右打者はフルスイングできない。体を開かないように注意して中堅方向に打ち返す意識で振り抜いた」。2008年から千葉・流通経大柏高の監督。2本目の本塁打の感覚は、指導の中でも伝えている。

最後に金属バットが使用された第28回大会(01年)。三菱重工長崎が、その威力を存分に生かした強打で、初の頂点に立った。当時監督の林修治(58)は笑う。「印象に残る一打を、覚えていないんですよ。皆が皆、あまりに打ったから」

圧巻は松山フェニックスとの2回戦。一回に1イニングチーム最多記録の12安

## 金属バット 強打席巻



<左>猛打で初優勝を果たし、喜ぶ三菱重工長崎の選手たち=三村政司撮影  
<右>第21回大会で、決勝では初の2打席連続本塁打を放った日本通運の松田剛

打、14得点。計24安打、23得点で七回コールド勝ちし、「試合チーム最多安打、得点の記録も塗り替えた。「誰を4番に置いてもいい打線。あまりサインを出す必要がなかった」(林)。勢いは止まらず、全5試合で2桁安打、計55得点を挙げた。

実は翌年以降をにらみ、この夏の都市対抗後から、復活する木製バットでの練習を始めていた。林は木製対策にミートを意識させつつ、それまでに培った「しっかり振る姿勢」は失わないように指導。時代の転換点に生まれた空前絶後の猛打だった。

## V逃し プロで開花

勝者の数だけ、敗者がある。ただ、準優勝チームの選手に贈られる敢闘賞受賞者は、後にプロ野球で活躍する傾向にもある。

古くは1976年の第3回大会で受賞した日産佐賀岡・藤沢公也(62)が中日、第5回大会(78年)の東京ガス・松沼博久(62)が西武で、79年にセ・パ両リーグで新人王を同時に獲得している。ともにエースだった。

現役選手にも、涙をのんだ男たちがいる。阪神の左腕・能見篤史(35)。大阪ガス時代の第30回(2003年)に敢闘賞を得た。鳥取城北高から入社6年目。故障がちで、「僕にはスタートみたいな意味合いだった」。

この年の日産自動車との決勝では、延長十一回にサヨナラ二塁打を打たれる。再び決勝に進んだ翌年も、JFE西日本戦で延長十五回にソロ本塁打を浴び、またも準優勝に終わる。この後の新人選手選択(ドラフト)会議で、阪神へ入団。「(敢闘賞は)自信につながったし、うれしかった」と言う能見は、12年にはリーグ最多奪三振も記録した。

今季のバ・リーグで激しい優勝争いを演じたオリックスで、中継ぎ役を担った岸田渡(33)もNTT西日本で、第32回大会(05年)の敢闘賞。松下電器(現パナソニック)との大阪対決に敗れた。

この夏の都市対抗本大会(2回戦敗退)は、右肩を痛めて投げられなかった。治療して、日本選手権前にはプロ入りが決定。「優勝すると思っていたが、そんなに甘くなかった」と思い出す。大阪・東正社高、東北福祉大を経た岸田は言う。「アマチュアの

中でも、社会人は特別。都市対抗予選では、先輩が吐きそうになった。負けたら、どんな顔をして会社に行くんだと、プレッシャーは、すごいものがあつた」

DeNAのベテラン外野手・金城龍彦(38)も、住友金属の投手として第24回(97年)に敢闘賞。決勝で三菱重工神戸に敗れたこの年、初戦のNTT北海道戦で投げた165球は、今も1試合最多投球記録だ。プロで野手に転向し、00年には首位打者にも輝いた金城は、「あのころは技術よりも、気持ちでした」と笑う。



<左>第30回大会敢闘賞の大阪ガスの能見  
<中>第32回大会のNTT西日本の岸田  
<右>DeNA・金城





本塁打

- ▶満塁
  - 7 (1980) ①荒井(神戸製鋼) 対大昭和製紙北海道
  - 9 (1982) ②岡田(日本通運) 対日本楽器
  - 11 (1984) ③高橋(国鉄名古屋) 対日本IBM野洲
    - 〃 ④中村(日本楽器) 対富士重工業
    - 〃 ⑤伊藤(日本通運) 対電電北海道
    - 〃 ⑥中村(神戸製鋼) 対日本通運
  - 15 (1988) ⑦森田健(四国銀行) 対新日鉄室蘭
    - 〃 ⑧武田(NTT中国) 対大阪ガス
      - =代打
    - 〃 ⑨西(四国銀行) 対NKK
    - 〃 ⑩高見(東芝) 対本田技研熊本
  - 16 (1989) ⑪徳永(日本石油) 対神戸製鋼
    - 〃 ⑫中西(大阪ガス) 対能谷組
  - 17 (1990) ⑬南谷(三菱重工三原) 対富士重工業
  - 19 (1992) ⑭徳永(日本石油) 対新日鉄大分
  - 21 (1994) ⑮渡辺敦(日産自動車) 対日本生命
    - 〃 ⑯青柳(日産自動車) 対日本通運
  - 22 (1995) ⑰塚田(三菱自動車京都) 対NTT北陸
    - 〃 ⑱鈴木(三菱自動車川崎) 対三菱自動車広島
  - 23 (1996) ⑲東谷(四国銀行) 対東芝
    - 〃 ⑳柴田(NTT四国) 対JT
    - 〃 ㉑江副(日産自動車) 対昭和コンクリート
  - 25 (1998) ㉒竹下(川崎製鉄水島) 対東芝府中
    - 〃 ㉓中尾(大和銀行) 対日産自動車九州
  - 26 (1999) ㉔大森(日本IBM野洲) 対日産自動車九州
  - 28 (2001) ㉕山井(トヨタ自動車) 対大阪ガス
  - 32 (2005) ㉖田原(松下電器) 対九州三菱自動車
  - 35 (2008) ㉗中原(Honda鈴鹿) 対JR北海道
  - 37 (2010) ㉘松尾(祐)(三菱重工長崎) 対三都四国
  - 39 (2013) ㉙内藤(JFE東日本) 対日本生命

▶サヨナラ

- 4 (1977) ①直村(門司鉄道管理局) 対新日鉄釜石
  - =延長14回
- 7 (1980) ②小川(河合楽器) 対大倉工業
  - 〃 ③東田(河合楽器) 対東芝
  - 〃 ④木原(松下電器) 対日本生命
- 12 (1985) ⑤大須賀(河合楽器) 対本田技研熊本
  - =代打
- 13 (1986) ⑥本村(新日鉄八幡) 対三菱自動車川崎
  - =延長10回
  - 〃 ⑦西(四国銀行) 対新日鉄広畑
    - =延長11回
  - 〃 ⑧浜名(川崎製鉄神戸) 対NTT北陸
    - =延長10回
- 14 (1987) ⑨船越(新日鉄広畑) 対日本石油
  - =延長11回
- 17 (1990) ⑩南谷(三菱重工三原) 対富士重工業

- =満塁
- 21 (1994) ⑪佐藤(河合楽器) 対北陸銀行
  - =延長14回
  - 〃 ⑫渡辺敦(日産自動車) 対日本生命
    - =満塁
- 22 (1995) ⑬加藤秀(三菱自動車岡崎) 対日本通運
- 23 (1996) ⑭江副(日産自動車) 対昭和コンクリート
  - =満塁
- 24 (1997) ⑮山本(川崎製鉄水島) 対三菱自動車川崎
  - =延長11回
- 39 (2013) ⑯遠藤(東京ガス) 対東邦ガス

▶先頭打者

- 14 (1987) ①荻原(本田技研) 対NTT信越
- 15 (1988) ②鈴木(日本石油) 対新日鉄八幡
- 16 (1989) ③渡辺(JT) 対新日鉄大分
  - 〃 ④吉竹(西濃運輸) 対日本生命
- 17 (1990) ⑤市川(富士重工業) 対三菱重工三原
  - 〃 ⑥早野(三菱重工三原) 対NTT北海道
  - 〃 ⑦橋本(NTT北海道) 対日本石油
- 18 (1991) ⑧上村(川崎製鉄神戸) 対JT
- 19 (1992) ⑨竹村(大阪ガス) 対NTT東北
- 24 (1997) ⑩大川(NTT四国) 対日産自動車
- 26 (1999) ⑪西川原(北陸銀行) 対小西酒造
  - =開幕試合
  - 〃 ⑫山本(神戸製鋼) 対JT
- 28 (2001) ⑬上村(日本新薬) 対三菱自動車岡崎
  - 〃 ⑭上村(日本新薬) 対いすゞ自動車

▶大会通算最多

15 (1988) 75

▶大会通算チーム最多

15 (1988) 16 四国銀行

▶大会通算個人最多

11 (1984) 6 伊藤(日本通運) 対電電四国1、  
電電北海道2、神戸製鋼2、電電東海1

▶1試合最多

16 (1989) 8 四国銀行(6)-NTT東北(2)

▶1試合チーム最多

16 (1989) 6 四国銀行 対NTT東北

▶1イニングチーム最多

15 (1988) 3 東芝 対NTT四国  
28 (2001) 3 日産自動車九州 対協和発酵

11 (1984) 6 伊藤(日本通運) 対電電四国1、  
電電北海道2、神戸製鋼2、電電東海1

▶1試合最多

16 (1989) 8 四国銀行(6)-NTT東北(2)

▶1試合チーム最多

16 (1989) 6 四国銀行 対NTT東北

▶1イニングチーム最多

15 (1983) 3 東芝 対NTT四国

▶1試合個人最多

6 (1979) 2 村上(大昭和製紙北海道) 対三菱重工神戸  
7 (1980) 〃 山内(日本鋼管福山) 対オール常交

9 (1982) 〃 岡田(日本通運) 対岩手銀行

10 (1983) 〃 米田(日産自動車) 対電電信越  
〃 〃 花野(日本生命) 対日産自動車

11 (1984) 〃 伊藤(日本通運) 対電電北海道  
〃 〃 石田(松下電器) 対三菱重工長崎  
〃 〃 島田(松下電器) 対三菱重工長崎  
〃 〃 伊藤(日本通運) 対神戸製鋼  
〃 〃 中村(神戸製鋼) 対日本通運

12 (1985) 〃 岡崎(本田技研鈴鹿) 対川崎製鉄神戸

13 (1986) 〃 中西(NTT東海) 対協和発酵  
〃 〃 西(四国銀行) 対新日鉄広畑  
〃 〃 木戸(NTT東海) 対NTT東北  
〃 〃 山本(阿部企業) 対川崎製鉄神戸

14 (1987) 〃 菊田(NTT東北) 対日産自動車九州  
〃 〃 雨堤(本田技研) 対四国銀行  
〃 〃 長井(本田技研) 対日本IBM野洲

15 (1988) 〃 飯田(日本IBM野洲) 対王子製紙川井  
〃 〃 徳永(日本石油) 対神戸製鋼  
〃 〃 折原(大阪ガス) 対NTT中国  
〃 〃 田中(四国銀行) 対NKK

16 (1989) 〃 徳永(日本石油) 対神戸製鋼  
〃 〃 森田健(四国銀行) 対NTT東北  
〃 〃 佐藤(住友金属) 対NTT中国

17 (1990) 〃 小森(西濃運輸) 対本田技研熊本  
〃 〃 南谷(三菱重工三原) 対富士重工業  
〃 〃 鶴岡(日産自動車) 対北陸銀行  
〃 〃 松原(東芝) 対JT  
〃 〃 五十嵐(日本石油) 対NTT北海道  
〃 〃 若林(日本石油) 対東芝

18 (1991) 〃 上野山(三菱自動車京都) 対四国銀行

19 (1992) 〃 大久保(日本石油) 対三菱重工神戸

20 (1993) 〃 川崎(日本通運) 対NTT北陸

21 (1994) 〃 松田(日本通運) 対日産自動車

22 (1995) 〃 桑元(三菱自動車川崎) 対JT  
〃 〃 塚田(三菱自動車京都) 対NTT北陸  
〃 〃 鈴木(三菱自動車川崎) 対三菱自動車広島





- 23 (1996) \* 若林(日本石油) 対松下電器  
 24 (1997) \* ビクトル・メサ(ニコニコドー) 対三菱重工名古屋  
 \* \* 玉置(住友金属) 対川崎製鉄水島  
 25 (1998) \* 福留(日本生命) 対大阪ガス  
 26 (1999) \* 田中(シダックス) 対NTT西日本九州  
 \* \* 上中(小西酒造) 対J.R.四国  
 \* \* 田中(シダックス) 対松下電器  
 27 (2000) \* 青山(J.R.東海) 対サンワード貿易  
 28 (2001) \* 山上(松下電器) 対日立製作所  
 \* \* 岡部(サンワード貿易) 対七十七銀行  
 \* \* 上村(日本新薬) 対三菱自動車岡崎  
 \* \* 松山(神戸製鋼) 対三菱ふそう川崎  
 30 (2003) \* 広瀬栄(トヨタ自動車) 対東京ガス  
 40 (2014) \* 柳田(パナソニック) 対JFE西日本

▶個人連続試合

- 11 (1984) 4 伊藤(日本通運) 対電電四国、  
電電北海道、神戸製鋼、電電東海

▶個人2打席連続

- 6 (1979) 村上(大昭和製紙北海道) 対三菱重工神戸  
 10 (1983) 花野(日本生命) 対日産自動車  
 11 (1984) 伊藤(日本通運) 対電電北海道  
 13 (1986) 中西(NTT東海) 対協和発酵  
 14 (1987) 長井(本田技研) 対日本IBM野洲  
 15 (1988) 飯田(日本IBM野洲) 対王子製紙春日井  
 \* 梁原(東芝) 対NTT四国、日本たばこ  
 16 (1989) 徳永(日本石油) 対神戸製鋼  
 17 (1990) 松原(東芝) 対JT  
 20 (1993) 川崎(日本通運) 対NTT北陸  
 21 (1994) 松田(日本通運) 対日産自動車  
 22 (1995) 桑元(三菱自動車川崎) 対JT  
 \* 塚田(三菱自動車京都) 対NTT北陸  
 23 (1996) 若林(日本石油) 対松下電器  
 24 (1997) ビクトル・メサ(ニコニコドー) 対三菱重工名古屋  
 25 (1998) 福留(日本生命) 対大阪ガス  
 26 (1999) 田中(シダックス) 対NTT西日本九州  
 \* 上中(小西酒造) 対J.R.四国  
 \* 田中(シダックス) 対松下電器  
 27 (2000) 青山(J.R.東海) 対サンワード貿易  
 28 (2001) 上村(日本新薬) 対三菱自動車岡崎  
 30 (2003) 広瀬栄(トヨタ自動車) 対東京ガス

- 40 (2014) 柳田(パナソニック) 対JFE西日本

▶チーム2連続本塁打

- 6 (1979) 大昭和製紙北海道(高梨、村上) 対三菱重工神戸  
 11 (1984) 日立製作所(原山、内田) 対国鉄名古屋  
 13 (1986) 阿部企業(前田、山本) 対川崎製鉄神戸  
 14 (1987) 王子製紙春日井(藤崎、近藤) 対能谷組  
 15 (1988) 東芝(小林、高田) 対NTT四国  
 \* 四国銀行(田中、谷岡) 対新日鉄宝蘭  
 \* 本田技研熊本(田道、久保) 対新日鉄堺  
 \* 東芝(南淵、丹波) 対日本石油  
 16 (1989) 本田技研(朝山、西) 対NTT四国  
 \* 四国銀行(森田健、宮本章) 対NTT東北  
 17 (1990) 日本石油(五十嵐、若林) 対NTT北海道  
 19 (1992) 日本石油(坂口、若林) 対新日鉄大分  
 23 (1996) 日本石油(若林、大久保) 対松下電器  
 24 (1997) 中山製鋼(高野、守田) 対NTT中国  
 25 (1998) 日本生命(野上、福留) 対新日鉄名古屋  
 \* J.T.(佐伯、瀬戸) 対NTT北陸  
 \* 大阪ガス(保瀬、澤多) 対日本通運  
 26 (1999) 小西酒造(浜口、上中) 対J.R.四国  
 \* シダックス(ビクトル、田中) 対松下電器  
 28 (2001) 七十七銀行(庄司、高橋利) 対サンワード貿易  
 33 (2006) 新日本石油ENEOS(坂下、池辺) 対J.R.東日本東北

安打

▶大会通算最多

- 28 (2001) 529

▶1試合最多

- 15 (1988) 35 NTT中国(20)ー東海理化(15)

▶1試合最少

- 3 (1976) 04 日鉱佐賀岡(2)ー日本楽器(2)

▶1試合チーム最多

- 28 (2001) 24 三菱重工長崎 対松山フェニックス

▶1イニングチーム最多

- 28 (2001) 12 三菱重工長崎 対松山フェニックス

▶1イニング連続安打

- 2 (1975) 07 鐘淵化学 対住友金属の7回  
 6 (1979) \* 住友金属 対神戸製鋼の8回  
 17 (1990) \* NTT東北 対四国銀行の2回

▶毎回

- 8 (1981) 東芝 対四国銀行  
 8 (1981) 日本生命 対電電九州  
 =7回コールド  
 11 (1984) 日本楽器 対富士重工業  
 \* 神戸製鋼 対電電中国  
 12 (1985) 松下電器 対三菱自動車川崎  
 \* 本田技研 対川崎製鉄神戸  
 =6回コールド  
 16 (1989) 松下電器 対NTT信越  
 19 (1992) 川崎製鉄水島 対日本生命  
 19 (1992) 日本通運 対JT  
 \* 住友金属 対東芝  
 20 (1993) 日立製作所 対新日鉄広畑  
 21 (1994) 神戸製鋼 対NTT東北  
 (両チームが記録)  
 \* 松下電器 対西濃運輸  
 25 (1998) NTT東北 対本田技研  
 28 (2001) 三菱重工長崎 対松山フェニックス=7回コールド  
 32 (2005) 九州三菱自動車 対ホンダ鈴鹿  
 \* 松下電器 対鷺宮製作所  
 33 (2006) 日本生命 対鷺宮製作所

二塁打

▶大会通算最多

- 24 (1997) 109

▶1試合最多

- 24 (1997) 10 三菱自動車川崎(6)ー川崎製鉄水島(4)  
 28 (2001) 10 東芝(6)ー三菱自動車京都(4)

▶1試合チーム最多

- 12 (1985) 7 神戸製鋼 対NTT東海  
 17 (1990) \* NTT北海道 対住友金属

▶1イニングチーム最多

- 10 (1983) 4 王子製紙若小牧 対電電四国の3回  
 28 (2001) \* 三菱重工長崎 対三菱自動車水島の1回  
 29 (2002) \* 東京ガス 対J.R.北海道の3回

**三塁打**

▶大会通算最多

24 (1977) 22

▶1試合最多

38 (2012) 4 東邦ガス(2)-新日鐵住金鹿島(2)  
40 (2012) \* 明治安田生命(2)-ホンダ鈴鹿(2)

▶1試合チーム最多

26 (1999) 3 J T 対TDK千曲川  
36 (2009) \* JFE西日本 対トータル阪神

▶1イニングチーム最多

2 (1975) 2 鐘淵化学 対九州産交  
5 (1978) \* 東京ガス 対三菱重工広島  
6 (1979) \* 住友金属 対神戸製鋼  
15 (1988) \* 日本石油 対東芝  
17 (1990) \* 日本生命 対河合楽器  
18 (1991) \* 三菱自動車京都 対四国銀行  
20 (1993) \* 三菱重工長崎 対住友金属  
\* \* 日本通運 対NTT関西  
24 (1997) \* 三菱重工神戸 対住友金属  
32 (2005) \* 日本生命 対シダックス  
36 (2009) \* JFE西日本 対トータル阪神  
39 (2013) \* 三菱重工広島 対九州三菱自動車

**得点**

▶大会通算

28 (2001) 307

▶チーム大会通算

22 (1995) 64 三菱自動車川崎

▶1試合最多

28 (2001) 30 三菱重工長崎(23)  
-松山フェニックス(7)

▶1試合チーム最多

28 (2001) 23 三菱重工長崎  
対松山フェニックス

▶1イニングチーム最多

28 (2001) 14 三菱重工長崎  
対松山フェニックスの1回

**その他の打撃記録**

▶全員安打

16 (1989) 日本石油 対神戸製鋼  
16 (1989) 熊谷組 対トヨタ自動車  
20 (1993) 日立製作所 対新日鐵釜石  
22 (1995) 三菱自動車川崎 対JT

22 (1995) 日本IBM野洲 対新日鐵名古屋  
24 (1997) 三菱重工神戸 対住友金属  
26 (1999) JT 対JR西日本

▶先発全員安打全員得点

12 (1985) 日本楽器 対大分鉄道管理局  
15 (1988) 東芝 対日本たばこ  
28 (2001) 三菱重工長崎  
対松山フェニックス

▶1試合チーム最多塁打

22 (1995) 38 三菱自動車川崎  
対三菱自動車京都

▶1試合個人最多塁打

7 (1980) 11 山内(日本鋼管福山) 対オール常交  
22 (1995) \* 齊藤(三菱自動車川崎) 対  
三菱自動車京都

▶1試合チーム最多犠打

32 (2005) 8 九州三菱自動車 対ホンダ鈴鹿

▶1イニングチーム最多犠打

4 (1977) 3 住友金属 対九州産交  
7 (1980) \* 北海道拓殖銀行 対川辺製菓  
8 (1981) \* 国鉄名古屋 対協和発酵  
10 (1983) \* 国鉄名古屋 対神戸製鋼  
14 (1987) \* NTT東北 対日産自動車九州  
17 (1990) \* 大昭和製紙北海道 対NTT関西  
18 (1991) \* 河合楽器 対日産自動車  
29 (2002) \* 三菱自動車岡崎 対東京ガス  
※第4回,第8回,第17回,第18回,第29回は連続記録

▶1試合チーム最多盗塁

22 (1995) 7 三菱自動車川崎 対JT

▶1試合個人最多盗塁

6 (1979) 5 川辺(三菱重工神戸)  
対本田技研

**投手**

▶無安打無得点試合

36 (2009) 本林(三菱重工神戸)  
対鷺宮製作所

▶1試合最多奪三振

39 (2013) 15 鯨島(三菱重工広島) 対JR東海

▶連続奪三振

4 (1977) 6 齊藤(新日鐵釜石)  
対門司鉄道管理局

16 (1989) \* 木村(日本生命) 対西濃運輸  
17 (1990) \* 新谷(日本生命) 対NTT東北  
19 (1992) \* 小松山(日本石油) 対NTT北陸  
25 (1998) \* 広田(日本通運) 対NTT北海道

▶毎回奪三振

17 (1990) 新谷(日本生命) 対NTT東北  
=計14個  
26 (1999) 鈴木(小西酒造) 対北陸銀行  
=計13個  
36 (2009) 岡崎(鷺宮製作所) 対三菱重工神戸  
=計11個  
39 (2013) 鯨島(三菱重工広島) 対JR東海  
=計15個

▶全員三振奪取

16 (1989) 金沢健一(日本石油) 対新日鐵宝蘭  
=計10人(11奪三振)

▶最多与四死球

7 (1980) 10 鈴木秀(オール常交)  
対日本鋼管福山  
34 (2007) 10 北野偉(茨城ゴールデンゴールズ)  
対三菱重工名古屋

▶無四球試合

4 (1977) 三協精機(伊藤)-神戸製鋼(登記)  
※3投手以上=I (1974) 鐘淵化学(宮田)-西濃運輸(早川、柴田、宮本)▷4 (1977) 松下電器(福岡)-本田技研鈴鹿(前村、釜本、名和)▷  
20 (1993) 日立製作所(大塚、伊藤)-川崎製鉄水島(朝間)、日産自動車(久保、川尻、一条、篠塚)-住友金属(尾山)▷33 (2006) 松下電器(山本隆之、田中稔)-西濃運輸(佐伯、田中謙)、新日本石油ENEOS(広瀬、谷口、田沢)-大阪ガス(坂本、宮川、山田幸、小嶋)

▶最多投球数

24 (1997) 165 金城(住友金属) 対NTT北海道  
※参考記録=4 (1977) 248 門倉(九州産交)  
対鷺宮製作所=延長19回

▶最少投球数

3 (1976) 69 浅井(TDK) 対九州産交

**守備**

▶1試合チーム最多失策

25 (1998) 6 三菱自動車岡崎 対松下電器

▶1試合チーム最多併殺

13 (1986) 5 川崎製鉄神戸 対新日鐵釜石



回数	優勝	準優勝
第1回	三協精機	日本鋼管福山
第2回	鐘淵化学	北海道拓殖銀行
第3回	新日鉄名古屋	日鋳佐賀関
第4回	住友金属	電電四国
第5回	北海道拓殖銀行	(東京ガス)
第6回	住友金属	(松下電器)
第7回	日本鋼管福山	(日本楽器)
第8回	富士重工業	(大昭和製紙北海道)
第9回	ヤマハ発動機	(日本通運)
第10回	住友金属	(東芝)
第11回	住友金属	(日本通運)
第12回	本田技研	(日本楽器)
第13回	NTT東海	(阿部企業)
第14回	NTT東海	(熊谷組)
第15回	東芝	(本田技研熊本)
第16回	住友金属	(日本石油)
第17回	日本石	(日本石油)
第18回	日本石	(大阪ガス)
第19回	住友金属	(三協精機)
第20回	三菱自動車川崎	(日産自動車)
第21回	三菱自動車川崎	(日産自動車)
第22回	住友金属	(三菱自動車京都)
第23回	三菱重工神戸	(西濃運輸)
第24回	NTT東海	(住友金属)
第25回	NTT東海	(日本生命)
第26回	シダックス	(松下電器)
第27回	松下電	(東芝)
第28回	三菱重工長崎	(東芝)
第29回	日本生命	(ホンダ)
第30回	日産自動車	(大阪ガス)
第31回	JFE西日本	(大阪ガス)
第32回	松下電	(NTT西日本)
第33回	富士重工業	(日本生命)
第34回	トヨタ自動車	(三菱重工名古屋)
第35回	トヨタ自動車	(JR東海)
第36回	JR九州	(Honda)
第37回	トヨタ自動車	(JR九州)
第38回	JX-ENEOS	(JR東日本)
第39回	新日鉄住金かずさマジック	(富士重工業)
第40回	トヨタ自動車	(セガサミー)

第19回	佐川	藤尻川	友哲	昭也	外野手	(プリンスホテル)
第20回	北森	藤田	哲憲	也久	投手	(日産自動車)
第21回	森	田	憲	久	投手	(日産自動車)
第22回	藤	田	宗	一彦	投手	(三菱自動車京都)
第23回	金	城	龍	一彦	投手	(西濃運輸)
第24回	辻	鬼	太	典	投手	(住友金属)
第25回	九	田	義	一典	投手	(日本生命)
第26回	須	田	喜	一典	投手	(松下電器)
第27回	須	田	一	照	投手	(東芝)
第28回	須	田	一	照	投手	(東芝)
第29回	藤	能	一	稔	投手	(ホンダ)
第30回	能	見	一	稔	投手	(大阪ガス)
第31回	板	本	一	護	投手	(大阪ガス)
第32回	岸	田	一	護	投手	(NTT西日本)
第33回	下	領	一	護	投手	(日本生命)
第34回	白	倉	一	幸	投手	(三菱重工名古屋)
第35回	川	野	一	幸	投手	(JR東海)
第36回	藤	部	一	大	投手	(Honda)
第37回	濱	野	一	大	投手	(JR九州)
第38回	吉	田	一	大	投手	(JR東日本)
第39回	東	明	一	大	投手	(富士重工業)
第40回	横	田	一	大	投手	(セガサミー)

最高殊勲選手賞 (優勝)

第1回	大塚	代美	投手	(三協精機)
第2回	宮田	典計	投手	(鐘淵化学)
第3回	水谷	啓昭	投手	(新日本製鉄名古屋)
第4回	森繁	和昭	投手	(住友金属)
第5回	高岡	茂夫	内野手	(北海道拓殖銀行)
第6回	高橋	修二	投手	(住友金属)
第7回	高村	忠義	投手	(日本鋼管福山)
第8回	向田	佳元	投手	(富士重工業)
第9回	鈴木	政明	投手	(ヤマハ発動機)
第10回	高橋	修二	投手	(住友金属)
第11回	高橋	修二	投手	(住友金属)
第12回	伊東	昭光	投手	(本田技研)
第13回	笠井	志登	投手	(NTT東海)
第14回	藤野	悦勝	投手	(中山製鋼)
第15回	南淵	高時	内野手	(東芝)
第16回	尾山	敦博	投手	(住友金属)
第17回	新谷	健博	投手	(日本生命)
第18回	鈴木	健昇	投手	(日本石油)
第19回	三原	昇	投手	(東芝)
第20回	尾山	敦	投手	(住友金属)
第21回	松田	訓	内野手	(日本通運)
第22回	玉木	重	投手	(三菱自動車川崎)
第23回	宮内	洋	内野手	(住友金属)
第24回	新井	正	投手	(三菱重工神戸)
第25回	阿久根	吉	内野手	(NTT関東)
第26回	田中	善	内野手	(シダックス)
第27回	愛敬	尚	投手	(松下電器)
第28回	後藤	隆	投手	(三菱重工長崎)
第29回	佐藤	之	投手	(日本生命)
第30回	伊藤	祐	内野手	(日産自動車)
第31回	田中	敬	投手	(JFE西日本)
第32回	山本	隆	投手	(松下電器)
第33回	阿部	次	投手	(富士重工業)
第34回	服部	泰	投手	(トヨタ自動車)

敢闘賞 (優勝)

第1回	田村	忠義	投手	(日本鋼管福山)
第2回	山口	敏男	投手	(北海道拓殖銀行)
第3回	藤沢	公也	投手	(日鋳佐賀関)
第4回	小原	慶司	投手	(電電四国)
第5回	小松	沼博	投手	(東京ガス)
第6回	鍛冶	治舍	内野手	(松下電器)
第7回	久保	真一郎	投手	(日本楽器)
第8回	川瀬	隆俊	投手	(大昭和製紙北海道)
第9回	加藤	正次	投手	(日本通運)
第10回	川端	由起	投手	(東芝)
第11回	伊藤	博久	投手	(日本通運)
第12回	高田	博久	投手	(日本楽器)
第13回	高陽	介仁	投手	(阿部企業)
第14回	谷津	順一	投手	(熊谷組)
第15回	尾崎	定己	投手	(本田技研熊本)
第16回	金沢	健一	投手	(日本石油)
第17回	五十嵐	章人	外野手	(日本石油)
第18回	西岡	洋	投手	(大阪ガス)

# 優勝チーム・四賞受賞者選手一覧

第35回	大谷智久	投手	(トヨタ自動車)
第36回	大瀧野雅慎	投手	(J R 九州)
第37回	岩崎司	投手	(トヨタ自動車)
第38回	大城基志	投手	(JX-ENEOS)
第39回	大岡本健	投手	(新緑建設マツダ)
第40回	佐竹功年	投手	(トヨタ自動車)

## 打撃賞 (チーム)

第1回	酒井信芳	内野手	(三菱重工広島)
第2回	山内崇明	外野手	(住友金属)
第3回	福島寿利	外野手	(新日鉄名古屋)
第4回	吉田和幸	内野手	(神戸製鋼)
第5回	小林達也	外野手	(日産自動車)
第6回	三好一幸	外野手	(住友金属)
第7回	山崎博行	外野手	(神戸製鋼)
第8回	菊地恭一	外野手	(東芝)
第9回	辻発彦	内野手	(日本通運)
第10回	田辺浩昭	外野手	(東芝)
第11回	平岡靖彦	外野手	(松下電器)
第12回	山越吉洋	内野手	(本田技研)
第13回	木戸勝二	外野手	(N T T 東海)
第14回	森脇勝二	内野手	(中山製鋼)
第15回	高見泰範	捕手	(東芝)
第16回	佐藤雄樹	内野手	(住友金属)
第17回	十河章浩	内野手	(日本生命)
第18回	徳永耕治	内野手	(日本石油)
第19回	小林直人	外野手	(東芝)
第20回	川畑伸一郎	内野手	(住友金属)
第21回	田中泰	内野手	(日本通運)
第22回	齋藤秋博	内野手	(三菱自動車川崎)
第23回	大良道春	内野手	(住友金属)
第24回	大谷慎一郎	内野手	(三菱重工神戸)
第25回	阿久根鋼吉	内野手	(N T T 関東)
第26回	ビクトル・メサ	外野手	(ニコニコドー)
第27回	上中芳仁	外野手	(松下電器)
第28回	村上龍太郎	外野手	(三菱重工長崎)
第29回	竹間容祐	外野手	(日本生命)
第30回	柏野浩二	内野手	(ミキハウス)
第31回	福竹政人	内野手	(JFE西日本)
第32回	吉田蔵一郎	内野手	(松下電器)
第33回	林稔幸	外野手	(富士重工業)
第34回	清水明彦	内野手	(トヨタ自動車)
第35回	田中幸長	外野手	(トヨタ自動車)
第36回	長野久義	外野手	(Honda)
第37回	的場寛一	内野手	(トヨタ自動車)
第38回	松本晃	外野手	(J R 東日本)
第39回	田中健	内野手	(新緑建設マツダ)
第40回	瀧野光太郎	内野手	(トヨタ自動車)

## 首位打者賞 (チーム)

第12回	雨堤浩久	外野手	(本田技研) 13打数6安打・462
第13回	多田浩	外野手	(N T T 東北) 12打数7安打・583
第14回	山本真也	内野手	(中山製鋼) 14打数7安打・500

第15回	田辺浩昭	外野手	(東芝) 11打数7安打・636
第16回	佐藤雄樹	内野手	(住友金属) 19打数10安打・526
第17回	松原和也	外野手	(東芝) 11打数6安打・545
第18回	湯川泰哉	外野手	(大阪ガス) 21打数13安打・619
第19回	小林直人	内野手	(東芝) 13打数6安打・462
//	多田勇二	外野手	(東芝) 13打数6安打・462
//	佐藤友昭	外野手	(プリンスホテル) 13打数6安打・462
第20回	恒吉成樹	内野手	(日立製作所) 13打数7安打・539
第21回	中本浩	内野手	(松下電器) 11打数7安打・636
第22回	永井康彦	内野手	(日本新薬) 11打数6安打・545
//	橋本久	内野手	(N T T 四国) 11打数6安打・545
第23回	坪井智哉	外野手	(東芝) 14打数9安打・640
第24回	ビクトル・メサ	外野手	(ニコニコドー) 10打数7安打・700
第25回	井上大	外野手	(松下電器) 11打数7安打・636
第26回	上羽功晃	内野手	(神戸製鋼) 9打数6安打・667
第27回	佐々木隆司	外野手	(J R 東海) 12打数8安打・667
第28回	開田博勝	外野手	(三菱重工長崎) 18打数12安打・667
第29回	原田能英	内野手	(三菱重工長崎) 11打数6安打・545
第30回	中野滋樹	捕手	(ミキハウス) 10打数7安打・700
第31回	西田朋生	内野手	(N T T 西日本) 14打数7安打・500
第32回	重石勝司	外野手	(九州三菱自動車) 9打数6安打・667
第33回	衣川隆夫	外野手	(ホンダ) 9打数5安打・556
第34回	牧田一晃	外野手	(JR東日本東海) 11打数5安打・455
第35回	大島洋平	外野手	(日本生命) 16打数9安打・563
第36回	吉田承太	外野手	(日産自動車) 13打数5安打・385
第37回	宮澤健太郎	内野手	(JX-ENEOS) 13打数7安打・538
第38回	池辺啓二	外野手	(JX-ENEOS) 18打数10安打・556
第39回	船引俊秀	内野手	(富士重工業) 14打数7安打・500
第40回	岩下知永	内野手	(日本石油) 15打数8安打・533



順位	選手名	所属	大会	記録
<b>▶第1回大会</b>				
1	岡本 道夫	日本鋼管福山		
2	金原 晴夫	TDK		
3	我妻屋 屋	大昭和製紙北海道		
4	塚本 巧	国鉄四国		
5	山本 功児	本田技研鈴鹿		
6	星山 和久	三協精機		
7	岡本 道夫	日本鋼管福山	2試合連続	
8	中井 順二	日本生命		
9	吉川 丈一	三菱重工広島		
10	外園 郁夫	鐘淵化学	ランニング	
11	小野寺重之	日立製作所		
12	末永 成典	鐘淵化学	代打	
13	田村 忠義	日本鋼管福山	投手	
14	古川 通雄	三菱重工広島		
<b>▶第2回大会</b>				
15	中出 謙二	新日鉄堺		
16	福永 純一	丸善石油		
17	若松 実	三菱重工広島	投手	
18	前橋多英雄	日通名古屋		
19	持主 雅仁	伊予銀行		
20	齋 豊	拓殖銀行		
21	藤本 達雄	新日鉄堺	代打	
22	山下 隆士	丸善石油		
23	赤井 淳二	日本生命		
24	伊藤 俊明	秋田相互銀行	代打	
25	豊田 利一	三協精機		
26	佐々木幸治	三菱重工広島		
27	野村 茂	日本生命		
28	佐伯 国司	九州産交		
29	佐藤 治夫	鐘淵化学		
<b>▶第3回大会</b>				
30	中井 照也	大倉工業		
31	都築 義晴	住友金属豊島		
32	山口 円	松下電器		
33	湯野 清二	日産佐賀関		
34	柳原 信彦	協和発酵		
35	植原 明	大丸		
36	梅原 良樹	〃		
37	木村 司	日産佐賀関		
38	吉田 秀雄	新日鉄名古屋		
39	長沢 和雄	大丸		
40	村上 学	新日鉄光	代打	
41	湯野 清二	日産佐賀関	通算2本目	
<b>▶第4回大会</b>				
42	古賀 博樹	神戸製鋼		
43	東野 幸雄	富士重工		
44	井上 新一	九州産交	1イニング	
45	坂東 一彦	〃		
46	直村 盛治	門司鉄道管理局	1個サヨナラ	
47	田中 昌宏	三協精機		
48	大村 雅文	神戸製鋼		
49	川上 謙治	住友金属		
<b>▶第5回大会</b>				
50	川越 雄一	電電九州		
51	小林 裕一	〃		
52	渡辺 茂	東京ガス		
53	城戸 勉	電電中国		
54	岩沢 建一	日産自動車		
55	樋江井忠臣	三協精機		
56	高梨 英夫	大昭和製紙北海道		
57	大村 雅文	神戸製鋼	通算2本目	
58	山中 秀明	日産自動車	代打	
<b>▶第6回大会</b>				
59	竹中 円	三菱重工神戸		
60	上久保一平	本田技研		
61	加藤 雄一	新日鉄八幡	1イニング	
62	下村 肇	〃		
63	堀田 晴一	拓殖銀行	投手	
64	田伏 清美	〃		
65	山本 文晴	〃		
66	山極 三	西濃運輸		
67	柴田 克己	電電九州		
68	湯之戸孝修	電電東海		
69	高梨 英夫	大昭和製紙北海道	連続	
70	村上 忠則	〃		
71	村上 忠則	〃		
72	岡田 敬裕	三菱重工神戸		
73	山田 勉	松下電器		
74	竹崎 恭二	日本楽器		
75	沢熊 辰己	新日鉄八幡		
76	古崎 正人	協和発酵		
77	三上 広見	新日鉄釜石		
78	高岡 茂夫	拓殖銀行		
79	白高 明彦	新日鉄釜石		
80	内海 鳳之	日本楽器	代打	
81	山田 勉	松下電器	通算2本目	
82	梅田隆比克	拓殖銀行		
83	鍛冶倉 巧	松下電器		
84	田中 祐司	住友金属		
<b>▶第7回大会</b>				
85	野口 和生	河合楽器		
86	小川 淳司	〃	サヨナラ	
87	関 弘己	日本鋼管福山	1イニング	
88	山内 明	〃	通算2本目	
89	山内 明	〃		
90	高橋 哲夫	国鉄名古屋		
91	荒井 信久	神戸製鋼	満塁	
92	山崎 博行	〃		
93	高梨 英夫	大昭和製紙北海道	通算3本目	
94	若林 浩	神戸製鋼	代打	
95	東田郁志男	河合楽器	サヨナラ	
96	白水登樹二	リッカー		
97	木原 弘人	松下電器		
98	山内 明	日本鋼管福山	通算3本目	
99	佐名木隆夫	〃		
100	武居 邦生	日本楽器		
101	松川 正樹	松下電器		
102	木原 弘人	〃	通算2本目 サヨナラ	
103	今岡 逸朗	日本鋼管福山		
104	松川 正樹	松下電器	通算2本目	
105	関 弘己	日本鋼管福山	通算2本目	
106	渡部 一治	〃		
<b>▶第8回大会</b>				
107	鈴木 秀男	富士重工		
108	乃一 官	四国銀行		
109	村上 忠則	大昭和製紙北海道	通算3本目	
110	岡本 哲司	神戸製鋼		
111	阪本 徹	河合楽器		
112	菊地 恭一	東芝		
113	宮崎 剛	〃		
114	村上 忠則	大昭和製紙北海道	通算4本目	
115	梁原 修志	〃		
116	高梨 英夫	〃	通算4本目	
117	川越 雄一	電電九州	通算2本目	
118	佐藤 清	日本生命		
119	清水 徳英	新日鉄堺		
120	鍛沢 道明	富士重工		
121	高梨 英夫	大昭和製紙北海道	通算5本目	
122	阪本 徹	河合楽器	通算2本目	
123	村田 博幸	富士重工		
<b>▶第9回大会</b>				
124	阿部 一行	王子製紙苫小牧		
125	若松 茂樹	三菱重工広島	通算2本目	
126	田代 文博	九州産交		
127	山本 一孝	〃		
128	西岡 昌宏	日産自動車		
129	中西 孝吉	新日鉄堺		
130	浦 誠哉	〃		
131	浦東 靖	〃		
132	渡辺 博	三菱重工三原		
133	辻 発彦	日本通運		
134	岡田 吉富	日本通運		
135	牛島 浩彰	〃	通算2本目	
136	岡田 吉富	〃	通算2本目	
137	田中 祐司	住友金属	通算2本目	
138	片山 雅彦	電電関東		
139	若山 哲男	日産自動車		
140	岡田 吉富	日本通運	連続2本目 (大会2人目)	
141	坂本 照彦	電電関東		
142	三好 一孝	住友金属		
<b>▶第10回記念大会</b>				
143	石井 善	王子製紙苫小牧		
144	松田 裕之	本田技研		
145	植田 利幸	国鉄名古屋	1イニング	
146	林 洋	〃		
147	後藤 哲夫	新日鉄室蘭		
148	桑山 和行	住友金属		
149	山本宗三郎	河合楽器		
150	森本 道	国鉄名古屋	先頭打者	
151	林 洋	〃	通算2本目 1イニング	
152	高橋 哲夫	〃	通算2本目	
153	武智 勇治	東芝		
154	藤嶋 一利	電電信越		
155	米田 保伸	日産自動車		
156	箱山 和宏	電電信越		
157	米田 保伸	日産自動車	通算2本目	
158	坂野 彰宏	国鉄名古屋		
159	早瀬 万壽	日本生命	投手	
160	花野 巧	〃	連続打席	
161	花野 巧	〃	通算2本目	
162	夜久 幸治	新日鉄広畑	投手	
163	筒井 大助	住友金属		
164	佐藤 雄樹	〃		
165	尾形 正己	新日鉄広畑		
166	三好 一孝	住友金属	通算2本目	
167	森田 昇	日本生命		
<b>▶第11回大会</b>				
168	福本 高典	新日鉄八幡		
169	原野 俊	専売東北	1イニング	
170	大内 俊治	〃		
171	浦本 慶啓	神戸製鋼		
172	金丸 昭彦	日本通運		
173	伊藤由紀夫	〃		
174	高橋 哲夫	国鉄名古屋	満塁 通算3本目	
175	坂上 博文	日本IBM野洲		
176	岩田 忠典	〃		
177	林 修治	三菱重工長崎		
178	長井 研介	本田技研		
179	浦 誠哉	新日鉄堺	通算2本目	
180	武居 邦生	日本楽器	通算2本目	
181	劉 秋農	〃	投手	
182	中村 和彦	〃	満塁	
183	日川 雅夫	神戸製鋼		
184	小林 貢	〃		
185	伊藤由紀夫	日本通運	通算2本目	
186	伊藤由紀夫	〃	3打席連続満塁	
187	日比野 勇	電電北海道		
188	岩井 敏幸	日本通運		
189	岡田 吉富	〃	通算4本目	
190	佐藤 雄樹	住友金属		
191	松隈 憲治	〃		
192	国山 尊典	日立製作所	2者連続	
193	内田 強	〃		
194	島田 行雄	松下電器		
195	石田富士男	〃	投手	
196	石田富士男	〃	投手1試合連続 通算2本目 1試合2本塁打 通算2本目	
197	島田 行雄	〃		
198	雨堤 浩久	本田技研		
199	伊藤由紀夫	日本通運	通算4本目	
200	中村 好治	神戸製鋼		
201	望月 伸一	日本通運		
202	岡田 吉富	〃	通算5本目	

# 本塁打記録

203	36	中村 好治	神戸製鋼	1試合2本 2試合3本 3試合4本		
204	37	伊藤由紀夫	日本通運	1試合2本 2試合3本 3試合4本		
205	38	岡本 哲司	神戸製鋼	通算2本目		
206	39	瀧藤 外信	日立製作所			
207	40	北野 敏史	松下電器			
208	41	平岡 靖彦	//			
209	42	島田 行雄	//	通算3本目		
210	43	柿沼 卓文	日本通運			
211	44	湯之戸孝修	電電東海	通算2本目		
212	45	伊藤由紀夫	日本通運	通算6本目		
213	46	柿沼 卓文	//	通算2本目		
214	47	高井 大助	住友金属	通算2本目		
▶第12回大会						
215	1	荻 浩文	大分鉄道局			
216	2	内山 仁志	日本楽器			
217	3	佐藤 正則	//			
218	4	中西 親志	NTT東海			
219	5	丹波谷至邦	神戸製鋼			
220	6	森田 範三	NTT東海			
221	7	石元 浩三	NTT四国			
222	8	阿部 稔	四国銀行			
223	9	趙 士強	本田技研鈴鹿			
224	10	大須賀 健	河合楽器	サヨナラ		
225	11	宮崎 剛	東芝	通算2本目		
226	12	橋本 勝幸	//	1イニング		
227	13	安斎 定男	//			
228	14	村上 文敏	日本鋼管福山			
229	15	片岡 定治	東芝			
230	16	佐藤 雄樹	住友金属	通算3本目		
231	17	三好 一幸	//	通算3本目		
232	18	佐藤 正則	日本楽器	通算2本目		
233	19	内山 仁志	//	通算2本目		
234	20	島田 行雄	松下電器	通算4本目		
235	21	林 寿郎	//			
236	22	広岡 資生	//			
237	23	大本 二郎	//			
238	24	高野 清秀	神戸製鋼	1イニング		
239	25	日川 雅夫	//	通算2本目		
240	26	西上 健治	川崎製鉄水島			
241	27	丹波谷至邦	神戸製鋼	通算2本目		
242	28	対馬 昭男	日本石油			
243	29	岡崎 統一	本田技研鈴鹿			
244	30	中谷 亨	川崎製鉄神戸	代打		
245	31	石津 明弘	//			
246	32	岡崎 統一	本田技研鈴鹿	1試合2本 2試合3本		
247	33	松本 芳一	三菱重工神戸			
248	34	村瀬 耕次	河合楽器			
249	35	鈴木 智治	//	通算2本目		
250	36	福本 勝幸	東芝			
251	37	岡田 仁	新日鉄室蘭			
252	38	梁原 修志	東芝	通算2本目		
253	39	藤崎 宏道	松下電器			
254	40	武居 邦生	日本楽器	通算3本目		
255	41	曾根原博志	日本石油			
256	42	入内 昌 保	本田技研			
257	43	荻原 俊文	//			
258	44	前田 誠	東芝			
259	45	村瀬 耕次	河合楽器	通算2本目		
260	46	鈴木 栄一	東芝	代打		
261	47	中村 好治	神戸製鋼	通算3本目		
262	48	広瀬 哲朗	本田技研			
263	49	山越 吉洋	//			
264	50	広瀬 哲朗	//	通算2本目		
265	51	荻原 俊文	//	通算2本目		
▶第13回大会						
266	1	中西 親志	NTT東海	通算2本目		
267	2	中西 親志	//	2試合連続 通算3本目		
268	3	岡本 通朗	協和発酵			
269	4	辻 慶人	NTT東海			
270	5	並木 保彦	河合楽器			
271	6	佐藤 清	日本生命	通算2本目		
272	7	沢田 義文	王子製紙苫小牧			
273	8	羽田野達彦	日鉱佐賀関			
274	9	富永 武雄	富士重工業			
275	10	八木 裕	三菱自動車水島			
276	11	若槻 弘之	新日鉄釜石			
277	12	本村 正一	新日鉄八幡	サヨナラ		
278	13	並木 保彦	河合楽器	通算2本目		
279	14	村瀬 耕次	//	通算3本目		
280	15	中藤 義雄	プリンスホテル			
281	16	多田 浩	NTT東北			
282	17	羽田野達彦	日鉱佐賀関	通算2本目		
283	18	桑田 善信	NTT東北			
284	19	小羽 保治	阿部企業			
285	20	山本 清二	//	1イニング		
286	21	西 弘顕	四国銀行			
287	22	西 弘顕	//	1試合2本 2試合3本 3試合4本		
288	23	中谷 亨	川崎製鉄神戸	通算2本目		
289	24	田沢 一仁	新日鉄釜石			
290	25	吉田 幸也	//			
291	26	森田 範三	NTT東海	通算2本目		
292	27	沢田 義文	//			
293	28	菊田 善信	NTT東北	通算2本目		
294	29	岡田 周三	三菱自動車京都			
295	30	石津 明弘	川崎製鉄神戸	通算2本目		
296	31	新屋 良一	NTT北陸			
297	32	浜名 敬一	川崎製鉄神戸	サヨナラ		
298	33	木戸 均	NTT東海			
299	34	木戸 均	//	1試合2本 2試合3本		
300	35	前田 勝司	阿部企業	2者連続		
301	36	山本 清二	//	通算2本目		
302	37	山本 清二	//	1試合2本 2試合3本 3試合4本		
303	38	小羽 保治	//	通算2本目		
304	39	中西 親志	NTT東海	通算4本目		
▶第14回大会						
305	1	東 良一	日産自動車九州			
306	2	鈴木 勝則	//	1イニング		
307	3	福地日出雄	NTT東北			
308	4	菊田 善信	//	通算3本目		
309	5	菊田 善信	//	1試合2本 2試合3本 3試合4本		
310	6	阿部 徳義	大昭和製紙北海道			
311	7	両堤 浩久	本田技研	通算2本目		
312	8	金子 誠一	//			
313	9	西 弘顕	四国銀行	通算3本目		
314	10	両堤 浩久	本田技研	1試合2本 2試合3本		
315	11	西 俊児	//			
316	12	中村 和勝	ヤマハ	通算2本目		
317	13	佐藤 正則	//	通算3本目		
318	14	京屋 建司	秋田相互銀行			
319	15	岩野 好伸	日本鋼管福山			
320	16	板東 照雄	NTT四国			
321	17	宮里 太	熊谷組			
322	18	小野 亨	NTT東北			
323	19	松井 弥	中山製鋼			
324	20	若井 重安	日本石油			
325	21	杉本 拓也	新日鉄広畑			
326	22	船越 敏彦	//	サヨナラ		
327	23	荻原 俊文	本田技研	先頭打者 通算2本目		
328	24	金子 誠一	//	通算2本目		
329	25	宮坂 重雄	ヤマハ			
330	26	酒東 靖	新日鉄堺	通算2本目		
331	27	後藤 政広	ヤマハ			
332	28	岡田 和則	日本鋼管福山	代打		
333	29	藤崎 浩行	王子製紙春日井	投手		
334	30	近藤 岩男	//	2者連続		
335	31	黒岩 幸則	熊谷組			
336	32	高野 詳宏	//			
337	33	佐藤 和弘	//			
338	34	長井 研介	本田技研	通算2本目		
339	35	雨堤 浩久	//	1イニング 2試合連続 通算3本目		
340	36	長井 研介	//			
341	37	小川 博文	プリンスホテル			
342	38	中島 謙士	プリンスホテル			
343	39	清水 隆一	熊谷組			
344	40	伊吹 淳一	//	代打		
345	41	高井 大助	住友金属	通算3本目		
346	42	小川 博文	プリンスホテル	通算2本目		
▶第15回記念大会						
347	1	多田 浩	NTT東北	通算2本目		
348	2	猪狩 正弘	//	1イニング		
349	3	坂本 正	本田技研熊本			
350	4	村瀬 耕次	河合楽器	通算4本目		
351	5	太田代慎也	日本IBM野洲			
352	6	仙波 泰三	王子製紙春日井	先頭打者		
353	7	櫻橋 祐司	//			
354	8	飯田 孝雄	日本IBM野洲			
355	9	飯田 孝雄	//	2試合連続 通算2本目		
356	10	栗師神一成	四国銀行			
357	11	西 弘顕	//	通算4本目		
358	12	宮本 章彦	//			
359	13	谷岡 秀一	//			
360	14	斎藤 徹	三菱自動車川崎			
361	15	平野 逸男	//			
362	16	田中 靖秀	四国銀行			
363	17	丸谷富美夫	新日鉄八幡			
364	18	高木 吉夫	大昭和製紙北海道			
365	19	伊藤 雄二	新日鉄八幡			
366	20	藤崎 浩彦	//			
367	21	高野 清秀	神戸製鋼	通算2本目		
368	22	小坂田 宏	ヤマハ			
369	23	北口 和正	NTT中国			
370	24	宇佐美忠志	//			
371	25	下岡 秀荘	//	代打		
372	26	大谷 庸	東海理化			
373	27	松本 秀敏	NTT四国			
374	28	梁原 修志	東芝	通算3本目		
375	29	小林 真	//	代打		
376	30	嶋山 弘彰	//	2者連続 通算2本目		
377	31	河野幸四郎	本田技研熊本			
378	32	石原 貴	新日鉄堺			
379	33	飯田 孝雄	日本IBM野洲	通算3本目		
380	34	岩野 好伸	NKK	通算2本目		
381	35	河部 稔	//			
382	36	藤原 良一	日本IBM野洲			
383	37	森田 建司	四国銀行	満塁		
384	38	鈴木 忠仁	新日鉄室蘭			
385	39	宮本 章彦	四国銀行	通算2本目		
386	40	田中 靖秀	//	通算2本目		
387	41	谷岡 秀一	//	2者連続 通算2本目		
388	42	西岡 良展	住友金属	代打		
389	43	徳永 耕治	日本石油			
390	44	丹波谷至邦	神戸製鋼	通算3本目		
391	45	鈴木 慶裕	日本石油			
392	46	徳永 耕治	//	1試合2本 2試合3本		
393	47	折原 康伸	大阪ガス			
394	48	宇佐美忠志	NTT中国	通算2本目		
395	49	武田 茂人	//	代打満塁		
396	50	折原 康伸	大阪ガス	1試合2本 2試合3本		
397	51	北口 和正	NTT中国	通算2本目		
398	52	原野 優	日本たばこ	通算2本目		
399	53	及川 正則	//	1イニング		
400	54	梁原 修志	東芝	通算4本目		
401	55	橋本 勝幸	//	通算3本目		
402	56	川道 二郎	本田技研熊本	2者連続		
403	57	久保 憲司	//			
404	58	西 弘顕	四国銀行	満塁 通算3本目		
405	59	田中 靖秀	//	通算3本目		
406	60	宮本 雄二	//			
407	61	田中 靖秀	//	1試合2本 2試合3本 3試合4本		
408	62	栗師神一成	//	通算2本目		
409	63	鈴木 慶裕	日本石油	先頭打者 通算2本目		
410	64	丸谷富美夫	新日鉄八幡	通算2本目		
411	65	坂口 裕之	日本石油			



- 412 66 安岡 靖晃 日本石油
- 413 67 鉄見 浩次 新日鉄八幡
- 414 68 南洲 晴高 東芝
- 415 69 谷岡 秀一 四国銀行 通算3本目
- 416 70 宮本 雄二 // 通算2本目
- 417 71 安藤 芳人 本田技研熊本
- 418 72 徳永 耕治 日本石油 通算3本目
- 419 73 南洲 晴高 東芝 } 通算2本目
- 420 74 丹波 健二 // } 2番連続
- 421 75 高見 泰範 // 満塁

▶第16回大会

- 422 1 山田 仁寿 本田技研
- 423 2 竹島 誠 NTT四国
- 424 3 河野 浩三 //
- 425 4 朝山 順重 本田技研 } 2番連続
- 426 5 西 俊児 // 通算2本目
- 427 6 渡辺 則昌 JT 先頭打者
- 428 7 鈴木 英之 神戸製鋼
- 429 8 徳永 耕治 日本石油 顔料製造
- 430 9 日川 雅夫 神戸製鋼 通算3本目
- 431 10 徳永 耕治 日本石油 打撃部選手
- 432 11 中本 浩 松下電器 通算5本目
- 433 12 福沢 剛 NTT信越 代打
- 434 13 安田 篤 北陸銀行
- 435 14 竹田 満宗 本田技研熊本
- 436 15 森田 建司 四国銀行 } 通算2本目
- 437 16 宮本 章彦 // } 2番連続
- 438 17 町田 明彦 // } 通算3本目
- 439 18 谷岡 秀一 // } 1試合2本
- 440 19 森田 建司 // } 1試合2本
- 441 20 戸羽 英之 NTT東北
- 442 21 葉師神一成 四国銀行 通算3本目
- 443 22 奥塚 博 NTT東北
- 444 23 古田 敦也 トヨタ自動車 } 1イニング
- 445 24 間瀬 啓介 // } 1イニング
- 446 25 砂田 弘樹 新日鉄広畑
- 447 26 川瀬 世資 日本生命
- 448 27 河野 浩三 NTT四国 通算2本目
- 449 28 伊東 剛 西濃運輸
- 450 29 鈴木 康之 //
- 451 30 寺嶋 哲也 JT
- 452 31 金久保孝治 NKK
- 453 32 篠崎 宏道 松下電器 通算2本目
- 454 33 北口 和正 NTT中国 通算3本目
- 455 34 丹波 健二 東芝 通算2本目
- 456 35 小林 薫 // 通算2本目
- 457 36 中西 亮介 大阪ガス
- 458 37 松田 竜二 //
- 459 38 森山 茂 熊谷組
- 460 39 古田 敦也 トヨタ自動車 通算2本目
- 461 40 黒木 義美 熊谷組 サヨナラ
- 462 41 吉竹 正 西濃運輸 先頭打者
- 463 42 中村 昭徳 日本生命
- 464 43 水野 英樹 西濃運輸
- 465 44 児玉 卓也 日本生命
- 466 45 若林 重喜 日本石油
- 467 46 佐藤 雄樹 住友金属 通算4本目
- 468 47 藤原 勝 NTT中国
- 469 48 佐藤 雄樹 住友金属 } 1試合2本
- 470 49 穂野 徹 // } 1イニング
- 471 50 佐藤 和弘 熊谷組 通算2本目
- 472 51 中西 亮介 大阪ガス 満塁
- 473 52 黒木 義美 熊谷組 通算2本目
- 474 53 高野 詳宏 // 通算2本目
- 475 54 森山 茂 // 通算2本目

▶第17回大会

- 476 1 秋山 洋満 三菱重工神戸
- 477 2 現 昌己 西濃運輸 } 1イニング
- 478 3 小森 茂 // } 1イニング
- 479 4 伊東 剛 // 通算2本目
- 480 5 小森 茂 // 1試合2本

- 481 6 下野 博樹 NTT北陸
- 482 7 尾前 拓己 //
- 483 8 猪狩 正弘 NTT東北 通算2本目
- 484 9 菊田 善信 // 通算5本目
- 485 10 井上 幹也 四国銀行
- 486 11 川村 健司 NTT関東
- 487 12 市川 司郎 富士重工業 先頭打者
- 488 13 南谷 光清 三菱重工三原
- 489 14 南谷 光清 // 満塁
- 490 15 佐藤 雄樹 住友金属 通算5本目
- 491 16 西田 英資 NTT関西
- 492 17 鈴木 康之 西濃運輸 通算2本目
- 493 18 渡辺 等 日産自動車
- 494 19 鶴岡 昌宏 // 通算2本目
- 495 20 鶴岡 昌宏 // 1試合2本
- 496 21 松原 和也 東芝 } 1イニング
- 497 22 高見 泰範 // } 通算2本目
- 498 23 松原 和也 // } 2打席連続
- 499 24 豊原 隆浩 JT 代打
- 500 25 久秀 修平 本田技研鈴鹿
- 501 26 大久保 隆 //
- 502 27 長井 秀夫 NTT関東
- 503 28 早野 公俊 三菱重工三原 先頭打者
- 504 29 佐藤 孝治 日本石油
- 505 30 橋本 和丸 NTT北海道 先頭打者
- 506 31 五十嵐卓人 日本石油 } 2番連続
- 507 32 若林 重喜 // } 通算2本目
- 508 33 五十嵐卓人 // } 1試合2本
- 509 34 熊添 英樹 日本生命
- 510 35 坂口 裕之 日本石油 通算2本目
- 511 36 若林 重喜 // 通算3本目
- 512 37 若林 重喜 // 1試合2本
- 513 38 十河 章浩 日本生命 通算4本目

▶第18回大会

- 514 1 西村 隆史 東芝
- 515 2 長井 秀夫 NTT関東 通算2本目
- 516 3 穴倉 靖英 // 代打
- 517 4 湯川 善哉 大阪ガス
- 518 5 洲加本弘樹 三菱重工長崎
- 519 6 山口 高嶺 本田技研
- 520 7 鈴木 龍治 河合楽器 通算2本目
- 521 8 相田 武徳 日本石油
- 522 9 徳永 耕治 // 通算6本目
- 523 10 石野 史昭 トヨタ自動車
- 524 11 上野山達夫 三菱自動車京都
- 525 12 森上 弘之 //
- 526 13 宮本 雄二 四国銀行 通算3本目
- 527 14 上野山達夫 三菱自動車京都 1試合2本
- 528 15 持田 満男 西濃運輸 通算2本目
- 529 16 松田 竜二 大阪ガス 通算2本目
- 530 17 橋口 博一 //
- 531 18 野寺 光秀 NTT関東
- 532 19 上 和秀 大阪ガス } 1イニング
- 533 20 折原 康伸 // } 通算3本目
- 534 21 瀧田 浩 三菱重工長崎
- 535 22 原田 能英 //
- 536 23 三好 利幸 NTT四国
- 537 24 高橋 昭二 NTT信越
- 538 25 上村 真弘 川崎製鉄神戸 先頭打者
- 539 26 菅原 隆浩 JT 通算2本目
- 540 27 川中 哲也 川崎製鉄神戸
- 541 28 原野 優 JT 通算3本目
- 542 29 戸崎 勝樹 神戸製鋼
- 543 30 森上 弘之 三菱自動車京都 通算2本目
- 544 31 小島 啓民 三菱重工長崎
- 545 32 鎌田 倫昌 JT 代打
- 546 33 高橋 良誠 //
- 547 34 青山 准 NTT信越
- 548 35 岩崎武干法 三菱自動車京都
- 549 36 村上 清 日本石油
- 550 37 上野山達夫 三菱自動車京都 通算3本目

- 551 38 徳永 耕治 日本石油 通算7本目
- 552 39 徳永 耕治 // 通算8本目
- 553 40 原野 優 JT 通算4本目

▶第19回大会

- 554 1 宮内 洋 住友金属
- 555 2 芝 和彦 NTT四国
- 556 3 丹下 真一 //
- 557 4 曾川 功一 山崎製パン
- 558 5 小松 敬志 川崎製鉄水島
- 559 6 岩切 浩志 //
- 560 7 徳永 耕治 日本石油 通算9本目
- 561 8 梅沢 宏之 NTT北陸
- 562 9 定立 修 プリンズホテル } 1イニング
- 563 10 瀬戸山潤年 // }
- 564 11 斎藤慎太郎 //
- 565 12 鈴木 一 日本IBM野洲 代打
- 566 13 島山 弘彰 東芝 通算2本目
- 567 14 坂口 裕之 日本石油 } 通算3本目
- 568 15 若林 重喜 // } 2打席連続
- 569 16 橋 利一 新日鉄大分
- 570 17 徳永 耕治 日本石油 満塁
- 571 18 高林 孝行 // 通算10本目
- 572 19 井出 竜也 日本通運
- 573 20 岡田 健一 新日鉄室蘭 } 1イニング
- 574 21 鈴木 広之 // }
- 575 22 竹村 誠 大阪ガス 先頭打者
- 576 23 三瓶 仁 NTT東北
- 577 24 植村 寛之 大阪ガス
- 578 25 山下 和輝 プリンズホテル
- 579 26 佐藤 友昭 // 代打
- 580 27 西村 隆史 東芝 通算2本目
- 581 28 大久保秀昭 日本石油
- 582 29 大久保秀昭 // 1試合2本
- 583 30 若林 重喜 // 通算6本目
- 584 31 高柳 靖法 //
- 585 32 多田 勇二 東芝

▶第20回記念大会

- 586 1 恒吉 成樹 日立製作所
- 587 2 砂田 弘樹 新日鉄広畑 通算2本目
- 588 3 村上竜太郎 三菱重工長崎 ランニング
- 589 4 井出 竜也 日本通運 通算2本目
- 590 5 田中 泰 //
- 591 6 徳永 耕治 日本石油 通算11本目
- 592 7 熊谷 亨 JA若手県経連
- 593 8 戸羽 英之 NTT東北 通算2本目
- 594 9 上島 格 日産自動車
- 595 10 森 善康 四国銀行
- 596 11 天川 務 日立製作所
- 597 12 川崎 義文 日本通運
- 598 13 川崎 義文 // 2打席連続
- 599 14 井出 竜也 // 通算3本目
- 600 15 高林 孝行 日本石油 通算2本目
- 601 16 藤木 豊 NTT東北 ランニング
- 602 17 梶田 茂生 日本生命
- 603 18 長谷部一徳 河合楽器
- 604 19 渡 真 大昭和製紙北海道
- 605 20 小林 司 //
- 606 21 山田 晃之 住友金属
- 607 22 山田 正浩 NTT関西
- 608 23 望月 秀久 大昭和製紙北海道
- 609 24 青柳 博 日産自動車
- 610 25 中西 保友 住友金属
- 611 26 三瓶 仁 NTT東北 通算2本目
- 612 27 早川健一郎 日産自動車

▶第21回大会

613	1	大塚 広己	NTT東北	
614	2	田原 知典	河合楽器	
615	3	佐藤 正	//	サヨナラ
616	4	石田 勝彦	プリンスホテル	
617	5	木田 博文	三菱自動車水島	
618	6	木田健一郎	川崎製鉄千葉	1イニング
619	7	高岡 雅人	//	1イニング
620	8	丹野 雅士	//	2者連続
621	9	ケニス・ハリソン	//	2者連続
622	10	仁志 敏久	日本生命	
623	11	早川健一郎	日産自動車	
624	12	渡辺 敦	//	3打席連続
625	13	小林 司	ヴィガしおらい	
626	14	羽生 一範	NTT関西	
627	15	谷川 明久	NKK	
628	16	木下 郁	松下電器	
629	17	森井 徳次	西濃運輸	
630	18	小森 茂	//	
631	19	川崎 博孝	NTT北陸	
632	20	高峰 誠	日産自動車九州	
633	21	長谷部一彦	河合楽器	
634	22	堀田 正広	川崎製鉄千葉	先頭打者
635	23	三好 利幸	NTT四国	
636	24	佐藤 耕治	ヴィガしおらい	
637	25	原井 和也	松下電器	
638	26	森原 高志	//	
639	27	金 潤熙	川崎製鉄神戸	
640	28	米田 幸司	//	
641	29	若林 寛	本田技研熊本	
642	30	高木 慎一	プリンスホテル	
643	31	奥村 伸一	//	
644	32	上島 格	日産自動車	
645	33	早川健一郎	//	1イニング
646	34	渡辺 敦	//	2者連続
647	35	海老沢武彦	川崎製鉄千葉	
648	36	酒井 司	ヴィガしおらい	
649	37	早川健一郎	日産自動車	
650	38	上島 格	//	
651	39	宮下 森	日本通運	
652	40	松田 訓	//	
653	41	松田 訓	//	2打席連続
654	42	青柳 信	日産自動車	満塁

▶第22回大会

655	1	杉本 拓也	新日鉄広畑	
656	2	田中 善則	たくぎん	
657	3	原野 優	JT	
658	4	堀山 義彦	三菱自動車川崎	
659	5	田中 泰	日本通運	
660	6	丸山 泰令	三菱自動車岡崎	
661	7	松田 訓	日本通運	
662	8	田中 敏弘	//	
663	9	加藤 秀敏	三菱自動車岡崎	3打席サヨナラ
664	10	丹下 真一	NTT四国	
665	11	沢多 弘也	大阪ガス	
666	12	笠原 宏之	NTT四国	
667	13	石井 康雄	新日鉄八幡	
668	14	内田 祐二	東芝	
669	15	黒田 淳二	新日鉄八幡	
670	16	上野山達夫	三菱自動車京都	
671	17	鈴木 昌宏	ヨークベニマル	
672	18	東谷 勝司	四国銀行	
673	19	上村 匡史	日本新薬	
674	20	田中 雅士	日本新薬	
675	21	西郷 泰之	三菱自動車川崎	
676	22	桑元 孝雄	//	
677	23	佐藤 茂徳	JT	

678	24	桑元 孝雄	三菱自動車川崎	
679	25	加藤 秀敏	三菱自動車岡崎	
680	26	笠原 宏之	NTT四国	
681	27	柴田 要亮	//	1イニング
682	28	芝 和彦	//	2者連続
683	29	今村 直樹	日産自動車九州	
684	30	印出 潤彦	東芝	
685	31	浅谷 典成	ヤマハ	
686	32	小林 直人	東芝	
687	33	右島 学	ヤマハ	
688	34	森上 弘之	三菱自動車京都	
689	35	塚田 邦義	//	満塁
690	36	塚田 邦義	//	2打席連続
691	37	川崎 博孝	NTT北陸	
692	38	尾前 拓己	//	
693	39	岩橋 良知	日本新薬	
694	40	梅岡 理治	新日鉄名古屋	
695	41	杉本 拓也	新日鉄広畑	
696	42	渡辺 博幸	三菱自動車川崎	
697	43	柳田 健児	//	
698	44	桑元 孝雄	//	
699	45	右島 学	ヤマハ	
700	46	森田 知裕	三菱自動車京都	
701	47	丸山 泰令	三菱自動車岡崎	1イニング
702	48	北村 宏太	//	1イニング
703	49	西郷 泰之	三菱自動車川崎	1イニング
704	50	山田 康弘	//	
705	51	柳田 健児	//	
706	52	中西 美之	日本IBM野洲	
707	53	斎藤 秋博	三菱自動車川崎	
708	54	西郷 泰之	//	
709	55	鈴木 昭広	//	
710	56	鈴木 昭広	//	満塁
711	57	塚田 邦義	三菱自動車京都	

▶第23回大会

712	1	渡辺 竜二	ニコニコドー	
713	2	東谷 勝司	四国銀行	満塁
714	3	谷口 英功	東芝	代打
715	4	久保 貴司	四国銀行	
716	5	内田 祐二	東芝	
717	6	大塚 広己	NTT東北	1イニング
718	7	阿部 順悦	//	
719	8	山路 哲生	ヤマハ	
720	9	高峰 誠	日産自動車九州	
721	10	根津 勇人	三菱重工広島	
722	11	熊川 輝利	西濃運輸	
723	12	柴田 要亮	NTT四国	満塁
724	13	沢多 弘也	大阪ガス	
725	14	田口 浩司	本田技研	
726	15	大塚 広己	NTT東北	
727	16	三瓶 仁	//	
728	17	若林 重喜	日本石油	
729	18	若林 重喜	//	3打席連続
730	19	大久保秀昭	//	2者連続
731	20	九鬼 義典	松下電器	
732	21	青木 一也	住友金属	
733	22	玉置 剛	//	
734	23	大良 道春	//	
735	24	川崎 博孝	NTT北陸	
736	25	吉田 兼幸	ヤマハ	
737	26	小川 正洋	日産自動車九州	
738	27	江副 光則	//	3打席サヨナラ
739	28	若林 重喜	日本石油	
740	29	高橋 徹	西濃運輸	1イニング
741	30	小森 茂	//	2者連続
742	31	岩本 誠太	日本新薬	
743	32	河原 真一	//	

744	33	菅沢 剛	東芝	
745	34	木田健一郎	川崎製鉄千葉	
746	35	高井 克昌	日産自動車九州	
747	36	江副 光則	//	
748	37	高峰 誠	//	
749	38	奥 隆彰	日本新薬	1イニング
750	39	河原 真一	//	1イニング
751	40	小森 茂	西濃運輸	2者連続
752	41	三好 悟	//	
753	42	宮内 洋	住友金属	
754	43	坪井 智哉	東芝	
755	44	鈴木 肇	//	
756	45	西村賢津也	西濃運輸	
757	48	山田 晃之	住友金属	

▶第24回大会

758	1	岡隆 博	日本生命	
759	2	メ サ	ニコニコドー	
760	3	メ サ	//	2打席連続
761	4	高野 忍	中山製鋼	1イニング
762	5	守田 寛	//	2者連続
763	8	西雄 友昭	//	
764	7	坂本 隆	NTT中国	
765	8	不破 一紀	NTT北陸	
766	9	小林 和也	ヤマハ	代打
767	10	大川 広篤	三菱重工神戸	
768	11	大川 清	NTT四国	先頭打者
769	12	渡辺 敦	日産自動車	
770	13	鈴木 祐司	JR東日本東北	
771	14	四十万善之	日本通運	
772	15	丹野 淳一	JR東日本東北	
773	16	鈴木 昭広	三菱自動車川崎	
774	17	山本 聡	川崎製鉄水島	サヨナラ
775	18	野々村昌浩	NTT北海道	
776	19	林 尚克	新日鉄名古屋	
777	20	長谷川直人	北陸銀行	代打
778	21	内海 将人	東芝	
779	22	榎 勇一	ニコニコドー	
780	23	西雄 友昭	中山製鋼	
781	24	アルバレス	ニコニコドー	
782	25	九鬼 義典	松下電器	
783	26	四十万善之	日本通運	
784	27	玉置 剛	住友金属	
785	28	玉置 剛	//	1試合2本
786	29	下原 孝雄	神戸製鋼	
787	30	上羽 功晃	//	
788	31	メ サ	ニコニコドー	
789	32	神前 秀樹	三菱重工神戸	
790	33	川淵 雄二	住友金属	
791	34	山田 晃之	//	
792	35	田中 敏弘	日本通運	

▶第25回大会

793	1	鎌田 倫昌	JT	
794	2	半田 貴志	//	
795	3	竹下 和敏	川崎製鉄水島	満塁
796	4	萩谷 之隆	東芝府中	
797	5	二階堂真二	//	代打
798	6	近藤 廉	王子製紙苫小牧	
799	7	山本 隆成	//	
800	8	山上 吉樹	//	
801	9	小川 正洋	日産自動車九州	
802	10	中尾 勝史	大和銀行	
803	11	三瓶 仁	NTT東北	
804	12	田口 浩司	本田技研	
805	13	仲村 耕三	三菱自動車岡崎	
806	14	野上 修	日本生命	1イニング
807	15	福留 孝介	//	2者連続
808	16	佐伯 幸三	JT	1イニング
809	17	瀬戸 博之	//	2者連続





810	18	山本 聡	川崎製鉄水島
811	19	吉田 栄治	NTT関東
812	20	キーン・ティミ	//
813	21	木村 庄作	松下電器
814	22	武輪 成樹	三菱自動車岡崎
815	23	福留 孝介	日本生命
816	24	俣瀬 直樹	大阪ガス
817	25	沢多 弘也	//
818	26	奥本 敏弘	本田技研鈴鹿
819	27	長浜屋 寛	JT
820	28	阿久根 鋼吉	NTT関東
821	29	田淵 智宏	三菱自動車岡崎
822	30	福留 孝介	日本生命
823	31	福留 孝介	//
824	32	阿久根 鋼吉	NTT関東
825	33	上本 浩司	//
826	34	下野 敦司	日本生命
827	35	キーン・ティミ	NTT関東
828	36	阿久根 鋼吉	//
829	37	三島 裕	日本生命
▶第26回大会			
830	1	西川原 義明	北陸銀行
831	2	加藤 達玄	//
832	3	谷川 明久	NKK
833	4	大森 章弘	日本IBM野洲
834	5	木戸 正佳	//
835	6	西内 宏	三菱自動車岡崎
836	7	前田 敦	NTT西日本
837	8	藤原 工博	河合楽器
838	9	佐藤 茂徳	JT
839	10	青山 真也	JR東海
840	11	川越 竜也	//
841	12	田中 善則	シダックス
842	13	田中 善則	//
843	14	林田 義樹	王子製紙苫小牧
844	15	上中 芳仁	小西酒造
845	16	前田 勲	//
846	17	浜口 猛	//
847	18	上中 芳仁	//
848	19	野波 尚伸	三菱自動車岡崎
849	20	九鬼 義典	松下電器
850	21	西村 亮	JR東日本東北
851	22	西田 明生	NTT西日本
852	23	丹野 淳一	JR東日本東北
853	24	鈴木 祐司	//
854	25	三井 大史	NTT西日本
855	26	藤井 康	神戸製鋼
856	27	松山 哲	//
857	28	下原 孝雄	//
858	29	川端 隆史	JR西日本
859	30	瀬戸 博之	JT
860	31	坂田 精二郎	シダックス
861	32	斎藤 一也	//
862	33	石川 道人	三菱自動車京都
863	34	広畑 大輔	日本IBM野洲
864	35	岩城 朝信	//
865	36	氏丸 剛史	小西酒造
866	37	奥塚 誠	JR東日本東北
867	38	山本 明大	神戸製鋼
868	39	半田 貴志	JT
869	40	斎藤 一也	シダックス
870	41	入江 崇宏	//
871	42	井上 大	松下電器
872	43	田原 隆三郎	//
873	44	九鬼 義典	//
874	45	大森 章弘	日本IBM野洲
875	46	田中 善則	シダックス

876	47	入江 崇宏	//
877	48	ピクトル・メサ	//
878	49	田中 孝明	神戸製鋼
879	50	ピクトル・メサ	シダックス
880	51	田中 善則	//
881	52	田中 善則	//
882	53	坂田 精二郎	//
▶第27回大会			
883	1	江井 康胤	JT
884	2	古川 裕生	新日鉄君津
885	3	長尾 健一	新日鉄君津
886	4	野田 浩輔	新日鉄君津
887	5	鈴木 秀範	新日鉄君津
888	6	矢口 健一	新日鉄君津
889	7	辻 竜太郎	ヤマハ
890	8	安田 真範	東芝
891	9	吉川 祥求	東芝
892	10	角谷 隆次	協和発酵
893	11	岸江 秀樹	ミキハウス
894	12	原田 朋隆	//
895	13	吉田 佳史	四国銀行
896	14	神戸 聡一郎	JR東海
897	15	三浦 祐人	鷹宮製作所狭山
898	16	一色 和也	NTT西日本
899	17	山崎 隆広	//
900	18	福元 健	NKK
901	19	石田 勝彦	プリンスホテル
902	20	荒木 準也	//
903	21	渡辺 浩一	//
904	22	金谷 文均	新日鉄名古屋
905	23	松浦 孝祐	//
906	24	尾崎 晃一	三菱重工長崎
907	25	下山 真二	日本生命
908	26	香木 雅昭	新日鉄君津
909	27	矢口 健一	//
910	28	野田 浩輔	//
911	29	古川 裕生	//
912	30	内田 祐二	東芝
913	31	鈴木 肇	//
914	32	唐須 信哉	三菱重工神戸
915	33	九鬼 義典	松下電器
916	34	中村 要	日本通運
917	35	西岡 隆一	松下電器
918	36	上中 芳仁	//
919	37	青山 真也	JR東海
920	38	青山 真也	//
921	39	荒木 準也	プリンスホテル
922	40	上出 真寛	神戸製鋼
923	41	下山 真二	日本生命
924	42	大宅 敦司	//
925	43	古川 裕生	新日鉄君津
926	44	野田 浩輔	//
927	45	下山 真二	日本生命
928	46	上野 昭二	松下電器
929	47	伊勢 泰孝	東芝
930	48	上中 芳仁	松下電器
931	49	西田 明生	NTT西日本
932	50	吉田 憲一郎	松下電器
▶第28回大会			
933	1	九鬼 義典	松下電器
934	2	田上 朋寛	//
935	3	田上 朋寛	//
936	4	佐々木 隆司	JR東海
937	5	天野 義明	日本生命
938	6	渡辺 孝男	サンワード貿易
939	7	岡部 光則	//
940	8	庄司 満利	七十七銀行
941	9	高橋 利信	//

942	10	岡部 光則	サンワード貿易
943	11	上村 匡史	日本新薬
944	12	上村 匡史	//
945	13	石垣 達也	東芝
946	14	高根 沢 力	三菱ふそう川崎
947	15	佐々木 勉	//
948	16	堀山 義彦	//
949	17	松山 哲	神戸製鋼
950	18	秦 英之	//
951	19	松山 哲	//
952	20	中尾 周作	//
953	21	近藤 貴志	バイタルネット
954	22	石岡 竜成	三菱自動車京都
955	23	宇多村 雅徳	協和発酵
956	24	野口 将史	日産自動車九州
957	25	今村 直樹	//
958	26	高峰 誠	//
959	27	楠山 文彦	//
960	28	山中 雅英	協和発酵
961	29	中島 義雄	日産自動車九州
962	30	山井 晃男	トヨタ自動車
963	31	大橋 晋也	//
964	32	吉田 憲一郎	松下電器
965	33	上中 芳仁	//
966	34	田頭 欣士	三菱自動車水島
967	35	丹下 真一	松山フェニックス
968	36	原田 能英	三菱重工長崎
969	37	上村 匡史	日本新薬
970	38	横山 誠	//
971	39	芝 拓也	//
972	40	中村 勝治	いすゞ自動車
973	41	長谷 高成泰	//
974	42	鈴木 肇	東芝
975	43	宮崎 昌樹	NTT西日本
976	44	山田 正浩	//
977	45	工藤 賢二	東芝
978	46	森田 知裕	三菱自動車京都
979	47	沢多 弘也	大阪ガス
980	48	山井 晃男	トヨタ自動車
981	49	河田 寿司	三菱重工長崎
982	50	根岸 弘	三菱自動車水島
983	51	小山 豪	日産自動車
984	52	吉浦 真志	//
985	53	安田 真範	東芝
986	54	石垣 達也	//
987	55	北村 和久	三菱自動車京都
988	56	伊藤 大輔	三菱重工長崎
989	57	有銘 真之	東芝
990	58	石垣 達也	//
991	59	吉村 忠治	三菱重工長崎
▶第29回大会			
992	1	小坂 将高	松下電器
993	2	工藤 賢二	東芝
994	3	平馬 淳	//
995	4	菅 友希	東京ガス
996	5	片岡 健太郎	三菱重工広島
997	6	上中 芳仁	松下電器
998	7	小山 豪	日産自動車
999	8	嶋城 充弘	東芝
1000	9	溝淵 隆夫	ホンダ
1001	10	田口 浩司	//
1002	11	衛藤 貴典	三菱重工長崎
1003	12	大野 貴洋	東京ガス
1004	13	沢村 通	新日鉄君津
1005	14	沢多 弘也	大阪ガス
1006	15	矢口 健一	新日鉄君津
1007	16	九鬼 義典	松下電器



▶第30回記念大会

- 1008 1 盛田 祥次 三菱重工神戸
1009 2 広瀬 栄作 トヨタ自動車
1010 3 山井 晃男 //
1011 4 広瀬 栄作 // 2打席連続
1012 5 大野 貴洋 東京ガス
1013 6 岩下 昌史 TDK
1014 7 小谷 良文 JFE西日本
1015 8 佐々木正嗣 日本生命 ラニング補助
1016 9 和田 貴範 かずさマジック
1017 10 嶋田 功一 日立製作所
1018 11 平石 洋介 トヨタ自動車
1019 12 三宅 陽介 JFE西日本 代打
1020 13 宮崎 昌樹 NTT西日本
1021 14 西田 朋生 //
1022 15 栗栖 敏 大阪ガス
1023 16 岸江 秀樹 ミキハウス
1024 17 平馬 淳 東芝
1025 18 小山 豪 日産自動車
1026 19 大庭圭太郎 //
1027 20 池葉 一弘 NTT東日本
1028 21 山田 潤 一光
1029 22 小野 和隆 大阪ガス
1030 23 鈴木 孝政 一光
1031 24 田中 洋平 大阪ガス
1032 25 渡辺 敦 日産自動車
1033 26 岩越 和宏 //

第31回大会

- 1034 1 原田 能英 三菱重工長崎
1035 2 松永 健二 デュプロ
1036 3 福竹 政人 JFE西日本
1037 4 下野 敦司 日本生命
1038 5 玉城 一 NTT東日本
1039 6 北道 貢 //
1040 7 西田 朋生 NTT西日本
1041 8 盛田 祥次 三菱重工神戸
1042 9 福竹 政人 JFE西日本
1043 10 中村 真人 シタックス
1044 11 佐藤 二郎 //
1045 12 大崎 有倫 JFE西日本
1046 13 福竹 政人 //

▶第32回大会

- 1047 1 清水 晶 鷺宮製作所
1048 2 盛田 祥次 三菱重工神戸
1049 3 伊勢 泰孝 東芝
1050 4 佐々木 勉 三菱ふそう川崎
1051 5 鈴木 敬洋 TDK千曲川
1052 6 坂下 真太 新日本石油ENEOS
1053 7 宮崎 広春 鷺宮製作所 代打
1054 8 下野 敦司 日本生命
1055 9 宮川 智光 ホンダ鈴鹿
1056 10 吉田憲一郎 松下電器
1057 11 福竹 政人 JFE西日本
1058 12 金子 洋平 ホンダ
1059 13 桑 健悟 トヨタ自動車
1060 14 関 大輔 鷺宮製作所
1061 15 梶原 康司 松下電器 ラニング補助
1062 16 田原隆三郎 // 満塁

▶第33回大会

- 1063 1 佐伯 亮 ホンダ
1064 2 澄川 昌也 日本生命
1065 3 小坂 樹 NTT西日本
1066 4 森 祐男 倉敷オーシャンズ
1067 5 前田 英勝 東邦ガス

- 1068 6 北村 直人 NOMOクラグ
1069 7 坂下 真太 新日本石油ENEOS ラニング
1070 8 池辺 啓二 // 2者連続
1071 9 岩下 昌史 TDK
1072 10 保良 久生 トヨタ自動車
1073 11 八嶋 秀之 七十七銀行
1074 12 池辺 啓二 新日本石油ENEOS
1075 13 柳田 俊幸 //
1076 14 平山 涼 大阪ガス
1077 15 坂下 真太 新日本石油ENEOS
1078 16 岩本 裕治 //

▶第34回大会

- 1079 1 北川 聡 七十七銀行
1080 2 野村 慶太 日産自動車
1081 3 小山 豪 //
1082 4 渡辺 悟 王子製紙
1083 5 沢多 弘也 大阪ガス
1084 6 小手川喜栄 ホンダ
1085 7 川戸 洋平 //
1086 8 池田 隼人 日産自動車九州
1087 9 前田 英勝 東邦ガス
1088 10 岩元 信明 富士重工業
1089 11 清水 明彦 トヨタ自動車

▶第35回大会

- 1090 1 作道 光展 NTT鹿嶋製鉄代打
1091 2 佐々木隆司 JR東海
1092 3 石本 泰志 伯和ビクトリース
1093 4 渡辺 敬之 ホンダ鈴鹿
1094 5 中原 久 // 満塁
1095 6 船越 隼人 JR北海道
1096 7 佐々木健悟 ホンダ熊本
1097 8 マルティン・ファゴ ヤマハ
1098 9 小粥 勇輝 //
1099 10 青山 真也 JR東海
1100 11 大嶋 将也 新日鉄広畑
1101 12 前田 英勝 東邦ガス
1102 13 磯部 泰 新日本石油ENEOS
1103 14 金谷 則幸 JR東海
1104 15 荻野 貴司 トヨタ自動車
1105 16 田中 幸長 //

▶第36回大会

- 1106 1 平田 大門 新日本石油ENEOS
1107 2 泉 尚徳 //
1108 3 田城 智博 三菱重工横浜
1109 4 神保 真宏 トータル阪神
1110 5 内田 聡 JFE西日本
1111 6 柿元 謙平 大和高田クラブ
1112 7 小山 豪 日産自動車
1113 8 佐野比呂人 トヨタ自動車
1114 9 森脇 慶太 三菱重工横浜代打
1115 10 多嶋 雄一 ホンダ
1116 11 長野 久義 //
1117 12 橋本 拓也 JFE西日本
1118 13 小甲 和俊 日本通運
1119 14 小野 和隆 大阪ガス
1120 15 大島 寛之 ホンダ
1121 16 小甲 和俊 日本通運
1122 17 西郷 泰之 ホンダ

▶第37回大会

- 1123 1 加藤 孝紀 明治安田生命
1124 2 甲斐 俊治 パナソニック 代打
1125 3 松尾 祐也 三菱重工長崎 観客カメラ
1126 4 柴草 健太 JR北海道
1127 5 福田 康一 トヨタ自動車

- 1128 6 佐々木 勉 三菱重工横浜
1129 7 岡田 雅利 大阪ガス
1130 8 菅尾谷英樹 日本新薬
1131 9 市川 正美 JFE東日本
1132 10 前田 英勝 東邦ガス
1133 11 川端 裕也 セガサミー
1134 12 新保 大輔 三菱重工名古屋
1135 13 田中 泰長 トヨタ自動車
1136 14 伊藤 大輔 三菱重工長崎
1137 15 森 諒太 三菱重工横浜
1138 16 菅尾谷英樹 日本新薬
1139 17 的場 寛一 トヨタ自動車
1140 18 荒波 翔 //
1141 19 藤島 琢哉 JR九州
1142 20 的場 寛一 トヨタ自動車
1143 21 藤島 琢哉 JR九州

▶第38回大会

- 1144 1 小田 裕也 日本生命
1145 2 田中 広輔 JR東日本
1146 3 谷 一真 JFE西日本 ラニング
1147 4 松浦 大則 //
1148 5 高阪 行俊 トヨタ自動車
1149 6 トマセンダニエル JFE東日本
1150 7 長島 一成 ホンダ
1151 8 引本 浩太 トヨタ自動車
1152 9 菅尾谷英樹 日本新薬
1153 10 有竹 浩二 日本生命 代打
1154 11 山本 真也 //
1155 12 佐藤 弦輝 JR東日本
1156 13 井領 雅貴 JX-ENEOS ラニング
1157 14 宮沢健太郎 //

▶第39回大会

- 1158 1 柳 裕太 ヤマハ ラニング補助
1159 2 山藤 有輔 新日本石油マジック
1160 3 遠藤 一星 東京ガス サヨナラ
1161 4 土井 翔平 大阪ガス
1162 5 内藤 大樹 JFE東日本 ラニング補助
1163 6 井上 晴哉 日本生命
1164 7 井上 和樹 パナソニック
1165 8 松本 雅俊 日本通運
1166 9 横山 憲一 三菱重工神戸
1167 10 黒川 栄次 //
1168 11 田中 健 新日本石油マジック

▶第40回記念大会

- 1169 1 木下 拓哉 トヨタ自動車
1170 2 影山 潤二 JR東日本
1171 3 内藤 大樹 JFE東日本
1172 4 松元 裕章 パナソニック
1173 5 山本 明大 東邦ガス
1174 6 村上 純平 鷺宮製作所
1175 7 大城 昌士 西部ガス
1176 8 樽沢 健 トヨタ自動車
1177 9 柳田 一喜 パナソニック
1178 10 柳田 一喜 // 2打席連続
1179 11 三浦 大和 ホンダ
1180 12 中西 純平 NTT西日本
1181 13 亀山 祐輝 大阪ガス
1182 14 足立 祐一 パナソニック
1183 15 沢良木高之 セガサミー



## あとがき

社会人野球日本選手権大会は1974年、阪神甲子園球場でスタートしました。それまでは秋の日本産業対抗野球大会が都市対抗と並ぶ2大大会でしたが、産業構造の変化で鉄鋼、造船など業種ごとの代表決定が難しくなり、単独チームによる大会の創設の機運も高まって「サンベツ」を発展的に解消して生まれました。以後、日本選手権は会場が変遷したほか、大会の方式も改革を重ねました。都市対抗、全日本クラブ選手権の優勝チームを推薦で招いたのは第33回大会から。第34回大会からは全国の主要JABA大会の優勝チームにも出場権を与え、社会人野球の年間王座を争う性格を強めました。また、東日本大震災があった2011年は中止となり、都市対抗が京セラドーム大阪で開催されました。

節目の第40回記念大会で総入場者が史上最多の15万2000人を数えたのは、今後50回、60回に向けて日本選手権のいっそうの盛り上がりを目指していく中で大きな弾みになります。負けたら後がない厳しいトーナメントでのひたむきさ、アマチュア野球最高峰のハイレベルなプレーなど社会人野球の魅力を広く伝え、記録を残していくことが大切だと考えています。

この40年史は20年史を継承するかたちで、製作しました。各試合の個人成績など記録をできる限り詳細にまとめたほか、毎日新聞の紙面をもとに各試合の内容、選手の表情、コメントも豊富に掲載しました。

40年史の編さんにあたりご協力いただいた日本野球連盟、主管の日本野球連盟近畿地区連盟、選手、各チーム関係者をはじめすべての方に感謝いたします。

《40年史編さん担当者》

[毎日新聞大阪本社運動部]

山口敬人、藤倉聡子、倉岡一樹、堤浩一郎、  
安田光高、黒尾透、丹下友紀子

[同事業部]

大坪康巳、熊谷理恵子、赤土裕二、小池康裕

[同企画部]

辻中祐子、石井貞敏、陸橋容子

株式会社オー・エム・アイ

2015年2月発行

編集 毎日新聞社

発行 毎日新聞社

公益財団法人日本野球連盟

発行 © 毎日新聞社